

韓國日本語學會

第43・44回 國際學術發表大會

< 主 題 >

文法と社会言語学の融合から
日本語教育の実践まで

< 基調講演 >

関係修復表現の過去形
「ありがとうございます」と「ありがとうございました」
森山卓郎(早稲田大)

< 特別講演 >

社会言語学と日本語教育
洪珉杓(啓明大)

- ・日時：2021年 9月 11日(土)
- ・場所：漢陽サイバー大学 力量教育ワークショップ講義室2
(ZOOMを利用したオンライン学術大会)
- ・主催：韓國日本語學會, 漢陽Cyber大學校, 韓国OPI研究会,
日韓コミュニケーション研究会, 韓国繼承日本語教育研究会,
AIとクリエイティブ・ラーニング研究会
- ・主管：韓國日本語學會
- ・後援：漢陽Cyber大學校 産學協力團, JAPAN FOUNDATION SEOUL,
(株)時事Books

이 발표논문집은 한양사이버대학교의 지원을 받아 발간되었음.



韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會

第43・44回 國際學術發表大會

- 日時：2021年 9月 11日(土)
 ■ 場所：漢陽Cyber大學校 力量教育ワーククシヨップ講義室2
 (ZOOMを利用したオンライン學術大會)

<Program>

10:30-13:10	▪ 一般發表	・第1發表會場 ・第2發表會場 ・第3發表會場 ・第4發表會場 ・第5發表會場 ・第6發表會場	各發表場のURLは 9月10日(金)に 學會ホームページ に掲示 http://www.jlak.or.kr
13:10-13:40	休息(諮問委員會 定期會議)		
13:40-14:10	▪ 開會式・總會 <司會: 孫榮奭(濟州大)> 開會辭: 黃永熙 會長(漢陽Cyber大) 祝 辭: 加藤 剛 所長 (日本国際交流基金Seoul文化Center) 學會經過報告、會計・監査報告、功勞賞・學術賞授與 次期會長・副會長 認准 AIとクリエイティブ・ラーニング研究会MOU締結		
14:10-14:20	▪ 研究倫理講演 尹榮珉(延世大)	<司會: 孫榮奭(濟州大)>	
14:20-14:30	休息		
14:30-15:20	▪ 基調講演 森山卓郎(早稲田大)	<司會: 孫榮奭(濟州大)> <討論: 朴江訓(全州大)>	
15:20-16:00	▪ 特別講演 洪珉杓(啓明大)	<司會: 孫榮奭(濟州大)>	
16:00-16:10	休息		
16:10-18:10	▪ 企劃發表	・第1發表會場 ・第2發表會場 ・第3發表會場 ・第4發表會場 ・第5發表會場 ・第6發表會場	
18:10	閉會		

<研究倫理講演>

14:10-14:20

司會: 孫榮奭(濟州大)

연구자를 위한 연구윤리교육
研究者のための研究倫理教育
尹榮珉(延世大)

<基調講演>

14:30-15:20

司會: 孫榮奭(濟州大) 討論: 朴江訓(全州大)

関係修復表現の過去形
「ありがとうございます」と「ありがとうございました」
森山卓郎(早稲田大)

<特別講演>

15:20-16:00

司會: 孫榮奭(濟州大)

사회언어학과 일본어교육
社会言語学と日本語教育
洪珉杓(啓明大)

第1発表会場

■ 文法と語彙

座長:鄭相哲 (韓國外大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:10	朴在炯 (韓國外大)	現代日本語における 非典型的使役表現について —典型的な使役表現との比較を中心に—	日	崔瑞暎 (崇實大) 高橋美保 (韓國外大)	李恩美 (明知大)
11:10 -11:50	坂口清香 (國民大)	ソ系の曖昧指示再考	日	李羽済 (白石芸大) 高草木美奈 (大真大)	張希朱 (韓國外大)
11:50 -12:30	徐 衛 (蘇州大)	漢語「判然」の用法に関する考察	日	成知炫 (韓國放送大) 李賢珍 (祥明大)	金恵娟 (聖潔大)
13:40 -14:10	開会式・総会				
14:10 -14:20	研究倫理講演				
14:30 -15:20	基調講演				
15:20 -16:00	特別講演				

■ 企画発表 I：展望論文 1

座長:朴海煥 (淑明女大)

16:10 -18:10	張根壽 (祥明大)	文法研究の現状と展望	日	文彰鶴 (韓國外大)	曹英南 (高麗大)
	金志宣 (梨花女大)	日本語教育研究の現状と展望 —「ICT活用・オンライン授業」に焦点を当てて—	日	李受香 (嘉泉大)	
	盧姪鉉 (德成女大)	語用論・社会言語学研究の現状と展望 —2019・2020年における韓国国内の 研究論文を中心に—		鄭賢兒 (明知大)	

第2發表會場

▣ 日本語史

座長:趙大夏 (Seoul女大)

時間	發表者	主題	發表言語	討論者	司會者
10:30 -11:10	金子祐樹 (東國大)	『全一道人』における服喪関連語彙の 翻訳に関する基礎研究(3) —対馬方言を手掛かりとした対馬葬喪禮翻訳 の一考察—	日	齊藤明美 (翰林大) 申雄哲 (慶星大)	朴英淑 (水原 科學大)
11:10 -11:50	柳原恵津子 (国立国語 研究所)	平安期記録体における 漢字仮名交じり表記	日	姜盛文 (高麗大) 權城 (木浦大)	崔眞姬 (白石大)
11:50 -12:30	陳宇昕 李京哲 (東國大)	上古音에서 中古音에 걸친 聲母의 變化 —舌齒音を 중심으로— 上古音から中古音にわたる聲母の變化 —舌齒音を中心に—	韓	宋在漢 (山形大) 趙雲星 (延世大)	白惠英 (木園大)
12:30 -13:10	張元哉 (啓明大)	단어 단위 병렬코퍼스를 통해 본 『고등소학독본』과 『국민소학독본』의 어휘 대응에 관한 일고찰 語レベルのパラレルコーパスから見た 『高等小学読本』と『國民小学読本』の 語彙対応に関する一考察	韓	尹榮珉 (延世大) 朴孝庚 (漢陽Cyber大)	成琬珂 (祥明大)
13:40 -14:10	開會式・總會				
14:10 -14:20	研究倫理講演				
14:30 -15:20	基調講演				
15:20 -16:00	特別講演				

▣ 企画発表Ⅱ: 展望論文 2

座長:李範錫 (Catholic大)

16:10 -18:10	李承英 (光云大)	日本語史研究の現状と展望	日	閔丞希 (中源大)	李善姬 (Seoul女大)
	高慧禎 (Catholic 關東大)	音声・音韻研究の現状と展望	日	柳春善 (韓國外大)	
	孫榮爽 (濟州大)	語彙研究の現状と展望 —2019・2020年における韓国国内の 研究論文を中心に—	日	方允炯 (水原大)	

第3発表会場

■ 対照言語学

座長: 関光準 (建國大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:10	金廷珉 (亜細亜大)	日韓リメイクドラマに見る中途終了型発話の 対照研究 — 「名詞表現」と「中断節」を対象に—	日	李忠奎 (西原大) 申義植 (韓國外大)	朴江訓 (全州大)
11:10 -11:50	李東哲 (新羅大) 徐瑛 (浙江越秀外国 語学院)	中国観光スポットにおける外国語訳について — 日本語訳を中心に—	日	趙恩英 (釜山外大) 趙鍊徽 (慶尙國立大)	柳信愛 (京都外国 語大)
11:50 -12:30	劉澤軍 (天津外国語大)	日本語における主題の省略の 中国語訳についての一考察 — 『ノルウェイの森』とその訳本を例に—	日	飯干和也 (祥明大) 全紫蓮 (慶尙國立大)	中村有里 (仁川大)
12:30 -13:10	黄 勇 (浙江師範大)	日本語と中国語における災害用語の 形態論的考察	日	宋淑正 (中源大) 宣旼貞 (高麗大)	李奎台 (東京外国 語大)
13:40 -14:10	開会式・総会				
14:10 -14:20	研究倫理講演				
14:30 -15:20	基調講演				
15:20 -16:00	特別講演				

■ 企画発表Ⅲ: 日韓コミュニケーション研究会

韓国OPI研究会

座長: 朴才煥 (京畿大)

16:10 -18:10	持田祐美子 (平澤大)	「言わない」ことに関する日韓比較 — 日本語母語話者が「無視」と感じた事例から—	日	張良光 (Catholic大) 伊藤貴雄 (弘益大)	渋谷雅円 (立命館ア ジア太平洋 大)
	迫田亜希子 (明知大)	日本語会話授業におけるシャドーイング練習と 学習者の反応 — OPIレベルにもとづいて—	日	峯崎知子 (弘益大)	後藤 歩 (檀國大)
	小島堅嗣 (培材大)	日本語学習者のフィラーの特徴 — 連続フィラーに注目して—	日	松下由美子 (韓南大)	

第4発表会場

■ 情報科学と日本語

座長:李暲洙 (韓國放送大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:10	金嘯泳 (同徳女大)	인공지능에 의한 일본어 텍스트 생성 및 일본어능력시험 난이도 분석 시스템 개발 연구 人工知能による日本語のテキストの生成及び 日本語能力試験の難易度分析システムの 開発に関する研究	韓	孫範基 (韓國Cyber 外大) 孫榮爽 (齊州大)	姜炅完 (大邱 Catholic大)
11:10 -11:50	李敬淑 (亞洲大)	AI時代における日本語音声教育の実践	日	陳宗福 (仁川大) 千仙永 (東京大)	高恩淑 (Seoul科技 大)
11:50 -12:30	落合由治 (淡江大)	日本語関係学科での自然言語処理技術の 導入と応用の可能性	日	尹楨勛 (釜山外大) 諏訪昭宏 (釜山外大)	殷守希 (淑明女大)
12:30 -13:10	李海美 (慶熙大)	기계번역 관련 컴퓨터 공학의 발전과 한일 언어학 연구 동향 機械翻訳関連コンピューター工学の発展と 韓日言語学研究の動向	韓	林始恩 (Seoul市立大) 梁乃允 (中央大)	金玄珠 (Hanbat大)
13:40 -14:10	開会式・総会				
14:10 -14:20	研究倫理講演				
14:30 -15:20	基調講演				
15:20 -16:00	特別講演				

■ 企画発表Ⅳ: AIとクリエイティブ・ラーニング研究会 座長:檢校裕朗 (極東大)

16:10 -18:10	落合由治 (淡江大)	AIと日本語教育について	日	李朱利愛 (梨花女大)	諏訪昭宏 (釜山外大)
	井庭 崇 (慶應義塾大)	クリエイティブ・ラーニング ー創造社会の学びと教育ー	日	辛銀眞 (仁川大)	
	檢校裕朗 (極東大)	韓国における「AIとクリエイティブ・ ラーニング研究会」の創立とその意義	日	郭銀心 (京畿大)	
	趙々思羅 (全州雨林中)	中学校でのエデュテックの活用事例 ークラスカードとパドレット及び 様々なクイズ形式の学習ツールについてー	日	權智仁 (蕙園女高)	

第5発表会場

■ 日本語教育

座長: 張根壽 (祥明大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:10	徐유리 (高麗大)	성인 일본어 학습자의 모놀로그형 발화를 통한 유창성 연구 社会人日本語学習者のモノログ型発話を 通じた流暢さの研究	韓	朱晁淑 (高麗大) 井ノ上佐織 (十文字学園 女子大)	朴京愛 (建國大)
11:10 -11:50	植松容子 (昭和女子大)	韓国語母語話者における“基本のナル”の 使用状況 —KYコーパスから分かること—	日	伊藤貴雄 (弘益大) 張良光 (catholic大)	秋葉多佳子 (熊本県立 大)
11:50 -12:30	古賀万紀子 (大正大) 木村かおり (University of Malaya)	日本語教育による国家能力指標へのアプローチ —日本・韓国・マレーシアの大学教育に おける能力指標の利活用—	日	嶋原耕一 (東京外国語大) 小松奈々 (高麗大)	金義泳 (Hanbat大)
12:30 -13:10	検校裕朗 (極東大) 二ノ神正路 (文教大)	ソーシャルネットワーキングアプローチ (SNA)によるオンライン交流学習実践報告	日	大田祥江 (国際交流基金 バンコク) 寺田庸平 (弘益大)	角ゆりか (明知大)
13:40 -14:10	開会式・総会				
14:10 -14:20	研究倫理講演				
14:30 -15:20	基調講演				
15:20 -16:00	特別講演				

■ 企画発表 V: 韓国継承日本語教育研究会

座長: 趙南星 (Hanbat大)

16:10 -16:20		調査の概要			櫻井恵子 (韓国継承 日本語教育 研究会)
16:20 -16:50	川口慶子 (崇實大)	家庭での継承日本語教育の実態について	日	上野由香子 (全州大)	
16:50 -17:20	及川ひろ絵 (弘益大)	コロナ禍における継承日本語教育の実態 —「韓国の継承日本語教育ネットワーク拡大の ための基礎調査」を中心に—	日	朴エスター (檀國大)	
17:20 -17:50	関 陽子 (漢陽大)	日韓国際結婚家庭の韓国社会での生活について —韓国社会とのかかわり方と満足度に関する アンケート結果をもとに—	日	海野はるみ (水原科学大)	
17:50 -18:10		全体の質疑応答と総括			

第6発表会場

■ 談話と社会言語学

座長:金玉任 (誠信女大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:10	張允娥 (慶熙大)	ライブ動画配信における疑問表現の機能	日	甲賀真広 (東京 医科歯科大) 斎藤敬太 (津田塾大)	李舜炯 (慶北大)
11:10 -11:50	大谷鉄平 (北陸大)	会話結末部における「ありがとう」の 解釈と対応 —「子ども科学電話相談」の場合—	日	具明會 (韓國外大) 金鍾完 (江原大)	張富妍 (延世大)
11:50 -12:30	田 宇 (全南大)	한·일 양어의 코로나 관련 신어의 비교 고찰 韓国語と日本語のコロナに関する 新語の比較考察	韓	李慈鎬 (慶北大) 吳泰均 (北海道大)	李讓珍 (東京 都立大)
13:40 -14:10	開会式・総会				
14:10 -14:20	研究倫理講演				
14:30 -15:20	基調講演				
15:20 -16:00	特別講演				

■ 企画発表 VI: 地域における言語景観研究

座長:姜錫祐 (Catholic大)

16:10 -18:10	Daniel・Long (東京都立大)	沖縄県八重山諸島の言語景観研究 —マクロとミクロの観点—	日	梁敏鎬 (釜慶大)	李慈鎬 (慶北大)
	李舜炯 (慶北大)	韓国「青春通り」言語景観における 日本語使用特性 —多様性とこだわりの側面から—	日	今村圭介 (東京海洋大)	
	磯野英治 (名古屋商科大)	愛知県の言語景観を活用した教育実践	日	朴良順 (蔚山科学大)	
	甲賀真広 (東京 医科歯科大)	なぜ言語景観を収集するのか —手段としての言語景観・目的としての言語景観—	日	李賢貞 (金烏工科大)	
	斎藤敬太 (津田塾大)	言語景観の受け手と送り手 —在日外国人に注目して—	日	趙恩英 (釜山外大)	

學術發表會

[基調講演]

関係修復表現の過去形

「ありがとうございます」と「ありがとうございました」 1

森山卓郎(早稲田大)

[特別講演]

사회언어학과 일본어교육

社会言語学と日本語教育 7

洪珉杓(啓明大 名譽教授)

[一般発表・企劃発表]

■ 第1発表会場

①現代日本語における非典型的使役表現について

－典型的な使役表現との比較を中心に－ 15

朴在炯 (韓國外大)

②ソ系の曖昧指示再考 22

坂口清香(國民大)

③漢語「判然」の用法に関する考察 29

徐 衛(蘇州大)

④文法研究の現状と展望 30

張根壽(祥明大)

⑤日本語教育研究の現状と展望

－「ICT活用・オンライン授業」に焦点を当てて－ 36

金志宣(梨花女大)

⑥語用論・社会言語学研究の現状と展望

－2019・2020年における韓国国内の研究論文を中心に－ 44

盧姓鉉(德成女大)

■ 第2発表会場

- ①『全一道人』における服喪関連語彙の翻訳に関する基礎研究(3)
 ー対馬方言を手掛かりとした対馬葬喪禮翻訳の一考察ー 49
 金子祐樹 (東國大)
- ②平安期記録体における漢字仮名交じり表記 56
 柳原恵津子(国立国語研究所)
- ③上古音에서 中古音에 걸친 聲母의 變化
 ー舌齒音を 중심으로ー
 上古音から中古音にわたる聲母の變化
 ー舌齒音を中心にー 62
 陳宇昕 李京哲(東國大)
- ④단어 단위 병렬코퍼스를 통해 본 『고등소학독본』과 『국민소학독본』의
 어휘 대응에 관한 일고찰
 語レベルのパラレルコーパスから見た『高等小学読本』と『國民小学読本』の
 語彙対応に関する一考察 67
 張元哉(啓明大)
- ⑤日本語史研究の現状と展望 74
 李承英(光云大)
- ⑥音声・音韻研究の現状と展望 81
 高慧禎(Catholic關東大)
- ⑦語彙研究の現状と展望
 ー2019・2020年における韓国国内の研究論文を中心にー 87
 孫榮奭(濟州大)

■ 第3発表会場

- ①日韓リメイクドラマに見る中途終了型発話の対照研究
 ー「名詞表現」と「中断節」を対象にー 93
 金廷珉(亜細亜大)

②中国観光スポットにおける外国語訳について ー日本語訳を中心にー	99
李東哲(新羅大)・徐 瑛(浙江越秀外国語学院)	
③日本語における主題の省略の中国語訳についての一考察 ー『ノルウェイの森』とその訳本を例にー	105
劉澤軍(天津外国語大)	
④日本語と中国語における災害用語の形態論的考察	112
黄 勇(浙江師範大)	
⑤「言わない」ことに関する日韓比較 ー日本語母語話者が「無視」と感じた事例からー	117
持田祐美子(平澤大)	
⑥日本語会話授業におけるシャドーイング練習と学習者の反応 ーOPIレベルにもとづいてー	123
迫田亜希子(明知大)	
⑦日本語学習者のフィラーの特徴 ー連続フィラーに注目してー	129
小島堅嗣(培材大)	

■ 第4発表会場

①인공지능에 의한 일본어 텍스트 생성 및 일본어능력시험 난이도 분석 시스템 개발 연구 人工知能による日本語のテキストの生成及び日本語能力試験の難易度分析 システムの開発に関する研究	136
金囁泳(同徳女大)	
②AI時代における日本語音声教育の実践	145
李敬淑(亞洲大)	
③日本語関係学科での自然言語処理技術の導入と応用の可能性	149
落合由治(淡江大)	

④기계번역 관련 컴퓨터 공학의 발전과 한일 언어학 연구 동향 機械翻訳関連コンピューター工学の発展と 韓日言語学研究的動向	155
	李海美(慶熙大)
⑤AIと日本語教育について	159
	落合由治(淡江大)
⑥クリエイティブ・ラーニング ー創造社会の学びと教育ー	166
	井庭 崇(慶應義塾大)
⑦韓国における「AIとクリエイティブ・ラーニング研究会」の 創立とその意義	172
	検校裕朗(極東大)
⑧中学校でのエデュテックの活用事例 ークラスカードとパドレット及び 様々なクイズ形式の学習ツールについてー	177
	趙 쥔 思羅(全州雨林中)

■ 第5発表会場

①성인 일본어 학습자의 모놀로그형 발화를 통한 유창성 연구 社会人日本語学習者のモノログ型発話を通じた流暢さの研究	183
	徐유리(高麗大)
②韓国語母語話者における“基本のナル”の使用状況 ーKYコーパスから分かることー	188
	植松容子(昭和女子大)
③日本語教育による国家能力指標へのアプローチ ー日本・韓国・マレーシアの大学教育における能力指標の利活用ー	194
	古賀万紀子(大正大)・木村かおり(University of Malaya)
④ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)による	

オンライン交流学習実践報告	200
検校裕朗(極東大)・二ノ神正路(文教大)	
⑤家庭での継承日本語教育の実態について	205
川口慶子(崇實大)	
⑥コロナ禍における継承日本語教育の実態 ー「韓国の継承日本語教育ネットワーク拡大の ための基礎調査」を中心にー	209
及川ひろ絵(弘益大)	
⑦日韓国際結婚家庭の韓国社会での生活について ー韓国社会とのかかわり方と満足度に関するアンケート結果をもとにー	215
関 陽子(漢陽大)	
 ■ 第6発表会場	
①ライブ動画配信における疑問表現の機能	222
張允娥(慶熙大)	
②会話結末部における「ありがとう」の解釈と対応 ー「子ども科学電話相談」の場合ー	228
大谷鉄平(北陸大)	
③한·일 양어의 코로나 관련 신어의 비교 고찰 韓国語と日本語のコロナに関する新語の比較考察	236
田 宇(全南大)	
④沖縄県八重山諸島の言語景観研究 ーマクロとミクロの観点ー	241
Daniel・Long(東京都立大)	
⑤韓国「青春通り」言語景観における日本語使用特性 ー多様性とこだわりの側面からー	249
李舜炯(慶北大)	

⑥愛知県の言語景観を活用した教育実践	256
磯野英治(名古屋商科大)	
⑦なぜ言語景観を収集するのか	
ー手段としての言語景観・目的としての言語景観ー	263
甲賀真広(東京医科歯科大)	
⑧言語景観の受け手と送り手	
ー在日外国人に注目してー	270
斎藤敬太(津田塾大)	

韓國日本語學會
第43・44回 國際學術發表大會

學術シンポジウム
(學術심포지엄)

基調講演・特別講演

関係修復表現の過去形

「ありがとうございます」と「ありがとうございました」

森山卓郎(早稲田大)

1 はじめに

感謝やお詫びの表現は、挨拶の表現の中でも、関係修復表現と言われ、コミュニケーションにおける危機管理の調整をする表現であり、非常に重要な表現である。

日本語では、対人関係の位置づけに定型化・類型化があり、例えば「感謝しろよ」「謝れよ」などと言われることがある。この場合、定型表現を言うことが期待される。定型表現を言うことで関係が社会的記号として表示され、それによってアンバランスな関係を調整することができるのである。

「ありがとうございます」「すみません」などと言う場合、おもしろいことに、過去形で言う場合と現在形で言う場合とがある。ありがとうございます {ます・ました}。

(1) すみません {ゆ・でした}。

こうした場合、どのように使い分けられるのか、それはなぜかということが問題になる。

実は、これにはいろいろな言説がある。次は、感謝の言葉を過去形にして言うことに否定的な主張である。

(2) 「ありがとうございました」と口にする人は、いまひとつ感謝がまだ足りません。過去形になっているからです。「感謝したから、もういいだろう。金さえ払えれば、サービスは受けて当然だ」という横柄さが含まれています。

<https://happy lifestyle.com/5055>

「ありがとうございました」は、確かに「た」がついた「過去形」だが、それが「過去のこと」になり、挨拶としての効力が低いという言説は正しいのだろうか。

2 関係修復表現と時間表現

2-1 関係修復のモデル

まず最初にお礼やお詫びのコミュニケーションのモデルを確認しておく。相手が話し手に恩恵を与えてくれた場合や自分が相手に迷惑をかけた場合、相手との関係がアンバランスになる。前者がお礼、後者が、謝罪の表現である。

従って、定型表現の中に、「お世話になりました」「お待たせしました」「おそくなりました」

そして、不均衡な関係が顕在化することで、今度は相手側がそれを否定することができるようになる。従って、これらの謝罪表現への応答は、特にそのアンバランスな関係を修復させる場合には、「こちらこそ」などの相互化する応答や「どういたしまして」のような否定的な応答になる。そうした表現によって、不均衡な関係が否定されれば、形の上では否定され、もはや問題にされなくなるのである。

初期状況	→	出来事	→	修復	→	応答	→	解決状況
S		ϕ		$-X$				ϕ
				↑		↓		
H		ϕ		$(+X)$				ϕ
Ex.				不均衡		すみません		いえいえ
								解決

次に、このモデルから、具体的な表現を現在形か過去形かという観点から整理しておきたい。このうち、心情型と言えるものは、過去形も現在形も使うことができる。

- これらは、一定の条件さえ合えばどちらも使える場合が多い。

(5) ありがとうございます。心から感謝しています。

第二に、関係を否定する応答の場合、

- のように過去形は使うことができない。これは挨拶という言語行動がその現場でなされており、その否定は、発話現場なされなければならないからである。

- 2 -

もっとも、「ありがとうございました」「すみませんでした」という過去形が、現在の感謝や謝罪を表せる一方で、確かに「これからのこと」「いつものこと」として使えないという側面はある。ここで考えたいのが、中心となる事象である。例えば、来店客に対して、「本日はご来店ありがとうございます。」という歓迎を言うことは自然だが、

(7) #本日はご来店ありがとうございました。（歓迎の場面）

と言うことはあまり一般的ではない。厳密には、「来店」そのものは完了しているのであるが、「来店」だけが重要なことではないからである。中心事象は関連する一連のイベントの中で最も重要なイベントである。社会生活上、典型的には、来店して「買い物をする」ことが中心事象だと考えるべきである。従って、当然ながら、見送りでは「ありがとうございました」という過去形は適切である。なお、見送りの段階、すなわち中心事象が終了していても、「ありがとうございます」を使うことはできる。これは前述のように、関係修復がそもそも現在の不安定な関係を修復するものだからである。

従って、未来に関わることであれば中心事象は未発生と考えられ、過去形にはならない。

(8) 教授：君を奨学生に推薦したいと思います

学生：え！ありがとうございます！ 「推薦」の成立は未来

*ありがとうございました！

「推薦したいと思う」ことは「推薦」の本体ではないので、中心事象ではなく過去形は使えない。ここから、まず次のような時制選択規則が成立する。

(9) 時制選択規則：

「中心事象」との時間的相対関係で時制を選択せよ。

中心事象が過去でないならば関係修復に過去形が使えない。

3－2 関係の相互認定性

では、「推薦した」場合はどうだろうか。この場合、中心事象は過去とも考えられる。しかし、そのことを知らされていなかった場合、

(10) 教授：君を奨学生に推薦しておきましたよ。

学生：え！ありがとうございます！

?え！ありがとうございました！

というように過去形はいささか不自然である。ここから、もう一つ、中心事象の認定に関する条件を考える必要がある。それは、

(11) 関係の相互認定性の制約：過去形を使う場合には、話し手も過去の状況を経験していなければならない。

というものである。

3－3 中心事象の解釈

こう考えると、過去形が使えるのは、中心事象が過去であり、その過去の事象に対してお礼を

言う側も認定がある場合に限られることになる。例えば何かをもらう場合、中心事象はまさにその受け渡しの場合であり、過去形は不自然である。

(12) お誕生日のプレゼントをもらって

「ありがとうございます」 cf 「*ありがとうございました」

しかし、かねてお願いをしていたような場合、それまでの労力に対してのお礼を言うことになり、過去形でも構わない。

(13) 頼んでいた資料をもらって

「ありがとうございます」「ありがとうございました」

4 重要性と過去形

4-1 負担・親疎関係と感謝の過去形

大学生に、親しい先輩への道案内への感謝をどう言うかについてアンケート形式で調査した。簡単に「口で教える」場合と、「五分かけて案内して連れて行ってくれた」という場合とを設定し、どちらの形かを選択してもらった。結果は【表1】の通りである。

【表1】「口で教える」か「五分かけて案内してもらう」か

	現在形 過去形	
口で教える	47	1
五分かけて案内	22	26

(n=48 (m17 f31) $\chi^2(1)=32.21$ P<0.01)

有意に案内してもらった方が過去形が多くなるのである。

同じように、道案内をしてくれた人物との関係も調べてみた。過去形が使う敬体である必要があるので、年長という条件にし、「親しい」あるいは「知らない」という人間関係で、口で教える場合を例に調査すると、表3のような結果となった。

【表2】「親しい年長の先輩」か「知らない年長の人」か

関係	現在形 過去形	
親しい	47	1
知らない	40	8

n=48(m17 f31) $\chi^2(1)=6.01$ P<0.05

そもそも口で言うだけであり、現在形が出やすいと予想されるのであるが、ここでも、知らない関係の人の場合には過去形が出やすい傾向があった。負担については負担が重い場合、親疎関係では疎の関係の方が過去形が出やすい。これは、過去形の場合、過去の中心事象に焦点が当たり、より深い感謝として使われる傾向があるということだと思われる。

4-2 修飾成分との共起

さらに、コーパスにおいて、「ありがとうございます」という現在形と「ありがとうございました」という過去形を取り上げ、それぞれに「どうも」「本当に」が直前にあるかどうかを、図書館にある書籍の場合とブログとの場合に限定して調査してみた。

【表3】

BCWJ	図書館書籍	yahooブログ
どうも~/現在形	11 /265	1/277
本当に~/現在形	8/265	23/277
上記以外/現在形	246/265	253/277
どうも~/過去形	34/232	16/255
本当に~/過去形	13/232	25/255
上記以外過去形	185/232	214/255

ここでも、過去形の場合に、より丁寧にお礼を言うように「どうも」「本当に」などが共起している場合が多くなっているという傾向がみられる。

4-4 再び感謝

もう一つ、再び感謝をするかどうかという観点からも考えてみたい。お礼を次に会った時に再び言う場合があるが、その不均衡な関係を忘れていないという表示になる。また、このような場合、挨拶の表現は過去形になる。これも、間接的ながら、過去形と相手からしてもらったことの負担の大きさに相関することになるのである。そこで、親しい先輩がお土産(¥2000)をくれた場合と、観光地の無料のパンフレット (¥0)をもらってきてくれた場合とで、「この前はありがとうございました」という繰り返しのお礼を言うかどうかという点について調べてみた。結果は表5の通りである。

【表4】

Gift	言う	言わない
おみやげ	37	11
パンフレット	18	30

$\chi^2(1)=15.37$ $P<0.01$

ここから、もらったものが大きい場合には再び感謝を表すということが言え、当然、それは過去形で言われることになる。

以上のように考えると、感謝の過去形は、決して深い感謝を表さないわけではなく、むしろ、その関係が過去の重要な事象であると認識した場合、つまり深い感謝を表す場合に選ばれる形だと言うべきである。

5 おわりに

英語では、要求の非現在性というべき表現機能がある。次は、Huddleston 2008:p138による過去形使用による丁寧さへの言及である。

(14) The preterite is commonly used in preference to the present in example like following where it is considered somewhat more polite:

[39] I wanted to ask your advice.

I wondered whether I could see you for a few minutes.

(“Cambridge Grammar of the English Language” p138)

要求や疑問へのためらいを過去形で言うことが、相手への丁寧な配慮となるとされている。これは、要求について、現在のものとしてそのまま主張するのではなく、過去にあったものとして、すなわち、現在の要求という意味を回避するものとして言うこととなっているからであろう。

これは、日本語で、

(15) (X が Yのところへ訪問)

X: 今よろしかったでしょうか? Cf. X: 今よろしいでしょうか?

というように過去形で言うことと連続するものとして考えることができる。日本語でも、これに対する応答は、

(16) Y: はい、よかったです。 Cf. ??はい、よかったです。

のように現在形がふさわしい。このように対人関係の調整に時間表現に関わることは日本語の関係修復表現以外でも、観察されることである。

以上、感謝や謝罪という関係修復の言語表現と時間表現の関係を見てきた。最近では、「ありがとうございました」が「感謝の過去形」であるという見方で批判されることがあるが、その見解には問題があるということになる。中心事象を考えることが必要であるし、過去形でも言えるのであれば、むしろ、深く感謝する方が「ありがとうございました」を使うということにもなるのである。

今後さらに想起や発見の過去形との関連を考えることなども課題である。また、韓国語の関連現象を日本語の現象も対比しつつ共同で研究することも大変興味深い研究となろう。

参考文献

塩田雄大 2012 「現代人の言語行動における“配慮表現”」 『放送研究と調査』NHK放送文化研究所

清 ルミ 2003 「「つまらないのですが」考」 神田外大異文化コミュニケーション研究15

森山卓郎 2013 「丁寧語について」 『国語と国文学』90-7 東京大学国語国文学会

2015 「断り」の意味論と国語教育 澤田治美 編 ひとつじ意味 論講座第7巻 『意味社会性』

Coulmas, Francis, 2005. Linguistic Etiquette in Japanese Society Politeness in language (eds. Watts, R et al.) second edition, Mouton

Huddleston 2008 “Cambridge Grammar of the English Language” Cambridge University Press

사회언어학과 일본어교육

홍민표(계명대 명예교수)

1. 들어가기

언어연구는 언어체계의 연구와 언어행동의 연구로 구분할 수 있는데 사회언어학은 일반적으로 언어행동의 문제를 취급한다. 그런데 좁은 의미의 언어연구라고 하면 주로 언어체계를 가리키는 경우가 많았기 때문에 일본어교육에서는 지금까지 언어행동보다는 언어체계의 내용을 주로 다룬 측면이 있다. 그 결과, 학습자들이 해당언어에 대한 지식은 많지만 그 지식을 활용하여 타인과 의사소통을 하는 언어사용능력은 부족하다는 지적이 자주 제기되어 왔다. 예를 들어 일본어 경어체계에 대한 지식이 아무리 많아도 일본어 경어운용방법이나 대인인식을 모르면 올바른 일본어 경어행동을 수행하기 어렵다. 무엇보다도 사회언어학의 연구 성과는 외국어교육의 직접적인 자료를 제공하고 있지만 일본어교육 현장에는 사회언어학의 연구 성과가 많이 반영되지 못하고 있는 것이 현실이다. 특히 언어행동의 국제비교를 주로 연구하는 대조사회언어학은 일본어교육과 더 깊은 관련이 있다. 왜냐하면 대조사회언어학에서는 개별언어연구로는 알 수 없었던 두 언어의 차이를 밝혀낼 수 있고 이 부분이 외국인학습자가 오류를 가장 많이 범하기 때문에 대조사회언어학의 연구 성과도 적극 반영하고 융합시킬 필요가 있는 것이다.

2. 문맥의존도가 높다

문맥은 콘텍스트(Context)의 번역어로 보통 맥락 또는 전후 관계 상황이나 배경 등으로 통용되는 말이다.

これははしです。

私のおじです。

●홀(Hall, 1976)

물리적, 사회적, 심리적 환경과 같은 콘텍스트(context)에 영향을 받아 이루어지는 의사소통에서 문맥의존도가 높은 문화를 High Context 문화, 의존도가 낮은 문화를 Low Context 문화로 분류하였다.

●문맥의존도의 나라별 순위

고 콘 텍 스트	↑	1. 일본	}	아 시 아 중 심
		2. 한국		
		3. 사우디아라비아		
		4. 중국		
		5. 인도네시아		
		6. 태국		
저 콘 텍 스트	↓	7. 프랑스	}	구 미 중 심
		8. 이탈리아		
		9. 영국		
		10. 체코		
		11. 미국		
		12. 네덜란드		
		13. 독일		
		14. 스위스		

目は口ほどに物を言う。

あしたはちょっと...

●이처럼 일본은 민족의 동질성과 공유정보가 다른 어떤 나라보다 많이 축적되어 있기 때문에 「he, she, it, they」와 같은 3인칭 대명사를 자주 사용하는 유럽인들과 달리 대화에 등장하는 인물이 누구인지 특정해서 말할 필요가 없었고 심지어 일본어는 「見た?」 「うん、見た。」처럼 주어와 목적어를 생략해도 대화가 통한다. 즉 일본인과의 대화에서는 말하는 사람보다는 듣는 사람의 역할이 매우 중요하다. 왜냐하면 일본인과의 대화에서 중요한 메시지는 행간으로 전달되고 청자는 행간으로 전달의 도를 파악해야하기 때문이다.

3. 발신자 책임형 문화와 수신자 책임형 문화

●의사소통에서 정보전달이 잘 안되었을 때 그 책임소재가 어디에 있는가는 문화에 따라 다르다. 일반적으로 이야기를 듣고 있는 사람, 즉 청자에게 책임이 있다고 생각하는 쪽은 수신자 책임형 문화라 하고, 전달하는 사람, 즉 화자에게 책임이 있다고 생각하는 쪽은 발신자 책임형 문화라고 한다. 수신자 책임형 문화는 다른 말로 콘텍스트 커뮤니케이션, 발신자 책임형 문화는 콘텐츠 커뮤니케이션이라고도 볼 수 있는데, 이런 관점에서 보면 일본은 전형적인 수신자 책임형 문화, 또는 콘텍스트 커뮤니케이션 문화로 분류할 수 있지 않을까?

●일반적으로 발신자 책임형 문화는 전쟁을 유발하고 수신자 책임형 문화는 평화를 만든다고 한다.

○수신자 책임형 문화 사례

지하철 우산/마스크 사례/자전거 파릉이/반대의견 표명 / ちょっと、そこまで。

●이러한 의사소통 문화의 차이는 언어행동뿐만 아니라 언어의 구조적인 면에도 그대로 나타난다. 특히 양 언어의 음절수를 보면 쉽게 이해할 수 있다. 한국어는 초성(19개), 중성(21개), 종성(받침 27개)을 조합해서 한 음절을 만드는데 이론상으로 만들 수 있는 음절이 무려 11,172나 된다. 이 중에서 실제로 사용하지 않는 음절을 제외해도 음절수가 6,000개가 넘기 때문에 한국어에는 동음이의어가 거의 없다. 이에 비해 일본어는 음절수가 학자에 따라서 다르기는 하지만 일반적으로 102개 정도로 알려져 있고 이 102개음절의 조합으로 단어를 만들다 보니 동음이의어가 상당히 많다.

●예를 들어 『広辞苑(7版)』에 수록되어 있는 「こうしょう」는 「交渉」「公証」 등 동음이의어가 무려 51개나 있고 「きこう」도 「機構」「気候」「紀行」도 동음이의어가 34개나 되기 때문에 「こうしょう」나 「きこう」라는 발음을 들어도 전후의 문맥을 이해하지 않으면 어느 「こうしょう」 또는 어느 「きこう」를 가리키고 있는지 특정하기 어렵다.

●앞에서 언급한 것처럼 젓가락(箸)과 다리(橋)가 일본어는 「ハシ」로 통합되어 있지만 한국어에서는 「젓가락」과 「다리」로 분화되어 있고, 친족호칭도 일본어는 작은아버지, 큰 아버지, 이모부, 고모부가 오지(オジ)라는 단어로 통합되어 있지만 한국어는 각각 분화되어 있기 때문에 대화 중간에 단어 하나만 때 내어 들어도 의미를 금방 알 수가 있지만 일본어는 앞뒤 문맥을 정확히 파악할 필요가 있고 그러기 위해서는 청자의 고도의 집중력과 상상력이 요구된다.

●유명한 예문으로 「貴社の記者が汽車で貴社した」와 같은 문장을 이해하기 위해서는 마찬가지로 고도의 집중력과 상상력이 요구되기 때문에 일본어는 수신자 책임형 문화라는 것을 알 수 있다.

●화면의 그림은 Kaplan(1966)에서 소개하고 있는 일본어(를 대표로 하는 동양어)와 영어의 문장구성의 차이를 나타낸 것인데, 이것을 보면 일본인은 애매한 표현을 좋아하기 때문에 모기향처럼 여러 겹으로 원을 그린 것 같은 문장 구성을 선호하는 데 비해 영어는 일직선의 화살표에서 알 수 있는 것처럼 단도직입적인 표현을 선호한다는 것을 알 수 있다.

●즉 일본인들은 진짜 생각하고 있는 자신의 생각은 숨기고 상대방에게 상처주지 않기 위하여 다른 말을 하는 경우가 많다. 또 다른 예로 “어제 그 집 스테이크는 맛있었나?”라는 질문에 대해 일본식 커뮤니케이션에서는 “역시 세상은 넓고 맛 집은 많아!” 즉 질문에 대한 답을 직접적으로 표현하는 것보다 주변의 상황이나 자신의 감정 등을 상세하게 설명하는 것으로 공감을 유도해 중요한 대답은 상대방의 추측에 맡기는 수신자 책임형으로 발화를 한다.

●이밖에도 일본에서는 가게 문을 닫고도 준비 중이라는 핏말을 걸어 놓거나 벽시계나 전화가 고장난 경우에도 수리 중이라고 적어 놓는 것처럼 완곡 표현을 넘어 실제와 다르게 표현하는 경우가 많다. 패전을 종전이라 말하는 것도 마찬가지인데 이어령(2003)교수는 이처럼 실체를 감추는 언어의 속임수

가 역사교과서에 나타나면 침략이 진출이 되어버리기 때문에 가볍게 웃어넘길 수만은 없게 된다고 지적하고 있다.

●즉 일본인의 의사소통에서는 빙산의 일부만 보이고 대부분은 수면 하에 묻혀 있기 때문에 최소한의 말이나 표정, 행동 등으로 발화의도를 알아차려야 하는 수신자 책임형 문화, 콘텍스트 커뮤니케이션, 또는「察しの文化」인데 비해 서양이나 중국, 한국은 묻혀 있는 부분은 극히 일부이고 대부분의 빙산이 보이기 때문에 표현된 말로 상대방의 전달의도를 파악하는 발신자 책임형 문화, 콘텐츠 커뮤니케이션,「言葉の文化」라고 볼 수 있다.

4. 일본인 언어행동의 특징

- (1)조화와 균형(和)
- (2)일본인 가족호칭의 원리
- (3)자동사를 이용한 상대방 중심적 언어행동

5. 현 시대와 맞지 않는 회화문

- 今、何時ですか。
- 写真をとってもらえませんか。
- 東京駅に行きたいんですが、どこで降りればいいですか。
- このケーキはいくらですか。
- このコートはいくらですか。

●칭찬반응에 대한 문제

- 何もございませんが、たくさん召し上がってください。

A:ごちそうさまでした。

B:いいえ、おそまつさまでした。

이와 같은 회화문도 과거 동양의 겸손문화가 지배하던 시대의 회화문인데 이미 시대는 글로벌화 되면서 일본인이나 한국인도 칭찬을 들었을 때 기쁜 마음을 일부러 감추고 겸손하게 반응하는 것이 아니라 자기의 마음을 있는 그대로 표현하는 서구식 스타일로 가치관이 바뀌었다는 것이 사회언어학의 연구 결과로 증명이 되었기 때문에 이런 것도 일본어교육에 적극 반영할 필요가 있지 않을까?

●경어의 문제

요즘 일본의 젊은이들은 「何時ごろお帰りになりますか」 「いらっしゃいますか」 「ご覧になりましたか」 와 같은 말보다는 「帰りますか」 「いきますか」 「見ましたか」, 심지어는 친한 선생님에게는 「レポート、あした出してもいい?」 「いしょに食べよう」 「一緒に行こう」 와 같은 친밀체를 많이 사용하는데 일본어교재는 물론 시험문제에도 경어전용동사가 단골로 출제되어 학생들을 불필요하게 고생시키고 있는 것이 아닌가?

6. 마무리

한일 양국 마찬가지로 평등사상이 기본이념인 민주주의가 정착되면서윗사람에 대한 존대의식이 많이 저하되어 있는 것이 현실인데도 일본어교육 현장에는 이러한 경어사용의식의 변화가 반영되지 못하고 있다. 즉 언어의식이나 사회적 가치관 그리고 의사소통의 도구는 끊임없이 변화하기 때문에 「규범」 과 「현실」 의 괴리가 생길 수밖에 없는데, 그런 측면에서 사회언어학의 연구 성과를 일본어교육에 적극 반영하고 융합시킬 필요가 있다. 끝까지 경청해 주셔서 감사합니다.

7. 참고문헌

이어령(2003) 『일본문화와 상인정신』문학사상사

이원표(1996) 「한국대학생 칭찬화행에 나타난 공손법 분석」 『외국어로서의 한국어교육』 21-1, 연세대학교 한국어학당.

홍민표(2021) 『한일 언어문화의 이해』 한국문화사.

鴻上尚史(2009) 『空と世間』講談社現代新書.

Kaplan,B.R.(1966) Culture Thought Patterns in Inter-Culture Education. *Language Learning* 16, 1-20.

Hall, E. T.(1976) *Beyond Culture*. Doubleday.

韓國日本語學會
第43・44回 國際學術發表大會

學術シンポジウム
(學術심포지엄)

一般發表・企劃發表

現代日本語における非典型的使役表現について

—典型的な使役表現との比較を中心に—

朴在炯(韓国外国語大学校)

1. はじめに

従来の研究から指摘されているように、使役文の主体は、能動文には含まれない人や物を主語とし、ある動作をするよう働きかける事態の惹き起こし手として位置づけられる。次の例(1)からも確認が可能なように、使役主による使役行為は、動作主の意志に働きかけ、事態の実現に直接的に導いている。これが使役文の最も基本的なタイプである。

典型的使役表現

- (1)八月初旬のある日、兄が家を出た。孝雄も朝から引っ越しの手伝いをした。母は二カ月前から家出中だったから（とはいえ週に一度ほどは帰ってきて、気まぐれに夕食を作ったり孝雄に作らせたりはしていたけれど）、実質的に孝雄は初めての一人暮らしとなった。(言の葉：284)

非典型的な使役表現

- (2)「……ありがとう。……ごめん」彼女の足元の床を見つめながら声を絞った。
「うん……」吐息のような声で美帆が答える。リボンのついたローヒールを彼女が履いていたことに、孝雄はそこで初めて気づく。片足のかかとを不自然に浮かせている。靴擦れを作らせてしまったかもしれない。額にうっすらと汗を浮かばせ呼吸を整えながら、美帆はすこしだけ力を増した声で言う。(言の葉：22)

例(1)では、使役主となる「母」が、動作の主体「孝雄」に「作らせる」という使役事態の実現を直接的に導いている。一方、例(2)の「作らせる」という使役表現は、使役主となる「孝雄」による非意図的はたらきかけによって実現されたのが確認できる。この違いが日本語の典型的な使役表現の意味・機能を構成する条件に基づくとすれば、使役主からのはたらきかけの意図の有無に関する意志=無意志性は、そこから周辺的かつ非典型的使役表現が導き出される重要な一つの軸となる。しかし、このような使役事態の意志=無意志性だけでは、上記した使役表現における二分類を説明することは当然ながら不十分なところがある。したがって、本稿では使役行為の無意志性とならんで、典型的使役表現と非典型的使役表現におけるテキストを中心に、後者に際だった場面構造にどのような諸特徴があげられるのか、といった新たな観点からの分析・記述を行うこ

とにする。

2. 先行研究

佐藤(1986)では、使役構造の文の文法的な意味とそれぞれの意味の実現の条件を記述し、あわせてその派生関係をさぐることを目的としている。主な論点は、特に《指令》の使役構造の基本的な文法的な意味とその実現の条件をまとめたものである。佐藤(1990)は、主に「物・出来事が人(人の部分・側面)・物・出来事を～させる」という構造をもつ使役文において表現される因果関係のさまざまを記述している。権(1994)では、日本語の使役文を対象に、その意味・用法を分類することを中心に論じている。また、日本語の使役文が多様な意味・用法を表せるようになる現象について、二つの関与者が動作主性をもつことで意味のバリエーションが展開されると述べている。山田(1908)や松下(1924)の指摘を継承している早津(2016)は、現代日本語の使役文の文法構造について、“人が他者に動作を行わせる”というのはどんな目的や意図からなっているのかという性質に基づいた分類を行っている。

3. 問題提起と本稿の立場

先行研究では、日本語の基本的な使役構文の文法的な意味とその実現の条件づけ及び、多様な使役の意味・用法を中心とした分類に関する言及だけを簡単に紹介した。しかし、上述した従来の研究では、使役行為の意志＝無意志性とならんで、典型的使役表現と非典型的表現とに分け、両者における具体的な場面構造に注目した分析・記述までは十分にされていない。特に、典型的使役表現における文法的諸要素の研究に比べ、非典型的使役表現における場面構造の考察は不十分なところがある。

本稿では、使役主のはたらきかけ性を根拠に、無意志的かつ非意図的な使役行為を伴う非典型的使役表現を主な対象とし、意志的かつ意図的な関与のあり方による典型的使役表現と比較する。その上で、先行研究で指摘された典型的使役表現をめぐる文法的な諸条件を踏まえ、非典型的使役表現に見られる場面構造の違いについて、可能な限り体系的に分析・記述していくことを目的とする。本稿における考察方法は、議論上、実例に基づいた検討が必要であると考え、現代小説から収集した用例を対象として考察を行う。

4. 非典型的使役表現における場面構造の分析

4.1 間接的なむすびつき

非典型的使役表現の意味的な特徴として、まずは使役事態に至る出来事が間接的にむすびついている点があげられる。次例から確認する。¹⁾

- (3) もしかすると、直樹は偶然そこに居合わせたただけなのに、恐ろしい渡辺に脅かされて、自分も協力したと言われているのではないか。いや、それどころか、事件そのものが森口の作り話なのではないか。新聞に書いてあったように、うっかり足を滑らせて子供がプールに落ちて死んでしまったなら、保護者としての責任を怠った森口のせいです。彼女はそれを認めたくなくて、運悪くそこに居合わせた直樹と渡辺を脅かし、嘘の告白をさせたのではないか。そんなふうに思えて仕方ないのです。

もしも、直樹が本当に事件に巻き込まれていたのであれば、私がそれに気付かないはずがありません。(告白：131)

- (4) 深夜、階段の踊り場の姿見で、わたしは制服を着て自分の新しい姿をチェックした。モテ系雑誌のモデルのような女子が、そこにはいた。くるくるとその場で回った。髪の毛のハイライトがオレンジ色にふわっと光って、短いスカートから伸びた白い太ももは我ながらなんだかエッチでドキドキした。

「おまえ、捨て子じゃなかったんだな」

気づいたらお兄ちゃんが二階からわたしを見おろしていた。そう言わせたのは嬉しくはあったけれど、お兄ちゃんの粘ついた視線がなんだかイヤで、わたしは返事をしなかった。

(言の葉：243)

例(3)は、日本語の使役文の中心的なタイプ²⁾であると同時に、使役主「森口」が動作主となる「直樹」と「渡辺」に向けて「脅かす」のような、事柄の成立に直接的に関連づけられる言葉や身ぶりを用いている。さらに、使役の主体となる「森口」の強い影響のもとで「直樹」と「渡辺」の「嘘の告白をする」が行われるという積極的な因果関係³⁾がはっきり表されている。

反面、例(4)では、使役事態を惹き起こすはたらきかけが無意志的動作として機能している。その背景として、使役主として位置づけられた「わたし」に意図性が含意されていないことがわかる。「自分の新しい格好をチェックする姿」という出来事は、「言わせる」という使役事態を直接

1) 本稿では、典型的使役表現と非典型的使役表現における使役事態を下線部で示し、当該の使役事態を惹き起こす具体的なはたらきかけのあり様は二重線として示している。

2) 能動的使役文において、使役者は被使役者に指示を行う。そのため、被使役者が使役者の指示にしたがうことが前提となり、状況的に立場が上位にある者が下位にある者に対し、権威をよりどころに、事態の実現を命令するといった例も多い。この規定についてより詳しくは、井上(1976)、青木(1977)、佐藤(1986)、日本語記述文法研究会編(2009)、早津(2015b)などがある。

3) 本稿における因果関係という用語は、佐藤(1990)でいう「ある出来事の発生、存続、変化、消滅を条件づけるものと条件づけられるものとの関係」という広い意味で使用することなく、ある事柄が使役事態をひき起こす直接的な要因として機能するという狭い意味で使用している。したがって、出来事間における因果的成立は偶然的なものではなく、必然的な原因—結果で実現されなければならないとする。

的に導いておらず、二つの出来事が場面上、間接的にむすびつけられているのである。ゆえに、先に起きた事態が必ず当該の使役事態を惹き起こす、つまり必然的な関係を成しているとは捉えにくい。消極的な因果関係が実現されているのである。したがって、使役主の意志的な関与を伴わない非典型的使役表現では、その場面上、使役事態の実現に向ける使役主の非意図性だけではなく、出来事間における間接的なむすびつきが特徴的であると言えよう。

4.2 使役主の抽象化

使役事態で表れる関与の意志性＝無意志性から考える際、そのもとになる動詞、つまり原動詞⁴⁾の種類が問題となることがある。

- (5) 「まったく今の若い人ときたら」おばさんはミルクの入った哺乳瓶を持って、奥から出てきた。
「子どもより自分の楽しみを優先するんだもんね、こないだの新聞にも出てたじゃない、実の親が子どもを殴って死なせるなんて、私の時代にはあり得ないことだよ」独り言にしては大きな声で言いながら、私から奪うように赤ん坊を取り上げ、「おお、よちよち、よちよち、おなかちゅういたねえ」猫なで声を出しながら、薫の口に哺乳瓶をあてがう。(八日目：14)
- (6) 何はともあれ死体がまたひとつ増えた。鼠、キキ、メイ、ディック・ノース、そして五反田君。全部で五つだ。残りはひとつ。僕は首を振った。嫌な展開だった。次に何が来るのだろう？ 次に誰が死ぬのだろう？僕はユミヨシさんのことをふと考えた。いや、彼女であるわけがない。それはあまりにもひどすぎる。ユミヨシさんは死んだり消えたりするべきではないのだ。ユミヨシさんじゃないとしたら誰だ？ ユキ？僕は首を振った。あの子はまだ十三なんだ。彼女を死なせるわけにはいかない。(ダンス：340)

上記した例はいずれも、「死なせる」という人の状態に変化が生じたことが表されている。例(5)では、場面の通達上「実の親」が「子ども」に向かって、「殴る」という直接的な関与のあり様が端的に示されている。しかし例(6)の場合、「彼女」の側で自然発生的に「死ぬ」という出来事が起こった結果に関わって「僕」は、その状況の成り行きの受け手として示されている。つまり、「彼女」を「死なせる」という状態に至らせる主体が抽象化され、明示的ではないことがわかる。上掲した例は、使役主が動作主に対して、ある動作をするようはたらきかけていないという点や、もとになる動詞も運動動詞を示していないことから、すでに典型的使役表現から派生された意味・用法を持つと言えよう。このように状態の変化が使役化された表現においても、使役事態を惹き起こそうとするはたらきかけの意志＝無意志性が場面構造の特徴を取り上げる重要な条件となることが確認できた。

4.3 主体における[-animate]性

日本語の使役表現における主体の[animate]性⁵⁾については、すでに井上(1976)、佐藤

4) 接辞「-(さ)せる」のつかない動詞。「運ぶ」「走る」等。「V」と記すことがある。
(早津(2016:4))

(1986)(1990)、權(1994)、早津(2004)(2016)などで指摘されている。

(7) 翌週は雨つづきだった。

ウインドウがガラス越しに、街が雨に濡れるのを眺める。

「お客のいないときは本を読んでいてもいいのよ」

いまでも日に一度は店に顔をだすバオラが言った。雨はきりもなく降っている。強くはないが、空気にからまりおちて英会陰にやみそうもない雨、世界を檻にとじこめようとするかのような雨だ。雨は私を無口にさせる。おもいだしたくないことばかりおもいだしてしまう。

(冷静：27)

(8) 「しかし金属が爆発するとはなあ」

「ナトリウム自体が爆発するんじゃない。今いったように、ナトリウムは反応性に富んでいる。

特に水と反応すると、熱を発しながら水酸化ナトリウムになり、同時に水素を発生させる。

その水素が空気と混合して爆発を起こすわけだ」

「マッチと火薬じゃなく、水とナトリウムというわけか」(探偵：251)

既に触れたように、基本的な使役表現は、使役主及び動作主がともに有情性を帯び、積極的かつ強いはたらきかけによって行われる能動的使役文である。しかし、例(7)の「雨」という使役の主体は、無情物であるためその存在に意志性は読みとれない。例(8)の場合、「ナトリウムは金属である」というものの特性が「水素」を「発生させる」という事態に導く要因となっている。つまり、主体における[animate]性を考えると、上記した例(7)(8)は、主体における[animate]性において派生が起り、他動詞構文へ移行される過程⁶⁾が確認できる。

ところが次例のように、使役主および動作主がともに[+animate]性を持つものの、使役主の意志的なはたらきかけによるものではない例もみられる。

(9) 「ところで。」私は言った。「本当にどうやって番号がわかったの？」

「いや、本当。」ほほえんで彼女は言った。「長いこと、いろんな所を転々としてひとり暮らししていると、感覚のどこかがけものみたいに冴えてくるのよ。いつ頃から、そういうことができるようになったのかはよくおぼえてないけど。……えーと、さつきさんの番号は？と思うとね、ダイヤルを回す時にはもう自然と手が動いて、おおかた合ってるのよ。」

5) 사역문을 규정하는 또 하나의 요소는 關與者が 지니는[+animate]이라는 意味素性이다. 사역문에서는 기본적으로 사역주가 문장전체의 主體로서의 地位를 獲得하고 있다해도, 被使役主의 動作實現의 事態에 있어서 피사역자가[+animate]의意味素性を 가지고 있는 限, 동작주로서의 意圖를 가지고 使役事態에 참가한다고 볼 수 있다. 有情物이라는 것은 「太郎が次郎をなぐる」라는 문에서의 「次郎」가 가지는 [+animate]性과는 그 성질을 달리하며, 自己自身の 意志에 의하여 行動하는 存在라는 뜻으로서의 動作主性(agentivity)을 가지고 있다는 의미이다. 즉, 전형적인 사역문의 關여자는 動作主로서의 有情物性([+animate]性)을 지닌다고 하겠다. (權(1994:95))

6) 日本語文法記述文法研究会編(2009)によると、動詞が無情物主語をとるときは一般的に使役文を作ることはできないが、対応する他動詞がない場合には、その穴を埋めるために他動詞使役文が用いられるとしている。

「おおかた？」

と私は笑った。

「そう、おおかた。間違ってた時は、すいませんって笑って切る。それでひとり、照れるの。」

そう言うてうらはは、嬉しそうに笑った。

私は、電話番号を調べる方法なんかいくらでもあるということより、淡々と語る彼女のほうを信じたかった。彼女は人をそういう気にさせた。(キッチン：175)

例(9)では、「淡々と語る彼女の姿」というように、「彼女」による動作の側面が後続されており、使役事態を惹き起こす非意図的な関与のあり様となっている。要するに、使役の主体における意志的な側面は感じられないため、動作主となる「私」は自発的に「そういう気になる」のである。このような主語の動作や状態に伴って起きる状況は、[animate]性の派生であると説明できる。

5. おわりに

以上、本稿では非典型的使役表現を対象とし、場面構造の観点から、典型的使役表現と対照しながら、新たにみられる構文的な特徴について考察してきた。主な論点をまとめると、次のようになる。

第一点目は、出来事間におけるむすびつきが間接的であった点である。非典型的使役表現の場合、先に起きた事態が必ずしも当該の使役事態を惹き起こすという必然的な関係を成しているとは捉えにくい。ため、いくつかの場面が間接的にむすびつけられていることがわかった。

第二点目は、使役主の抽象化が行われる点である。ここでは、特にもとになる動詞が状態変化を指し示している場合を対象にしたのだが、使役主が事態の成立に積極的な関与をもたないため、ある状況の成り行きに焦点が当てられていた。したがって、当該の状態を直接的に惹き起こす主体の存在は明示されていないのが確認できた。

最後に、従来の研究からも指摘されているように、主体の[animate]性における派生が行われる点である。使役事態を実現させる場面の経緯における性質が異なる非典型的使役表現では、主体における[animate]性において派生が起ることから、さらに他動詞構文へ移行される過程が確認できた。

以上のように、本稿では使役事態における使役主の意志＝無意志的なはたらきかけに焦点を当て、そこから見られる場面構造に注目して考察してきた。しかし、本稿で論じられていない特徴も少なくないと思われる。また、本稿で考察に至らなかった、使役主側の無意志的な関与によって、他動詞構文へと移行されていく言語現象を、使役性と他動性の境目として位置づけ、今後の課題として考察していきたい。

【参考文献】

- 青木伶子(1977)「使役—自動詞・他動詞との関わりにおいて—」須賀一好・早津恵美子編『動詞の自他』ひつじ書房、pp.108-121
- 井上和子(1976)『変形文法と日本語(上)』大修館書店、pp.48-75
- 佐藤里美(1986)「使役構造の文—人間の人間にたいするはたらきかけを表現するばあい—」言語学研究会編『ことばの科学1』むぎ書房、pp.89-179
- _____ (1990)「使役構造の文(2)—因果関係を表現するばあい—」言語学研究会編『ことばの科学4』むぎ書房、pp.103-157
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』むぎ書房
- _____ (1980)「動詞の「たちば」をめぐって」『教育国語60』むぎ書房、pp.20-29
- 高橋太郎(1977)「たちば(voice)のとらえかたについて」『教育国語51』むぎ書房、pp.28-41
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 第I巻』くろしお出版、pp.285-302
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法② 第3部格と構文 第4部ヴォイス』くろしお出版
- 仁田義雄(2009)『日本語の文法カテゴリーをめぐって』ひつじ書房
- 早津恵美子(2004)「使役表現」尾上圭介編『朝倉日本語講座6文法Ⅱ』朝倉書店、pp.128-150
- _____ (2015b)「日本語の使役文における使役主体から動作主体への働きかけの表現—従属節事態と主節の使役事態との関係—」東京外国語大学『語学研究所論集』(第20号)東京外国語大学語学研究所、pp.1-13
- _____ (2016)『現代日本語の使役文』ひつじ書房
- 宮島達夫(1980)『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院
- 権勝林(1994)「使役文의 意味・用法의 分類」『日語日文学研究』第24輯 韓国日語日文学会、pp.91-120
- 林青樺(2009)『現代日本語におけるヴォイスの諸相—事象のあり方との関わりから—』くろしお出版
- 정상철 외 12명(2020), 현대 일본어 기초문법, 한국외국어대학교 지식출판콘텐츠원

【用例出典(略号)】

- 江国香織(2001)『冷静と情熱のあいだ Rosso』角川文庫 (冷静)
- 木藤亜也(2005)『1リットルの涙 難病と闘い続ける少女亜也の日記』(1リットル)
- 小川洋子(2003)『博士の愛した数式』新潮文庫 (博士)
- 角田光代(2011)『八日目の蟬』中央文庫 (八日目)
- 新海誠(2016)『小説 言の葉の庭』角川文庫 (言の葉)
- 湊かなえ(2010)『告白』双葉文庫 (告白)
- 宮部みゆき(1998)『火車』新潮文庫 (火車)
- 村上春樹(2004)『ダンス・ダンス・ダンス(下)』講談社文庫 (ダンス)
- 東野圭吾(2002)『探偵ガリレオ』文春文庫 (探偵)
- 吉本ばなな(1998)『キッチン』角川書店 (キッチン)

ソ系の曖昧指示再考

坂口清香(国民大学)

1. はじめに

本発表は指示詞コソアのなかでも先行研究の多くない曖昧指示に着目する。金水(1999)はソ系の表現のうち、用例(1)や(2)のような「照応すべき言語的文脈をもたない上に、指示対象がはっきり特定できないようなもの」(金水1999:85)を曖昧指示と呼んだ。

- (1) A: お出かけですか B: ええ、ちよつとそこまで (金水1999, 用例48)
(2) A: 私のメガネ知らない? B: その辺に置いてるんじゃないの (金水1999, 用例50)

岡崎(2010)は曖昧指示を、聞き手も指示対象をほぼ推測可能であるものと、「指示対象には不定の部分(X)を含むことから、聞き手には対象が推測不可能である」(岡崎2010:236)ものとして二分している。そして前者の例として「敵もさる者(なかなかの、相当な者)」、「しかるべき手続き(適切な手続き)」を挙げ、「現代語では慣用表現にのみ残る用法」(岡崎2010:227)だとしている。金水(1999)や岡崎(2010)の指摘通りであるなら現代語の曖昧指示(ソ系)は聞き手にとって対象の推測が不可能だということになるが、場合によっては聞き手が対象を推測できることもあるのではないかという疑問が生じる。

そこで本発表では、先行研究をふまえて曖昧指示の範囲を定めたいうえで、場所表現に関する用例分析を通して曖昧指示の用法を再考する。特に、不定のド系ではなくソ系が使用されているという意味で場所に関する情報はゼロでなく、場所に関する何らかの情報を有していると考えられる。そのため、不定の意味以外の意味とは何か、また不定の意味は曖昧指示に必須であるのかという観点を中心に考察していく。

2. 曖昧指示の範囲

1章では曖昧指示であっても聞き手が指示対象を推測・特定できることがあるのではないかという疑問を提起した。そこで本発表では「特定」や「未定・不定」などの用語は使用せず「変域を持った指示」だという側面から曖昧指示を捉える。例えば堤(2012)では、用例(3)に関して、「その者」は「『1時間後に受け取りに来る会社の者』という属性を持っていれば誰でもよい。つまり

の決定に関与しており、コ系は「話し手のいる場所」、ソ系が「聞き手のいる場所」を指示する。一方、曖昧指示のソは直示中心のなかでも「ここ」が関与していると考えられる。

3. 用例分析および考察

本章では国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)から収集した用例を分析し、曖昧指示の用法を再考する。まず、用例(1)に挙げた「ちょっとそこまで」などが曖昧指示の典型だと考えられたため、3.1節では話し手と聞き手が発話時に発話の場を共有しているが、話し手も聞き手も発話の場からは五感などで対象が捉えられないという条件下で、照応すべき言語的文脈が必須ではなく、かつ、変域の決定に直示中心の「ここ」が関与している用例を分析する。その後、3.2節で話し手と聞き手が発話の場を共有していない用例についても分析および考察をおこなう。

3. 1 発話時に発話の場を共有している曖昧指示

分析の結果、用例(1)の「ちょっとそこまで」のように聞き手にとって指示対象の特定が難しいものだけでなく、特定が容易なものと、その中間的なものがあることが明らかになった。

聞き手にとって対象の特定が難しい曖昧指示では、指示詞は「そこ」が使用され、「そこ」の前方に共起している「ちょっと」や「すぐ」を削除するとやや不自然な日本語になることが指摘できる(用例5)。

- (5)「こういうことを申して失礼でございますけども、お嬢さまにちよつとそこまでご足労いただきたいんですが」「なんであたしが、あんたたちにつきあわなきゃいけないの」少女は居丈高に叫んだ。
(中略)「警察へ行こうか。そのほうが面倒臭くなくていいんじゃないのかい」「いやな奴」と、少女は言った。「どこへあたしを連れてくって言うの」「すぐそこに、ちょっとした場所がございます。人目につかないところですから、そこでお話がすめば、と思いますが。(後略)」

(OB1X_00156:『青春の門』)

阪田(1971)はこうした曖昧指示のソが、「『われわれ』の勢力圏外ではあるけれども、さほど遠い所ではない場所を表す」(阪田1971, 金水・田窪編1992再録:58)ことを指摘している。こうした指摘を参考にすると、曖昧指示のソは「ここではないが、ここからあまり遠くない場所/この近く」という意味で使用されていると考えられる。

聞き手にとって対象の特定が容易な曖昧指示は、「そのN」という形式で使用され、N(場所名詞)が固有名詞であることにより対象の特定が容易になることが明らかになった。

- (6)「しかしナニだ。長崎へゆく長翠さんならともかく、ついでその小田原あたりへ行くのにわざわざ

ご挨拶もなあ」「あら、ついそこなんですか。所帯持って十二年、ついそこなのにあたし行ったことない。その手前だって、日光だって」(LBs9_00044:『残る蜚』)

(7)「憶えていらっしゃる？」言葉が詰った。(中略)「どれくらい前になるかしら。高校生のころですわ」「といいますと」「あたし、そこのT学園の出身なんです」(LBc9_00026:『帰路』)

聞き手にとって対象の特定が難しい曖昧指示では、共起している「ちょっと」や「すぐ」を削除するとやや不自然になったが、対象の特定が容易な曖昧指示では「つい」が共起しているもの(用例6)だけでなく、共起していないもの(用例7)も見られた。

指示対象の特定に関して中間的な曖昧指示は、特定が容易な曖昧指示と同様、「そこのN」という形式で使用されていた。しかしN(場所名詞)が固有名詞でないため、固有名詞の場合と比べて対象の特定が容易でなくなる。以下の用例(8)の「駐車場」などは町内に複数あることが少なくないため、変域を持った指示のなかでも比較的聞き手にとって対象の特定が難しいと考えられる。実際に、用例(8)では聞き手が場所を確認していることから、周囲に「その駐車場」の候補がいくつか存在することが窺える。

(8)「車をもっているか」マリーは頷いた。「近くにある?」「その駐車場に」「きのう、古山さんが車を止めたところかな」「いっしょよ」(PB19_00687:『灰夜』)

一方、用例(9)に見られる寮の「ホール」は複数ある可能性が低いため、Nは固有名詞でないものの聞き手にとって対象の特定は比較的容易だと言える。

(9) 四時間目の授業が終わると昼食なので、寮生たちは食事のために寮にもどった。(中略)その日は夕食後、柔道部の歓迎コンパがあるということだった。風呂に入って夕食を終え、部屋で寝転んでいると蘭丸が迎えにきた。「そろそろ出かけるそうだよ」蘭丸も柔道部に入ったという。このお小姓みたいな少年が部員になったところで、大した戦力にはなるまい、と伸太郎は思う。「出かけるって言ったってそのホールだろう? 会場は…」「町だそうだよ。十一屋という喫茶店だとか聞いたけど…。みんなそろってゆくんだと」(LBb9_00134:『ひかり北地に』)

以上、話し手と聞き手が発話時に発話の場を共有しているが、話し手も聞き手も発話の場からは五感などで対象が捉えられない用例を分析してきた。曖昧指示には聞き手にとって対象の特定が難しいものから容易なもの、その中間的なものがあることが明らかになったため、曖昧指示を規定する際に「聞き手にとって指示対象の特定が難しい」という説明は、典型ではあるものの必須ではないことが示唆できる。

また聞き手が指示対象を特定できる場合もあることが明らかになったことで、曖昧指示において「どこか」という不定の意味も場合によっては感じられなくなることが指摘できる。曖昧指示における不定の意味の強さは、使用された形式に着目することで判別が容易になる。対象の特定が難しい曖昧指示ではすべて「そこ」という形式が使用されていた一方、特定が容易、あるいは中

間的な曖昧指示では「そのN」という形式が使用されていた。「それ」よりも「そのN」の方が指示対象に関する情報量が多いと同様に、「そこ」よりも「そのN」(Nは場所名詞)の方が、指示対象に関する場所情報が多い。すなわち「そのN」は「ここではないが、ここからあまり遠くない場所/この近くの、N」という意味で変域を持った指示をおこなうため、聞き手にとって対象の特定が比較的容易になる。特にNが固有名詞の場合は「どこか」という不定の意味は感じられなくなる。この場合、「そのN」は変域を持った指示をおこなっていないと言えるが、これについては「そのN」全体で変域を持った指示をおこなっているのではなく、「そこ」のみがその性質を担っていると考えれば解決できるだろう。つまり「そこ」に後続するN(場所名詞)によっては変域が著しく限定されて、「そのN」全体では不定の意味が感じられない、確定的・唯一的な指示をおこなうこともあるのだと言える。

一方、「そのN」に対して「そこ」は付加的な場所情報がゼロであるため不定の意味が前面化し、「ここではないが、ここからあまり遠くない場所/この近くの、どこか」という変域を持った指示をおこなう。このため聞き手にとって対象の特定が極めて難しいのだ。

3. 2 発話時に発話の場を共有していない曖昧指示

発話時に発話の場を共有していなくても、用例(10)のように「そのN」という形式でNには固有名詞が使われ、聞き手(読み手)にとって対象の特定が容易な用例が確認された。

(10) 堅実・着実なオランダ人は、この大理想に向って、堤防づくりのときと全く同じく「柳をまず植えて育てて枝をとって編んで足もとの海に沈めてゆく」ような、あせらぬ地道な方法でスタートした。ついでそのベルギー・ルクセンブルグと「まず一緒に通貨にしてみよう」…他の大国の輝かしい人々がやがて、大欧州構想の生みの親と記念されるようになってもべつだん、異議もとなえない。

(LBf3_00096:『ヨーロッパの心』)

また、3.1節で考察した発話の場を共有している曖昧指示では、話し手も聞き手も発話の場からは五感などで対象を捉えられなかったが、発話時に発話の場を共有していない曖昧指示では話し手(書き手)が五感などで捉えられる対象を指示している用例も見られた。

(11) 書院窓のところに積み上げてある教科書をパラパラめくったりしながら、柱に背をもたせかけてぼんやりしていた幸治は、ふと、すぐその畳の上に白い蛇がとぐろをまいて鎌首をもたげ、じっとこっちを見ている気がした。

(LBt9_00266:『リンゴの唄、僕らの出発』)

(12) 障子の向こうから人の声が聞こえてきた。「…ともかく一口だけでもお食べください。このままでは本当に死んでしまいます、志乃様」 女の声だ。すぐその部屋から聞こえてくる。あそこが志乃の部屋らしい。

(LBq9_00077:『真皓き残響』)

これらの例は視点遊離指示に似ている。金水・田窪(1990)では視点遊離のコを提起し、「小説や体験談など、時間の経過とともに出来事が推移していくような文章にのみ現れるもので、このよ

うな文章では、現場や聞き手などに影響されることなく、話し手の視点を自由に話中の登場人物に近付けることができる」(金水・田窪1990:105)と説明している。ただし、視点遊離指示では庵(2007:44)が指摘しているように、「描かれた現場」(庵2007:43)での話し手と対象の空間的距離によってはコ系だけでなくソ系やア系も使われる。したがって「描かれた現場」にいる話し手以外の登場人物を聞き手として設定し、聞き手領域のソを使って「そのかばんをどけてくれたら、私も座れるのと思ったが黙っていた。」としたり、聞き手の注意のソ(中距離のソ)を使って「その部屋から聞こえてくる声が、うるさくないのだろうか。」などと言うことができる。用例(12)では「すぐその部屋」が「あそこ」とも表現されているように、ソ系がア系に言い換えられる点が聞き手の注意のソと共通している。しかし用例(11)および(12)では「描かれた現場」に、指示対象となる畳や部屋に注意を向けることができる、聞き手になりうる登場人物はいない。そのため本発表では、こうした例は視点遊離指示のソではなく、「ここではないが、ここからあまり遠くない場所/この近く」を意味して変域を持った指示をおこなう、曖昧指示のソだと考える。「描かれた現場」にいる話し手にとっては指示対象を五感などで捉えることができるが、聞き手(読み手)は「描かれた現場」にはいないため、「その畳」や「その部屋」の場所を正確に特定することができない。

4. おわりに

場所表現に関する用例分析を通して、「聞き手にとって指示対象の特定が難しい」という規定は、曖昧指示の典型的な性質を記述したものではあるものの必須の要素ではないことが指摘できた。さらに「そのN」全体ではなく、「そこ」部分のみが変域を持った指示をおこなっていると考えられた。そのため後続するN(場所名詞)によっては変域が著しく限定され、場合によっては「そのN」に不定の意味が感じられないこともあると言える。

本発表では場所表現のなかでも「そこ」および「そのN」を扱ったが、「そこの学者とは比較にならない」のように、「そこら」や「そのへん」は「平凡な、どこにでもいる」などの意味で使用されることもある。これに関する詳しい分析・考察が今後の課題として挙げられる。

<参考文献>

- 庵功雄(2007)『日本語におけるテキストの結束性の研究』, くろしお出版
岡崎友子(2010)『日本語指示詞の歴史的研究』, ひつじ書房
金水敏(1999)「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』
6(4), 言語処理学会, pp.15-24
金水敏・田窪行則(1990)「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『認知科学の発展』3, 日本認知
科学会, pp.85-116

金水敏・田窪行則(編)(1992)『日本語研究資料 指示詞』, ひつじ書房

阪田雪子(1971)「指示語『コ・ソ・ア』の機能について」『東京外国語大学論集』21, 東京外国語大学, pp.15-24 ※金水敏・田窪行則(編)(1992)に再録, pp.54-68

堤良一(2012)『現代日本語指示詞の総合的研究』, ココ出版

漢語「判然」の用法に関する考察

徐衛（中国・蘇州大学）

「然」で終わる言葉において、二文字の語彙が189語あるが、文語では「タリ活用」、口語では「ト・タル型活用」として存在するのは171語である。その中でサ変動詞（スル）に使えるのは「判然」という1語しかない。

本研究では、サ変動詞の用法がある「判然(はんぜん)」について、国立国語研究所コーパス開発センターが開発した「まとめて検索『KOTONOA』」「日本語歴史コーパス(CHJ)」「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」及び北京大学漢語語学研究センターが開発した「CCL語料庫」を利用して具体的な考察を行った。その出現頻度と使用実態の通時的・共時的分析を通じて、時代ごとの使用傾向と使用形態の特徴を解明することを目的とする。

調査の結果、中国語において、「判然」は北宋(960～1127)の文献にみられはじめ、明・清(1368～1912)と現代(1912～現在)の文献にもあるが、古代語と現代語における使用形態の変化が少なく、主に「判然有別」「判然不同」のように連用修飾に使われたり（副詞的用法）、述語として文末に使われたり（形容詞的用法）する。日本語においては、日本語歴史コーパス(CHJ)における用例が154件、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)における用例が190件であるが、年代別の使用状況からすれば、明治・大正・昭和（前期）(1868～1945)の使用頻度が最も高い。日本語における使用形態は、近代語では「タリ型」(タリ・タル・タラ・タレ)、「ト型」(ト・トする)、「〇型」(副詞的)、「スル型」(サ変動詞的)の使用頻度の差が少ないが、現代語になると「ト型」のほうが優勢であり、「〇型」の使用がほぼなくなり、「スル型」の使用も大幅に減少することが分かった。

本研究は以上の調査結果に基づき、「判然」のサ変動詞の用法について更に考察し分析した。

【参考文献】

- 辛島美恵,2000.仮名文書の形容動詞(一)形容動詞語彙表[J].九州産業大学国際文化学部紀要(16):1-17.
- 李仁淳,2003.タリ活用形容動詞の語幹になる漢語—語構造と日本語での音型を中心に—[J].日本學報(57):241-260.
- 鳴海伸一,2014.漢語形容動詞・副詞の品詞性と用法変化:通時的観点からみた近現代の特徴[C]. 国立国語研究所共同研究報告13-03:近現代日本語における新語・新用法の研究:56-75.
- 前田富祺,1983.漢語副詞の種々相[A].渡辺実編,副用語の研究.明治書院:360-378.
- 間瀬洋子,2017.近代漢語の品詞性に見る多様性の画一化:形容詞用法を中心に[C].言語資源活用ワークショップ発表論文集:93-106.
- 松田悠哉,2017.語幹に格助詞を伴う形容動詞の用法について[J].東京大学言語学論集(38):123-144.
- 村木新次郎,2004.漢語の品詞性を再考する[J].同志社女子大学日本語日本文学(16):1-35.

文法研究の現状と展望

張根壽(祥明大)

1. はじめに

本発表は、張根壽(2021)「文法研究の現状と展望」『日本語学研究』67, 韓国日本語学会の内容の一部をまとめたものである。「文法研究の現状と展望」では、2019年~2020年に韓国で発行された日本語・日本文学・日本学関連の学術誌の中から文法関連の論文を取り上げ、その内容と特徴を記述し、今後の文法研究の展望について考えた。次の表は、韓国研究財団の掲載誌として収録されている日本語・日本文学・日本学関連の学術誌の19種の中、18種をまとめたものである。

〈表1〉調査対象の学術誌および発行論文

発行機関	学術誌	対象巻 (号)	発行回 数(年)	論文総数/ 語学論文数	文法 論文数
韓国日本学会	日本学報	118-125	4回	113/27	5
韓国日語日文学会	日語日文学研究	108-115	4回	137/58	15
韓国日本語学会	日本語学研究	59-66	4回	86/86	19
韓国日語教育学会	日本語教育研究	46-53	4回	96/96	7
韓国日本言語文化学会	日本言語文化	46-53	4回	113/52	23
韓国日本語教育学会	日本語教育	87-94	4回	104/67	13
日本語文学会	日本語文学	84-91	4回	186/78	18
大韓日語日文学会	日語日文学	81-88	4回	151/58	18
韓国日本語文学会	日本語文学	80-87	4回	121/40	9
韓国日本文化学会	日本文化学報	80-87	4回	158/48	12
東アジア日本学会	日本文化研究	69-76	4回	109/26	7
韓国日本近代学会	日本近代学研究	63-70	4回	136/24	9
韓国外国語大日本研究所	日本研究	79-86	4回	81/25	8
檀国大日本研究所	日本学研究	56-61	3回	49/12	3
漢陽大日本学国際比較研究所	比較日本学	45-50	3回	107/28	7
中央大日本研究所	日本研究	50-53	2回	49/19	10
東国大日本学研究所	日本学	48-51	2回	50/10	2
高麗大グローバル日本研究院	日本研究	31-34	2回	49/5	1
計			64回	1895/759	186

今回の調査対象とする学術誌の発行機関は12の学会と6つの大学研究所である。この中、韓国日本語学会と韓国日語教育学会はそれぞれ日本語学と日本語教育の分野を専門とする学会として注目に値する。学術誌の発行はすべての学会において年に4回、研究所は2~4回発行している。2年間で発行された学術誌は全64編で、総論文数は1895編である。その中、語学論文は759編で約40%を占めている。今回のテーマである文法関連の論文に注目すると、論文数は186編で、全体論文数に比べ文法論文の割合が10%にも満たしていない。このような動きは最近のことではなく、すでに韓国日本語学会の「文法研究の現状と展望」(鄭相哲2017、李景洙2019)でも同様な指摘が見られる。論文総数に比べ文法関連の論文は前回よりも減っており、それは確かな傾向として指摘できる。

2. 文法研究におけるパラダイムの変化

それでは、このような現象の原因を探り、どう解釈するかを考える必要がある。まず、文法関連の論文数が減っている理由としては、文法研究の研究領域や関心が移行していると考えられる。伝統的な文法研究では、文の中核をなす動詞文を中心として文の構造やそれと意味関係を結ぶ格の問題、または品詞論を中心とした文法形式の文法と意味を追求する方法論が主流であった。関連研究としては以下のものがあつた。

- 韓静妍(2019)「日本語の[-e-]型自動詞と[-ar-]型自動詞」『比較日本学』49, 漢陽大日本学国際比較研究所
- 崔瑞暎(2020)「主語の有情・非情性と他動詞文の表現事態」『日本文化学報』84, 韓国日本文化学会
- 荻原左江子(2019)「対格助詞『ヲ』をめぐって」『日本研究』79, 韓国外国語大日本研究所
- 李炫雨(2020)「格助詞『に』の意味と用法に関する研究」『日本語文学』89, 日本語文学会

日本語は、言語類型論的にSOVの語順をもち、名詞に助詞(後置詞)が結合し、動詞に助動詞が結合する膠着語に属する言語である。文の中核となる動詞が文の最後に位置するという特性から、文法研究も当然、文の中核をなす動詞構文を中心として行われてきた。伝統的には動詞の活用をはじめ、動詞の意味構文的な分類、動詞述語文の属性や特徴を中心とした研究がなされてきた。

動詞文の他に、品詞論的なカテゴリーとして、次の研究も見られる。

- 朴海煥(2020)「「親疎関係」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本研究』52, 中央大日本研究所
- 朴智娟(2019)「日本語オノマトペの名詞用法に関する意味的研究 - 副詞・動詞・形

- 容動詞が名詞用法として機能する場合」『日本学研究』58, 檀国大日本研究所
- ・趙恩英(2019)「「一生懸命に」・「熱心に」の違いについて－『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて－」『日本文化学報』83, 韓国日本文化学会

さらに、述語は様々な文法カテゴリーを構成する。たとえば肯定と否定(極性・みとめ方)、「ル・タ」のテンス、「デス・マス」の丁寧さ、「ダ・ダロウ」の断定・推量の認識のモダリティは動詞を含め、形容詞・名詞述語にも現れる。動詞文に見られる文法カテゴリーとしては「(ラ)レル」「(サ)セル」のヴォイス、「ル・テイル」のアスペクトが挙げられる。

- ・安平鎬・池好順(2019)「타동(他動)과 사역(使役)의 경계－日本語教育적인 관점에서－」『日本学報』118, 韓国日本学会
- ・権裕羅(2019)「日本語の感情形容詞と感情動詞の使役表現をめぐって」『日本語教育』86, 韓国日本語教育学会
- ・金俸呈(2020)「現代日本の新聞における間接受身文の統語的な特徴に関する研究」『日語日文学研究』112, 韓国日語日文学会
- ・裴銀貞(2020)「効力を表す「～テアル」構文とパーフェクトの「～テイル」構文とのニュアンスの違いをめぐって」『日語日文学』87, 大韓日語日文学会

述語の表す文法カテゴリーの中、モダリティの研究は1990年代から盛んになりはじめたが、その背景には命題の文法からモダリティの文法への研究領域の拡張と解釈することができる。韓国においてもモダリティの研究は活発に行われている。

- ・権城(2019)「「だろう」と「かも(しれない)」の語用論的な用法文の情報優位－情報のなわ張り理論に基づいて－」『日本語文学』80, 韓国日本語文学会
- ・鄭相哲(2020)「「ノダロウ」と「ラシイ」の異同について」『日本語文学』91, 韓国日本語文学会
- ・吉田玲子(2019)「「ってば」に関する考察」『日本文化研究』70, 東アジア日本学会
- ・全紫蓮(2019)「現代日本語における副詞の感動詞用法をめぐって－「ちょっと」の主観化を中心に－」『日本言語文化』46, 韓国日本言語文化学会

文の構造や文法的な関係に焦点をおいてきた文法研究が話し手の態度・文の述べ方に関心が向けられるようになり、モダリティの文法への文法領域の広がりを見せる。これは、文の最後に位置する部分(文末表現)にまで研究が進められたということであり、文という単位を越えるとテキストや談話の領域になる。

文法は文の統語的な規則を追求する学問で、文法研究の対象とする単位は「文(sentence)」である。ただ、文というのも話し手と聞き手とのやりとりの上で成り立つ場合が多く、円滑なコミュニケーションのためには脈略(テキスト)の働きが重要である。近年の日本語研究において、談話分

析(discourse analysis)やテキストを考慮した研究が増えているのも従来の文の領域を越えた試みとして解釈できる。

3. 日韓の対照研究・誤用分析・中間言語

韓国における日本語研究のような外国語研究・教育においては、対照研究、誤用分析、中間言語という研究の流れに注目する必要がある。対照研究(contrastive study)は、複数の言語体系を比較し、その違いを中心に対象とする諸言語の特徴を明らかにするものである。対照研究の初期(1950・1960年代)の頃は、目標言語(L2)と母語(L1)との違いを把握し、そこから母語の干渉(interference)が予測でき、外国語教育に役立つものと考えられた。しかし、対照研究における予測と学習者の誤りが必ずしも一致しない現象も現れることが分かった。

言語類型的な側面からみると、英語のような屈折語(孤立語)と日本語・韓国語の膠着語は文の構造において異なる部分が多く、母語にはない文法要素を習得するのは難しい。たとえば、英語の冠詞や関係代名詞の習得にはかなり時間にかかり、当然誤用が起こると思われるが、習得の難しさと誤用が一致するとは限らない。つまり、学習者の誤りには多様な要因があるため、対照研究には限界があるとされた。これにより注目されたのが誤用分析(error analysis)という方法である。誤用分析とは、学習者の誤りにはどのようなものがあり、どうして誤りが発生し、どう訂正するかを考えることで、言語教育に役立てようとする研究方法である。誤用分析は第二言語習得の理論をはじめ日本語教育に貢献でき、教材の作成・開発、教授法への応用などで活用されている。

- 공미희・손동주(2020)「일본어 동사의 문법적 오용분석을 통한 일본어 교육에의 활용방안」『日語語文学』87, 大韓日語語文学会

学習者の誤りに注目したのが誤用分析の特徴であるが、さらに学習者の誤りは学習の段階において当然起こる現象であり、その誤りにも一定の規則や体系があるという考え方がSelinker(1972)による中間言語(inter-language)という立場である。中間言語は習得段階において変化していくものであり、対照研究の立場からすると、言語間の干渉により当然起こるはずの誤用が起こらなかったり、母語の違う学習者にも共通的に誤用が起こる現象もあった。言語習得には普遍的な学習順序が存在するという考え方から、学習者共通の言語体系としての中間言語が存在すると考えられた。

- 尹祥漢(2019)「일본어학습자의 문법습득에 관한 종단적 연구 -격조사「に・で」의 사용을 중심으로-」『日語日文学研究』110, 韓国日語日文学会
- 黄永熙(2019)「일본어 아스펙트 표현의 습득, 유지, 마멸, 상실 그리고 재구성」

『日本語学研究』59, 韓国日本語学会

- 崔延朱(2020) 「학습 환경이 다른 일본어 학습자의 「가·けど」의 중간언어의 생성에 관한 연구」 『日本研究』85, 韓国外国語大日本研究所

このような研究の流れからすると、対照研究には限界があり、その有効性が疑われるように思われるが、対照研究は外国語教育において依然として有効であり、言語学習上の問題点を提示し、その問題を解明する上でも極めて重要な研究方法として使われている。また、世界の諸言語を対象に、一般の傾向を類型化することを目的とする言語類型論(linguistic typology)も対照言語学と合わせて、言語の普遍性と個性という理論的な問題を説明する方法としても広く使われている。

今回の調査では日韓の対照研究で扱われる分野と対象が多用であることが確認された。以下の論文は、日韓両言語の動詞の意味的な違いのような1:1の対応関係の異同を分析している。

- 董素賢(2019) 「日本語動詞「見る」と韓国語動詞「보다」の対照研究 ―語彙的な意味と構文的要因の相関性を中心に―」 『日本語教育研究』48, 韓国日語教育学会
- 韓京娥(2019) 「実例に見る「行く/来る」と「kata/ota」―話し手と到着点との関係に注目して―」 『日本学報』119, 韓国日本学会
- 李忠奎(2020) 「「残る・残す」と「남다・남기다」の日韓対照研究」 『日本語教育』92, 韓国日本語教育学会
- 成知炫(2020) 「「-てみる」と「-어보다」の韓・日対照研究 ―両形式が対応しない場合を中心に―」 『日本語学研究』66, 韓国日本語学会

対照研究は言語の語彙の意味に限らず文法的な性質の違いの究明にも用いられる。次の研究では日韓両言語における文法形式の違いについて分析している。

- 申義植(2020) 「日韓両言語の助詞「ヲ」と「ul/lul」の付加詞用法について ―翻訳した時の許容度と意味を中心に―」 『日本語文学』90, 日本語文学会
- 崔真姫(2020) 「「もの」와 「こと」의 문법화에 관한 고찰 ―‘것’/‘일’과 대조하여―」 『日本文化研究』76, 東アジア日本学会
- 井ノ上佐織(2019) 「テキストにおける指示詞の使用様態に関する日韓対照研究 ―新聞社説の分析を中心に―」 『日本学報』118, 韓国日本学会

また、テンス・アスペクト、否定極性表現、モダリティのような文法カテゴリーの研究も行われている。

- 金庚洙(2019) 「相对名詞の語彙的なアスペクトの関係 ―韓国語の「전」と日本語の「前(マエ/ゼン)」をめぐる―」 『日本言語文化』46, 韓国日本言語文化学会

- 朴江訓(2019)「韓日両言語の方言接触における対照研究 ―否定極性表現の場合を中心に―」『日本文化学報』82, 韓国日本文化学会
- 劉璧真(2020)「口語表現に関する日韓対照一考察 ―「ていうか」と韓国語との対応関係―」『日語日文学』87, 大韓日語日文学会

これらの研究の流れは、対照研究の領域が単語・語彙レベルから文型・表現にまで広がっていることを意味する。さらに、談話の研究においても対照研究は活発に行われているなど、このような多様な分野での研究方法は今後も増えていくと思われる。

- 一色舞子(2019)「日本語母語話者と韓国語学習者による終助詞「よ」の使用実態 ―談話完成テストの調査結果に基づいて―」『日本近代学研究』64, 韓国日本近代学会
- 林始恩(2019)「日本語と韓国語の発話の冒頭における談話標識について ―いやと아니(ani)を中心に―」『日本語文学』80, 韓国日本語文学会

4. おわりに

韓国における日本語研究はこの2年間で発表された論文数からみると依然として活発に行われている。その中、文法関連の論文は減少の傾向を見せている。それは文法研究の方法論の変化および多様性と関わっていると考えられる。対照研究の方法が伝統的な文の構造を解明する理論研究から言語形式の文法と意味を中心とした記述文法を経て、文法教育にもその知見は利用されている。また、対照言語学、言語類型論、誤用研究と中間言語のような応用言語学のアプローチが多いが、これは外国語教育の必要性から考えても自然な流れであると言える。

これらのいくつかの要因が絡まって、文法論文の減少は文法そのものを研究するという方法から文法を利用した研究への移行という流れとして解釈できる。日本語教育における文法教育、誤用分析、中間言語・第二言語習得を含め、認知言語学、コミュニケーション研究などの分野でも文法は活用されている。これからの文法研究は談話・テキストを考慮した研究へ拡大していくものと思われる。

最後に、本発表では述べることができなかったが、この2年間の日本国内での学術大会の内容をみると、伝統的な文法のテーマである「格/受身/アスペクト」に関する内容が議論される一方で、古代語と現代語の対照研究、性差(ジェンダー)の問題、コンピューターを用いた言語研究、AIと言語理論など、幅広い分野でシンポジウムやパネルセッションが行われた。

日本語教育研究の現状と展望

－「ICT活用・オンライン授業」に焦点を当てて－

金志宣(梨花女子大学)

1. はじめに

本稿は、近年の韓国における日本語教育研究の動向を探究した展望論文である。韓国日本語学会では、学会誌『日本語学研究』第51輯(2017.3)より2年ごとに、六つの分野(音声・音韻、文法、語彙・意味、語用論・社会言語学、日本語史、日本語教育)の研究動向と展望について述べるレビュー論文の企画を続けている。本稿では、2019年から2020年にかけて韓国で発表された日本語教育研究論文を対象に、その現状と展望を述べる。まず、日本・日本語関連学術誌に掲載された日本語教育研究論文を取り上げ、テーマによる分類をもとに2019年から2020年までの動向を概観する。とりわけ、2020年初めから日本語教育を含む教育界で最も注目され、教育方法の選択肢の一つとなりつつある「ICT活用・オンライン授業」に焦点を当てて詳述する。そうすることで、オンライン授業実践の現況を踏まえて認識を見直すきっかけにするとともに、今後より効果的かつ質の高いオンライン授業を模索していけるような下地を提供したい。

2. 分析対象と方法

本稿では、韓国で発行される日本・日本語関連学術誌の掲載論文の中で、2019年から2020年まで掲載された日本語教育研究論文を分析対象とした。学術誌および論文の選定には、韓国研究財団の韓国学術誌引用索引サイトKCI(Korea Citation Index)の学術誌検索¹⁾や学会・研究所のホームページを利用した。総19種の学術誌²⁾に2063本の論文が掲載され、そのうち日本語教育研究論文は321本で全体の15.6%を占めていた。

日本語教育研究論文は、テーマによって10分野に分け、さらに下位分類を行った³⁾。その際、各

1) 韓国学術誌引用索引 (<https://www.kci.go.kr/kciportal/main.kci>)

2) 日本・日本語関連学術誌のリストは以下のとおりである。同名の学会誌の場合、(学会名)を併記した。

『日本学報』、『日語日文学研究』、『日本語教育』、『日語日文学』、『日本語文学』(日本語文学会)、『日本語文学』(韓国日本語文学会)、『日本文化学報』、『日本語教育研究』、『日本文化研究』、『日本語学研究』、『日本近代学研究』、『東北亜文化研究』、『日本言語文化』、『日本研究』(中央大学校日本研究所)、『日本学』、『日本研究』(韓国外国語大学校日本研究所)、『日本学研究』、『日本研究』(高麗大学校グローバル日本研究院)、『比較日本学』

3) 分類に際し、西口(2012)の「日本語教育研究に関するテーマ」と趙南星(2019)の「日本語教育研究分

論文のタイトル、キーワード、要旨をもとに判断したが、不明なものは本編にあたった。複数の分野にまたがるような論文は、内容的に重点が置かれた一つの分野に分類した。10分野と下位分野は、下記の表1のとおりである。

3. 結果と考察

3.1 日本語教育研究の現状（2019年～2020年）

日本語教育研究論文を分野別にみると、4.教授・学習(24.9%)および1.言語要素(20.9%)の割合が高く、両分野を合わせて45.8%と全体の半分近く占めていた。残りの54.2%は、3.社会言語・文化(9.0%)、8.教師・学習者(8.7%)、6.習得・誤用(8.1%)、2.言語技能(7.2%)、7.教科書・教材(5.9%)、10.その他(5.9%)、9.日本語教育一般(5.0%)、5.評価(4.4%)の順に占められていた。

<表1> 日本語教育研究の分野別論文数と割合

分野		論文数(本)	割合(%)
1. 言語要素	1-1. 音声・発音	18	5.6
	1-2. 文字・表記	11	3.4
	1-3. 語彙	11	3.4
	1-4. 文法	17	5.3
	1-5. 談話・文章	10	3.2
	小計	67	20.9
2. 言語技能	2-1. 会話	2	0.6
	2-2. 作文	18	5.6
	2-3. 聴解	2	0.6
	2-4. 読解	1	0.3
	小計	23	7.2
3. 社会言語・文化	3-1. 敬語・待遇表現	4	1.2
	3-2. 文化・日本事情	12	3.7
	3-3. 異文化・多文化	13	4.1
	小計	29	9.0
4. 教授・学習	4-1. 教授法・授業実践	48	14.9
	4-2. ICT活用・オンライン授業	32	10.0
	小計	80	24.9
5. 評価		14	4.4
6. 習得・誤用		26	8.1
7. 教科書・教材		19	5.9
8. 教師・学習者		28	8.7
9. 日本語教育一般（日本語教育(学)の動向・展望・提言）		16	5.0
10. その他（就職・生涯教育・通翻訳・日本語教育史など）		19	5.9
計		321	100

野」を参照した。

日本語教育研究の中で、4.教授・学習に関するものが全体のおよそ4分の1で最も多くなっている。これは2017～2018年の現状を調べた趙南星(2019)と同様の結果であり、ここ数年の日本語教育研究の動向であることが分かる。今回は、4.教授・学習分野をさらに、4-1.教授法・授業実践、4-2.ICT活用・オンライン授業に分けているが、4-1.には主に新たな試みとして教授法や学習活動を取り入れた授業実践の報告・研究が見られ、4-2.にはLMS・SNS・WEB・AIなどのICTを活用した授業や、MOOCをはじめとするE-Learning、Blended Learning、Flipped Learningなど、さまざまな非対面型・対面型(オンライン・オフライン)の教育研究が見られる。こうしたICTを活用したオンライン授業に関する研究は、昨今の社会事情とも相まって今後さらに広がることが予想される。次節では、この4-2.ICT活用・オンライン授業に関するものを詳しく見ていく。

3.2 ICT活用・オンライン授業に関する研究

遠隔教育⁴⁾の一形態である、ICTを活用したオンライン授業は今に始まったわけではなく、すでに1990年代から情報通信技術の発展・普及に伴いインターネットを介した教育手段として採用されていた。インターネットを利用したプラットフォーム(blackboard、Moodleなど)が多くされ、複数の学習管理システム(LMS)が使われるようになったのである。さらに2000年以降、インターネットが現代社会の重要な基盤として定着し、メディア通信技術の向上とパソコンやスマホの普及が進む中で、教育分野もさらなる発展を遂げてきた。教育コンテンツやツールの提供、オンライン教育サイト(Coursera、Udacity、edX)での大規模オープンオンラインコース(MOOC)の開始など、様々な取り組みが行われている(古川 2020)。そして今、多くの教育機関でWeb会議ツール(Zoom、Google Meetなど)を使用したオンライン授業が開講されている。こうしてICTを活用したオンライン授業は時間・空間の制限がない効果的な教育形態として根づき、教育の新たなパラダイムとして確立されつつある。

一方、韓国の場合、2020年以前はサイバー大学や放送通信大学校を除いたほとんどの大学ではオンライン授業の比重が授業全体の1%程度に過ぎず、教育パラダイムの動向に追いついていないのが現状であった(도재우 2020 ; 이동주・Misook Kim 2020)。しかし、コロナ禍という非常時のもと、韓国を含む世界中の教育機関で否応なくオンライン授業が始まり、これまで遅々として進まなかったICTを活用した教育やオンライン授業が急速に浮上している。日本語教育の方も例外ではなく、本調査でも日本語教育研究の中で4.教授・学習の4-2.ICT活用・オンライン授業に関するものが全体の一割を占めていた。このような現状を踏まえ、以下では日本語教育研究のうちICT活用・オンライン授業に関するものを、非同期型・同期型オンライン授業、ブレンディッドラーニングとフリップラーニング、ICTを活用した学習活動・授業、eラーニングの現状や課題・展望、その他に分けて概観する。

4) 保阪(2020)は遠隔教育の発達の過程を、使用される主要なメディアの観点から3つの段階(第一世代の「通信教育」の時代、第二世代の「放送教育」の時代、第三世代の「ICT教育」の時代)に分けている。

3.2.1 非同期型・同期型オンライン授業

オンライン授業は非同期型と同期型オンライン授業に大別される。非同期型オンライン授業は講義動画や課題を配信するオンデマンド型であり、同期型オンライン授業はWeb会議ツールを使って同じ時間に教師と学生がやりとりをするライブ型である。今回は以下のような非同期型オンライン授業に関する論文(5本)があった。

著者・掲載年度・題目	概要
戸田貴子・千仙永・伊藤沙智子(2020)「グローバルMOOCsにおける日本語発音オンライン講座－韓国学習者および教師を対象とした調査から」	グローバルMOOCsにおける日本語発音オンライン講座(Japanese Pronunciation for Communication: JPC)を受講した学習者と教師を対象に、学習者はJPCを通してどう学ぶか、教師はJPCを通してどう教えるかに着目し調査を行った。
八野友香(2019)「韓国サイバー大学におけるICTと学習データの活用－韓国日本人語学習者を対象とした授業運営の事例を中心に」	サイバー大学の教育現場における課題を提起し、ICTを活用した学習環境の改善に注目して学習者が自己の学習を選択管理している環境づくりについて考察した。
강연화(2020)「사이버 강의 효과 및 만족도에 대한 연구」	日本文化芸術コンテンツ科目において事前に制作した動画を用いたサイバー講義(非同期型オンライン授業)を行い、学習者の質問紙調査によってサイバー講義の効果と満足度を調べた。
박효경(2020)「사이버교육 성인학습자의 맞춤형 작문 학습에 관한 연구－H사이버대학교 초급작문수업의 사례를 중심으로」	サイバー大学の初級日本語作文科目にマイクロ・ラーニングを取り入れた授業を行い、コンテンツ構成と講義運営、作文添削、質問紙調査の結果について分析・考察した。
전영희・나유정(2020)「OCU 초급일본어 강좌에 대한 연구－사이버강좌 수강생의 설문분석을 통한 온라인교육 사례분석」	オープンサイバー大学(Open Cyber University: OCU)におけるサイバー日本語講座の学習者を対象に質問紙調査を行い、学習者の動機とニーズに合わせたコンテンツづくりの必要性和方向性について述べた。

同期型あるいは同期・非同期混合型オンライン授業に関する論文は、以下の5本である。

著者・掲載年度・題目	概要
石塚健(2020)「ライブ配信授業のピア・ラーニングにおける学習者の意識－ピア・レスポンスの実践授業を通して」	作文のピアレスポンスをライブ配信授業で実施し、質問紙調査を中心に学習者の意識を調べ、ライブ配信授業によるピアラーニングの授業が協働学習として成立するかについて考察した。
峯崎知子・岩井朝乃(2020)「大学の教養科目における初級日本語の同期型オンライン授業－対面授業との比較を通して探る特徴と課題」	大学の初級日本語の同期型オンライン授業の実践について報告し、教師である筆者らの振り返りをもとに、リアルタイムのオンライン授業の困難点と利点をまとめた。
김영아(2020)「Flipped PBL 기반 교양 ‘일본대중문화이해’ 수업의 사례연구」	大学の教養授業「日本大衆文化の理解」にFlipped PBLを取り入れ、非同期型と同期型オンライン授業を組み合わせを行った事例を紹介した。
백이연(2020)「온라인 수업에 대한 대학생의 인식 조사－교양 일본어 수업을 대상으로」	大学の日本語授業で非同期型と同期型オンライン授業の両方を順次実施し、質問紙調査によって非同期型・同期型・フレンド型に対する長短所や学習効果など学習者の認識を調べた。
최정희(2020)「학습자 만족도 향상을 위한 실시간 원격수업 교육 방안」	大学の日本語会話・作文をリアルタイム遠隔授業で行い、質問紙によって対面授業と遠隔授業の満足度や長短所を調べた。

3.2.2 ブレンディッドラーニングとフリップトラニング

ブレンディッドラーニングとは複数の学びをブレンドして新しい学びを構築するものを指すが、集合と個別、オンラインとオフラインなど授業形態の混合から、テキストや動画などコンテンツの組み合わせまで、ブレンドされる要素はさまざまである。近年、特にオンラインとオフライン(非対面・対面授業)のブレンディッドラーニングが注目されている。また、フリップトラニングはブレンディッドラーニングの一つで、従来の授業形態を反転させたことから反転授業とも言われる。事前学習として講義動画を提供し自宅などで視聴するようにし、授業では活動やフィードバックに時間を充てるという授業形態である。今回は以下のような7本の論文があった。

著者・掲載年度・題目	概要
手塚まゆ子・高橋薫・森朋子(2019)「反転授業における相互作用のある対話の分析－日本語上級クラスの文法科目を対象に」	日本語上級文法科目の反転授業(教室外の事前学習・教室内の対面学習)を行い、学習者の話し合いのプロセスを分析し、話し合いがどう成果に結びつき深まっているのかを調べた。
권영성(2019)「플립러닝을 적용한 일본어 수업의 실천연구」	フリップトラニングを取り入れた日本語授業を行い、その成果と問題点について質問紙調査をもとに分析・考察した。
곽은심・박재환(2020)「플립러닝을 도입한 초급 교양일본어 수업의 실천연구－플립러닝의 학습효과와 교실내 활동에 대한 학습자들의 인식을 중심으로」	フリップトラニングを取り入れた初級日本語授業を行い、その効果について従来の対面授業と比較しながら検証し、学習者の満足度調査によって教室内活動に対する学習者の認識を調べた。
김윤희(2019)「블렌디드러닝의 학습자 니즈에 대한 일고찰－관광일본어 학습자의 설문지조사를 중심으로」	対面授業とサイバークラスのブレンディッドラーニングを取り入れた観光日本語授業を行い、ブレンディッドラーニングに対する学習者の満足度とその理由を調べた。
염미란(2020)「교양일본어의 학습관리시스템(LMS) 활용 방안 연구－학습자의 역량 형성을 중심으로」	日本語教育にブレンディッドラーニングを導入するにあたり、大学連携型LMSの活用現況と学習者の認識調査を通じてLMSを活用する方案について考察した。
윤유찬(2019a)「일본문학 수업에서 플립러닝의 적용」	効果的な日本文学教育のための教育方法として反転授業の適用方策を採用し、ハブ＆スポーク討論と目標基盤シナリオ方式を導入した授業事例を紹介した。
윤유찬(2019b)「플립러닝을 적용한 일본문학 수업의 사전학습-사전학습 자료의 분류를 중심으로」	日本文学教育のフリップトラニングに敵した事前学習用の資料を分類し、そのうちKOCW(Korea Open Course Ware)を事前学習資料として活用した授業事例を紹介した。

3.2.3 ICTを活用した学習活動・授業

ICTを活用した学習活動・授業の実践報告はさまざまであるが、SNSやアプリを使った韓日の遠隔交流に関するもの、WEBやグーグル翻訳を活用した教育に関するなどがある。今回は以下のような10本の論文があった。

著者・掲載年度・題目	概要
青木咲野加(2019)「SNSを用いた遠隔交流授業の有用性」	スマートフォンのアプリケーション(KakaoTalkあるいはLINE)を利用した韓日遠隔交流を実施し、韓国人日本語学習者にとっての遠隔交流の効果と問題点を挙げた。

西花恵子・松下由美子・坂本正(2019)「SNS利用で会話能力が伸びるのか-Can Do Statementsと交流後の意識調査を基にして」	日本人とのSNS交流に参加した韓国語学習者の口頭能力の伸びと満足度について調査した。交流の前後で実施したCan-Do Statementsの差が見られなかったが、満足度の調査では肯定的な評価が得られた。
及川ひろ絵・福島みのり(2019)「SNSを使用した日韓遠隔交流会実践報告-韓国語学習者にもたらされた作用について」	SNSを使用した日韓遠隔交流会の実践報告の中で、SNSツールを使用した言語学習の環境整備に向けた一つのケース・スタディとしての具体例を提示し、その成果と課題について述べた。
강연화(2019)「MOOC 모델을 활용한 일본어 교육」	MOOCモデルを活用した新しい日本語指導法が言語習得に与える影響を明らかにするため、MOOCに対する学習者の認識を調べた。
박강훈(2019a)「생성문법 이론과 인공지능 기반 번역 알고리즘-멀티링구얼 교육 모델에의 적용」 박강훈(2019b)「인공지능 기반 번역 엔진을 활용한 멀티링구얼 문법 교육-한·일·영 삼중 언어를 중심으로」	生成文法理論とニューラル機械翻訳(Neural Machine Translation)アルゴリズムの類似性について論じ、これをもとにニューラル機械翻訳エンジン(特にGoogle Translate)を活用した韓・日・英マルチリンガル教育モデルの構築と文法教育への適用を提案しており、その試みとして「テンスとアスペクト」の文法カテゴリーを中心に論旨を展開している。
李惠正(2020)「モバイルラーニングを活用した言語交流学習の実践-韓国の日本語学習者と日本の韓国語学習者を対象に」	モバイルアプリを用いた日韓交流活動を行い、アンケート調査をもとに自発的な言語学習や文化交流におけるモバイルラーニングの有用性を検証した。
조대하(2020)「디지털 리터러시」를 활용한 일본어 교육 연구」	多くの日本語学習関連デジタルメディア・コンテンツにアクセスでき、学生のデジタルリテラシーも高くなっていると、それを活用した効果的な学習活動を開発するための授業実践を行った。
최정희(2020)「스마트 세대 일본어 학습자를 위한 영상자료 활용 방안」	映像資料(テキストをもとに作ったアニメーション)を活用したストーリーテリング・シミュレーション活動を通し、学習者が自律的に学習内容を構造化し自分のものとして内在化しよう試みた。
한원형・이동욱(2019)「WEB을 활용한 일본어 작문 지도」	日本語学習者が作文するとき、辞書などで得られた情報を自分が表現しようとする表現であるかどうかを自ら判断して使用できるようにする方法としてWEB(Google)を活用する方法を紹介した。

3.2.4 eラーニングの現状や課題・展望、その他

今回は、eラーニングの現状や課題・展望に関する論文と上記のカテゴリーに入らないもの(조치영 2019a,b)を含め、5本の論文があった。

著者・掲載年度・題目	概要
박강훈(2020)「MOOC 플랫폼을 활용한 일본어 교육의 현황과 전망-성인학습자의 日英 멀티링구얼 교육을 중심으로」	MOOCのプラットフォームを活用した日本語教育の現状を踏まえ、著者が開発・運営中の日・英マルチリンガルMOOC講座の授業実践を報告し、MOOCプラットフォームを活用した日本語教育の展望と課題について述べた。
尹楨勛(2020)「ICT融合-複合の日本語教育研究の現状-日本と韓国の研究を中心として」	情報通信技術を融合・複合した日本語教育の現状を把握する目的で、日本と韓国の研究論文を調査・比較した、双方の特徴と課題を述べた。
황영희・박효경(2019)「일본어 스마트러닝 애플리케이션의 현황과 과제」	日本語教育のスマートラーニングにおける日本語能力試験(JLPT)のモバイル・アプリケーションの現状を把握し、今後の設計・開発に要されるデザインと機能について考察した。

조치영(2019a) 「노동인구 감소에 따른
일본어학부에서의 IT융합교과 운영전략
과 학생양성 방향 수립에 관한 고찰」
조치영(2019b) 「일본어학부에서의 『일본
어알고리즘』 IT융합교과 운영을 통한
학부경쟁력 강화 사례 연구」

日本語学部のIT融合教科の運営背景と戦略について概説し、
「日本語アルゴリズム」科目の運営内容と日本語学部内の融
複合の教科目間の連携を示し、その効果について述べた。

4. おわりに

本稿では、2019年から2020年までの韓国における日本語教育研究の現状を概観し、「ICT活用・オンライン授業」に焦点を当てて詳述した。上記の諸論文から共通して読み取れたのは、これまで経験したことのない教育環境のもと、それぞれの教育現場で問題意識を持って計画を立て、実践し、振り返って、改善点を見つけては再び実践に挑むといった姿勢や意気込みであった。残された課題は現場の数だけあると思われるが、長いスパンで地道に解決していく心構えと実践力が求められる。オンライン授業は緊急措置的な教授法(Emergency Remote Teach: ERT)ではなく、今後も教育方法の一選択肢として常態化していく可能性が指摘されている(保阪 2020)なか、オンライン授業デザインに向けた取り組みは試行錯誤を繰り返しながらも進めていかなければならない。授業デザインの際、教育環境や授業目標、学習者のニーズなどを考慮に入れるのは当然のことであるが、オンライン授業の場合は特に情意面のケアが必要とされる。つまり、学習者が学び共同体の一員であるという意識が持てるような配慮、さらには学びの場を共有し繋がっているという学習者同士の連帯感が保ち続けられるような工夫も欠かせない。ハイブリッドが新常态となりつつある今であるからこそ、対面授業と遠隔授業の利点を生かせる(喜連川 2020)ような取り組みが望まれる。本稿が、ダイナミックで不確実な時代を生き抜ける日本語教育・研究のあり方やオンライン授業デザイン・実践方法を模索する上で一助となることを期待したい。

【参考文献】

- 도재우(2020) 「면대면 수업의 온라인 수업 전환과정에서 발생하는 설계 장애물에 대한 탐색」 『교육문화연구』 26(2), 인하대학교 교육연구소, pp.153-173
- 이동주·Misook Kim(2020) 「코로나19 상황에서의 대학 온라인 원격교육 실태와 개선 방안」 『멀티미디어 언어교육』 23(3), 한국멀티미디어언어교육학회, pp.359-377
- 趙南星(2019) 「日本語教育研究の現状と展望」 『日本語学研究』 59、韓国日本語学会、pp.101-125
- 喜連川優(2020) 「NII Interview 『ハイブリッド』が新常态に、対面と遠隔の利点を生かせるオンライン授業の経験をサイバーシンポジウムで共有」 『NIIToday』 88、国立情報学研究所、pp.2-5

- 西口光一(2012)「【特集】学会誌の回顧と展望「教育」分野－日本語教育研究の回顧と展望」『日本語教育』153、日本語教育学会、pp.8-24
- 古川雅子(2020)「オンライン授業の歴史と現状－新たな学びのかたちを拓く」『NII Today』88、国立情報学研究所、pp.16-17
- 保阪敏子(2020)「日本語教育における遠隔教育－オンライン授業のデザイン指針を探る」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』21、日本大学大学院総合社会情報研究科、pp.177-188

語用論・社会言語学研究の現状と展望*

-2019・2020年における韓国国内の研究論文を中心に-

盧姪鉉(徳成女子大学校)

1. はじめに

語用論と社会言語学は20世紀後半から現在に至るまで著しく成長してきた領域である。両者は互いに関連する話題を扱うことが多く、敬語をはじめ、発話行為、ポライトネスなどは、語用論と社会言語学の双方の関心事である。その中で、語用論(pragmatics)は、言葉の意味と話し手の意図を区別し、話し手が伝えたい意図を理解できるのはどうしてか、すなわち、言語表現とそれを用いる者や文脈との関係を研究する言語学の一分野である。例えば「寒くありませんか」という発話は、形式の上ではyes/no疑問文であるが、意図されている内容は寒いから暖房をつけてほしいという依頼としても捉えられる。このような現象が語用論の研究対象となる。語用論は1960年代の哲学者オースティンの発話行為の研究¹⁾から始まり、サールによる適切性条件の議論²⁾や、グライスによる協調の原理の解明³⁾によって一定の到達点に達した。その後、グライスの理論を批判的に継承したウィルソンとスペルベルによる関連性理論⁴⁾が展開されている。

一方、社会言語学(Sociolinguistics)は、社会の中で生きる人間、乃至その集団との関わりにおいて各言語現象あるいは言語運用を捉えようとする言語学の一分野である⁵⁾。研究対象は、言語変種、言語行動、言語接触、言語政策など多岐にわたる。例えば、話し手の生活する地域、性別、年齢、など様々な社会的要因との関わりから言語現象を見ようとするミクロなアプローチと共に、一言語を単位として、それを社会組織との関わりから考える(言語接触・言語政策など)マクロなアプローチもある。特に、ミクロなアプローチは、語用論と社会言語学のインターフェースに

* 本発表は、韓国日本語学会の学術誌『日本語学研究』第67輯(pp.53-68)に掲載された展望論文をまとめたものである。

1) 坂本百大訳(1978)『言語と行為』、大修館書店 [John Langshaw Austin(1962), How to Do Things with Words, Harvard University Press]

2) 坂本百大・土屋俊訳(1986)『言語行為——言語哲学への試論』勁草書房[John Rogers Searle(1969), Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language]

3) 清塚邦彦訳(1998)『論理と会話』勁草書房[Herbert Paul Grice(1989), Studies in the Way of Words, HUP]

4) 内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子訳(2000)『関連性理論—伝達と認知』研究社出版[Deirdre Wilson・Dan Sperber(1986), Relevance, Communication and Cognition, Blackwell]

5) 真田信治・渋谷勝己・陣内正敬・杉戸清樹(1992)『社会言語学』おうふう

当たり、ミクロ社会言語学、相互作用の社会言語学、社会語用論などと呼ばれている。社会言語学は理論的考察の比重が少なく、個々の研究対象ごとに調査を行い、データを分析する研究の比重が大きい。

このような語用論・社会言語学の観点からの研究は、日本語学の世界においても活発に行われている。本研究では、2019年から2020年にかけて韓国国内で発表された研究論文を中心に、日本語学における語用論・社会言語学の研究動向について概観する。

2. 調査の概要

本研究では、2019・2020年における韓国国内の語用論・社会言語学研究の現状を把握するため、まず、韓国研究財団の学術誌引用索引サイト⁶⁾で「日本語と文学」に分類された登載学術誌(18種、2019・2020年発行本)から語用論・社会言語学関連の研究論文を抽出した。韓国研究財団の学術誌引用索引サイトで「日本語と文学」に分類された登載学術誌に掲載された論文数は、2019年に947本、2020年に849本、合わせて1796本であり、そのうち語用論・社会言語学関連の論文は135本(7.5%)を占めていた。

以下では、この語用論・社会言語学関連の研究論文(135本)を中心に、韓国国内の日本語学における語用論・社会言語学の研究動向について概観する。

3. 分析考察 - 語用論・社会言語学研究の現状と展望

2019・2020年における語用論・社会言語学研究は、氏名から判断して韓国人による単独研究が多いと見られる。語用論・社会言語学研究(135本)の中で単独論文は116本(85.9%)に達しており、共同論文は19本(14.1%)に過ぎない。19本の共同論文の中で「韓国人+日本人」が2本、「韓国人+中国人」「韓国人+日本人+中国人」「日本人+日本人」が1本ずつあり、残りの14本は「韓国人+韓国人」であった。また、語用論・社会言語学研究(135本)の中で韓国語と日本語との対照論文は、53本(39.3%)となっている。このような傾向は、2015・2016年の韓国における語用論研究・社会言語学研究の特徴として「韓国語と日本語との対照談話分析」という傾向を示した李吉鎔(2017)の結果、また、2017年・2018年の語用論・社会言語学研究(110本)の中で韓国語と日本語との対照研究が59本(53.6%)を占めていた洪珉杓(2019)の結果と比べると、若干減少したと見ることができる。洪珉杓(2019)にも指摘されているように、だれが、だれに、どこで、どんな状況で、どのような表現を使ったか、という言語運用上の側面に関心を寄せている語用論・社会言語学だけあって、「韓国人

6) <https://www.kci.go.kr/kciportal/po/search/poArtiSear.kci> [最終アクセス日：2020.12.28.]

＋日本人」の組み合わせによる共同研究や韓国語と日本語との対照研究は活性化していくのが望ましい方向であると考えられるが、現状はまだ程遠い。

一方、語用論・社会言語学の分野では、個々の言語・コミュニケーション現象についてデータを分析する研究が多い。2019・2020年における語用論・社会言語学の研究論文(135本)においても、言語データを分析した研究は126本(93.3%)にも達しており、分析資料は多岐にわたっており、録音資料が一番多く、次いでアンケート調査、シナリオ、コーパス、SNS、言語景観の順である。その他には国会議事録などの検索システム、翻訳資料、討論番組、聞き取り調査、言語習得に関するテストなどが分析資料となっている他、教材と自然談話といった複数の資料を分析した研究も見られる。録音資料とアンケート調査が分析資料のほぼ半分を占めていた。2017・2018年の結果(洪珉杓,2019)に比べ、データの多様化が進んでいると見ることができるだろう。

さらに、135本の論文から675個のキーワードを取り出してカウントしてみたところ、出現頻度の高い順から「日本語(31回)」「談話(23回)」「対照、韓日、会話(17回)」「ストラテジー(13回)」「多文化(11回)」「発話、敬語、接触場面」となっていた。キーワードの分布から、「韓日対照研究」「日本語研究」という枠組みから「談話、ストラテジー、発話、敬語」という言語項目と「多文化、接触場面」という言語社会的な特徴が見えてくる。

次節以降では、「対照研究」「日本語研究」という枠組みの中で、各言語現象は社会的要因との関わりからどのように研究されてきたか、その動向について概観する⁷⁾。

3.1. 対照研究

対照研究の主な動向としては、(1)韓日の実態記述中心の対照研究が引き続き蓄積されたこと、(2)データ資料の多様化・良質化が図られたこと、(3)実態記述中心からメカニズムの究明やモデルの提案が試みられたこと、この三点が注目に値する。

3.2. 国語・中間言語・継承語としての日本語研究

日本語研究における「日本語」は、日本を代表し公の性格を担う「国語としての日本語」、日本語学習者が日本語を習得していく過程で構築した「中間言語としての日本語」、日本語が通用しない言語環境で親から受け継いだ「継承語としての日本語」の三つに分けられる。

(1) 国語としての日本語研究

国語としての日本語研究の主な動向としては、語用論と社会言語学分野の共通の関心分野の一つである「敬語表現」を始め、特定の言語表現・形式の機能・用法・実態について考察など、機能・実態記述中心の研究が引き続き蓄積されたこと、データ資料の多様化・良質化が図られたこと、コーパス構築が試みられたこと、この三点が注目に値する。

7) 紙面の関係上、以下の記述においてデータの詳しくは省き、発表の際にPPTで提示することを断っておく。

(2) 中間言語としての日本語研究

中間言語としての日本語研究の主な動向としては、中間言語の実態記述中心の研究が引き続き蓄積されたこと、韓日接触場面における日本人の評価や聞き手の行動意識を視野にいれた研究が試みられたこと、習得から維持、摩滅、喪失、再構成へのプロセス研究が続いていること、この三点が取り上げられる。

(3) 継承語としての日本語研究 [二言語使用・言語接触研究]

継承語としての日本語研究の主な動向としては、継承日本語の使用能力・意識・継承日本語教育に対する実態調査が図られたこと、在韓日本人の二言語使用・意識から言語政策・言語活動・言語接触へと実態調査研究の幅が広げられたこと、この二点が注目に値する。

4. 終わりに

本稿では、2019年から2020年にかけて韓国国内で発表された研究論文を中心に、日本語学における語用論・社会言語学の研究動向について概観した。紙面の都合により、全体的に大まかな紹介に留まっており、所々割愛した論文も少なくないが、この点をご容赦願いたい。

今回の分析結果をまとめると、韓日対照研究、国語・中間言語としての日本語研究は、分析資料の多様化・良質化が図られ、機能や実態記述中心の研究成果が引き続き蓄積された。また、韓日対照研究においてメカニズムの究明やモデルの提案が試みられたこと、国語としての日本語研究においてコーパス構築が試みられたことは注目に値する。なお、継承語としての日本語研究は、継承日本語の使用能力・意識・継承日本語教育に対する実態調査が図られ、在韓日本人の二言語使用・意識から言語政策・言語活動・言語接触へと実態調査研究の幅が広げられたと言える。

要するに、語用論・社会言語学的研究は多くの研究者により、分析資料の多様化・良質化が図られ、研究対象が広げられ、その実態の記述成果が蓄積され、社会との関わりから各言語現象の具体的な姿が明らかになりつつある。だが、生越直樹(2012)や李吉鎔(2017)にも指摘されている相互作用としての言語行動研究、実態記述中心の研究から要因分析中心の研究への移行、実態調査からメカニズム・モデル構築への発展は、2019・2020年においても未だに課題として残されている。今後の研究を期待してやまない。

【引用文献】

李吉鎔(2017)「語用論・社会言語学研究の現状と展望」『日本語学研究』51 韓国日本語学会 pp.41-56
洪珉杓(2019)「語用論・社会言語学研究の現状と展望」『日本語学研究』59 韓国日本語学会 pp.67-82
内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子訳(2000)『関連性理論—伝達と認知』研究社出版 第二版[

- Deirdre Wilson・Dan Sperber(1986)、Relevance. Communication and Cognition、Blackwell]
- 生越直樹(2012) 「言語行動の日韓対照研究-その成果と問題点-」 『韓国語教育論講座 第2巻』 くろしお出版 pp.571~586.
- 清塚邦彦訳(1998) 『論理と会話』 勁草書房[Herbert Paul Grice(1989)、Studies in the Way of Words, HUP]
- 坂本百大訳(1978) 『言語と行為』、大修館書店 [John Langshaw Austin(1962) How to Do Things with Words, Harvard University Press]
- 坂本百大・土屋俊訳(1986) 『言語行為——言語哲学への試論』 勁草書房[John Rogers Searle(1969)、Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language]
- 真田信治・渋谷勝己・陣内正敬・杉戸清樹(1992) 『社会言語学』 おうふう

『全一道人』における服喪関連語彙の翻訳に関する 基礎研究(3)

—対馬方言を手掛かりとした対馬葬喪禮翻訳の一考察—

金子祐樹(東国大)

はじめに

本発表は、雨森芳洲(1668～1755)¹⁾が直接書いたとされる韓語教科書『全一道人』²⁾について、翻訳文化論的アプローチを行う研究の一環である。同書に見られる和訳文(漢字かな混じり文)は基本的に良い訳³⁾であるものの、誤訳が無いわけではない。うち、本報告が着目してきたのは、以下のようなものであった。

3: 「服喪」→「喪服を着/거상. 입고<居喪に服し」(薛包)⁴⁾

4: 「服三年喪」→「三年の喪服をたいせつにし/삼년. 상사를. 극진히. 입고<三年の喪事に極盡に服し」(盧操)⁵⁾

番号が3及び4となっているのは、既発表時の番号を踏襲したためである。これらに見える和訳の誤りは、漢文の訓読や朝鮮時代韓国語訳(以下、単に朝鮮語訳とする)との違いを見るとよくわかる。和訳では「服(…)喪」が単に喪服という衣服についての言及として訳されているのに対し、朝

1) 和暦と朝鮮暦の対応で言うと、寛文08/朝鮮顯宗09～宝暦05/朝鮮英祖31。

2) 明の汪廷訥が著した人物伝型儒教道德教訓書『全一道人勸懲故事』を、カナ表記の諺解文とその和訳文の併記形式で作られた朝鮮語教科書。孝と弟の徳目をテーマとする。安田[1964]と許仁寧[2014]で当時の韓国語に復元されている。。

3) 金子[2016a]、同[2016b]による。前回の発表の再掲になるけれども、以下を参照されたい。①～④は前者、⑤～⑧は後者で提示。

①人物呼称は日本人学習者の馴染みのある形を採った。

②「ひさまつく」のように漢文に無い礼儀や、「生鮮」のように漢文と異なる漢字語であっても、朝鮮理解に有用な情報・語彙は採択された。

③フェETCHョリで叱るような、漢文・諺文にあっても訳されない内容もある。

④諺解文の中には芳洲以外存在を疑わせる質のものも混在する。

⑤『五倫行実図』(以下、『五倫』)に比べて直訳的な傾向が見られる点。

⑥諺解文では『五倫』よりも固有語訳が少ない点。

⑦『五倫』と同様に、理解に資するため語彙の添加や削除の操作が見られる点。

⑧喪禮に対する訳者の理解に疑わしさが見られる点。

4) 『全一道人』巻2では「友愛貴壽」。

5) 『全一道人』巻2では「愛異母弟」。

鮮語訳では「喪に服す」行為として訳している点が大きな違いである。原文となる漢文を訓読みしても「喪ニ服ス」や「三年喪ニ服ス」となるように、あくまでも「喪に服す」行為として訳するのが正しい訳と言える。であるのに、どうしてこの和訳文のような訳が発生してしまったのだろうか。

そこで、本発表では、葬喪禮に関する対馬、後述のように正確には厳原方言に焦点を当てて対馬の葬喪禮事情を検証し、この和訳文の発生背景を考察したい。

対馬の葬喪禮と関連対馬方言

ここでは、『全一道人』に見られる葬喪禮関連の誤訳の背景を検証するため、対馬の葬喪禮について確認する。ただ、記録されている葬喪禮の式次第は全体の流れを把握するためのものとし、そのうえで葬喪禮に関連する対馬方言⁶⁾も見ていく。これにより、具体的に対馬の葬喪禮を把握し、誤訳の原因があるか検証したい。

対馬では武士や僧侶のような支配層と一般民衆とで墓の様式が異なっていたとの指摘がある⁷⁾ので、注意を要する。韓語通詞の教育制度や教科書を作った雨森芳洲は藩儒であるため支配層に属するけれども、養成される通詞たちは町人に属する⁸⁾。したがって、一般民衆の葬喪禮を確認する必要がある。

そこで、対馬の葬喪禮の特徴を簡単に紹介すると、以下のとおり⁹⁾。

6) 本報告で扱った対馬方言は、江戸時代に宗氏の城下町があり、現在も対馬の中心地である厳原地区（現在は対馬市の一部。2004年以前は厳原町）の方言である。「本集収むところの語彙は旧府中たる厳原を中心としたものである。対馬は…その南端と北端とは音調に於て殊に著しい差異があるばかりでなく、言葉も各村多少の差異あるも厳原地域に行われる言葉は大体に於て各村に共通し、幸に応接上聊も不便を感じることではない。/ 明治十三四年の頃までは土着の住民のみで、当時猶お旧藩制代文物の余波を受け、言葉も亦井然たるものであった」（柳田・滝山[1977]、p.ii）との説明から、対馬全体で見れば南北で音調（アクセントか）の違いこそ甚だしく言葉（語彙か）も多少の差があるものの、江戸時代から続いている厳原方言は対馬全体で通用する、いわば対馬の代表的方言として「標準語」的地位にあったことや、明治13年つまり1880年前後まではまだ本土等からの影響を受けることなく対馬方言が維持されていたことが窺える。ただ、滝山が対馬方言の蒐集を始めた明治の中頃（1885～1895頃か）になると「当時旧来の言葉で老年者間にのみ存せられて、壮年者間には将に滅びようとするものの続出する危機」（同、pp.ii-iii）的状況であつたらしい。なお、滝山が聞き書きして収集した対馬方言を見た柳田から「京都江戸に於て用いられし言葉最も多し」（同、p.iii）と指摘され「対馬言葉は中央の言葉に比し語調を異にせるに止り〔ママ〕、実に対馬方言として特挙すべきものの寥々たる」（同）ことが分かったという。つまり厳原方言は京都や江戸の言葉と共通するところが多いので独特の語彙などが少ないとのことであった。ただ、逆に言えば、滝山[1977]に収録された語彙は対馬独特であると判断されたものばかりであり、対馬独特の文化や事情が反映されているものと考えられる。

7) 対馬の自然と文化を守る会[2001]、p.310。

8) 田代[1991]、p.67。

9) 対馬の自然と文化を守る会[2001]、pp.125-126を参考に要点を抜粋。なお、原文の「ムラ」はひとまず「集落」と改めた。

- ①集落で吊って土葬。ただし変死者は火葬。
- ②通夜は身内の者だけで行い、僧を呼んで枕経¹⁰⁾をあげてもらう。
- ③葬喪禮当日、出棺。墓地での焼香後、近親者は後を振り向かずに帰宅し、玄関にて塩と水で自身を清めてから家の中へ。一方、集落の者は棺を埋めてかぶせ石をのせる。
- ④野送りが終わると「しあげ」の儀式をして集落の者も帰宅する。

野送りとは、対馬方言で葬喪禮をいう¹¹⁾。枕経のために僧を呼んだり、葬儀によって臨時収入を得た寺に「あの寺は鯨を取ったぞ」¹²⁾と揶揄するように、対馬の一般民衆の葬喪禮において僧は当然の存在であったらしい。ただ、だからといってこれが純粋な仏式葬禮と判断するのは早い。というのも、「ヤマタテル」という方言で言い表される葬式の慣習が対馬にはあるからである。「ヤマタテル」とは「葬式をするに当り其通路に神社があれば、椿の葉を其社前の堀に挟み不浄を避ける」¹³⁾ことをいう。明示されていないものの、上の式次第と照らし合わせると「其通路」とは棺が出されて墓地まで運ばれる際の通路ではないかと解釈でき、神社に対して黒不浄¹⁴⁾を避けるという神への信仰心という側面も見えるからである。このように、葬喪禮の式次第だけでなく、その場面で使用されていた対馬の人々の方言を対照することで、対馬の一般民衆にとって葬喪禮は神仏習合的な信仰心を以て行われる儀禮であったことが浮かび上がるわけである。

更に、地域によっては庶民の墓が両墓制であったという¹⁵⁾。両墓制とは、死体を埋めるためだけの墓と、実際に参る墓の二つが用意される墓制であり¹⁶⁾、後者は「参り墓」「おがみどころ」のほか「カラムショ」という独特の語彙で呼ばれていた¹⁷⁾。対馬において両墓制が「寛文期（一七世紀後半）より一八世紀末の寛政期ころまで」¹⁸⁾、つまり1661年頃から1801年頃まで行われていたとの指摘から、少なくとも雨森芳洲(1668-1755)の存命だったころはこの墓制¹⁹⁾か、或いは上の式次第のような墓制が慣行であり、したがって、少なくとも葬喪禮においては、『全一道人』を通して学習させようとする儒教的教養と、学習者の持つ葬喪禮観との間にかなりの隔たりがあったのではないかと考えられるのである²⁰⁾。

10) 「死者の枕もととする読経」、『精選版日本国語大辞典』（コトバンク版）。

11) 「ノオクリ 葬式。」、滝山[1977]、p.166。

12) 「クヂラトッタ 寺は檀中の富者が死亡すればその為に不時の収入がある。之を、「あの寺は鯨を取ったぞ」という。」、滝山[1977]、p.93。

13) 滝山[1977]、p.40。

14) 神道において、死は穢れの一つであり、これを黒不浄と呼ぶ。

15) 「青海・木坂・西泊・一重、それに準両墓制の範疇にはいると思われる佐護を含めて、いずれも上県郡に集中している」という。対馬の自然と文化を守る会[2001]、p306。

16) 対馬の自然と文化を守る会[2001]、p310。

17) 対馬の自然と文化を守る会[2001]、pp.125-126。

18) 対馬の自然と文化を守る会[2001]、p306。

19) 後代の大通詞、小田幾五郎(1755-1832)が存命だった頃には、両墓制の崩壊が既に始まっていたらしい。対馬の自然と文化を守る会[2001]、p310。

20) なお、両墓制の慣行が発生した要因について「対馬の場合、大きく（一）村に禁忌の厳しい神（または神山）があつて、黒不浄いわゆる死骸に対する死穢感〔ママ〕が、人々の精神を支配したため、

対馬における喪服の方言

さて、対馬、より正確には厳原方言には喪服を表す語彙もあり、二つの対馬方言辞書に以下のとおり収録されている。

- ・「いろ 喪ある者の服を素褌〔イロ〕といふいろの称は倚廬〔イロ〕〔割注：字彙ニ倚廬ハ喪舎也とあり〕に居〔ヲル〕服といふ事成べし【葬式に服する白衣】」²¹⁾、
- ・「イロ 葬式に用いる白衣。」²²⁾

前者は『日暮芥草』、後者は『対馬南部方言集』のものである。うち、「葬式に服する白衣」の文言が全く同じなのは、滝山[1977]の昭和19年(1944年)の原本刊行後、吉町[1950]の調査が行われた際に「紹介者〔吉町氏〕が翁〔滝川氏〕に質し、又は翁が当初から添へられた説明文」であるため、同一の記述となったのであろう。したがって、ここでは前者に注目することとなる。

上のとおり、対馬方言で喪服のことを「いろ」という。『日暮芥草』の説明には興味深い二つの文言があり、「喪ある者の服を素褌〔イロ〕」と「いろの称は倚廬〔イロ〕〔割注：字彙ニ倚廬ハ喪舎也とあり〕に居〔ヲル〕服」である。そこで、この二つの文言に現れた漢字語を検証してみたい。

まず、「素褌」である。原著には「イロ」とルビが振られているけれども、本来の読み方は「ソヒツ」である。「なめし皮を以て作つた膝蔽。大祥の祭に服する」²³⁾とあり、『詩経』や『儀禮』から出典が挙げられている。大祥とは死亡日から満2年になる日に行われる喪禮の一節次である。出典からも、この漢字語が儒教由来のものであることは明らかであろう。ただ、「ソヒツ」を「いろ」と読むのはあまりに強引であり、この読みに至るには第2の記述が手掛かりとなる。

「倚廬」は、日本語漢字音でもそのまま「いろ」である。「父母の喪中に住む假のいまり。中門外の片隅に差掛けて作る」²⁴⁾との説明が諸橋漢和で付され、いわゆる三禮（『周禮』『儀禮』『禮記』）や左伝、『荀子』『墨子』など多様な出典が挙げられている。『日暮芥草』では割注形式で「倚廬ハ喪舎也とあり」と述べられているものの、「喪舎」という語彙については、『漢和大辞典』・『韓国古典総合データベース』・『中國哲學書電子化計劃』のいずれでも検索されなかつ

葬地を村はずれや海浜等に遠ざけたという内面的要因と、(二)平地の乏しい村においては一度しか利用できない単墓制よりも、古い仏は掘り上げ同じ場所に何回も新仏を埋葬することができる、つまり同一土地の連続利用が可能という、もっぱら実利的な要因」の二つが指摘されている(対馬の自然と文化を守る会[2001]、p.313)。「ヤマタデル」と同じ黒不浄忌避の觀念が両墓制慣行の発生にも通底していると確認でき、方言神仏習合的信仰心を持つ学習者にとって儒教的道德觀念は、容易に理解できるものでなかったかもしれない。

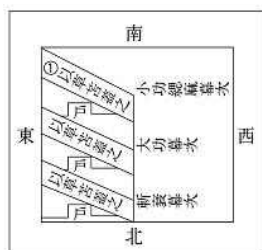
21) 吉町[1950]、p.165。

22) 滝山[1977]、p.129。

23) 諸橋轍次『大漢和辞典』第八卷、p.9121。

24) 諸橋轍次『大漢和辞典』第一卷、p.836。

た。原著者の平山翁が「倚廬」を分かりやすい漢字語で再表現したものであろう²⁵⁾。ちなみに、「倚廬」とは以下のとおりのものであるという²⁶⁾。



そして、平山翁も明記したように「いろ」の由来は「倚廬」であって喪服そのものではない。喪中の人が倚廬にいるときに着る服というのが前提として存在し、ここから転じて実際に倚廬にいるかどうかに関わり無く喪にあるときは倚廬にいるときと同様の服を着ることとなり、更に転じて倚廬の発音「いろ」が喪服を指すようになったと見られる。滝川氏が方言収集を始めた時点では聞き取った会話の中で既に「いろ：葬式に服する白衣」という記号表現と記号内容の関係が成立していたため、ただ上のようにのみ説明したのであろう。

つまり、対馬方言において、「いろ」という発音自体に喪服という意味がもともとあったわけではない。「倚廬」という、喪中に墓守りするための仮暮らしの建物の名称がまずあり、背景は分からないものの、上のような転化を経て「いろ」という発音が喪服それ自体、つまり喪の時に着る白衣を意味する表現になったわけである。

素樸であれ倚廬であれ、儒教由来の語彙であることは間違いないものの、特に発音のみ定着している倚廬がどのような経緯で対馬方言に入り込んだのか、管見では把握できていない。支配階層の知識人や、朝鮮国の使節と韓語で直接話す通詞から対馬の民衆に広がっていった可能性は考えられるものの、憶測に留まる。仮にこの憶測を更に推し広げていくとして、「倚廬」と「いろ」の関係から想像すると、喪にある人が喪服を着て「倚廬」にいることから「イロ即ち喪服」という転化が起こったことで、もしかしたら「喪に服すること」と「喪にあることを表す喪服を着る」ことの区別が曖昧になり、「喪服を着る」と言えば「喪に服する」ことを意味するようになったために、「服喪」を「喪服を着」とし、「服三年喪」を「三年の喪服をたいせつにし」とするような訳が発生したのかもしれない。つまり、我々にとって「喪服を着」「三年の喪服をたいせつにし」が

25) 『デジタル大辞泉』(コトバンク版、小学館)では「天皇が、父母の喪に服する期間にこもる臨時の仮屋」, <https://kotobank.jp/word/%E5%80%9A%E5%BB%AC-436657>

26) 金長生『沙溪全書』24、25a/「家禮輯覽圖説」、「倚廬圖」。ただし、韓国古典総合データベースの清書版を載せた。沙溪は金長生の号。図左の「以草苫蓋之」は草苫つまり草むしろで屋根を作ることということで、戸は北向き。また、図右下から順に「斬衰幕次」「大功幕次」「小功總麻幕次」とあるのは倚廬を建てる順序で、斬衰・齊衰・大功・小功・總麻の順で死者との親族関係が遠くなる。斬衰は死者本人の子などで三年喪に服する関係、齊衰は祖父母を亡くした孫などで一年喪に服する関係、以下、大功は9か月、小功は5か月、總麻は3か月の喪に服する関係である。当然、服喪期間が長いほど親族関係が近い。したがって、最も関係の近い斬衰の者が最北に廬を建て、以下、南下していく。齊衰が明示されていない理由は分からない。

単に喪服を着たり大切にしたりするような意味にしか解釈されなくとも、韓語通詞稽古生をはじめとする対馬の人々にとっては、「喪服を着」たり「三年の喪服をたいせつにし」たりするという表現が実は「喪に服」し「謹んで三年喪に服」すという意味で解釈されていたと考えられはしないだろうか。以上は憶測に憶測を重ねたものに過ぎず、より明確な証拠の出現を期待して調査を続けるばかりである。

終わりに

以上、簡単ながら『全一道人』の誤訳について検証した。受信者である稽古生の葬喪禮認識事情を考慮した結果、『全一道人』の訳が実は彼らにとって必ずしも誤訳とは言い切れない可能性を発見できた点は幸いと言える、しかし、まだまだ憶測を重ねている点も事実であるので、多くの御指摘と御助言を賜りたい。

参考文献

(1)一次資料

安田 章(YASUDA, Akira)[1964]「全一道人釈文」, 同『全一道人の研究』, 京都大学国文学会, 京都, 所収

安田 章(YASUDA, Akira)[1964]「全一道人勸懲故事」, 同『全一道人の研究』, 京都大学国文学会, 京都, 所収

(2)著書

柳田国男編・滝山政太郎著[1977]『対馬南部方言集【全国方言資料集成】』、国書刊行会。※原本は、本書冒頭の「刊行にあたって」に「昭和十九年に中央公論社から刊行された『対馬南部方言集』(全国方言集七)」と明示。昭和19年は1944年※

対馬の自然と文化を守る会[2001]『対馬の自然と文化(復刻版、第1集～第28集)』、昭和堂

(3)論文等

田代和生[1991]「対馬藩の朝鮮語通詞」、『史学』60-4、慶応義塾大学

許 仁寧(HEO, Yin-Yeong)[2014]「全一道人の 한국어 복원과 음운론적 연구」, 碩士学位 論文, 高麗大学 校大学院国語国文学科

吉町義男[1950]「対馬字引『日暮芥草』府中語抄」、『文學研究』40、九州文學會、pp.161-184。

金子 祐樹(KANEKO, Yuki)[2016a]「『全一道人』孝部と『五倫行実図』の諺解文比較と雨 森芳洲の韓語日訳一行実図系教化書との比較による『全一道人』の翻訳論的研究(2)」, 『異文化交流国際学術研究会論文集』2016, 南栄科技大学生活応用学院, 台南

金子 祐樹(KANEKO, Yuki)[2016b]「『全一道人』悌部と『五倫行実図』の翻訳比較—諺解文比較と雨

森芳洲の韓語日訳―』、『第11回日本語教育・日本研究国際シンポジウム発表論文集』
(PDFデータ), 香港日本語教育研究会, 香港

(4) 工具書およびデータベース

諸橋轍次『大漢和辞典』(縮写版第1刷)、大修館書店、1966年

『韓国古典総合データベース』、韓国古典翻訳院, <https://db.itkc.or.kr/>

『コトバンク』、VOYAGE MARKETING, <https://kotobank.jp/>

Donald Sturgeon『中國哲學書電子化計劃』, <https://ctext.org/zh>

平安期記録体における漢字仮名交じり表記

柳原 恵津子（国立国語研究所非常勤研究員）

1, はじめに——仮名の成立と種類について——

○吉田金彦他（2001）「仮名」の項目（72頁～） 執筆担当：築島裕

（1）万葉仮名は、古く五世紀から例があり、八世紀奈良時代には盛に使用されたが、「平仮名」「片仮名」は、九世紀の初頭から初めて現れる。「平仮名」は「万葉仮名」の字画全体を極端に草書化して作られた文字であり、「片仮名」は「万葉仮名」の字画の一部分を省略して作られた文字である。

（2）訓点の世界では、その創始である九世紀の頃には、この「草書化」と「省画化」との両者が並行して進み、当時の訓点資料では、万葉仮名（行書体・草書体を用いたことが多い）・平仮名・片仮名の三者が未分化の状態で見られる。そして、同一の音を表すのに、多く二種以上の字体が併用されたが、十世紀に入ると、万葉仮名は次第に少なくなって、平仮名・片仮名が中心となり、同一の音を表す異体字の種類も減少する。更に十一世紀に入ると、平仮名も姿を没して、片仮名中心となるが、それでも未だ異体字が相当多く使用される。十二世紀になると、片仮名の異体字は少なくなり、一音一字となる。

（3）平仮名文の起源は、万葉集の内、奈良時代末の一字一音で書かれた歌、仏足石歌など乃和歌や、万葉仮名の散文（正倉院文書）などが挙げられ、平安時代初期急性紀後半に及んで、『有年申文』や多賀城発掘漆紙文書などのような草仮名文の形に発達したが、これらの中には漢字や漢文を交えたものも少なくなかった。

→ i 9世紀初頭に平仮名片仮名の字体が確認出来る。

ii 片仮名は訓点資料の中で起こるが、12世紀に一音一字となるまでは、万葉仮名・平仮名と混在する状況があった。

iii 平仮名は、万葉集や仮名文書での万葉仮名を用いた一字一音表記から起こる。漢字・漢文を交えた表記の資料の中に見られるものも少なくない。

2, 平仮名、片仮名、真仮名という体系をめぐる問題

2.1, 先行の論から

○先掲吉田他（2001）「片仮名交り文」の項目（75頁～）執筆担当：土井光祐

・真仮名の中に平仮名・片仮名の混在している例

①現神と大八洲国所知須倭根子天皇大命良万と勅布親王諸王諸臣百官人等天下公民衆聞食と宣、比年国家裳弊衰多波礼、公費在弊幾政波行給波志と所念行とも（陽明文庫蔵後二条師通記寛治七年（一〇九三）二月廿二日條所載宣命）→宣命の例 助詞助動詞・語尾が小字

②諸大明神ヨリ始奉天一切神分は般若心經貴賤の塵等仏果証得せしめ奉り（石山寺蔵薬師念誦次第平安後期写本）→漢字仮名交じり文の例

2.2, 古記録という資料について

○古記録

…古記録（おおむね17世紀以前に、男性貴族によって書かれた漢文日記）を書くための和化漢文体（変体漢文体）。

→語法・語彙・措辞（語順）などが（日本語話者にとって）簡易化・日本語化。仮名交じりも含む。

例）『後二条師通記』永保3（1083）年正月一日條

③一日、天晴、殿下拜畢後、公卿率内殿上参、

（一日、天晴る。殿下の拜畢はりて後、公卿を率いて内の殿上へ参る。）

→「率公卿」、「参内殿上」とあるべきだが、語順が日本語化。

2, 3, 古記録における仮名使用に関するこれまでの言及

○築島（1968）950頁

・変体漢文に仮名が混用される場合

（一）普通の散文の中の概念語で、その和語の意味が、漢字では的確に表はし得ないもの。

（二）和歌を書表はす場合。

（三）儀式等の際の會話の用語。

（四）加點された漢文の形態を模した場合。

（五）漢字・漢文などに対する訓釈。

→古記録に使用された仮名表記には、いくつかの由来がある。ここにも、真仮名（万葉仮名）・平仮名・片仮名が混在する理由はあるのではないか。

例) (二) →平仮名が選ばれる背景大。

(四) →片仮名が選ばれる背景大。

(三) →宣命体的に真仮名であることも、漢字片仮名交じり文的に片仮名であることも、和文的に平仮名であることもある得る。

(一) (五) →訓点資料的に片仮名であることも、古辞書的に真仮名であることもあり得る。

○峰岸 (1986) 111頁

ところで、ここに、博士家点の古点本には平仮名字体の用いられることが多いという事実が想起される。これについて、一般には、平仮名に対する仏家・俗家の接触の度の相異、又漢籍訓読における師資相承の学問方法などの点から説明されている。それはそれとして、古記録などにおける平仮名・片仮名共用の事態は、この事実と全く無縁であるとは言い難いように思う。

→古記録における仮名交じり表記に平仮名・片仮名が混在することを指摘。これには矢田 (2012) も「傾聴すべき意見である」(246頁) とする。

3, 古記録における仮名使用の実態

3.1, 各資料における実態

○藤原道長『御堂関白記』

④a朝早左衛門督許かくいひやる、わかなつむかすがのはらにゆきふればこゝろづかひをけふさへぞやる、かへり、みをつみておぼつ口なきはゆきやまぬかすがのはらのわ (か脱力) なゝりけり、

從花山院賜仰、以女方 われすらにおもひこそやれかすかのゝ雪の (二字抹消、をちのゆ) きまをいかてわくらん、

御返、みかさ山雪やつむらんとおもふまにそらにこゝろのか (よ脱) ひけるかな、 (寛弘元年 (1004) 2月6日條 (濁点、下線 (和歌) は柳原追加))

b 巳時許爲義朝臣申、中宮火付と申、(長和元年 (1012) 2月2日條)

⑤a御乳侍兩事、波々奉仕、(寛弘6年 (1009) 11月25日條) →「波々」：母

b犬宮御五十、申時餅末いる、(寛弘7年 (1010) 正月15日條)

⑥a右府御車下末天被參、(寛弘6年8月17日) →「末天」：まで (副助詞)

b 院も渡給め、(寛仁2年4月22日條)

→・本資料は平仮名・真仮名混在

- ・和歌・会話引用前後が合わせて平仮名表記となる→線引きの難しさ、混淆の一因。(④)
- ・仮名表記できなかつたと思われる語には、真仮名も仮名も用いられる(⑤)。
- ・「まで(末天)」「しを(之遠)」などの助詞助動詞が真仮名表記されることもあるが、特に後期は少ない(⑥)。

○水左記

⑦歌云、

邂逅仁思モ出ル時在ハ常着狎シ物ト見トテ、

返歌、

キナレタル心習ハ邂逅モ思忘ル隙ヤ在ヘキ、(承保3年(1076)9月12日條)

⑧a頭殿示下官曰、再申慶如何、只一度ニ被下宣旨定ニテ可在歟、予申云、若是頭中将遅仰歟、御慶一度ニテ可候也者、(永保2年(1082)10月27日)

b 主上仰云、早久、(承暦4年(1080)1月6日)

→・ほとんどが片仮名表記であり、『御堂関白記』では平仮名表記された和歌も漢字片仮名表記される。同様の傾向は鎌倉期の近衛基平『深心院関白記』(1255~1268年)にも見られる。

・助詞助動詞の表記をする際の大字と小字は、一文で混在し得る(『御堂関白記』にも同様の傾向あり、⑧)。

・⑧bの真仮名表記(久：く、形容詞「はやし」の活用語尾)は、儀式中の会話。先人の記録や儀式書などの引用といった影響があるか。

3.2.漢字平仮名交じり文から漢字片仮名交じり文へという風潮

○柳原(2021)

藤原忠実『殿暦』(1098~1118)の古写本(陽明文庫蔵、文永4年(1267)書写)において、より原本の形態をとどめたと思われる近衛基平書写の本文と、それ以外の人物による書写の本文とでは、前者の方が平仮名を志向することを指摘。

○先掲吉田他(2001)「片仮名交り文」の項目(75頁~)執筆担当：土井光祐

「十一世紀において、真仮名宣命体から平仮名宣命体、片仮名宣命体に移行していく様相を呈するものである」と、宣命体に用いられる仮名体系の変遷が十一世紀にあったことを指摘。

○築島(1981)

『法華修法一百座聞書抄』の12世紀写本、『三法絵詞』の13世紀写本などにおいて、漢字平仮名

書きから漢字片仮名書きへ改変された形跡が認められることを確認、それは貴族社会で作られたものが寺院へ移入するさいに起こったと仮説する。また、僧侶が記した片仮名書きの和歌が少なからず残されていることも指摘。

→古記録における仮名の使用にも、土井・築島が指摘するのと同様の史の変遷が認められることを考慮すべきであると同時に、『水左記』⑧bの例や柳原（2021）が確認した12世紀古記録における平仮名の混用のような、古態の残存の例もあることに注意するべきだろう。

4、まとめと今後の課題

（1）平安期古記録における平仮名・片仮名・真仮名混用の背景には、峰岸・矢田が指摘したような漢籍訓読にも通じる古記録という資料のもつ平仮名への志向があり得る。

（2）それと同時に、古記録に仮名が混入する由来に宣命書きの踏襲、和歌や会話の正確な記録、漢字表記が不可能な部分の仮名表記、漢字表記語へのルビや訓釈といった雑多なものがあつたことに平仮名・片仮名・真仮名混用の一因があるだろう。

（3）平安期古記録のうち自筆本が残る『御堂関白記』『水左記』、鎌倉期の『深心院関白記』といった古記録を見ると、（2）に挙げる由来ごとの書き分けのようなものがあつた状態から、それらが混ざる過程がみえる。

（4）『深心院関白記』の片仮名志向や、『御堂関白記』『殿暦』に見られる書写の過程での平仮名から片仮名への書き換えの傾向からは、いわゆる『今昔物語集』『平家物語』的な平仮名片仮名交じり文化の動きが見て取れるが、一方で、中世以降も記録や文書の中に平仮名、真仮名は残り続け、片仮名を志向しがちな漢文脈の他の資料群とは異なる一面がある。

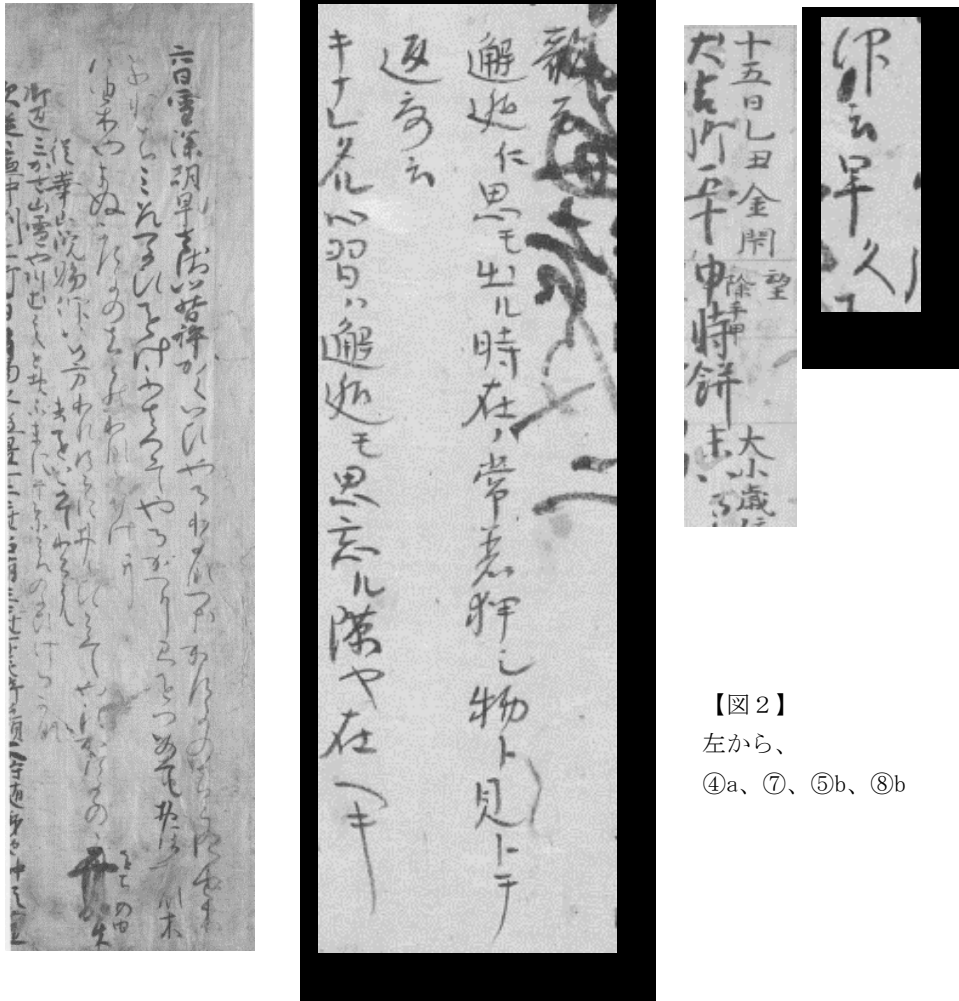
これらから言えることは、9世紀初頭に平仮名・片仮名が成立し、仏典系の訓点資料における真仮名・平仮名の排除などによって平仮名・片仮名・真仮名が別体系として確立した以降も、記録体という資料の中では依然混在した状況があつたということである。それは、古記録という資料が先人の書いた記録や儀式書を参照しながらその日の政務・儀式を行い、自らも記録してゆくという性格の資料であることによるだろう。

「漢字書きの文体である」ことと、「あくまで日本語を記した文体である」こととがどのように古記録の中で混在したのかを検討してゆくことで、日本語における諸文体の性格や通史がさらに明らかになると思われる。

〈参考文献〉

築島裕（1968）『平安時代漢文訓読語につきての研究』（東京大学出版会）

- 築島裕 (1981) 『日本語の世界 5 仮名』 (中央公論社)
- 峰岸明 (1986) 『変体漢文』 (国語学叢書11, 東京堂出版)
- 矢田勉 (2012) 『国語文字・表記史の研究』 (汲古書院)
- 柳原恵津子 (2021) 「藤原忠実『殿暦』古写本の資料性について—漢字仮名交じり表記部分に着目して—」 (学会発表、第一二四回訓点語学会研究発表会 (2021年5月23日オンライン開催))
- 吉田金彦・築島裕・石塚晴通・月本雅幸編 (2001) 『訓点語辞典』 (東京堂出版)



【図2】

左から、

④a、⑦、⑤b、⑧b

上古音에서 中古音에 걸친 聲母의 變化

-舌齒音を 중심으로-

陳宇昕(東國大 大學院)/ 李京哲(東國大)

1. 緒論

오래된 漢字의 발음에 관한 연구는 크게 中古音과 上古音으로 나눌 수 있다. 많은 학자들의 연구를 통해서 上古音에 관한 다양한 학설이 나와 있다. 학자들이 上古聲母에 대해서 고찰하는 방법이나 자료에 따라서 그 결론이 달라지며 李方桂(1902-1987)는 聲符를, 俞敏(1916-1955)는 산스크리트어 대역자료를, 鄭張尚芳(1933-2018)는 姊妹語에서 반영한 同系語를 중심으로 고찰했다.

한편 李京哲·吳采炫(2017)에서는 이러한 中古韻書에서 기재한 多音字를 통해서 上古의 聲母體系에 대해서 고찰했으며 이처럼 多音字를 중심으로 고찰할 때 하나의 漢字는 원래 하나의 발음만 있었다고 보고 있다. 『廣韻』을 비롯한 中古 각 韻書에서 다양한 多音字가 생겼으며 그 이유는 오래 전부터 중국에서 다양한 언어집단이 존재했으며 서로 영향력을 주고받아서 생기는 것을 의미한다.

上古音を 고찰할 때 방언은 살아 있는 화석으로 볼 수 있다. 그 이유는 각 방언에서 그 방언의 언어집단의 특징을 담아 있기 때문이다. 예를 들어 吳方言에서는 有聲·無聲과 有氣·無氣의 구별이 존재하며 粵方言에서는 -p -t -k 入聲韻尾가 구비하여 閩方言에서는 上古音과 같이 舌上音이 모두 舌頭音으로 발음한 특징을 가지고 있다.

본고에서는 多音字를 중심으로 기존의 학자들의 학설 그리고 方言의 특징과 결합하여 舌音系과 齒音系를 중심으로 上古에서 中古에 걸친 變化를 고찰하고자 한다.

多音字의 범위는 新常用漢字 2,136字를 漢典(www.zdic.com)을 통해서 『廣韻』의 多音字를 추출하여 이 多音字 중에서 舌齒音系과 다른 音系를 포함하는 字音を 가진 漢字를 대상으로 진행하며 方言은 〈古音小鏡〉(www.kaom.net)에서 정리된 발음을 기준으로 조사한다.

2. 本論

(多音字표 모두 생략)

1. 舌音系 내부의 多音字 交替를 통해서 아래와 같이 네 가지 특징이 보인다.

가. 有聲音과 無聲音의 交替現象이 존재한다.

- 나.有氣音과 無氣音의 交替現象이 존재한다.
 다.有聲音과 有氣音의 交替現象이 존재한다.
 라.舌頭音과 舌上音의 交替現象이 존재한다.

[가·나]를 통해서 OC에서는 크게 有聲音과 無聲音으로 구별하는 언어집단(이를 A語로 칭한다)과 有氣音과 無氣音으로 구별하는 언어집단(이를 B語로 칭한다)이 공존했으며 서로 영향을 주고받아서 AC의 有聲·無聲·有氣·無氣를 모두 구별하는 언어집단(이를 AB語로 칭한다)이 생긴 가능성이 존재한다. [다]를 통해서 唐代 長安音を 사용하던 言衆들이 이미 OC에서 커다란 언어집단을 형성하고 있었으며, 그 언어집단의 언어체계가 8-9세기에 再現되었다고 볼 수 있는 것이다.

이어서 [라]를 통해서 OC에서 舌頭音과 舌上音의 구별이 존재하지 않는 것을 알 수 있으며 일반적인 학설과 같이 舌上音이 OC에서 모두 舌頭音과 같이 발음한 것을 보인다.

이상을 결합하여 도시화하면 아래와 같이 상정할 수 있다.

<舌音 내의 變遷>

EOC		MOC	切韻音	
A語	B語	C語		
t	t	t	t	端
			t̚	知
d	t ^h	t ^h	t ^h	透
			t̚ ^h	徹
		d	d	定
			d̚	澄
n	n	n	n	泥
			n̥z	日

학자들은 AC의 舌上音에 관한 再構音은 크게 捲舌破裂音 t- t^h- d과 齒莖口蓋破裂音 t̚- t̚^h- d̚- 로 나눌 수 있다. 본고에서는 이를 後齒莖破裂音 t̚- t̚^h- d̚-로 본다.

李方桂(2017:7-26)에서는 OC에서 舌頭音を T-형으로, 舌上音を Tr-형으로 보며 r이 있는 지 없는 지에 따라 구별한 것으로 보며 AC에서 複數子音型 구조의 붕괴에 따라 r은 語頭子音 T를 捲舌化하는 특징을 가지기 때문에 AC의 舌上音은 모두 捲舌音으로 보고 있다. 본고에서는 李方桂의 학설을 동의하지만 아래와 같이 여섯 가지 이유로 舌上音은 捲舌音이 아닌 後齒莖破裂音으로 주장한다.

- 가. Wai-Sum Lee, Eric Zee(2003:109-112)에서 현대 북경 젊은이가 구사하는 전형적인 표준어 발음에 관해서 분석했다. 그 결과 중에서 흔히 말하는 捲舌音인 ts- ts^h- s- 대신, 舌尖性後齒莖音 tʃ- tʃ^h- ʃ-로 수정했다.
 나. 林燾(2001:206)에서 많은 중국인들이 표준어의 捲舌音を 정확히 발음할 수 없다는 점을 강조한 바가 있다.
 다. <古音小鏡>을 통해서 知母字가 2,009개 현대 중국 방언에서의 반영형상에 대해서

조사한 결과에 의하면 捲舌音으로 반영한 방언은 417개로, 20.76%에 불과하다. (상세한 방언조사 결과물 생략)

- 라. 竺家寧(1992:317)에서는 方言에서 捲舌音은 보편적인 음이 아닌 北京 濟南에서만 존재하며 西南 長沙에서 일부만 반영한 것으로 지적한 바가 있다.
- 마. 重紐를 반영한 韓國漢字音과 日本吳音에서 知母3等字가 모두 j介音형으로 반영된다.
- 바. 潘悟雲(2000:43)에서 知母系의 反切下字에서 3等甲類字와 乙類字 모두 존재한 것을 지적했다.

[가·나]를 통해서 대다수 현대 중국인들이 捲舌音을 정확히 못하는 것을 알 수 있으며 [다·라]를 통해서 대다수 방언에서도 捲舌音이 없는 형태로 반영하기 때문에 捲舌音은 중국어 言衆들의 고유적인 발음이 아닌 외부 언어집단과 언어접촉으로 인해서 생기는 발음인 가능성이 높다고 볼 수 있다. [마]를 통해서 알 수 있듯이 만약 切韻音에서 舌上音은 捲舌音이었으면 韓國漢字音과 日本吳音에서는 甲類가 아닌 乙類로 반영해야 한다. 그 이유는 捲舌音뒤에 j介音이 후접하기 어려운 특징이 있기 때문이다. [바]를 통해서 AC에서는 捲舌音이 가능한 언어집단과 捲舌音이 못하는 언어 집단이 존재한 형상이 보인다. 그 이유는 捲舌音이 가능한 언어집단에서 捲舌音뒤에 j介音이 후접하기 어려워서 乙類과 유사한 형태로 반영하며 捲舌音이 아닌 언어집단이 존재하기 때문에 甲類인 反切下字도 존재한다. 따라서 捲舌音이 못하는 언어 집단에서는 後齒莖音으로 대체해서 발음한 것으로 추측한다.

施向東(2020:58)에 의하여 西晉時代의 산스크리트어 대역자료에서 舌上音을 산스크리트어의 捲舌音과 대역하기 시작했으며 劉廣和(2002:3)에 의하여 後漢三國時代의 대역자료에서는 舌上音 등이 아직 산스크리트어의 Cr-형과 대역한 경우가 존재한다. 따라서 舌上音이 舌頭音에서 분립한 시대는 後三國時代에서 西晉사이에 있다고 본다.

이상을 결합해서 도시화하면 아래와 같이 상정할 수 있다.

<舌上音의 변천>

EOC		MOC	LOC		EAC		LAC
A語 ?~?	B語 ?~?	C語 (?~漢·三國)	D語 (西晉)		南北朝		切韻音
tr	tr	tr	t	t̚	t	t̚	t̚
dr	thr	thr	t ^h	t̚ ^h	t ^h	t̚ ^h	t̚ ^h
		dr	d	d̚	d	d̚	d̚

2. 舌音과 破擦音系 齒音의 多音字 交替를 통해서 아래와 같이 두 가지 특징이 보인다.

가. 舌頭音과 正齒音의 交替, 舌上音과 正齒音의 交替가 존재한다.

나. 舌頭音과 齒上音, 舌頭音과 齒頭音, 舌上音과 齒上音, 舌上音과 齒頭音의 交替는 존재하지 않는다.

[가·나]를 통해서 OC에서는 舌頭音과 齒頭音이 별개로 존재했으며 正齒音은 舌頭音과 舌上音에서 분립한 것을 알 수 있다. 李方桂(2017:14-16)에 의하여 舌上音3等は Trj-형에서 유래한 것이며

正齒音 3等は Tj-형에서 유래한 것으로 보고 있다. 하지만 多音字를 통해서 알 수 있 듯이 正齒音에서는 Tj-형뿐만 아니라 Trj-형에서 유래한 경우도 존재하며 王力(2015:74-75)에서도 諧聲關係를 통해서 보면 知母와 照母 그리고 徹母와 穿母의 밀접한 관계를 이루어지인 것을 지적했다. 이러한 변화는 知母를 대표하여 trj- >tj- >tej-로 상정할 수 있다. 먼저 trj- >tj-는 앞서 설명한 바와 같이 捲舌音이 못하는 AB語에서 tr-형 구조가 捲舌音대신 後齒莖音으로 대체한다. 그 이후에 tj-형의 j介音으로 인해서 口蓋音化가 일어나서 照母 tej-형으로 변화하는 것이다.

施向東(2020:58-59)에서는 산스크리트어의 대역자료를 통해서 西晉부터 知母字가 捲舌音과 대응하기 시작했으며 그 당시 照組字가 이미 舌音에서 분립되었지만 t와 대응한 형상이 아직 남아 있다는 것을 밝혔다. 西晉時代의 照組字가 분립되었다는 이유는 舌上音과 같이 Tr-형구조가 이미 붕괴되었기 때문이다. 하지만 일부 照組字가 t와 대응하는 이유는 口蓋音化가 아직 일어나지 않는 것을 의미한다. 따라서 이러한 tj-> tej-로 변화하는 시기는 西晉에서 일어난 변화로 볼 수 있다.

이상을 결합해서 도시화하면 아래와 같이 상정할 수 있다.

<舌上音3等과 正齒音3等の 分 化>

EOC		MOC	LOC		EAC	LAC	
A語	B語	AB語 (?~漢·三國)	西 晉		南北朝	切韻音	
trj	trj	trj	tj	tj	tj	tj	知3
tj	tj	tj	tj	tej	tej	tej	照3
	thrj	thrj	thj	thj	thj	thj	徹3
	thj	thj	thj	te ^h j	te ^h j	te ^h j	穿3
drj		drj	dj	dj	dj	dj	澄3
dj		dj	dj	dzj	dzj	dzj	禪3

3. 齒音系 내부의 多音字 交替를 통해서 아래와 같이 가지 특징이 보인다.

가. 齒頭音내부의 交替, 齒上音내부의 交替, 齒頭音과 齒上音의 交替가 존재한다.

나. 正齒音과 齒頭音의 交替 正齒音과 齒上音의 交替가 존재하지 않는다.

[니]를 통해서 正齒音은 齒頭音과 齒上音에서 유래한 경우가 없는 것을 의미하는 것이며 앞서 설명한 바와 같이 正齒音은 舌頭音과 舌上音에서 분립한 것이다. [기]를 통해서 齒上音은 齒頭音에서 유래한 것을 알 수 있으며 이는 일반적인 학설과 같다.

(正齒音의 분립은 舌上音의 분립과 같이 Tsr-형에서 이중자음구조가 붕괴함에 따라 분립한 것이라 생각한다.)

이상을 결합해서 도시화하면 아래와 같이 상정할 수 있다.

<正齒音의 분립>

	AB語	C語	切韻音
精	ts	ts	ts
莊	tsr	tʂ	tʃ
清	ts ^h	ts ^h	ts ^h
從	dz	dz	dz
初	ts ^h r	tʂ ^h	tʃ ^h
牀	dzr	dʒ	dʒ

4. 破裂音系 舌音과 破擦音系 齒音과 摩擦音系 齒音의 交替를 통해서 아래와 같이 가지 특징이 보인다.

가. 舌頭音과 摩擦音系 正齒音의 交替, 破擦音系 正齒音과 摩擦音系 正齒音의 交替가 존재한다.

나. 破擦音系 齒頭音과 摩擦音系 齒頭音의 交替, 摩擦音系 齒頭音과 摩擦音系 齒上音의 交替 破擦音系 齒上音과 摩擦音系의 齒上音의 交替가 존재한다.

[가·나]를 통해서 OC에서 破擦音系 齒音과 摩擦音系 齒音의 구별이 없는 언어집단이 존재한 것을 알 수 있다. 張均如(1991:23)에서는 원시 크라다이어족에서, 鄭張尚芳(2018:99)에서는 고대 티베트 어에서도 摩擦音系 齒音만 존재했으며 破擦音系 齒音은 나중에 생기는 것으로 보고 있다. 한편 鄭張尚芳은 티베트어의 s-형과 漢語의 精 莊 清 初母字와 대량히 대응관계를 이루어진 것을 밝혔다. 따라서 같은 어족에 속한 上古漢語도 EOC에서 같은 특징을 가지고 있는 언어집단이 존재한 것을 알 수 있으며 다음자의 交替에서는 正齒音과 齒上音도 존재하기 때문에 이러한 특징을 가진 언어집단은 적어도 卽代까지 존재한 것으로 볼 수 있다.

破裂音系 舌音과 破擦音系 齒音과 摩擦音系 齒音의 변천

EOC		MOC	LOC				EAC	
A語	B語	C語	後漢		西晉		南北朝	
			北	南	北	南	北朝	南朝
tj	tj	tj	tj		tej	ej	tej	tej
trj	trj	trj	trj				te ^h j	te ^h j
thj	dj	thj	thj		te ^h j		te ^h j	te ^h j
		dj	dj		dzj	zj	dzj	zj
thrj	drj	t ^h rj	t ^h rj		te ^h j	ej	te ^h j	te ^h j
		drj	drj		dzj	zj	dzj	zj
srj	srj	srj	tsrj	srj	tʃi	ʃi	tʃi	tʃi
			srj		ʃi		ʃi	ʃi
		zrj	dzrj	zrj	dʒi	ʒi	dʒi	ʒi
			zrj		ʒi		ʒi	

단어 단위 병렬코퍼스를 통해 본 『고등소학독본』과 『국민소학독본』의 어휘 대응에 관한 일고찰

장원재(계명대학교)

1. 들어가며

- ▶ 『국민소학독본』(1895, 이하 국민)의 어휘에는 단원을 달리하여 「亜米利加」, 「阿米利加」, 「米国」, 「美」 등의 국명 표기의 혼용이 있기도 하고, 당시의 한국어에는 그다지 사용하지 않는 새로운 어휘들도 다수 출현함.
- ▶ 『국민』의 이들 현상을 19세기 말 국명에 대한 혼용 표기는 과도기적 과정으로 교과서를 포함하여 표기의 혼용이 일반적이라거나, 개화기 교과서의 신지식과 문물의 신어 출현에 대해 교과서로서의 의의만으로 처리하기는 『국민』 어휘의 일면만을 파악하는 것임.
- ▶ 『국민』의 어휘를 보다 선명하게 다면적으로 파악하기 위해서는 저본인 『고등소학독본』(1888, 이하 고등)과의 병렬코퍼스가 필요함.
- ▶ 필자는 실제로 문장 단위 병렬코퍼스를 구축하여 그 유효성을 밝힌 바가 있음(장원재2019, 2021). 단 어휘를 일괄적으로 추출하고 계량적 분석을 위해서는 문장 단위가 아닌 단어 단위 병렬코퍼스가 필요

2. 단어 단위 병렬코퍼스 구축

1) 문장 단위 병렬코퍼스 구축. 아래는 11단원 낙타의 예임(구축에 관한 자세한 사항은 장원재2019, 2021를 참조).

031911_0001#<j>:人の使役する獸類中にて、駱駝の如く奇異なる者はあらざるべし。#<k>:冬영이 부리뎨 畜類中에 駱駝갓치 異常히 거시 업스니

031911_0002#<j>:馬と牛とは、世界到る處に、是を使用すれども、駱駝は、熱帶地方の沙漠に於てのみ、使用するものなり。#<k>:馬와 牛뎨 世界中 各處에서 使用호又 駱駝뎨 沙漠에만 부리뎨

031911_0003#<j>:故に是をば沙漠の船と云ふ。#<k>:故로 沙漠의 比라 히 駱駝라

031911_0004#<j>:駱駝は、其体格、醜くくして、馬の如く美麗ならず。#<k>:駱駝뎨 그 貌樣이 馬처럼 美麗치 못호고

031911_0005#<j>:背に一個、若しくは、二個の肉塊あり。#<k>:背에 肉塊 히 駱 或 둘이 잇스며

031911_0006#<j>:全体は、薄き茶褐色の毛を蓋ひ、脚、長くして、膝には、硬き皮あり。#<k>:그

털은 茶褐色이오 그 다리^뺨 길고 그 膝에^뺨 硬皮가 잇^뺨

2) 한일 대응 문장을 각각 형태소 단위로 띄어쓰기. 일본어는 형태소분석기 Web차마메 이용, 한국어는 근대어 전용 형태소분석기가 없으므로 문자 단위의 한자 정보(코드)를 이용하여 띄어쓰기.

3) giza++를 이용하여 단어 대 단어 대응 결과물 출력. 출력 파일에 일본어 형태소 정보 및 해당 문장, 출처 정보 부가.

*일본어와 한국어의 띄어쓰기 기준이 달라 giza++의 대응 정확도가 많이 떨어짐. 한국어의 띄어쓰기를 일본어의 기준과 같이 비교적 정밀하게 실행할 경우, giza++의 정확도를 향상시킬 수 있다고 예측함.

4) giza++의 단어 대응의 정확도가 낮음에 따라 오류 전부를 수작업으로 진행. 그 결과가 그림1임.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1911	駱駝	ラクダ	駱駝	名詞-普通名詞-一般	漢	→	駱駝	駱駝	nn	k	<head>		031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1912	人	ヒト	人	名詞-普通名詞-一般	和	→	스름	사람					031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1913	使役	シエキ	使役	名詞-普通名詞-サ変可能	漢	→	무리	무리다					031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1914	する	スル	為る	動詞-非自立可能	和	→	<o>						031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1915	獸	ケモノ	獸	名詞-普通名詞-一般	和	→					<@>		031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1916	類	ルイ	類	接尾辭-名詞的-一般	漢	→	畜類	畜類	nn	k	<@>		031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1917	中	チュウ	中	接尾辭-名詞的-副詞可能	漢	→	中	中					031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1918	駱駝	ラクダ	駱駝	名詞-普通名詞-一般	漢	→	駱駝	駱駝	nn	k			031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1919	奇異	キイ	奇異	名詞-普通名詞-形狀詞可能	漢	→	異常	異常					031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1920	者	モノ	者	名詞-普通名詞-一般	和	→	거	것					031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1921	あら	アル	有る	動詞-非自立可能	和	→	업스니	없다			<@>		031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1922	馬	ウマ	馬	名詞-普通名詞-一般	和	→	馬	馬					031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1923	牛	ウシ	牛	名詞-普通名詞-一般	和	→	牛	牛					031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1924	世界	セカイ	世界	名詞-普通名詞-一般	漢	→	世界	世界	nn	k			031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1925	到る	イタル	至る	動詞-一般	和	→	<o>						031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1926	處	トコロ	所	名詞-普通名詞-副詞可能	和	→	各處	各處	nn	k			031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1927	是	コレ	此れ	代名詞	和	→	<o>						031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1928	使用	シヨウ	使用	名詞-普通名詞-サ変可能	漢	→	使用호	使用	nn	k			031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1929	すれ	スル	為る	動詞-非自立可能	和	→	호	하다	vv	w			031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1930	駱駝	ラクダ	駱駝	名詞-普通名詞-一般	漢	→	駱駝	駱駝	nn	k			031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1931	熱帶	ネツタイ	熱帶	名詞-普通名詞-一般	漢	→	<o>						031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1932	地方	チホウ	地方	名詞-普通名詞-一般	漢	→	<o>						031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi
1933	沙漠	サバク	沙漠	名詞-普通名詞-一般	漢	→	沙漠	沙漠	nn	k			031911 031911%kokumin-kotou-jk-al-tsi

그림1 『국민』과 『고등』의 단어 단위 병렬코퍼스

3. 고유명사(국명, 지명, 인명)의 대응

3.1 일본어의 형태소 정보를 기준으로 '固有名詞'을 추출하여 그 대응을 확인한 결과임(예시의 단어 뒤의 숫자는 『고등』은 권호, 『국민』은 단원을 나타냄. <n>대응문장 없음. <o>대응문장 있으나 해당 단어 생략)

- 가타가나 표기 (120회) → 한글 음차표기(89회), <n>13회, <o>18회
예) オハヨ-511 → 어하이어27
- 한자 표기 (138회) → 한자 음역, 의역 표기(81회), <n>33회, <o>23회
예) 紐約克429 → 紐約21
- 한자 표기 → 한글 음차표기(1회)

예) 費拉特費529 → 히라델히야38

- ▶ a, b 각각 한국어 표기 대응에 대한 수량적 의미는 없으나, 일본어 저본의 표기형태에 따라 번역되었음을 알 수 있음. b'이 유일하게 표기형태를 바꾼 예. 추측하건데 당시 한자 표기의 도시명이 익숙하지 않음에 따라 한글 음차표기로 표기하였을 가능성 있음(박정양 미속습유 ‘四羅達皮阿’). 34단원 아메리카독립2에는 한글 음차표기인 ‘히라델히야’표기 2예 있음(甲斐雄一외(2018)에 의하면 33~34과 아메리카독립1,2,3은 三宅米吉・新保磐次編(1888)¹⁾의 卷4, 15課를 참고하였다고 함²⁾. 단 원문 미확인)

3.2 a의 혼용표기 및 대응

- ・オハヨー511, 512, 529 → 어하이어27, 오하요28³⁾, 오하이오38
- ・ヒラム(hiram)512, 512 → 히람28, 하란28
- ・コロンブス412, 412, 412, 412, 412 → (구리스도화)거론부스31, 거론부스31, 고런부스31, 고런부스31, 고런부스31
- ・コロンブス413, 413, 413 → 고런부스32, 고런부스32, 고런부스32, 고런부스32 *33고런부스

3.3 b의 혼용표기 및 대응

- ・以太利412 → 伊太利國31 *12단원 조약국의 『고등』 407에 ‘伊太利’가 보임. 한국어 번역 생략.
- ・亞米利加429 → 阿米利加洲21
亞米利加608 → 南阿諸國15
亞米利加608 → 美15
| 060815%kokumin-kotou-jk-all-tsuika-fixed_0234 <J>: 今 其 重なる 者 を 云へ ば、
亞細亞 より は、支那人、印度人 を 初 と し て、波斯人、又 は アルメニヤ
Armenia 人 來り、南亞米利加 の 西部 より は、秘魯、智利 の 兩 國人 來り、サン
フランシスコ S a n Francisco 及 其 外 太 平 海 岸 の 城 市 より は 亞米利加人 來り、歐
羅巴 大 陸 諸 國 の 都 府 より は、日耳曼人、佛蘭西人 は、云ふ も 更 に て、西班牙
、葡萄牙 の 兩 國人、露西亞、波蘭、匈牙利、又 は 瑞西、那威、芬蘭 等 の
人々 來り 住めり。 kokumin-kotou-jk-all-tsuika-fixed_0234 <K>: 東 으 로 는 日人 과
淸人 과 印度人 과 波斯人 이오 西 으 로 는 美人 과 南阿諸國人 이 歐羅巴 에 서 는 德人 과 法
人 은 勿 論 ㅎ 고 西班牙人 과 葡萄牙人 과 魯西亞人 과 波蘭人 과 匈牙利人 과 瑞西 那威 芬
蘭 等 國人 이 輻輳 ㅎ 며

1) 金港堂刊 三宅米吉・新保磐次編『高等日本読本』卷1~8, 1888

2) 『국민소학독본』과 『고등소학독본』과의 대응 단원 관련하여 강진호(2012), 성윤아(2015), 장원재(2021)의 언급이 있으며, 33~34단원에 대해서는 甲斐雄一외(2018)의 지적이 새롭음.

3) 박정양의 미속습유에 ‘烏河要’가 있음

亞米利加534 → 米國25

支那608 → 淸15

佛蘭西608 → 法15

匈牙利608 → 凶牙利15⁴⁾

露西亞608 → 魯西亞15⁵⁾ * 40露西亞, 露兵(←×(저본없음))

紐約克429, 429, 429, 429, 429, 529 → 紐約21, 21, 21, 21, 21, 38

巴里429 → 21巴里 *33, 35巴黎(←?(원본 미 확인))

*일본어 저본과 동일한 표기 고유명사(당시 일반적으로 통용된 한자표기들임)

歐羅巴, 倫敦, 西班牙(國), 蘇格蘭(스코틀랜드), 新英倫地(뉴잉글랜드), 美, 亞米利加, 亞米利加(洲), 亞非利加, 亞細亞, 愛蘭(아일랜드), 英國, 猶太(유대(인)), 印度, 波蘭(폴란드), 巴里, 波斯(페르시아), 葡萄牙(포르투갈), 華盛頓(워싱턴, 인명, 지명), 希臘(히랍)

▶▶ 15조약국 단원은 다른 단원과 다르게 (의식적으로?) 저본의 한자표기를 달리함. 당시의 한국에서 사용하는 적당한 한자표기를 선택했을 가능성 있음.

예) 露西亞 19세기말 이후 사용되기 시작한 일본어 표기, 魯西亞: 중국어 표기이면서 오래전부터 사용해 온 표기.

4. 고유명사 표기 기호 대응

· 이준환(2013)에서 국민소학독본의 소괄호(())를 때에 따라서 외래어 표기와 앞말에 대한 주석 사용 시 쓰고 있음을 언급하고 있으며, 또한 “이런 부호를 써서 텍스트에 대한 이해를 높이려고 한점은 새로운 시도가 할 수 있다”고 언급하고 있음.

· 『국민』에서 소괄호 ()가 사용되어진 단원은 다음과 같이 11개 단원에서 나타남(괄호 안 『고등』 권과).

· 10단원(126) 2회 중 『고등』 1회 괄호 『고등』의 경우 각 단원의 첫 출현 고유명사에 “가타가나(원어)”표기를 하고 그 이후는 “(원어)” 없이 가타가나만 표기하는 단원이 많이 보임.

4) 이한섭외편(2017)의 용례를 정리하면 1895년 이전표기: ‘항가뤄匈牙利’-서유견문1895, 凶牙利-한성순보17호1884, 국민소학독본1895, 대한협회회보9호1908, <생략>삼천리7권10호1935임. 1896년 이후 표기: 洪加利-친목회회보5호1897, 洪曷利-친목회회보호1897, 洪牙利-동아일본1920, 개벽431924, 별근건20호1929<생략>, 匈國-대조선독립협회회보5호1897, 匈-서우13호1907

5) 이한섭외편(2017)에 의하면 다음과 같다.

露西亞-국민소학독본1895, 관보199호1895, 침목회회보2호1896, <생략>, 개벽7호1921

魯西亞-조선왕조실록철종11년1860, 한성순보2호1883, 소학만국지지1895, <생략>, 개벽69호, 1926

012610%kokumin-kotou-jk-all-tsuika-fixed_0140 〈J〉: 然る に 、 理 学 の 大 家 ガリレオ氏 (Galileo) が 、 搖 錘 を 發 明 せ し より 以 來 、 人 皆 便 利 な る 振 時 計 を 所 有 す る に 至 れ り 。 kokumin-kotou-jk-all-tsuika-fixed_0140 〈K〉: 然 ㅎ 나 理 學 大 家 (갈리레오)라 ㅎ뽵 스엇 이 搖 錘 엇 發 明 ㅎ 이 來 로 스엇 마다 輕 便 ㅎ 時 計 엇 가지게 되얏시니

| 012610%kokumin-kotou-jk-all-tsuika-fixed_0144 〈J〉: ガリレオ 是れ を 注 視 し て 、 家 に 歸 り 、 種 々 、 工 夫 を 廻 し た る 後 、 遂 に 一 の 法 則 を 發 明 せ り 。 kokumin-kotou-jk-all-tsuika-fixed_0144 〈K〉:(갈리레오)가 그 形 容 을 熟 視 ㅎ 았다가 집으로 도 라온 後 深 思 研 究 ㅎ 야 맛 淸 楚 한 法 을 發 明 ㅎ 니

- 15단원(608) 1회 중 고등 괄호 0회
- 21단원(429) 13회 중 고등 괄호 13회, *‘브로클린’의 경우 괄호 보이지 않으며, 『고등』도 없음.
- 25단원(534) ‘華盛頓’의 경우 괄호 수만으로는 2회 중 『고등』 0회이나, 동일한 표기임에도 『국민』에서 괄호 표시가 없는 1회 있음. 그리고 ‘하밀톤’은 『국민』에서 괄호 표시 없으나 『고등』에는 괄호 있음.
- 27단원(511) 16회 중 『고등』 괄호 7회
- 28단원(512) 17회 중 『고등』 괄호 6회 *‘허프킨스’와 “新英倫地”는 국민에서 괄호 표시 없으나 『고등』에는 괄호 있음.

- 33단원 3회 중 『고등』 3회 모두 고유명사가 아닌 앞말에 대한 주석 표기. 예)巴黎(法国서울). 단, ‘바도릿구헨리’, ‘마사제셋도’, ‘버스턴’는 괄호 없음.
- 34단원 2회 중 『고등』 2회 모두 고유명사가 아닌 앞말에 대한 주석 표기. 예)一千七百十四年(英祖 五十年). 단, ‘히라델리아’, ‘흐란구린’는 괄호 없음.
- 35단원 1회 중 『고등』 1회 모두 고유명사가 아닌 앞말에 대한 주석 표기. 예)一千七百八十三年(正祖 八年). 단 ‘젠아단스’는 괄호없음.
- 40단원 2회 중 『고등』 2회 모두 고유명사가 아닌 앞말에 대한 주석 표기. 단 ‘데리언부다’, ‘더네블’, ‘구리미야’, ‘스닥’은 괄호 없음.
- 41단원 1회 중 『고등』 1회 고유명사가 아닌 앞말에 대한 주석 표기. 단 ‘무우왈이’는 괄호 없음.

5) 高等小学讀本字引 (1891) 과의 대응

• 高等小学讀本字引(1891)는 “例言”에 「一この編は専ら文部省編輯に係る高等小学讀本中殊に読み難く解し難き語句を摘出して之に音訓注釈を施し以て童蒙をして原書を読み且其意味を解するに便ならしむる者にして固より大人識者のためにするに非ず」

- 국민소학독본의 각 단원에 나타나는 고등소학독본사전의 단어들임. 앞에 숫자 국민소학독본 단원.

01課業, 01教師, 01氣候, 01緊要, 01連續, 01萬國, 01變化, 01富強, 01父母, 01

産物, 01生業, 01世界, 01習字, 01臣民, 01言行, 01温和, 01長上, 02距離, 02觀察, 02沙上, 02性質, 02野蠻, 02遊獵, 02精密, 02注意, 02知識, 02判斷, 02形狀, 02痕跡, 04堅牢, 04眷屬, 04銅器, 04洞穴, 04落成, 04勞働, 04勉強, 04培養, 04變革, 04費用, 04偶然, 04存在, 04注文, 04着手, 04鉄器, 04幸福, 07變種, 07園丁, 07標徴, 07興味, 08羅針, 08萬世, 08不朽, 08思想, 08愛玩, 08著書, 08必要, 08後代, 09證券, 10定振, 10概略, 10果實, 10搖錘, 10正中, 10注視, 11駱駝, 11馬蹄, 11砂礫, 11沙漠, 11熱帶, 11資料, 11地方, 11脂肪, 11質, 11扁平, 11荊棘, 11單峰(駝), 11雙峰(駝), 12亜米利加, 12合衆, 13灌溉, 13凝視, 13應用, 13馳騁, 15駟馬, 15城市, 15隧道, 15聰明, 16定時, 18微黃色, 18工蜂, 18蜂房, 18淡黒, 18隔障, 18昆虫, 18過多, 18分泌, 18矮屋, 18整然, 20交換, 20媒介, 20錯雜, 20貨幣, 21假山, 21釀金, 21外坊, 23鯨獵, 23倔強, 23窮追, 23詳述, 23小艇, 23檣頭, 23捕鯨, 23豪氣, 24改悟, 24開合, 24老農, 24螻蟻, 24師友, 24遊泳, 24苔蘚, 24把握, 25衰憊, 27結果, 27耕耘, 27水師, 27雀躍, 27寸隙, 28酬勞金, 28羅甸語, 28希臘語, 28新英倫, 28華盛頓府, 28課程, 28冠冕, 28南北, 28逝去, 28矮屋, 28誘掖, 28慇懃, 28義兵, 28狙擊, 28推薦, 29頭腦, 29(炭酸)瓦斯, 29酸素, 29石灰, 29習慣, 29炭酸, 29通夜, 30金剛, 30分析, 30烟突, 30眞珠, 30廢物, 30洪大, 31鬼蜮, 31模糊, 31埠頭, 32舢舨, 32執拗, 32沈着, 32號砲, 36鰐, 36鰐魚, 36爬蟲, 37鼯鼠, 37啖, 37追躡, 38熔鐵所, 38石腦, 38拾集, 39蛋白, 39石炭, 39元素,

・10단원(시계)의 ‘定振’, ‘搖錘’이 예로서 高等小学讀本字引에는 다음과 같이 기술되어 있음. 한국어 번역 시 해당되는 적합한 한국어를 찾기가 어려울 수 있었음.

定振の理ていしんのり:たとへば一秒時には必基どだず一振すると云ふ理
搖錘やうすい:とけいのさげふり

・『국민』 이후 아래의 자료에는 해당 단어 보이지 않음.

한국어 역사코퍼스(홍윤표(2012)의 역사코퍼스+발표자 구축코퍼스(1880년대~1950년대, 문자수))에는 위의 2단어 나타나지 않음.

일본어 CHJ(日本語歴史コーパス, 데이터버전 2021.3), 『国語大辞典』 2판에도 나타나지 않음.

참고문헌

이준환(2013) 「개화기 학부 편찬 독본 자료의 언어 양상」 『어문연구』 41-4, 한국어문교육연구회
장원재(2019) 「근대 한일 양국의 자순도치 한자어의 비교 연구-병렬코퍼스를 이용하여」 『일본어문학』 85, 일

본어문학회

- 장원재(2021) 「일본의 고등소학독본과의 비교를 통해 본 국민소학독본의 번역과 어휘에 대한 小考-문장 단위
병렬코퍼스를 구축하면서」 『동서인문학』 60, 계명대학교 인문과학연구소
- 홍윤표(2012) 『국어정보학』 태학사
- 甲斐雄一ほか (2018) 「『尋常小学読本』『高等小学読本』の同時代的な位置づけ-『新訂尋常小学』
『国民小学読本』との関連を検討するための基礎的研究-」 『일본학보』 117

日本語史研究の現状と展望

李承英(光云大学)

1. はじめに

本稿は2019年1月から2020年12月にかけての日本語史研究の動向について研究方法と方向性の側面から考察することを目的とする。

今回の調査と考察においては、韓国で発行された学術誌に掲載された日本語史関係の論文91本を対象とし、研究分野別、時代別に展望する。

上記期間中の大まかな研究動向としては通時的研究より共時的研究のほうが目立つ。また研究分野としては活発化しつつある音韻を視野に入れた研究が盛んであった。本稿では朴孝庚(2019)の方法論を援用し、文字表記、音韻、語彙、文法、その他の5つの分野に分けて時代別に展望する。

2. 調査範囲と研究分野

今回の調査では日本語関連の学術誌を検索した結果、日本語史の論文91本が抽出された。

<表2> 分野別論文数

発行年	音韻	文法	文字表記	語彙	その他	計
2017-2018	15	23	17	28	25	115
2019-2020	25	21	10	17	18	91

2017年～2018年の日本語史論文の分野別数は朴孝庚(2019)からの引用である。日本語史の論文は前回調査より当該年度の論文の数が減少している。とくに前回調査でもっとも割合の高かった「語彙分野」の論文の数が非常に減少している。一方、もっとも低い割合を示していた音韻史に関する論考は、前回調査より増加していることは注目に値する。以下では、これらの特徴を踏まえ、大きく次の5つの分野 (1)文字表記 (2) 音韻 (3) 語彙 (4) 文法、(5)その他に分けて述べる。

3. 分野別

3.1 文字・表記

文字・表記の研究には漢字、仮名、表記体の研究があり、主に古文書・古記録・古辞書の例を中心に各語の表記の変遷を論じる研究が多い。ここでは、漢字、仮名、表記体の順に述べる。

(1)漢字

まず上代の研究として安熙貞(2019)は、『日本書紀』を資料として「与」と「及」の用字法全般について分析している。また、金連花(2019)は『日本書紀』の発話引用に数多く見られる「謂」の使用状況を概観し、発話の引用形式および発話主体と発話対象の上下関係の面から考察している。

中世の抄物を資料を用いて漢字訓読で成果を上げている研究としては呉美寧(2020)がある。呉美寧(2020)では中世の標準的な資料である京都大学清家文庫『古文孝經抄』の訓点に注目し、その成立と抄本文の構成と接続詞について考察している。

(2)仮名

まず、中世のキリシタン資料を用いた仮名の用字法研究には鄭炫赫(2019)が挙げられる。鄭炫赫(2019)ではキリシタン版『ぎやどべかどる』と筆写本『ぎやどべかどる下巻』との仮名の用字法の比較を行い、両書ともに異字体が80%以上使われていると述べている。

近世・近代の資料を用いた古典仮名遣い系統の研究としては姜盛文(2020)(2019)が注目される。『古言梯』以降の仮名遣書の間の影響関係を漢語に注目して分析している。

一方、日本語史と情報通信技術と融合研究として、李承英・ソヨンホ(2020)の共同融合研究が注目すべきであろう。ここでは古代・中世時代の日本文字くずし字のデータセットであるKuzushiji-MNISTとKuzushiji-49を正確に分類するためのディープラーニング学習方法について模索している。この研究ではディープラーニング基盤の技術と日本語史分野との融合を図っており、東アジアと西洋の歴史、文学、文化などの研究者に基礎データの提供可能性について探っている。

上記の動向から従来は文字・表記の研究では上代仮名遣いについての研究が主であったが、今回の調査では上代の資料を用いた論究は一本もないことが特記すべき点であろう。

(3)表記体

国内で唯一の字体の研究として、申雄哲(2019)は文化的転換期であった12世紀日本における字体の運用実態および変遷様相の一面を考察している。申雄哲(2019)は当時期の漢字辞典である圖書寮本『類聚名義抄』の見出し語に掲載された字体を対象に考察している。

3.2 音韻

日本語史の研究の中でもっとも論文の数が多かったのは音韻史である。音韻史に関する論考は25本で、多様な視点からの研究が多く見られる。音韻史には文字史・表記史など隣接分野が多数存在するが、今回の調査では研究の便宜上細分化したことを断っておく。

3.2.1 漢字音

音韻分野で多数を占めているのは漢字音についての研究である。中国の漢字音との関連から、

以前は中国の漢字音の輸入時期についての研究が主であったが、今回の調査では漢字音の系統、清濁、声点など多方面にわたる研究が活発に行われていることがわかった。

(1) 呉音・漢音・唐音

中世の日本製韻書を用いた唐音の研究として李承英による一連の研究が挙げられる。李承英(2019a,b)では、中世の代表的な韻書である文明版『聚分韻略』(1486)・慶長版『聚分韻略』(1612)・『略韻』(1279)の漢字音、とくに呉音・漢音・唐音の対立が顕著である舌内撥音字を中心に唐音を比較し、三書の相関関係についても考察を加えている。続いて、李京哲・呉采炫(2019a,b)(2020)では唐宋音研究のシリーズ研究として、唐宋音の反映様相を考察している。さらに、呉音の研究として、日本呉音の時間的・空間的起源を探る論文として金正彬(2019)が注目される。

従来、国内では唐音の研究は数少であったが、特定の研究者らによって唐音の研究が活発であったことは注目されよう。

(2) 清濁

清濁の研究として宋在漢(2020a,b)の一連の研究が目立つ。宋在漢(2020a,b)では近世日本の法華經の字音學を中心に唇音全濁字の清濁の變容について、韻書の引用の観点から考察している。讀誦音として呉音が定着してきた過程を究明するため、『法華經音義』諸本と注釋書3種と比較し、類推や濁聲点など漏落に認めがたいことが散見されたと述べている。

(3) 声点

声点の研究として朴美賢(2019)では『釈日本紀』「秘訓」の韓国系固有名詞に加点されている声点のうち、線点の資料価値について考察し、中古音の上声と去声は釈日本紀では平声に加えられる傾向が強いことを述べている。続いて朴美賢(2020)によると、『釋日本紀』は韓国系固有名詞の声点資料としてその価値が認められるとしている。

(4) 漢字音の比較研究

前回の調査でも指摘されているように、今回の調査でも日中の漢字音の比較研究が特定の研究者らによって行われている。李京哲・楊宇(2020)では中國語の唇音を中心に中國語音と日本漢字音の對應について試みている。その他、研究対象を漢字文化圏に広めた論文もある。まず李相怡・李京哲(2019)では、ベトナムの漢字音の中で舌音系について韓国と日本の漢字音と比較している。その他、ベトナムの漢字音、チベット漢字音、韓国の中世伝承漢字音と万葉仮名を比較した研究として、キム・デソン(2019)が見られる。このように、日本漢字音史とは、音韻史に属するものでありながら、文字史や語彙史とも深く関わっているのではないかと考えられる。

3.2.2 音声研究資料

中世の訓点本を文字・表記の研究だけではなく、当時の音価を推定できる日本語音声資料としての活用可能性を模索した論文が注目される。まず呉美寧(2019)は、京都大學清家文庫『論語集解』を資料として、論語集解の訓点本に注記されている発音注記について検討し、墨點は漢字だけに、朱點は仮名に区分され注記されていると報告し、『論語集解』の音声資料としての可能性を

示唆している。

3.3 語彙

語彙の研究は、各時代の資料に基づいた論究、大量のコーパスを利用した論究、近代語から現代語に移行する時期の翻訳語の論究が多く見られた。

3.3.1 各時代の資料に基づいた研究

今期の調査では鎌倉時代から室町時代にかけての軍記物語の混種語の変貌を考察した研究が目立つ。朴善玉(2019)では、中世日本語史の重要なテキスト『平家物語』と『太平記』を比較して軍記物語の混種語について考察している。まず羅工洙(2019)では尾崎紅葉の全作品に用いられている言語表現(漢字表記)を調査して、中国俗語趣味の受容の特徴と意味用法について述べている。明治期に西洋の翻訳語が広く知られているが、活発な漢語の翻訳ができた背景として、近世から近代にかけて中国語の口語の影響があったことに着目している。

最後に、近代の語彙研究においてもっとも基本的な研究である辞書関係の研究について触れた。まず権景愛(2019)では近代韓国語と二重語辞典である『鮮和兩引』(朝鮮外來語辞典)の資料的価値について論じ、部録に収録されている日本外來語『動詞化した語』を調べた。ここでは現代動詞化の言葉と比較し、現代動詞化の条件との違いについて新しい観点から考察がなされている。

3.3.2 コーパスを利用した研究

今期の語彙史の分野ではデータベース及びコーパスを利用した論究が目立つ。コーパスを利用した代表的な研究として権景愛(2020)、申雄哲(2020)などが挙げられる。まず、権景愛(2020)では開化期から現代語の表記法を中心に韓日における「新語」と「外来語」、その他の用語の使い分けの様相について考察を行った。資料としては「新語」関係の辞書類、ならびに先行研究で取り扱われた諸用例を参考にしつつ、韓国での雑誌および新聞記事に見られる用語の検索は「韓国史データベース」を利用している。申雄哲(2020)では、国立国語院の『韓国語-日本語学習辞書』の漢字語の見出し語とその日本語対訳語を対象に各言語における語彙的位相を比較している。

李慈鎬(2020)では『附音挿圖英和字彙』の漢字表示に関する研究として、データベース化のためにJISX0208の漢字文字セットを用いて構築した『英和字彙』(初版、1873)のデータベースを対象に、2000年に制定されたJISX0213文字セットにより入力可能になった漢字はどのように分類できるのかを分析した。一方、最近日本の国立国語研究所では、日本語の歴史コーパスの開発が活発に行われている。

このような漢字のデータベースの整備によって日本語史研究のあり方も多様化の途を辿っていると言える。

3.3.3 翻訳漢字語の研究

ソシヨヒョン(2019)では『無情』に現れる近代の日本の漢字語を調査すると同時に日本の近代翻

訳漢字語の成立時期とその日本漢字音の性格を考察している。尹榮珉 (2019)では、1917年に朝鮮総督府から刊行された『朝鮮語法及會話書』を中心にその形式と内容、資料的意義、韓国語と日本語の言語的影響関係について考察している。朴孝庚 (2019)は、「浪漫」という近代語の成立と変遷について述べている。日本で「romance」と「romanticism」に関連する用語が流入した後、どのように変化してきたかを考察した。

3.4 文法

文法史の研究は、主には時代別の資料を用いての用例調査に基づき、実証的に分析している論考が多い。まず文法史の研究に使われた資料は、中世から近世にかけての朝鮮資料を含めた外国資料と抄物、狂言、物語などの日本資料が主流である。特定の資料にあらわれた文法現象をとり扱っている論文を中心に、以下で時代別に触れていく。

3.4.1 中古時代中後から中世初期資料

ハジュヨン(2019)では、中古時代中後期の資料である宇津保物語 (974年)、源氏物語(1008年ごろ)、中世初期資料である平家物語(1240年)で「とか」の用例を調査し、文中に現れる「とか」と文末に現れる「とか」を分類した。また会話文、地の文、和歌、消息文に分類し、「とか」の意味用法についても分析している。

3.4.2 中世後期の資料

(1) 抄物資料

中世後期の抄物資料の研究として、林禎映(2019a)では叙法副詞「いかにも」「かえって」「とても」「ともこうも」「なかなか」を分析している。林禎映(2019b)では、日本語文法史研究を活用した古典文法教育作りの実践例を分析して、現代の日本語教育に関連付けて述べている。吳美寧・李泰燮(2020)では『古文孝經抄』を資料とし、抄物に用いられた接続詞を調査した。

(2) 狂言資料

狂言を資料としたイ・スヒャン(2020)では、中世後期の口語資料である『大藏虎明本狂言』と『天理本狂言六義』に現れる推量助動詞「べし」を中心に活用形と意味用法の観点から考察している。

抄物と狂言とともに中世後期の代表的資料であるキリシタン資料を用いた論究は数少ない。

3.4.3 近世資料

近世に入って関丞希(2019、2020)では近世前期の作品である近松浄瑠璃の指定表現「なり」を中心として「なり」と「ぞ」、「なり」と「ぢや」、また「そなた」の使用様相を比較考察している。

朝鮮資料である『捷解新語』(17世紀)を資料とした敬語の研究として趙垺熙(2020a)では『捷解新

語』に用いられている「さしらる」の改修について考察している。

崔彰完(2019)では、朝鮮資料である1881年本『交隣須知』に表れる「ソウニゴザル」「ニゴザル」について調べ、京都大學所蔵本にはどのような形態で表われていたかについて考察している。また趙燭熙(2020b)では『捷解新語』における「こそ」係り結び構文が衰退していく過程や、「卓立の強調」のニュアンスがどのくらい見られるのかについて、韓国語の対訳を用いて考察している。

3.4.4 近代以降の文法研究

朴孝庚(2020)では明治時代文學作品「吾輩は猫である」にあらわれた自称(一人称)、対称(二人称)、他称(三人称)の人称詞を考察している。

一方、通時的研究としては安志英の一連の複合辞研究が唯一である。安志英(2019)では近代日本語法の一つである経験・回想・習慣を表す複合辞「- ことがある」とその変形形態の分析考察を通じて、各時期における使用実態と歴史的変遷を考察している。最後に安志英(2020)では、「-カネル」「-カネナイ」は『万葉集』から初めて抽出され、現代にいたるまでの變遷過程について通時的に考察している。

以上、文法の研究では、文法項目の中で敬語、副詞、助動詞の研究が主流をなしており、中世の資料と近世の資料とした共時的研究が多く行われていることがわかった。言語の変化は一変に起るわけではないので、このように作品別、時期別に使用頻度を計測することは言語の変化の流れを理解するための有意義な研究であると考えられる。

4. おわりに

本稿では、2019年から2020年にかけて、韓国で発表された日本語史関連の研究論文91編を対象に文字表記、音韻、語彙、文法、その他の5分野に分けて概括した。全体的な特徴は、次のように整理できる。

第一、文字・表記・語彙分野は徐々に減少する傾向であり、音韻分野の論文は徐々に増加することが分かった。とくに、音韻研究の場合、漢字音研究が以前と同じく、持続的に進められており、研究資料の時期は主に中世から近世に当てられている。

第二、語彙研究では近代のコーパスを利用した研究が活発に行われていることや、データベース化による漢字研究もみられる。語彙の研究は近世から近代へと移行する時期に集中している。

第三、文法研究では言語の変化時期である中世時代の研究に焦点が当てられており、抄物を資料とした研究が多数行われている。

第四、開化期日本で作られた韓国語学習書や『捷解新語』のような倭学資料研究も過去に続き、持続的に行われている。

今後はコーパスの整備により、大量データを利用した量的検証型の研究が増加すると予測され

る。この場合、上代から近代まで調査結果の数値を「並べる」ことができることで研究アクセス水準が向上することで、日本語史研究のあり方も多様化の途を辿っていくと考えられる。

【 参考文献 】

- 康仁善(2017)「日本語史研究の現状と展望」『日本語学研究』51韓国日本語学会 pp.57-65
朴孝庚(2019)「日本語の史的研究の現状と展望」日本語学研究 韓国日本語学会 pp.116-119
李康民 (2020)「한국의 일본어 연구: 동향과 과제」『日本研究論叢』51 現代日本學會 pp.254-271

音声・音韻研究の現状と展望

高慧禎(カトリック関東大)

1. はじめに

本発表では、2019年から2020年にかけて国内で発表された日本語音声学・音韻論に関する研究論文の調査を行い、その研究動向を把握し、今後の研究方向について展望を試みる。今回の発表は、1周期(2015～2016年)と2周期(2017～2018年)に報告¹⁾されてきた調査の結果を踏まえたうえで、今期における音声学・音韻論に関する研究の流れと動向について以下の4点に主眼を置いて言及する。

まず、日本語学の研究分野のうち、音声学・音韻論に関する研究の占める割合と、その各領域別の研究の比重を以前の報告と比較・検討する。

第二に、音声学・音韻論分野の研究者層がさほど厚くないことから、各周期別に発表された研究論文の著者数を調査し、各周期別の研究者の推移を把握する。また、研究者の国籍別の分布と論文作成の言語の現況と文系における共同研究の実態を探る。

第三に、音声学・音韻論研究に用いられた研究方法について調査を行い、その結果を基に今後を展望する。本発表における研究範囲を大きく三つ、(1)音声学および音声教育、(2)音韻論、(3)文字と表記に分類し、各領域における研究方法をさらに以下に示したように分けて分析を行う。

(1)に対する分析方法は、以下の4つに分けられる。

- ① 主観的方法(内省)による伝統的調音音声学及び聴覚音声学的研究
- ② 客観的方法(実験機器)による音響音声学的研究
- ③ アンケート調査
- ④ コーパスの活用

(2)に対する分析方法は、以下の2つに分けられる。

- ① 文献中心の音韻現象と音韻理論
- ② コーパスを活用した音韻理論

(3)に対する分析方法は、以下の2つに分けられる。

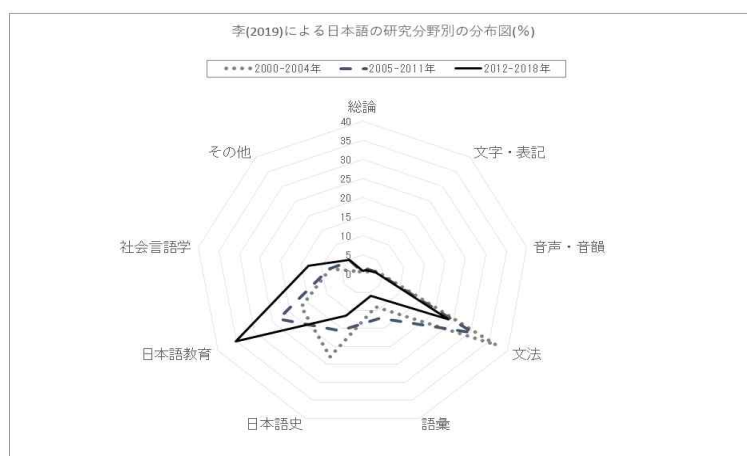
- ① 文献中心の調査
- ② オンラインを活用したアンケート調査

最後には、今期に発表された音声学・音韻論に関する研究テーマを調査分析し、韓国内における現代日本語の音声学・音韻論研究の動向を掴んでいく。

1) 関光準(2017)、酒井真弓(2019)を参照されたい。

2. 音声学・音韻論研究の現状(2000年～2018年)

まずは、韓国で2000年から2018年²⁾にかけて行われてきた日本語学全般における研究の動向について報告した李康民(2019)の研究を言及する。李康民は、5つの学術誌³⁾に掲載された日本語学の各研究分野の論文を領域別に調査したが、その結果について筆者が以下の〈図1〉のように取りまとめてここに示す。



〈図1〉 周期別における日本語学の分野別の分布図

上の〈図1〉を観察すると、日本語教育と社会言語学分野の研究は周期ごとにだんだん増えているのに対し、その他の分野は減っていることが見て取れる。とりわけ、音声学・音韻論(3.5%→3.2%→3.2%)と文字・表記(1%→1.7%→1.4%)の研究においては他の分野に比べて著しく低い水準にとどまっていることが確認できる。

3. 本調査対象の学術誌と研究範囲

本調査は、韓国学術誌引用索引(KCI: Korea Citation Index)サイトの「日本語と文学」に分類された韓国研究財団の登載学術誌の18種を対象にした。また、研究範囲については、現代日本語における音声・音韻および文字・表記に関する研究論文に限定し、調査を行った。その結果、日本語学

2) この期間を1周期(2000～2004年)、2周期(2005～2011年)、3周期(2012～2018年)に分けて分析を行っている。

3) 調査対象の学術誌は、『日本学報』(韓国日本学会)、『日語日文学研究』(韓国日語日文学会)、『日本語文学』(韓国日本語文学会)、『日本語学研究』(韓国日本語学会)、『日本語教育研究』(韓国日語教育学会)である。

研究の総論本文数は822本であったが、そのうち、音声学・音韻論に関する研究論文の数は56本(6.8%)であった。また、この分野において各学術誌に発表された研究論文の数をみると、大学研究所発行の学術誌よりも「日本語と日本語教育」に関わる学会誌の方が多かった。具体的に言うと、韓国日語教育学会(8本)が一番多く、その次に韓国日本語学会(7本)、韓国日本語教育学会(5本)、韓国日本語文化学会(5本)の順に多くなっていた。このような結果は、研究者が専門性を考慮に入れた学会への発表と論文投稿、そして知的交流のための談論の場となり得るところを好むために見られる傾向にあると考えられる。

4. 音声学・音韻論分野の研究動向

4.1 音声学・音韻論分野における周期別の研究推移

〈表1〉は、2015年から2020年にいたる音声学・音韻論研究分野の領域別の論本文本数を周期別に示したものである。各周期別の論本文本数からみると、音声学・音韻論研究より、音声教育に関する研究のほうが多くなっていた。今期の例を取り上げてみると、音声教育に関する論文が44.7%を占めており、その次に音声・音韻(32.1%)、文字・表記と漢字音に関する研究(16.1%)、対照言語(7.1%)の順になっていた。今回の調査では、漢字音と漢字教育、文字と表記、文字と音声、文字と認知に関わる論文も調査範囲に入れたため、前周期に比べてこの領域における研究論文が多少増えているように思われる。

〈表1〉 周期別における音声学・音韻論研究分野の領域別の論本文本数(%)

周期	調査時期	研究領域				合計 (%)
		音声学・音韻論	音声教育	対照言語	文字表記・漢字音教育	
1	2015-2016	25 (34.2)	42 (57.5)	6 (8.3)	-	73(100)
2	2017-2018	10 (29.4)	20 (58.8)	2 (5.9)	2 (5.9)	34(100)
3	2019-2020	18 (32.1)	25 (44.7)	4 (7.1)	9 (16.1)	56(100)

4.2 周期別における著者数と論文作成の言語

〈表2〉は、周期別に発表された論文の著者を国籍別に分けてそれぞれの割合を表したものである。また、論文作成時の使用言語に関する割合も示している。

まず、今期における国籍別の著者は、韓国人が71.8%であるのに対し、日本人と中国人が28.2%であった。今期の特徴は、日本人の著者数が多少増えたことと、中国人の著者も見えるという点である。

次に、著者別の論文作成時の言語選択については、〈表2〉から見て取れるように、2周期(2017～2018年)には韓国語作成の論文より、日本語作成のほうが多かったが、今期では日本語作成の論文(41.1%)より、韓国語作成の論文(58.9%)の割合がやや高くなっていることが確認できた。

＜表2＞ 周期別の著者数と論文作成の言語の割合(%)

周 期	著者の国籍(%)			著者数	論文作成の言語論文数(%)		総論文数
	韓国人	日本人	中国人		韓国語	日本語	
1	29(82.9)	6(17.1)	－	35(100)	37(50.7)	36(49.3)	73(100)
2	19(73.1)	7(26.9)	－	26(100)	15(44.1)	19(55.9)	34(100)
3	28(71.8)	10(25.6)	1(2.6)	39(100)	33(58.9)	23(41.1)	56(100)

4.3 単独研究と共同研究の割合

〈表3〉から確認できるように、単独研究と共同研究の占める割合をみると、単独研究の占める割合は80.4%であるのに対し、共同研究は19.6%の水準にとどまっていた。共同研究の場合、全部で11本あったが、そのうち、9本の論考が韓国人研究者2人の研究と韓国人+中国人研究者が執筆した、日本漢字音に関する研究である。残りの2本は音声教育と音声教育実践に関する論考である。

＜表3＞ 単独研究と共同研究の著者の国籍分布と作成言語の割合(%) 単位：著者数(名)、論文数(本)

周 期	単独研究			共同研究			合計(%)
	国籍	作成言語	論文数(%)	国籍	作成言語	論文数	
3	韓国人	韓国語	22(48.9)	韓国人+韓国人 / 中国人	韓国語	9(63.6)	31(55.4)
		日本語	15(33.3)		日本語	0	15(26.7)
	日本人	韓国語	1(2.2)	日本人+韓国人	韓国語	1(9.1)	2(3.6)
		日本語	7(15.6)		日本語	1(9.1)	8(14.3)
	合計(%)		45(80.4)			11(19.6)	56(100)

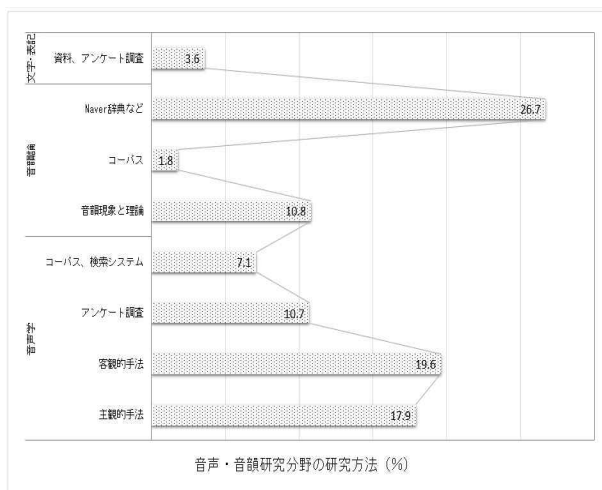
4.4 研究方法

〈図2〉は、今期に発表された研究に用いられた研究方法について調査分析した結果を示したものである。まず、〈図2〉をみると、「音声学と音声教育」に関する研究の割合は55.3%を、「音韻論」研究の割合は39.3%を、「文字と表記」に関する研究は3.6%を占めていることが確認できる。現時点において、韓国では現代日本語の音韻論的研究より、音声学と音声教育に関する研究のほうが頻繁に行われていると言える。

〈図2〉から分かるように、音声学の領域では、主観的手法による研究が17.9%、客観的手法による研究が19.6%、アンケート調査による研究が10.7%、コーパスと検索システムによる研究が7.1%を占めていた。一方、音韻論の領域では、漢和辞典やウェブ辞典などを用いて漢音資料の分析を行った研究が26.7%で高い比重を占めており、続いて音韻現象と音韻理論による研究が10.8%、コーパスによる研究が1.8%を占めていた。

このことは、韓国における科学とICT技術の進展のおかげで、様々な研究方法を介した音声・音韻研究が進められてきたものと予測できる。

ここで注目に値する点は、音韻論と音声教育の領域で用いた分析方法としてコーパスや検索シ

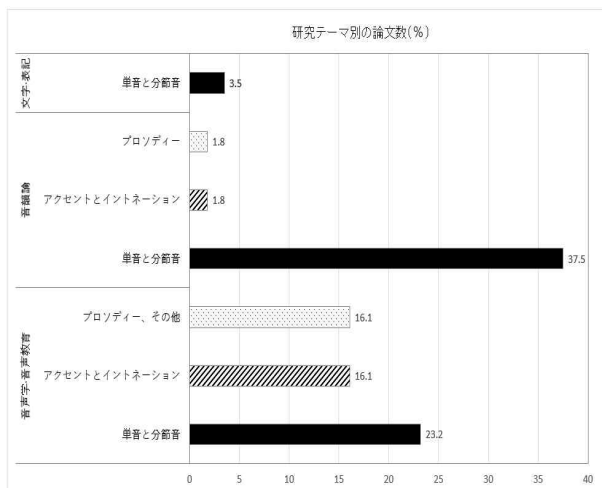


＜図9＞ 研究方法

初心者向けのフリーソフトが手に入られるし、また、コーパスを活用した日本語の大量な音声データも容易に確保できるからである。

4.5 研究テーマ

〈図3〉は、音声学・音韻論と文字・表記の各領域別に発表された研究論文のテーマを分析して



＜図3＞ 研究テーマ別の論文の割合

する研究が1.8%を占めていることが分かった。

以上のように、音声学においても音韻論においても「単音と分節音」に関する研究が多く、アク

ステムを活用した論考が持続的に出てきたということである。また、日本語教育の領域においても、音響分析を通じた実験研究が増えているということである。上述してきた研究方法を用いた音声・音韻研究は、これからも持続的に増えていくだろう。なぜかという、韓国内での研究環境を考えると、研究パラダイムに合う日本語母語話者の音声データの確保が難しいため、研究に多くの制約が伴うからにはほかならない。しかしながら、最近、インターネットさえ繋がれば、音響分析ができる

テーマ別の論文数(%)を図に表したものである。〈図3〉を垣間見ると、まず、音声学と音声教育の場合は、単音と分節音に関する研究が23.2%の割合でやや高く、続いてアクセントとイントネーションに関する研究とプロソディーなどに関する研究がそれぞれ16.1%を占めていることが確認できた。一方、音韻論の場合は、前で触れた音声学と音声教育分野の結果とはやや異なり、単音と分節音に関する研究が37.5%の割合で一番高く、アクセントとイントネーションに関する研究は1.8%、プロソディーなどに関

セントとイントネーション、ポーズ、発話速度などのような「プロソディー」に関する研究はそれほど多くないことが確認できる。特に、音声教育のほうでは日本語学習者に対する日本語の発音に注目した論考が多く見られたが、これらの論考には「単音と分節音」に焦点をおくものより、日本語の流暢さと関わってくる「プロソディー」に注目した研究が多かった。

5. おわりに

本発表では、2019年から2020年にかけて韓国研究財団の「日本語と文学」に分類されている18の学術誌に発表された「音声学・音韻論(文字・表記を含む)」に関する研究論文(56本)をテーマ別に紹介し、その研究の流れと動向を分析した。その結果は以下の通りである。

まず、この分野の研究推移を見ると、日本語の音声学・音韻論に関する研究(32.1%)より日本語の音声教育に関する研究(44.7%)が以前の周期の傾向と同様に、集中されていることが明らかになった。このような傾向は、韓国国内で日本語母語話者の音声データ収集が難しい研究環境から起因した結果であると考えられる。そこで、最近では、コーパスを活用した音声DBの転写資料と通信言語の文字資料が音声研究に取り込まれているという点を指摘しておく。また、韓国国内では、非常に稀な研究であるが、今期の特徴として文字情報と意味との関係を認知心理学観点から捉えた研究が目に入る。この研究は音声学や認知言語学などの隣接学問として注目に値するものと考えられる。

次に、領域別の研究テーマを見ると、音声研究(55.3%)は超分節音に注目した研究が頻繁に行われていたのに対し、音韻および文字・表記に関する研究(39.3%)は単音と分節音に注目した音韻理論と漢字音の研究が大半を占めていることが分かった。

よって、今後は実証的な音声学と理論的な音韻論的研究が歯車のように相互有機的な関係の中で、この分野の研究を進めていけば、またさらに若手研究者の養成と日本語教育とも連携していくのであれば、現在留まっているこの分野の研究が大きく進展するものと展望する。

【参考文献】

- 関光準(2017)「音声・音韻研究の現状と展望」『日本語学研究』51 韓国日本語学会 pp.9-19
酒井真弓(2019)「音声・音韻研究の現状と展望」『日本語学研究』59 韓国日本語学会 pp.7-21
李康民(2020)「한국의 일본어 연구—동향과 과제—」『日本研究論叢』51 現代日本学会 pp.254-271
洪珉杓(2019)「語用論・社会言語学研究の現状と展望」『日本語学研究』59 韓国日本語学会 pp.67-82

語彙研究の現状と展望

-2019・2020年における韓国国内の研究論文を中心に-

孫栄爽(済州大学校)

1. はじめに

本発表では、2019年と2020年に韓国の日本語学関連の学術誌で発表された語彙論文を取り上げ、その成果を概観する。対象とした学術誌は、韓国研究財団の主題分類で「日本語と文学」に分けられた掲載学術誌である。そして、これらの学術誌の中から、単語及び語彙との関連性が高いと判断した論文を155編を選んだ。

集めた論文はさらに「語義」「語構成」「語種」「位相」「通時的語彙研究」「社会文化的語彙研究」「日本語教育」「計量的語彙研究」「語彙のデータベース及びコーパス構築」の9分類に分けた。ただ、複数の区分にまたがる研究も多数あり、便宜的な区分であるといえる。以下、今期の動向を区分ごとに述べていくが、紙幅の都合でごく一部しか紹介できないことを予めお断りしておきたい。

2. 単語の意味(語義)

単語の意味は語彙研究の最も重要なテーマの一つで、関連研究数が一番多かった。特に類義語の研究が目立つ。姜炅完「『興味』と『関心』の違いについて-連語とレジスターに注目して-」(『日本言語文化』48、2019)は、「興味」と「関心」の違いを、単語の意味と使用領域の面から考察した。研究資料としては国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、『BCCWJ』)を用い、「興味」と「関心」の間では『BCCWJ』のジャンル(レジスター分布)と、結び付く動詞の種類において顕著な差が見られることを記述した。

類義語の研究の中には付属語を対象としたものもある。例えば、鈴木梓「現代日本語の接尾辞「〜くさい」のモダリティ的可能性-コーパス・小説・ツイッターの用例から-」(『日本語教育』87、2019)と、同「現代日本語における接尾辞「〜くさい」の用法-ヒト名詞を中心に-」(『日本語教育』91、2020)は、「〜くさい」と「〜っぽい」「〜らしい」との意味領域を比較した。そして近

* 本発表の内容は、孫栄爽「語彙研究の現状と展望」(『日本語学研究』67、2021)の一部を修正・加筆したものである。

年、話し言葉で「くさい」が従来とは異なった使用(「ん、京都ハズレたくさい」など)を見せていることから、話し言葉と文体に近い「ツイッター」なども研究資料に含んでいる。

類義語に続き、多義語の研究も多い。董素賢「知覚動詞「聞く」の意味拡張について - 補語になる名詞との相関性を中心に -」(『日本言語文化』51、2020)は、動詞「聞く」の聴覚対象となる名詞句によって、「聞く」の意味が〈知覚〉からどのように変貌するかを考察したものである。そして実例にもとづき、音楽類の名詞句とは〈鑑賞〉の意味へ、さらに発話・思考に関連した名詞句とは〈認知〉へと、その意味を拡張させていく過程を認知意味論の観点から記述した。

その他、慣用句の意味に関する研究もある。권익호・홍민희「신체어휘의 관용어에 관한 인지언어학적 고찰 - 가슴(胸)·배(腹)를 중심으로 -」(『日本研究』51、2019)は、「胸」または「腹」を含む慣用表現(‘가슴이 넓다’, ‘胸が詰まる’, ‘배를 두들기다’, ‘腹が立つ’ など)を、認知言語学の観点から考察した。例えば‘가슴이 넓다’と‘胸が詰まる’ならば、Lakoff & Johnsonの理論にもとづき、その起点領域(source domain)をそれぞれ「容器」と「穴」とに分類した後、各起点領域が、人の感情の「嬉しさ」と「悲しさ」のどちらと関連するかについて考察した。

3. 語構成

形態素による単語の組み立てを研究する語構成論の分野では複合動詞の研究が多かった。金光成「複合動詞の用法と文脈に関する意味中心の研究 - 物理的な症状を表す複合動詞を中心に -」(『日本文化研究』75、2020)は、物理的な症状を表す複合動詞の意味カテゴリーを、その使用文脈から「外的症状関連」「内的症状関連」「痛み関連」とに分け、それぞれのカテゴリーに属する単語の特徴を分析した。例えば外的病状を表す複合動詞の後項は「出ず」「果てる」が多い。

複合動詞以外の複合語研究もある。権裕羅「感情・感覚形容詞の新しいミ形について - Twitter上の使用に注目して -」(『日本語教育』92、2020)は、「古本屋近くにないから羨ましがつよい。」など新しい「み」が付いた派生語を分析した。調査対象は、三日間分のツイート(Twitter)である。そして、「嬉しい、つらい、眠い」など主体の感情・感覚を表す形容詞は新しいミ形になりやすいが、「恐ろしい、冷たい、熱い」など対象の性質を表す形容詞は新しいミ形になりにくいことを、明らかにした。

語構成の研究には漢語を対象としたものもある、신민철「韓國語와 日本語의 漢字語 比較-국어 사전 수록 한자어를 대상으로-」(『日本語文学』80、2019)は、韓国語と日本語の国語辞典における漢語を、共通漢語と非共通漢語とに分け、それぞれの特徴を分析した。신민철(2019)によると、共通漢語のうち、三字以上(「登龍門」「摩天樓」など)は、一部を除きその殆んどが二字漢語を基本とする派生語か複合語である。

4. 語種

語種では、外来語の研究が多かった。林廷修「日韓の新聞からみた共通外来語の使用実態について-計量的・文法的側面から-」(『日本語学研究』63、2020)は、韓国と日本の新聞を対象に外来語の受容事態を分析した。新聞における外来語全体の出現頻度は両言語間であまり変わらないが、個別語の出現頻度を比べると韓国の新聞では上位一部の外来語のみが集中して使われる傾向が強いことを指摘している。

外来語以外に漢語の研究も見られる。장원재「병렬코퍼스 활용과 근대 한일 어휘 대조연구의 확장」(『比較日本学』46、2019)は、韓日の字順逆転漢語を研究対象とした。字順逆転漢語とは、字順が逆転された類義漢語を意味する。「脅威-威脅」はその一例で、19世紀末まで両者は共存していたが、今は韓国語では「脅威」が、日本語では「威脅」が生き残っている。장원재(2019)ではその変化過程を分析している。

5. 位相

共通の意味を表す単語でも、さまざまな条件(使い手、文章や場面など)によって違ったものになるところがある。こうした現象を意味する位相の分野でも、多くの研究が行われた。윤상한「일본어 계 외래어의 위상에 관한 비교 연구-건설 전문용어를 중심으로-」(『日本學』51、2020)は、韓国の建設現場でよく使われる日本語由来の外来語(「합마」「텐조」「이파」など)の位相差について考察したものである。調査手法には、一般人と建設業関係者を対象とした意識調査が選ばれている。通常、日本語由来の外来語はマイナス的なイメージが強いが、建設業関係者の間では、業界の人と一般人とを、熟練した技術者と初心者とを区別するパラメータとして、日本語由来の外来語が用いられることを明らかにしている。

新語・流行語に関する研究もある。瀬楽亨「日本語の若者言葉の理論的分析に向けて」(『日本語文学』84、2019)は、ぼかし言葉の一つである「～系」を対象に、若者言葉の理論的分析を試みたものである。従来「～系」は、主として「おじさん系」のように普通名詞などに付き、典型的ではないもののそのカテゴリーに属すると見なし得る人や物を指し示すときに用いられてきたが、「まじハマった系」「課題発表の準備しなければならない系」など動詞(句)と結びつく用法もあることを指摘し、その意味機能を一般言語学のattenuationの観点から記述した。

6. 通時的な語彙研究

通時的な語彙研究では、語彙の変遷よりは、個別単語の意味・用法の変遷に注目した研究が大

半であった。まず、李知殷「若者ことば「鬼」の史的変遷」(『日本文化學報』83、2019)は、近年「鬼面白い本」のように接頭辞としても用いられる「鬼」の意味用法の変化過程について考察した。上代から現代までの変化過程を幅広く捉えているところが特徴的である。

そして大谷鉄平「流行「後」の流行語「ジュリアナ」「ファジィ」の流通について-死語・廃語研究に向けて-」(『日本語学』81、2019)は、流行語の流行「後」に焦点を当てた研究である。雑誌記事の見出しから、流行語「ジュリアナ」と「ファジィ」の使用実態を通時的に調べ、その結果を用いて「流行が終わった単語は『死語』であり、死語は『廃語』である」という従来の先入観を覆している。

7. 社会文化的な語彙研究

社会文化的な語彙研究も、前期に続き、数多く見られる。李丹・李恩美「ユーキャン新語・流行語大賞に見られる日本の新語・流行語の社会・文化的な特徴-話題を中心に-」(『日本語学研究』60、2019)はその典型例で、新語・流行語が当時の社会・文化を反映するものであることを、2006-2017年までの通時的調査から明らかにした。例えば、新たな内閣が成立した年度には政治に関わる単語が、天文学における大発見があった年度には科学(教育)分野での単語が、高い確率で新語・流行語となるということを具体的な数値で示している。

김종태·송병권「일본 선진국 담론의 개념과 특징: 일본신문 사실 분석을 중심으로」(『日本研究』31、2019)は、日本の『朝日新聞』と『読売新聞』の社説から「先進国」と「途上国」の両単語を取り上げ、その指示対象と文脈を分析した。김종태·송병권(2019)によると、両新聞で、韓国は先進国に規定されることが多い。そして、中国は途上国に規定されながらもその国際的な影響力から大国として扱われている。単語というものが、社会の見方をどのように作り上げるかを具体的な事例にもとづいて論じた興味深い論文である。

8. 日本語教育

日本語教育と言語習得の分野で、特に語彙に注目した研究を紹介する。김시은「일본어 상급 학습자와 모어화자의 작문 어휘 비교-단어의 공통도를 중심으로-」(『日本語学研究』61、2019)は、日本語上級学習者の作文と母語話者の作文を比較したものである。特に作文に使われた語彙の種類に注目し、学習者は普遍性の高い単語を好んで使うこと、学習者は母語話者に比べて使用語彙の多様性が低いことなどを「共通度」という概念を用いて論じた。

学習者の語彙運用能力に関する研究以外に、日本語教科書(教材を含む)における語彙を分析した研究事例もある。이윤정「기초일본어 교재에서의 명사 어휘 분석 연구」(『日本文化學報』83、2019)は、韓国内で広く使われている3種の基礎日本語教材から名詞類を取り出し、各教材でどの

意味領域の単語がどれくらいの頻度で出現するかを分析した。

9. 計量的語彙研究

9では、マクロの視点から語彙を捉え、その使用実態を計量的に調査・分析した研究を紹介する。이미숙「2019년 현재 사용 중인 한·일 고등학교 국어교과서 어휘 연구」(『日本語教育研究』49、2019)は、韓国と日本の高校国語教科書で使われた語彙を対象に、その意味分野別の分布をまとめた。その分析結果を見ると、韓国の教科書では〈家族〉〈兄弟〉〈親戚〉関連の語が、日本の教科書では〈男女〉〈老若〉〈自他〉関連の語が頻出する傾向がある。またこうした傾向を両国の文化と関連づけて考察するところが興味深い。

이윤정「일본 IT분야 어휘분석연구-『基本情報技術者試験』의 10년간 기출문제를 중심으로-」(『日本語教育研究』47、2019)は、IT関連の資格試験『基本情報技術者試験』で問題に用いられた語彙を計量的に分析した。日本国語研究所(1984)『日本語教育のための基本語彙調査』の収録語彙と比較させ、基本語彙を除きIT分野の業務に必要な語彙のみを選別することを試みている。

10. 語彙のデータベース及びコーパス構築

最後に、語彙研究とともに、研究に活用できるデータベース及びコーパスを自作した事例を二つほど紹介する。李忠奎「格パターンによる「~込む」の下位分類-韓国人学習者を念頭に置いた試み-」(『日本文化學報』83、2019)は、日本語の複合動詞とそれに対応する韓国語の副詞との関係について考察した。日本語の複合動詞の中には、「生き残る」と‘살아남다’のように1対1で対応するものもあれば、「追い続ける」と‘계속 쫓다’などそうでないものもある。李忠奎(2019c)は、日本語教育への応用をも考慮し、JPT・JLPT日本語能力試験対策用の語彙集と問題集、日韓対訳文庫・会話教材など62冊の資料から合計13,693例の複合動詞を集めて、複合動詞のデータベースを構築している。そして、そのデータベースを用いて、「追い続ける」など1対1で対応しない複合動詞を4つの類型に分け、各類型の特徴を見出した。

장원재「병렬코퍼스 활용과 근대 한일 어휘 대조연구의 확장」(『比較日本学』46、2019)は、19世紀末における韓日語彙の相違を綿密に記述するためには、並列コーパスの構築とそのコーパスに基づく対照研究が必要であるということを指摘した。そして、自ら構築を試みた並列コーパスを用いて並列コーパス無しでは行にくい研究事例を紹介し、今後の対照研究のためには、文単位のみならず単語単位の並列コーパスが必要であることを主張している。

11. おわり

以上、2019年から2020年まで発表された語彙関連論文を取り上げ、研究の成果を概観した。全部で155編の論文を、「語義」「語構成」「語種」「位相」「通時的語彙研究」「社会文化的語彙研究」「日本語教育」「計量的語彙研究」「語彙のデータベース及びコーパス構築」に9分類し、その動向を見てきた。

今期は、語義(特に、類義語)、語種、位相の研究が盛んで、前期(2017-2018年)に続いて語彙に関する社会文化的研究が活発に行われた。そして日本語と他の言語(主として韓国語)との対照研究方法が多く採られ、その数は本稿で扱った論文の約3割に当たる。なお、全論文の2割近くが研究資料として日本国語研究所の『BCCWJ』を利用した。『BCCWJ』が最長1971年から2005年までの現代書き言葉のコーパスであることから、現代日本語はこの時期の書き言葉を中心に研究が行われているとも解釈できる。

『BCCWJ』の利用率が高いことは、韓国の語彙研究に限った傾向ではない。2019-2020年度の日本における語彙研究の動向をまとめた市村太郎(2020)でも同じ傾向が指摘されている。『BCCWJ』が完成度の高いコーパスであり、日本語研究に多大に貢献していることに疑いはないが、数えきれないぐらい膨大で多様な日本語をより十全に把握するためには、『BCCWJ』と他の研究資料とを比較した研究、あるいは『BCCWJ』にはない言語データにもとづく研究も今後ますます盛んになる必要があると考える。

《引用文献》

市村太郎(2020) 「語彙(理論・現代)」 『日本語の研究』 16-2 日本語学会 pp.45-52.

日韓リメイクドラマに見る中途終了型発話の 対照研究

－「名詞表現」と「中断節」を対象に－

金廷珉（亜細亜大学）

1. はじめに

本発表の目的は日韓両言語の、いわゆる「中途終了型発話」の使用様相について、日本原作ドラマとその韓国リメイク版の間にどのような類似点と相違点があるかを分析することである。

「中途終了型発話」の定義と範囲は研究者によって様々であるが、本発表では이은미(2011)、金珍娥(2013)、이지현・윤상실(2017)などを参考にし、とりわけ、以下の2点（「名詞表現」「中断節」）に分析対象を絞って日韓対比を行う。

・本研究の分析対象

「名詞表現」：名詞単独 「中学受験？」 「아직 이십대。」

名詞＋助詞 「ご主人が」 「나중에 생각을」

名詞＋終助詞 「一時間かな」 「저 이태리과요」

「中断節」：主節は出現せず、接続助詞(連結語尾)で終止する発話

(例は金珍娥 2013：170より、用語などの微修正は発表者による)

その理由は「中途終了型発話」に関する先行研究では、日韓両言語ともに「名詞表現」「中断節」の生起頻度が高い(高木2018)という指摘がある一方で、日本語では前者が、韓国語では後者が多用される(金珍娥2013, 2019)という知見もあり、その詳細は十分に明らかにされていないからである。また、分析資料(自然会話、字幕翻訳、吹き替えなど)や着眼点(同性/異性、年齢差、親疎関係)も研究者によって異なるため、日韓両言語の異同についても必ずしも統一した見解が得られていない。

そこで本発表では、登場人物やストーリーの展開が類似している日韓のリメイクドラマを用いて、「中途終了型発話」に下位分類される「名詞表現」と「中断節」の使用様相について、話し手の性別、話し手と聞き手の力関係に焦点を当てて分析を行いたい。

2. 調査方法

日本原作ドラマ『ドラゴン桜』と、韓国リメイク版『공부의 신』より用例を収集した。このドラマを選定した理由は学校を舞台に話が展開されるため、先生と生徒という上下関係、生徒同士の対等な関係といった、登場人物(対話者)間の社会的な力関係を定めやすいと考えたからである。以下にドラマの概要を示す。

＜表1＞ 分析対象のドラマの概要

	日本原作ドラマ	韓国リメイクドラマ
タイトル	ドラゴン桜	공부의 신
放映期間	2005年 7月8日~9月16日	2010年 1月4日~2月23日
話数	11話	16話
主要登場人物 (性別・役)	桜木健二 (男・弁護士)	강석호 (男・弁護士)
	井野真々子 (女・英語の先生)	한수정 (女・英語の先生)
	矢島勇介 (男・生徒)	황백현 (男・生徒)
	緒方英喜 (男・生徒)	홍찬두 (男・生徒)
	奥野一郎 (男・生徒)	오봉구 (男・生徒)
	水野直美 (女・生徒)	김풀잎 (女・生徒)
	香坂よしの (女・生徒)	나현정 (女・生徒)

用例の収集は日本のドラマに比べて韓国ドラマのほうが、全体の話数および1話当たりの放送時間が長い点を考慮し、まず韓国リメイク版の1話～5話までの台詞をすべて書き起こし、集められた合計3340文に合わせて日本原作の台詞を書き起こした。その後、(i)「名詞表現」「中断節」の生起頻度と種類、(ii)話者の性別による差、(iii)対話者間の力関係(「対等/対上/対下」)による差、の3つに注目して調べた。ただし、(iii)については両ドラマにおいて一部一致しない登場人物がいるため、日韓で共通する以下の主要登場人物に限定して調査を行った。

＜表2＞ 日韓の主要登場人物間の力関係

力関係	話し手	聞き手
対上	井野真々子(한수정)	→ 桜木健二(강석호)
	生徒たち	→ 桜木健二、井野真々子(강석호, 한수정)
対等	生徒たち	→ 生徒たち
対下	桜木健二(강석호)	→ 井野真々子(한수정)
	桜木健二、井野真々子(강석호, 한수정)	→ 生徒たち

3. 結果と分析

以上の方法により調査した結果を示す。まず、全体的な生起頻度と性別による使用割合は＜表

3) の通りである。「名詞表現」「中断節」とともに頻度は日本語のほうが高い。「中断節」は両言語の間にほとんど差がないのに対して、「名詞表現」は日本語(290回, 8.68%)が韓国語(200回, 5.99%)を上回っており、日本語の名詞志向性の高さ(金恩愛2003、金珍娥2013)を支持する結果が得られた。性別による違いを見ると、日韓ともに男性発話者に多用された点で共通しているが、「名詞表現」は日本語の男女比、約6:4に比べて韓国語が約7:3と、韓国語の男性話者の使用割合がやや高い。

<表3> 全体の頻度と性別による頻度と割合(%)

言語	中途終了型発話	全体の頻度	男性	女性
日本語	名詞表現	290 (8.68)	175 (60.34)	115 (39.66)
	中断節	233 (6.98)	120 (51.50)	113 (48.50)
韓国語	名詞表現	200 (5.99)	136 (68.00)	64 (32.00)
	中断節	221 (6.62)	123 (55.66)	98 (44.34)

次に、頻出した中断節の種類と性別による差を調べた結果は<表4>と<表5>の通りである。日本語では「から」「て」「けど」「し」が、韓国語では「는데」「고」「니까」が頻用され、男女別の分布も全体の使用頻度の傾向と概ね類似している。しかし、日本語の「が」は男性、「たら」は女性に偏っており、韓国語の「거든」は女性話者による使用が顕著である(손옥현・김영주 2009)。

<表4> 日本語の中断節の調査結果(%)

形式	全体頻度	形式	男性	形式	女性
から	75 (32.19)	から	44 (36.67)	から	31 (27.43)
て	52 (22.32)	て	26 (21.67)	て	26 (23.01)
けど	32 (13.73)	し	16 (13.33)	けど	17 (15.04)
し	29 (12.45)	けど	15 (12.50)	し	13 (11.50)
のに	15 (6.44)	<u>が</u>	12 (10.00)	<u>たら</u>	12 (10.62)
たら	13 (5.58)	のに	5 (4.17)	のに	10 (8.85)
が	12 (5.15)	たら	1 (0.83)	くせに	3 (2.65)
くせに	3 (1.29)	なら	1 (0.83)	たり	1 (0.88)
たり	1 (0.43)	くせに	—	が	—
なら	1 (0.43)	たり	—	なら	—
合計	233 (100.00)	120 (100.00)		113 (100.00)	

<表5> 韓国語の中断節の調査結果(%)

形式	頻度	形式	男性	形式	女性
는데	68 (30.77)	는데	35 (28.46)	는데	33 (33.67)
고	49 (22.17)	고	30 (24.39)	<u>거든</u>	21 (21.43)
니까	32 (14.48)	니까	21 (17.07)	고	18 (19.39)
거든	31 (14.03)	아서	17 (13.82)	니까	11 (11.22)
아서	27 (12.22)	<u>거든</u>	10 (8.13)	아서	10 (10.20)
든지	6 (2.71)	든지	5 (4.07)	면서	2 (2.04)
면서	5 (2.38)	면서	3 (2.44)	든가	1 (1.02)

면	3 (1.36)	면	2 (1.63)	면	1 (1.02)
合計	221 (100.00)	合計	123 (100.00)	合計	98 (100.00)

次に、力関係による調査結果を提示する。〈表6〉の発話数とは合計3340文中のうち、〈表2〉の主要登場人物間の会話量を指し、そのうち力関係別に生じた「名詞表現」と「中断節」の割合を調べた。

〈表6〉 日韓両言語の力関係別の調査結果(%)

関係	日本語			韓国語		
	発話数	名詞表現	中断節	発話数	名詞表現	中断節
対下	669 (20.03)	46 (6.88)	21 (3.14)	527 (15.78)	16 (3.04)	20 (3.80)
対上	467 (13.98)	43 (9.21)	30 (6.42)	407 (12.19)	20 (4.91)	41 (10.07)
対等	397 (11.89)	33 (8.31)	48 (12.09)	377 (11.29)	18 (4.77)	33 (8.75)

〈表7〉 韓国語の権力関係による調査結果(%)

順位	名詞表現		中断節	
	日本	韓国	日本	韓国
1	対上	対上	対等	対上
2	対等	対等	対上	対等
3	対下	対下	対下	対下

全体的な傾向を見ると、日韓ともに発話量の最も多い「対下」に対して「名詞表現」「中断節」の生起頻度は最も低い。その理由は今回対象としたドラマでは先生から生徒へ一方的な説明、指示、命令をする場面が多く、その際に(1)(2)のような述語の終止形を用いた完全文が多用されたからと思われる。

- (1) 桜木: よし、いい感じだね。いいか。すべてはこれからだ。黙って俺について来い。
とにかく東大に受かれ。そして来年、この桜に見送ってもらえ。(略)じゃ、始めるぞ。
- (2) 강석호: 어땠든 좋다. 너희들은 이제 천하대 특별반 학생들이다. 이 반에 들어온 이상 너희들은 내 명령에 철저히 따라야 한다. 자신 없으면 지금 당장 여기서 나가라. (略) 좋다. 이제부터 시작이다.

次に「名詞表現」について比較してみたい。이은미(2011:27)によれば、他の表現に比べてカジュアルな感じの名詞表現は同年齢への使用割合が高い。しかし、今回の調査ではわずかな差ではあるが、日韓ともに「対等」よりも「対上」の割合が高い。実際、生徒同士名詞で端的に会話を交わす例(3)~(5)も見られるが、(6)(7)「対上」の聞き手に受け入れがたい要素の一部を取り立てて聞き返したり、再確認したりする際に名詞単独の表現が多用されていた。

- (3) 勇介: 誰? 直美: 隣のクラスの子。
 (4) 현정: 어디 가? 백현: 알바
 (5) 백현: 졸린데 달리기 한 판? 찬두: 좋지.
 (6) 桜木: おい、緒方。座れ。何があったか、俺に200字以内で話してみろ。
 英喜: 200字?
 桜木: ちょうどいい。試験練習にもなる。時間がないんだ。早くしろよ。
 (7) 강석호: 오늘부터 열흘간 스파르타 합숙에 들어간다.
 홍찬두: 하...합숙이라고 하면 여기서 먹고 자고 그 합숙?
 강석호: 그렇다. 수학 기초 테스트 결과 너희들이 얼마나 심각한 상황인지를 알았을 거다.

従来の研究では「中途終了型発話」はボライトネスの観点から議論されることが多い。確かに、相手の情報が皆無な初対面の会話では「お仕事は」「あ、じゃお住まいも」のような述語を明示しない「名詞+助詞」止まりの表現が多用される(三牧2015など)。しかし、今回は旧知の間柄の会話であったためか、このような例は少なかった。一方で韓国語では、(8)(9)なかなか納得できない「対上」の「聞き手の行為を叱責する(한송화2017:106¹⁾)」ようなシーンで「名詞+助詞」の表現が観察された。

- (8) 강석호: 너희들 인생의 전환점이 눈앞에 있다. (略) 공부를 해라. 천하대를 가라.
 황백현: 개품은. 죽을 힘 다해 공부하면 천하대에 가?
 (9) 강석호: 내가 누구냐? 변호사다. / 황백현: 잘난 척은.

次に「中断節」は日本語では「対等」、韓国語では「対上」に対しての使用頻度が最も高い点で違いが見られた。日本語は「対等」な関係にある生徒同士、(10)「し」「て」「から」など複数の中断節が連鎖する形で会話がなされている。

- (10) 英喜: 勇介ちゃん、もういいじゃん。もう終わったことなんだしさ。
 勇介: お前がよくても俺はよくねーんだよ。警察がそういうこと言ってもさ、先生ぐら
 いは英喜のこと守って戦ってくれてもいいんじゃないの?それを(略)警察と一緒に
 になって英喜に嘘の始末書なんか書かせやがってよ。
 よしの: そうだよ。そんなヤツについて勉強しても、なんか急にバカバカしくなっ
 ちゃってきたし。
 勇介: 俺、こんな気持ちで試験受ける気ねーから。

一方、韓国語では「対上」の発話において「中断節」が多用された。(11)今すぐ教室の掃除の手伝いができない理由を、(12)自分の意見を述べる際にそれぞれ「아서」「는데」を用いて断定を

1) 原文は次の通りである。「후행의 구체적인 질책 내용이 생략된 채 ‘은/는’ 만으로도 청자의 행위에 대한 질책의 화행 기능을 수행하기도 한다。」(한송화 2017:106)

避ける形となっている。

(11) 강석호: 시작하죠. / 한수정: 치우자구요? / 강석호: 네.

한수정: 제가 지금 좀 가 봐야 될 일이 있어서요. 치우고 계실래요? 이따 올게요.

강석호: 그러세요.

(12) 한수정: 차라리 좀 현실적인 재건 방안을 짜 보시는 거 어때요? 그럼 저도 도와드릴 수 있는데.

강석호: 어떤 게 현실적인 거죠?

このような「対上」への「中断節」の使用割合のうち、日本原作の「井野→桜木」の発話(〈表6〉の30回中10回, 33.33%)に比べて、韓国リメイク版の「한수정→강석호」の発話(〈表6〉の41回中22回, 53.65%)のほうが高い点は興味深い。これは日本語以上に韓国語では、生徒から社会一般的に上の立場にある先生への発話に比べて、社会人同士での会話において「対上」の関係にある相手への発話が心理的距離があり、それが大きく反映された結果ではないかと考えられる。

4. おわりに

以上、本発表では「中途終了型発話」のうち、「名詞表現」と「中断節」に焦点を絞って日韓リメイクドラマを用いた使用様相の対照分析を行った。

その結果、両者ともに日本語の出現頻度が高いが、「中断節」は日韓の間に大差は見られない。「名詞表現」は日本語の使用割合が高く表れ、日本語における名詞志向性への高さ(金2003など)が再確認された。

次に、性別では両方とも男性話者による使用頻度が高い点で日韓語は共通している。両言語において頻出した「中断節」の種類は性別によって差が見られないが、一部偏りが観察された。日本語の「が」は男性、「たら」は女性、韓国語の「거든」は女性話者による使用が、それぞれ顕著に見られた。

最後に、主要登場人物の力関係による調査結果、「名詞表現」は日韓ともに「対上」>「対等」>「対下」の順に高く表れた。一方、「中断節」は日本語では「対等」>「対上」>「対下」の順に、韓国語は「対上」>「対等」>「対下」の順に表れた点で相違が見られた。

今回リメイクドラマを用いて分析した点は新たな試みであるが、限定的な資料に基づき、形式に主眼を置いた分析であるため、一般化には限界がある。今後は権力の上下関係がよりはっきりしている作品(例:社内での上司・部下の関係)からも用例を収集し、形式と発話機能の関係についても考察したい。

参考文献(紙幅の都合上、割愛。発表時にスライドに提示。)

中国観光スポットにおける外国語訳について

—日本語訳を中心に—

新羅大学 李東哲

浙江越秀外国語学院 徐瑛

1.はじめに

中国国家旅游局(観光局)では2021年6月11日現在まで、306ヶ所の観光地を国家5A級「旅行風景区」と定めている¹⁾。中国では観光スポットをAAAAA、AAAA、AAA、AA、Aの5つのレベルに分けているが、5A級は最高レベルの観光スポットなわけである。全国で5A級観光スポットが最も数の多い省は江蘇省25ヶ所でトップの座を占め、その次が浙江省19ヶ所で2番目である。全国の5A級観光地には毎年海外から延べ人数5万人以上、国内外を合わせて毎年延べ人数60万人以上の観光客が訪れているという。このような観光を通じて、国内外に中国の悠久な文化を幅広く宣伝できるのみでなく、観光スポットのある地方政府にもかなりの観光収入財源が見込まれている。

5A級の観光スポットには、その紹介がまず中国語で書かれ、その次に大体英語、日本語と韓国語の4つの言語に訳されている場合が多い。それはこの4種類の言語で記せば、国内外からの観光客がほぼそれを読んで理解できると考えていたからであろう。ところが、英語訳はともかく、日本語と韓国語訳に間違っているか、可笑しい表現が所々に見られる。たとえば、「魯迅故里」²⁾にある「百草園」を「百草の園」、「百草園」の説明の中にある「菜园」(菜園)は「논밭」などで訳されている。前者は見てその意味を誤解したりするようなことはないが、固有名詞なのでそのまま「百草園」にすべきである。他方、後者は完全に誤訳である。「野菜を作る畑」がとんでもない「田んぼ」になっていたからである。また、同じ浙江省紹興市にある「蘭亭」の中の小さな池に立て看板が立てられ、「小心落水」という字句が書かれていたが、この字句を日本語と韓国語でそれぞれ「慎重に溺死」と「조심스럽게 익사」と訳している。「慎重に溺死しなさい」という全く逆の意味として受け止められかねない。このような訳は外国観光客に間違った内容を伝達するだけでなく、中国の国際的イメージもダウンさせかねない。

それでは、なぜ有名な観光地における紹介文やその他に上記のようなとんでもない外国語の訳が見られるのだろうか。本稿では、中国におけるいくつかの観光地における翻訳の実例をめぐっ

1) 5A級は671ヶ所の4A級から選んだ「絶景」スポットとされている。面白いのは、5Aと4Aを分ける主な区別は5Aは「以人為本(人本主義)」であるということである。

2) 魯迅が青少年期を過ごした浙江省紹興市にある。

て分析を行い、その理由について考えてみることにしたい。また、このような間違っただけの翻訳が「誤訳」なのか、それとも「誤用」なのかということについても新しい視点から触れておきたい。

2. 先行研究

金・大阪・千原(2019)では宮城県・岩手県・山形県における観光資料を中心に韓国語訳に対する誤訳を分析しているが、全文をⅠ. はじめに、Ⅱ. 地名・人名などの固有名詞と韓国語表記法、Ⅲ. 誤字・脱字、Ⅳ. 母国語の干渉、Ⅴ. パッチムの有無による助詞の使い分けの誤用、Ⅵ. 文化的用語の翻訳の問題、Ⅶ. おわりにの7節に分けている。そして、Ⅳ. を①日本式語彙を無理やり韓国語に直訳したもの②日本式文法の直訳との2つに分けているが、まずこの分け方が妥当かどうか、一考を要するものである。Ⅳ. の母国語(日本語)の干渉というのはふつう誤訳や誤用の理由の1つとして取り上げられる場合が多いので、母国語の干渉を誤訳の1つとして設けるのはアンバランスな感じがしてくる。また、Ⅳ. の下位分類であるが、その中身を見ると、結局は語彙と文法の分け方に過ぎない。したがって、油谷(2002)のように、大きく①語彙の誤訳、②慣用句・熟語、③文法的な誤訳に分け、それぞれ下位分類を設けて誤訳分析をしたほうが分かりやすいだろう³⁾。また、論文ではその用語として「誤訳」と「誤用」という異なる概念が見られているが、両者の違いについては何の説明も施されていない。

一方、油谷(2002)と今井(2009)では小説の日韓翻訳における間違っただけの訳を取り上げて詳しく論じているが⁴⁾、その誤訳の原因についてはあまり述べていない。誤訳も誤用も必ずその原因があるはずで、誤訳分析や誤用分析を行う理由もその原因を探し出し、誤訳や誤用を防止するためなので、その原因を探し出し、指摘するのも非常に大切であると思われる。

3. 誤訳の分類と分析

3.1 誤訳の分類

誤訳の分析に当たって、まず収集した誤訳を何らかの基準に基づいて分類するのが一般的である。前章で取り上げた金・大阪・千原(2019)や油谷(2002)なども著者なりの基準に基づいて収集した誤訳例を分類し、分析を行っている。しかし、ここで注意すべきは、母語を外国語の訳するの

3) 油谷(2002)では、「語彙の誤訳」の下位分類として、名詞、助詞・語尾、用言、副詞などを設けているが、その中に、地名、人名、文化的な差による誤訳、漢字に惑わされた誤訳など、金・大阪・千原(2019)の表記、誤字・脱字などがすべて含まれている。

4) 油谷(2002)では城山三郎の『毎日が日曜日』、今井(2009)では乙武洋匡の『五体不満足』の韓国語訳をそれぞれ資料にしている。

か、それとも外国語を母語に訳するのかという問題がある。それによって誤訳の性格もかなり変わり得ることがある。たとえば、油谷(2002)の場合は、韓国語母語話者が外国語(日本語)を韓国語に訳しているので、出来上がった訳文には金・大阪・千原(2019)で取り上げたような表記の間違いや誤字・脱字、語彙、文法などの間違い一般的にあり得ない⁵⁾。母語をちゃんと書けないような人なら、そもそも翻訳する資格が欠如しているからである。だから、ある母語話者が外国語を母語に訳する場合は、基本的に原文(外国語)における個々のことばの意味や文の意味について勘違いまたは不十分な理解によって誤訳が生じることが多い。これこそが本当の意味における誤訳なわけである⁶⁾。反対に、金・大阪・千原(2019)で取り上げられているような看板や案内資料の日韓の間違いは、おそらく日本語母語話者が日本語を外国語の韓国語に訳した場合である⁷⁾。この場合に生じる誤訳は、韓国語の表記法の間違いや誤字脱字、そして語彙、文法、文化的用語などの間違いはいずれも韓国語の運用能力の欠如によるものであると考えられる。

本稿で分析しようとするものは、中国語母語話者が自分の母語を外国語である日本語に訳した場合の間違いであるので後者に当たる。なお、この場合の間違いは原文に対する不十分な理解やことばの意味がわからないということがあり得ないので、とくに分類をせずにいくつかの用例を挙げて総合的に分析する。

3.2 誤訳分析

- (1) 魯迅故里(免費參觀)―是一代文豪魯迅先生的誕生和生長地。

魯迅の故郷(無料観覧)―世代の文豪と言われる魯迅さんの出生地と成長地です。

まず、「世代の文豪」とは意味不明である。原文に沿って「一世代の文豪」というべきであろう。次は、「魯迅さん」と「さん」付けをしているが、歴史的人物に対しては、「さん」付けをしないのが一般的であろう。この点については李(2018)の指摘がある。第三は、「成長地」は漢字からその意味は読み取れるが、まだ1つの熟語にはなっていない。後半部を「魯迅の生まれ育った地(所・場所)である」とするべきだろう。

- (2) 1919年底，魯迅挙家北遷，最后一次告别了故郷。此后周家新台門屋宇多為朱姓拆建，但魯迅家的主要部分兩樓兩底和厨房幸得保存，建国后經修繕恢复了旧觀。

5) 訳者がうっかりしてたまには誤字・脱字を生じさせたとしても、編集部で直してくれるのが一般的である。

6) まだ未発表であるが、筆者は翻訳においてある母語話者が外国語を母語に訳する場合の間違いを誤訳、逆に母語を外国語に訳する場合に出来上がった訳文のことばの間違いは誤用として区別して考えるべきであると主張している。

7) 韓国語母語話者の留学生などを雇って訳した可能性も排除できないが、取り上げられた誤訳例を見ると、その可能性がかなり低い。

1919年末、魯迅一家は北方へ引越し、①とうとう故郷に別れを告げました。その後、周家の屋敷は朱という姓の人に②買い取られ、建て直されましたが、幸いにおもな部分であるふたつの建物の一階部分と台所③が破壊されなく、残されたもので、新中国成立後に元の姿に修復されました。

全体的に大した誤訳はないが、どうもいくつか首をかしげたくなるようなところがある。まず、「最后一次」は「とうとう」①ではない。原文の意味は、転々と住居を変えたりして、最後に(その後は再び故郷を離れていない)故郷を後にしたというニュアンスである。それに対して、「とうとう」は、結果を表し(いろいろな経過を経てある結果に達する)、結果的にそうなったというニュアンスであるので、わずかながら、食い違いが見られている。次に、②の「新台門」というのは周家の3つの家屋の中の1つで⁸⁾、「屋宇」は家屋を指している。そして「多」は「大部分、大半」の意である。また、日本語訳における「買い取られ」は原文にない「加訳」である。したがって、この個所の正しい日本語訳は「その後、周家の新台門は朱姓の人によってその大半が立て直されましたが、」であろう。また、③における「が」は助詞の間違いで「は」にすべきである。次の「破壊されなく、残されたもので」も「破壊されることがなく、幸いそのまま保存され」が原文の意味をそのまま顕現し、日本語としてももっと洗練された言い方であろう。

- (3) 百草園はもとは周家新台門の①族人が共有した荒れた菜園で、魯迅はかつて②追憶して「家の後ろにとても大きい園があり、聞くところによると百草園③だそうです。……確かその中には野草しか④ありませんけど、⑤その時、⑥そこは私の楽園でした。」と言いました。少年時代の魯迅はいつも仲間たちと一緒に⑦その園で遊んで、楽しんでいました。

例(3)は紙幅の関係で、原文を省略したが、まず、①の「族人」ということばは日本語にはない。「一族」の間違いである。中国語の表現をそのまま使った間違いである。次の②と③はその文脈から推して、②の「追憶して」を魯迅のことばの引用の後に持ってきたほうが日本語としては落ち着く。③も間違いではないが、なんとなく落ち着かない。この個所は全体として「魯迅はかつて『家の……百草園と呼んでいたそうです』と述懐しました。」にしたほうがいい。魯迅は幼い時、その名前も知らずに仲間たちと楽しく過ごしたことのある百草園について、ずっと後になって述懐したという意味を表しているからである。それから④は文の途中で敬語を使った間違い、⑤と⑥は指示代名詞の不正確な使い方である。④は「なかったけど」、⑤は「あの時」、⑥は「あそこ」に修正すべきであろう。⑦も指示代名詞の間違いで「あの園」または「百草園」でにしたほうが正しい。

- (4) 蘭亭は蘭渚山山麓にあり、春秋末期の越王勾踐がこの地に蘭を植えたために蘭渚と呼ばれ、亭はまたの名を蘭名といいます。東晋永和九年(353年)旧暦三月三日、王羲之が親友四十一人をここに招待し、禊を行って、流れの傍で杯を浮かべ

8) その他の2つの家屋の名は「老台門」と「过桥台門」とあるという。

ながら、各人が詩を読みました。王羲之はそのとき即興で、後に芸術界に作として崇められる[蘭亭集序]を詠み、蘭亭はこのときから中国でも著名な書道の聖地となりました。1600年あまりがたち、蘭亭は幾度もの変を経て。現在の蘭亭は明の嘉靖二十七年(1548)に天章寺の下から移されたものです。清代の修築を経て、今日の規模となりました。現在は全国の重要文化保護財だった、省の愛国主義教育基地となっています。2015年春には蘭亭書道博物館が設立されました。

例(4)はかの有名な「蘭亭」の説明であるが、文が長いし、訳文を読んでみた限り原文を読み間違えて生じた間違いはたところはないと見られるので、原文を省略する。ただ、この訳文は下線を引いたところだけ見てもわかるように、めちゃくちゃである。ひどいのは文が途中で切れてしまった箇所もある。どこの誰が訳したか知る由もないが、浙江省の翻訳関係部門か、どこかの大学教授による翻訳だろうが、これぐらい有名な観光地の肝心な説明にこのようなめちゃくちゃな訳があっているのかどうか疑問がわいてくる。それもあれもこれも高価な大理石に一文字一文字ノミで刻み込んだ文字である。

4. 誤訳の原因と結び

金・大阪・千原(2019)では誤訳の原因として、①自動翻訳機の翻訳またはネイティブチェックを受けていないこと、②地名や人名、文化の知識が不足していることを挙げているが、筆者はまず翻訳に当たっている人が母語を外国語に訳するのか、それとも外国語に訳するのかということにポイントが置かれていると考えるべきであろう。前でも若干触れたが、油谷(2002)の場合、韓国語母語話者が外国語の日本語を韓国語に訳しているわけだから、出来上がった訳文にはことばの間違いはまずない。つまり、誤訳の原因は韓国語の表現にあるのではなく、原文の日本語がよくわからないか、日本文化に対する十分な理解が欠如していることにある。逆に金・大阪・千原(2019)や本稿で取り上げたような間違いは自分の母語を外国語である日本語に訳している場合は、一般的に原文に対する理解の間違いではなく、外国語の知識の欠如や文化に対する不十分な理解から誤訳が生じるわけである。

では、本稿の締めくくりとして、誤訳の原因とともにその防止策を次にまとめておく。

①自動翻訳機で翻訳するのは禁物だから、いくら簡単なものであっても自動翻訳機の翻訳を公の場面で使ってはいけな。冒頭で取り上げた「慎重に溺死」もおそらく機械による翻訳であろう。

②母語を他言語に翻訳する場合は、出来上がった原稿を必ず母語話者にチェックしてもらわないといけな。難しい翻訳の場合は母語話者の専門家(大学の教授や翻訳に携わっている人)に見てもらわないといけな。

③翻訳に当たっている人はもっと謙虚であるべきである。とくに母語を外国語に訳するときは、しよせん母語ではないので、自信があるからといって訳したものをそのまま公にするわけに

はいかない。

④自治体の管理部門では翻訳は簡単なものだから、外国語のわかる人ならだれでもできると勘違いし、翻訳を依頼するが多いが、ビジネスや簡単な通訳ならともかく、観光地におけるような大理石に刻み込んでいつまでも歴史に残る書きことばは慎重に慎重を期して翻訳しなければならない。

【主な参考文献】

- 今井洋子(2009)「翻訳書に現れた誤訳による日韓対照言語研究の試み—日本語教育への提言」『京都産業大学論叢人文科学系列』40、p.1-14
- 金永昊・大阪奈末子・千原佳穂(2019)「観光資料の韓国語訳における誤訳分析」『東北学院大学教養学部論集』第18号、pp.137-154
- 油谷幸利(2002)「誤訳に基づく日韓対照研究」『言語文化』第5巻1号、pp.75-92
- 李東哲(2018)「中国日语教育界の日漢-漢日互译偏误分析研究之管窥」『东北亚语言研究』2018年第一期、pp.77-84

日本語における主題の省略の中国語訳についての一考察

- 『ノルウェイの森』とその訳本を例に-

劉澤軍（天津外国語大学）

0.はじめに

小川（1990）では『伊豆の踊子』の例を挙げ、日本語の主題の省略に関する中国語訳の問題点について次のように指摘している。

（1）はしけはひどく揺れた。踊子はやはり唇をきつと閉ぢたまま一方を見つめてゐた。私が縄梯子に捉まらうとして振り返つた時、（ ϕ 踊子は）さよならを言はうとしたが、それも止して、もう一ぺんただうなづいて見せた。はしけが歸つて行つた。（川端康成『伊豆の踊子』）

（1）' 舢板摇晃得很厉害，歌女还是紧闭双唇向一边凝视着。我抓住绳梯回过头来，想说一声再见，可是也没有说出口，只是又一次点了点头。舢板回去了。

（侍桁訳『伊豆的歌女』）

（1）' の翻訳のミスについて、小川（1990:1）では、日本語の主題の省略が原因でもともと（1）で「さよなら」を言ったのは「（ ϕ 踊子）」で、中国語訳

（1）' の“我（わたし）”ではないと述べている。

Li & Thompson（1976:400）の主題と主語に関する言語の分類によると、中国語と日本語はともに主題卓越言語の一種であるため、多くの共通点がある一方、実際に翻訳の場合、意外に主題の省略及び復元に関するミスや不適切な訳し方がしばしば見られるそうである。以上の結果を受け、本研究では、村上春樹の『ノルウェイの森』をST（Source Text）に、林少華の中国語訳本『挪威的森林』をTT（Target Text）に、形式と意味という二つの視点から主題の省略に関する翻訳前後の一致度を明らかにしようとする。

1.主題の省略に関する翻訳前後の一致度について

本研究では主題の省略に関する翻訳前後の一致度を形式上の一致度と意味上の一致度に分ける。詳しくいうと、形式上の一致度は次のようなものに該当する。

ST（主題の省略）→TT（主題の省略）

そうでなければ、形式上の不一致と見なす。詳しくは次のようなものに該当する。

ST（主題の省略）→TT（主題の不省略）

意味上の一致度は次のように規定する。

ST（省略された主題）→TT（復元された主題と一致）

逆に省略された内容と翻訳後の復元された内容が一致していない場合、意味上の不一致とみなす。詳しくは次のようなものに該当する。

ST（省略された主題）→TT（復元された主題と不一致）

それぞれの具体例は略。

2. データの概要

STとTTのデータをまとめると、次のような結果が得られる。

表1 STとTTのデータの概要について

項目	ST	TT	減少割合 (TT/ST)
字の数	約29.61万	約19.76万	0.667
文の数	7020	6262	0.892
主題省略の回数	790	647	0.819

表1から翻訳前後、字の数と文の数と省略の回数のいずれも減少傾向にあるということが分かる。

3. 主題の省略の翻訳の分類について

主題の省略の翻訳の分類について、主題の省略の処理の仕方と主題の省略の訳し方の二種類に分けることができる。それぞれは次のようである。

まず、主題の省略の処理の仕方について、それぞれ「省略-省略型」、「省略-顕現型」、「省略-ゼロ主題型」、「省略-未翻訳型」の四つに分けられる。

- 1) 「省略-省略型」とは、STは主題の省略で、TTも主題の省略というパターンを指す。
- 2) 「省略-顕現型」とは、STは主題の省略で、TTは主題の顕現というパターンを指す。
- 3) 「省略-ゼロ主題型」とは、STは主題の省略で、TTはゼロ主題というパターンを指す。
- 4) 「省略-未翻訳型」は、STは主題の省略で、TTは翻訳されていないというパターンを指す。

次に主題の省略の訳し方について、それぞれ「そのまま復元翻訳」、「部分的にそのまま復元翻訳」、「そのままでない復元翻訳」の三つに分けられる。

- 1) 「そのまま復元翻訳」とは、省略された主題をそのまま復元し、翻訳するというパターンを指す。
 - 2) 「部分的にそのまま復元翻訳」とは、省略された主題を部分的にそのまま復元し、翻訳するというパターンを指す。
 - 3) 「そのままでない復元翻訳」とは、省略された主題をそのままでなく復元し、翻訳するというパターンを指す。
- それぞれの具体例は略。

4.主題の省略の翻訳前後の一致度についての分析

主題の省略についての分析にあたり、形式と意味という二つの視点から行うことにする。まず、形式上の一致度について次のようなものである。一つ目は省略前後の回数の変化で、二つ目は省略に関わる文の数の変化である。それぞれの結果は表2と表3のようである。

表2 STとTTにおける省略前後の回数の変化

パターン	処理回数	割合
省略-省略型	386	48.86%
省略-顕現型	386	48.86%
省略-ゼロ主題型	0	0%
省略-未翻訳型	3	0.38%
省略-省略+顕現	3	0.38%
省略-顕現+省略	11	1.39%
省略-顕現+省略+顕現	1	0.13%
合計	790	100%

表2から省略-省略型（48.86%）と省略-顕現型（48.86%）が同じ割合であることが分かる。ほかのパターンは相対的に数が少ない。形式上の一致度の規定に従って判断すると、省略-省略型は一致型で、ほかの六つはすべて不一致型である。その結果、STとTTとの一致型は48.86%で、不一致型は51.14%となる。両者の間には僅差があるが、不一致型の割合は一致型よりやや高いことが分かる。

表3 STとTTにおける省略に関わる文の数の変化

パターン	処理回数	割合
文の数の不変型	666	84.30%
文の数の増加型	36	4.56%
文の数の減少型	88	11.14%

表3から文の数の不変型（84.30%）は最も高く、文の数の増加型（11.14%）と文の数の減少型（4.56%）はそのあとに次ぐが、いずれも割合の低いことが分かる。形式上の一致度の規定に従って判断すると、文の数の不変型は一致型で、ほかの二つはすべて不一致型である。その結果、一致型は84.30%で、不一致型は15.70%となる。両者の間には大きな差があり、一致型の割合は遥かに不一致型を上回っている。

次に意味上の一致度について次のようなものである。一つ目は省略された名詞句の分類であり、二つ目は省略の訳し方である。それぞれの結果は表4と表5のようである。

表4 STとTTにおける省略された名詞句の構成

主題の構成	ST使用回数	ST割合	TT使用回数	TT割合
再帰代名詞	6	0.76%	5	0.63%
固有名詞	84	10.63%	71	8.99%
固有名詞（+動詞）	1	0.13%	1	0.13%
名詞フレーズ	82	10.38%	49	6.20%
普通名詞	11	1.39%	27	3.42%
人称代名詞	514	65.06%	526	66.58%
人称代名詞（+動詞）	28	3.55%	21	2.66%
人称代名詞フレーズ	5	0.63%	2	0.25%
数量詞	2	0.25%	7	0.76%
数量詞フレーズ	9	1.14%	11	1.39%
指示詞	15	1.90%	23	2.91%
指示詞（+動詞）	0	0%	6	0.76%
指示詞フレーズ	33	4.18%	36	4.56%
指示詞フレーズ（+動詞）	0	0%	2	0.25%
未翻訳	0	0%	3	0.38%
合計	790	100%	790	100%

表4から、STの上位五種類はそれぞれ人称代名詞（65.06%）、固有名詞（10.63%）、名詞フレーズ（10.38%）、指示詞フレーズ（4.18%）、人称代名詞（+動詞）（3.55%）で、TTの上位五種類はそれぞれ人称代名詞（66.58%）、固有名詞（8.99%）、名詞フレーズ（6.20%）、指示詞フレーズ（4.56%）、普通名詞（3.42%）である。TTありSTなしのパターンは、指示詞（+動詞）（0.76%）、指示詞フレーズ（+動詞）（0.25%）と未翻訳（0.38%）である。STとTTを比べると、最も使用回数が高いのはともに人称代名詞で、また上位四種類も全く同じ、割合も近いということが分かる。五種類目以後は、少し差が出てきており、また特別なパターンも出てきているが、全体に占める割合が低い。意味上の一致度の規定に従って判断すると、STとTTはこの点でより高い一致性を得ていると言えよう。

表5 STとTTにおける主題の省略の訳し方

翻訳のパターン	使用回数	割合
そのまま復元翻訳	641	81.14%
部分的にそのまま復元翻訳	43	5.44%
そのままでない復元翻訳	106	13.42%
合計	790	100%

表5から、そのまま復元翻訳（81.14%）、そのままでない復元翻訳（13.42%）、部分的にそのまま復元翻訳（5.44%）という順になっている。意味上の一致度の規定に従って判断すると、そのまま復元翻訳（81.14%）、部分的にそのまま復元翻訳（5.44%）は一致型で、そのままでない復元翻訳（13.42%）は不一致型である。その結果、一致型は86.58%（81.14%+5.44%）で、不一致型は13.42%となる。両者の間には大きな差があり、一致型の割合は遥かに不一致型を上回っている。

5.主題の省略の翻訳前後の不一致及び要因について

第4章で形式上と意味上という二つの視点から一致度についての分析を行ったところ、いずれも高い一致度を保っており、形式上より意味上のほうがさらに上であることが分かる。ただし、不一致の場合も現れている。その要因について詳しくいうと、少なくとも以下の五つにあると思われる。

1)省略 - 顕現型の多用

不一致の省略 - 顕現型は48.86%で、高い割合を占めている。

2)文の数の減少

元々の文が訳文の一文節になっている。

3)文の類型の変化

文の成分の昇格などにより翻訳前後の文の種類が変わる。

4)主題の属性の変化

翻訳前後、省略された主題の構成が変わる。

5)復元内容に対する理解の差

省略された主題の内容についての理解が違ったまま復元している。
それぞれの具体例は略。

6.おわりに

本研究は『ノルウェイの森』とその中国語の訳本を例に、日本語における主題の省略を中国語に訳す際、どのように取り扱われているのかについて形式と意味という二つの視点から質的と量的な研究を試みたものである。結論は以下の二点にまとめることができる。

(1) 主題の省略に関する翻訳において、訳本と原本との一致度が高く保たれているが、意味上のものより形式上のもののほうがより高いという傾向が見られる。

(2) 主題の省略に関する翻訳において、訳本と原本との不一致の使用例もある。その要因は少なくとも「省略一顕現型の多用」「文の数の減少」「文の類型の変化」、「主題の属性の変化」及び「復元内容に対する理解の差」という五つにあると考えられる。

例文出自

『伊豆の踊子』, 川端康成, 『川端康成集』, 筑摩書房, 1955

『伊豆的歌女』, 侍桁訳, 上海訳文出版社, 1981

『ノルウェイの森』村上春樹, 講談社, 1987

『挪威の森林』, 林少華訳, 上海訳文出版社, 2001

参考文献

- [1] 小川泰生. 日中対照研究: 主語の省略について(1) 本論篇[J]. 広島大学総合科学部紀要言語文化研究, 1990, V(15): 1-19
- [2] 小川泰生. 日中対照研究: 主語の省略について(二) 資料編[J]. 中国中世文学研究, 1991, (20): 200-215
- [3] 久野暉. 日本文法研究[M]. 大修館書店, 1973
- [4] 久野暉. 談話の文法[M]. 大修館書店, 1978
- [5] 宋协毅. 「語り」の日本語を中国語訳する場合の諸問題[J]. 東アジア日本語教育・日本文化研究, 2018, 21: 73-88
- [6] 庭三郎. 現代日本語文法概説 (ネット版) [M]. <http://www.geocities.jp/niwasaburoo/shuyoumokuji.html> , 2014
- [7] 穆欣. 日本語、韓国語、中国語の主語の省略について: 川端康成『伊豆の踊子』の原文と翻訳文を検討材料として[J]. 異文化研究, 2013, 7: 31-42
- [8] 杨敏. 現代翻訳作品における主語の省略と顕現化について—日本語原書とその中国語訳を題材に[J]. 日本語教育における日中対照研究・漢字教育研究, 2015: 439-454
- [9] 曹逢甫. 主题在汉语中的功能研究—迈向语段分析的第一步[M]. 谢天蔚译, 语文出版社, 1995
- [10] 曹逢甫. 汉语的句子与子句结构[M]. 王静译, 北京语言大学出版社, 2005
- [11] 邓园. 日语的主语省略以及与汉语和英语的比较—以《雪国》及其译本为中心[D]. 广西大学硕士论文, 2006
- [12] 胡伊. 日语主語省略句翻译方法—以《京都百话》(节选) 翻译实践为例[D]. 四川外国语大学硕士论文, 2016

- [13] 石定栩.汉语主题句的特性[J].现代外语,1998,(2):40-57
- [14] 刘泽军.关于省略的日语主题的中文翻译研究[J].語言文化学刊,2016,(3) : 81-88
- [15] 刘泽军.主题日译与话语体系构建[M].上海交通大学出版社,2017
- [16] Li,Charles N.and SandraA. Thompson.Subject and topic:A new typology of language. Subject and topic[J],ed.by Charles N.Li, New York:Academic Press. 1976:459-470

日本語と中国語における災害用語の形態論的考察

黄勇（中国浙江師範大学）

1.はじめに

災害大国と呼ばれる日本には災害に関する言葉が豊富に存在する。その中で、よく使われる災害用語には、形態素「災」・「害」・「禍」をもつ合成語がある。例えば、「火災」、「水害」、「コロナ禍」はそれぞれに相当する語例である。一方、中国語の場合も、形態素「灾」・「害」・「祸」をもつ合成語が数多く見られる。具体例としては、「火灾」、「虫害」、「车祸」がよく挙げられる。

このような事例から、日中両言語において、形態素「災/灾」・「害/害」・「禍/祸」を用いた合成語には同形同義語が存在する場合もあれば、そうでない場合もあることがわかる。例えば、同形同義語には「火災」が挙げられる。しかし、日本語の「水害」は、中国語では「水灾」と言うのが一般的である。そのほかに、日本語の「人災」や「老害」といった合成語も中国語にはあまり見られない。

そこで、本研究では、日中両言語における形態素「災/灾」・「害/害」・「禍/祸」に焦点を当て、用例分析を通じて、日本語と中国語の間の対応と非対応の法則性を見出し、結合力における異同も明らかにする。

2.「災/灾」・「害/害」・「禍/祸」の意味

まず、日中両言語における「災/灾」・「害/害」・「禍/祸」それ自体の意味を『明鏡国語辞典 第三版』（以下『明鏡3』）と『現代汉语辞典 第7版』（以下『现汉7』）の2点の辞書から整理したい。

2.1日本語の「災」・「害」・「禍」について

表1 『明鏡3』での「災」・「害」・「禍」の辞書記述

漢字	意味	用例
【災】	(造)わざわい。(自然が引き起こす)悪い出来事。	災害、災難、火災、震災、防災、被災地
【害】	■[名]そこなうこと。悪い影響や結果をもたらすこと。わざわい。	害を受ける、害虫、被害、災害、公害

	二 (造) ①邪魔をする。さまたげる。さまたげ。 ②傷つける。	①障害、妨害 ②危害、殺害
【禍】	(造) わざわい。災難。	禍根、禍福、 惨禍、戦禍、 筆禍

辞書での意味記述を見ると、「害」には、わざわいの意味以外に、邪魔をすることや傷つけることを意味する造語成分としての使われ方もある。本研究では、災害用語を考察対象とするため、「害」の意味記述の項目二を除外することにする。

また、興味深いことに、「災」・「害」・「禍」はわざわいという訓読みを共有するが、音読みの場合は、「災」と「禍」は造語成分として語の一部としかならないのに対して、「害」は語の一部となることもあれば、単独で自立することもある。本研究では、わざわいの意味を表す「災」・「害」・「禍」を含む合成語のみを対象とする。

2.2中国語の「災」・「害」・「禍」について

表2 《現漢7》での「災」・「害」・「禍」の辞書記述

漢字	意味	用例
【災】	☐☐災害 ②个人遭遇的不幸	☐旱灾 水灾 防灾 救灾 灾区 灾年 这一带去 年糟了灾。 ②招灾惹祸 没病没灾
【害】	☐☐祸害；坏处（跟“利、益”相对） ②有害的（跟“益”相对） ☐☐使受损害 ④☐☐杀害 ⑤☐☐发生（疾病） ☐发生（不安的情绪） ☐☐方 ☐☐妨碍	☐灾害 虫害 为民除害 吸烟对身体有害。 ②害虫 害鸟 ☐害人不浅 你把地址搞错 了，害得我白跑了一趟。 ④此人在数日前被害。 ⑤害眼 害了一场大病。 ☐害羞 害怕 ☐害事 害着你什么了？
【祸】	☐☐祸事；灾难（跟“福”相对） ②损害	☐祸福、车祸、闯祸、大祸 临头 ②祸国殃民

上記の意味記述から、中国語の「災」・「害」・「禍」は三つとも独立して用いられることが見て取れる。また、日本語と比べると、中国語の「害」はわざわいの意味以外の意味項目が圧倒的に多い。本研究では、中国語の「害」の意味項目☐-☐を考察対象外とする。

3. 「災/災」・「害/害」・「禍/禍」を含む合成語

次に、『明鏡3』と《現漢7》との2点の辞典を通覧して、「災/災-」・「害/害-」・「禍/禍

-」と「-災/災」・「-害/害」・「-禍/禍」という合成語を収集し、そこにはどのような特徴が見られるのかを取り上げることにしたい。

3.1前部分となる「災/災」・「害/害」・「禍/禍」

3.1.1日本語の場合

表3 前部分となる「災」・「害」・「禍」の語例

災-	災禍、災害、災難、災厄
害-	害獣、害虫、害鳥、害毒
禍-	禍害、禍根、禍福

上記の語例を分析してみると、次のような特徴が見られる。

①「災-」・「害-」・「禍-」の後部分の語種としては、一字漢語が一般である。

②結合関係では、「災-」は並立関係のみである。「害-」・「禍-」は、並立関係も連体修飾関係も存在する。

3.1.2中国語の場合

表4前部分となる「災」・「害」・「禍」の語例

災-	灾变、灾害、灾患、灾荒、灾祸、灾民、灾难、灾情、灾区、灾殃、灾异
害-	害虫、害鸟
祸-	祸根、祸害、祸患、祸乱、祸事、祸首、祸水、祸祟、祸胎、祸殃

上記の語例を分析してみると、次のような特徴が見られる。

①「災-」・「害-」・「禍-」の後部分の音節としては、一音節が一般である。

②結合関係では、「害-」は連体修飾関係のみである。「災-」・「禍-」は、並立関係も連体修飾関係も存在する。

3.1.3両言語の対応と非対応

「災禍」のような並立関係をもつ語例や、「害虫」のような連体修飾関係をもつ語例は基本的に対応している。一方で、受身の意味が含意される中国語の「灾民」や「灾区」などは日本語と対応していない。

3.2後部分となる「災/災」・「害/害」・「禍/禍」

3.2.1日本語の場合

表5 後部分となる「災」・「害」・「禍」の語例

-災	火災、震災、人災、戦災、息災、天災、被災、変災、防災、罹災、労災
-害	塩害、煙害、禍害、干害、寒害、公害、光害、災害、惨害、実害、食害 水害、雪害、損害、風水害

-禍	黄禍、災禍、惨禍、水禍、舌禍、戦禍、筆禍、葉禍、輪禍
-----------	----------------------------

上記の語例を分析してみると、次のような特徴が見られる。

①「-災」・「-害」・「-禍」の前部分の語種としては、一字漢語が一般であるが、少数ながらも「風水害」のような前部分が二字漢語である語例も存在する。また、『明鏡3』に収録されていないが、「コロナ禍」や「ワクチン禍」のような前部分が外来語である語例も見られる。

②結合関係では、全体的に見ると、連体修飾関係が一般であるが、「災害」のような並立関係をもつ語例もあれば、「防災」のような補足関係をもつ語例もある。

③「Xによる災害」という意味を表す合成語においては、「-害」の造語力は「-災」と「-禍」より強い。

3.2.2中国語の場合

表 6 後部分となる「災」・「害」・「禍」の語例

-災	白災、雹災、备災、兵災、虫災、冻災、飞災、风災、股災、旱災、黑災、洪災、蝗災、火災、減災、救災、抗災、涝災、凌災、闹災、沙災、受災、霜災、水災、天災、消災、雪災、招災、賑災、震災
-害	病害、虫害、敌害、冻害、风害、公害、洪害、祸害、涝害、冷害、沙害、霜害、水害、灾害、病虫害
-禍	惨禍、车祸、闯祸、匪祸、贾祸、横祸、惹祸、人祸、外祸、遗祸、灾祸、战祸、肇祸

上記の語例を分析してみると、次のような特徴が見られる。

①「-災」・「-害」・「-禍」の前部分の音節としては、一音節が一般であるが、少数ながらも「病虫害」のような前部分が二音節である語例も存在する。

②結合関係では、全体的に見ると、連体修飾関係が一般であるが、「災害」のような並立関係をもつ語例もあれば、「救災」のような補足関係をもつ語例もある。

③「Xによる災害」という意味を表す合成語においては、「-災」の造語力は「-害」と「-禍」より強い。

3.2.3両言語の対応と非対応

「Xによる災害」という意味を表す合成語では、両言語は重なる部分が多いが、日本語の場合は「-害」の方が優勢であるのに対し、中国語の場合は「-災」の方が優勢である。また、日本語では、外来語が「-禍」と結合して形成された新語が見られるが、中国語では、このような現象があまり見られない。

4.おわりに

本研究では、日中両言語における形態素「災/災」・「害/害」・「禍/禍」を含む合成語の特徴

について検討した。同じく漢字文化圏に属しているため、わざわざの意味を表す合成語の構造に類似した点が多く見られた。一方、両言語には独自の結合パターンも存在することもわかった。なぜ独自の結合パターンが生じたのかについては、通時的な考察をしなければならないため、今後の課題とする。

【参考文献】

- 飯田寿子(2002)「並立関係をもつ合成語の特徴：二構成要素での結合関係を中心に」『言語科学論集』(6)pp.25-36
- 北原保雄編(2021)『明鏡国語辞典 第三版』大修館書店
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室編2020《现代汉语词典》商务印书馆
- 野村雅昭(1973)「現代漢語の語構造」『現代の漢字漢語』pp.13-22
- 山下喜代(1994)「語の構成要素：国語辞典における「造語成分」について」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』(6)pp.71-102

「言わない」ことに関する日韓比較

—日本語母語話者が「無視」と感じた事例から—

持田祐美子(平澤大)

1. はじめに

日本語の「無視する」と韓国語の「무시하다」は、同一の漢字〔無視〕を用いた「スル動詞 / 하다동사」である。これを見ると、意味も同一に思えるが、韓国語のインターネットサービスの辞書 (NAVER어학사전: <https://dict.naver.com/>) には、次のように説明されている。

1. 사물의 존재 의의나 가치를 알아주지 아니하다. (신호등을 무시하고 길을 건너다.)

執筆訳：物事存在の意義や価値を認めない。(信号を無視して道を渡る。)

2. 사람을 깔보거나 업신여기다. (사람을 그렇게 무시하면 못쓴다.)

執筆訳：人を侮って馬鹿にしたり見下したりする。(人をそのように~~무시~~〔無視〕してはいけない。)

2番目の意味は、日本語の「無視」とは全く違うとまでは言わずとも一致しているとは言い難い¹⁾。

このように直訳が可能なことば同士においても内包する意味が違うように、基本的に同じ価値を持つ言語行動が、状況や頻度や現れ方により違う受け取られ方をしてしまうのは想像に難くない。本研究は、その言語行動の中でも、「言わない」こと、特に日本語母語話者が「無視」と感じた事例に注目するものである。なお、本研究における「無視」とは、対人コミュニケーションにおいて、何らかの反応が求められる時にそれがなされないことと定義する。

2. 先行研究

任・井出 (2004: 108) は「沈黙のストラテジー」と題して日韓比較を行っている。「自分が間違っていないのに関わらず叱られる」という状況において、どのように反応するかを調べた結果、このような状況下において、相手が目上の人であった場合のストラテジーとして (たとえそれが家族であったとしても)、韓国人においては「沈黙」が比較的多く用いられるということが明らかにされた。

1) 「(この店のトーストが) 安くても無視しないでください (<https://comm.konest.com/topic/40769> 1)」のような、母語干渉による不自然な日本語の例も見られる(検索日: 2021.08.04.)。

韓国語母語話者の用いる「沈黙のストラテジー」については、生越（2012:178）も述べている。感謝表現の場面や、他人のものを借りたり使ったりするときの言語行動を調査し、日韓で比較すると、韓国人は特に近い間柄において「わざわざ言わない」ことがあるという結果であった。

新井(2016:31-34)によると、日常のコミュニケーションにおける無言行為の受け入れ度合いは主体としても客体としても日本より韓国の方が高いことが示唆されている。注目すべき点として、特に客体の視点から見ると日韓差は顕著であり、つまり、韓国在住者は、無言行為をされる事はある程度受け入れても、自分が無言行為を行うことには強い抵抗感を持つ(それでも日本在住者に比べると許容度は高い)ということである。また、世代差についても、韓国の場合は主体としての回答に年齢差はほとんどみられないものの、客体としての回答は年齢差、つまり、年齢層が高くなればなるほど客体としての無言行為を受け入れる割合が明らかに高くなっていることが確認されたという。

以上、「反応がない」ことについて先行研究を概観した。

3. 調査

3.1 調査背景および簡易調査

例えば、韓国では、「返答をしない」ということがよく見られる（例：タクシーや食堂、間違い電話など）。これらは日本では考えにくい態度であり、また、決して望ましい態度でもない。ただし、韓国語母語話者の若年層30人（首都圏出身者・大学生）に「間違い電話をかけた時どうしますか」という内容の簡易質問調査をしたところ、100%が謝るべきであると答えた（2020.12に調査。自由記述による回答）。つまり、韓国語文化においても望ましくないことであるのは確かであると言えよう。これには、前述の新井(2016)にあるような「主体と客体の意識のずれ」や世代差が大きく存在すると考えられる。

以上のことから、アンケート調査のように規範意識が影響するものではなく、実態がどうか、また、日本語母語話者がその「実態」に関してどのように感じるかを調べることにした。

そこで、さらに予備調査として、2021年3月から8月の期間に在韓5年以上の日本語母語話者を対象に「韓国で生活していて、“反応がなかった”ことで困った経験はありますか」という質問紙調査をしたところ、60人中、45人がなんらかの場面において「ある」と回答した。これにより、日本語母語話者が韓国語母語話者と接する場面において、「反応がない」事例が一定数想定されることと、韓国語母語話者の「反応がない」ことが日本語母語にとってマイナスの心象をもたらす可能性が示唆された。

3.2 本調査・調査方法

「コネスト」内において時系列の並べ替えが設定できる「コミュニティ

(<http://comm.konest.com/>)」のページを対象とする。検索用語としては、「無視」ということばを選定した。そして、直近の動向を探るべく2015年から2019年（2020および2021年はコロナ禍の影響を考慮すべきであると考えため）までを対象期間とした。また、調査（検索および抽出）は2021年の3月から8月にかけて随時行われた。

抽出された「無視」の中には、本研究とは関連が薄いものも含まれる。本研究における「無視」とは、対人コミュニケーションにおいて何らかの反応が求められる時にそれがなされないことであるため、それ以外の事例については対象外とした。

また、「無視したほうが良いです」のように、本人の実体験ではないものも対象外とし、さらに「隣の人が係の人に～」のように第三者としての書き込みも対象外とした。

最後に、書き込んだ側（日本語母語話者側）がサービス従事者を「無視した」という事例も一定数確認されたが、そのすべてが強引な客引きや詐欺の気配に警戒してのことであり、日韓言語行動の一考察としては、少なくとも本研究において適切ではないと判断し、対象外とした。

3.3 調査結果・集計

検索ワード「無視」でヒットした検索結果は全957件であった。このうち、本研究において設定した期間である2015年から2019年に該当するものは488件であり、本研究と関連がない、あるいは薄いと考えられるもの（前節）を除くと、抽出されたデータは91件となった。

この91の事例にそれぞれ番号を振り、投稿日時、ヒットした検索ワード「無視」を含んだ一文、何に対する「無視」なのか、などについて項目を作り、セルに入力していった。

興味深い点として、何に対する「無視」なのかについて、具体的な対象が不明確なものが一定数見られた（詳細は後述）。

上記を鑑み、「対人コミュニケーションにおいて、何らかの反応が求められる時にそれがなされないこと」という本研究における「無視」の定義に、(A) 対人コミュニケーションにおいて一方が起こした何らかのアクションに対する反応・応答がないこと (B) 明確なアクションはなくても、一方がもう一方に何らかの反応を欲する時にそれがなされないこと、という二つの下位定義を定め、項目を追加した。

なお、抽出された事例は、基本的には一つの投稿につき一つの「無視」の事例（ヒット数ではなく事例としてカウントした）であり、一つの書き込みに2つの事例が見られたのは1件の書き込みだけであった。

4. 考察・分類

4.1 「無視」された側のアクションの有無

前述の通り、「無視」の事例において二つの下位定義を定めた。全91件の中で (A) 55件、(B)

32件、混合・その他²⁾ 4件であった。

つまり、3分の1以上が本人による明確なアクションがない状況において、「無視」されたと書き込みを行ったということである。

この点について本研究執筆者は「挨拶ことば」「指摘」「困っている状況」「説明」「質問」「△要求」「▲要求」「話しかける」「(接客)」という項目に分類し、集計を試みた(項目の詳細については発表資料のスライドを参照されたい)。

<表2> 何に対する無視なのか

(A)	挨拶	指摘	話しかける	説明・提示	質問	△要求	▲要求	(A)計
	8	6	2	2	6	29	2	55

(B)	困っている	(接客)	(B)計	その他	(A) + (B) + その他=合計
	5	27	32	4	91

4.1.1 (A) の場合

(A) (=対人コミュニケーションにおいて一方が起こした何らかのアクションに対する反応・応答がないこと)は55件が該当した。特に、本稿においては件数の多い「挨拶」(8件)と「△要求」(29件)について述べる。

29件という(A)の中で一番多い事例となったのは「△要求」であった。例えば、注文のために呼びかけや、注文したが無視された(料理は来た)、などが主な事例である。

朴(2001:82)や盧(2012:73)においては、不満表明の場面における言語行動について述べているが、韓国語母語話者は「目的達成」の指向性が高いことが指摘されている。上記の事例・結果は、料理を出すというような「目的達成」が、要求発話に対する返答(反応)よりも指向されたと考えることができよう。

接客場面の特に注文のような場面において、ことばや態度による「反応」がないことは、韓国でも決して望ましい態度ではないかもしれないが、この「目的達成」の指向性が比較的高いために、「反応」の優先順位が日本語母語話者に比べて低くなってしまうことは想像に難くない。

次に、8件の事例が抽出された「挨拶」に関してである。紙幅の関係上、発表時に提示する図を参照されたい。韓国の検索サイト「Naver」を用い、挨拶に対して挨拶を返さないことを意味する韓国語「인사 안 받아」(活用を考え終止形や辞書系ではない[받아]で検索)で検索を試み、出てきた結果の画面である。有名人を非難する内容が複数上位の検索画面に上がっていることが分かる。つまり、「挨拶」に関して無反応であることは韓国においても日本と同様に無礼な態度であることが明白であり、8件という件数も決して多いものではない(相対的には2番目だとしても)ため、本稿においてもこれ以上の考察はしない。

以上、明確なアクションへの反応がない場合について見てきた。このような場合、日本語母語

2) 例) 引用文=「英語のみのスタッフで(中略)一方的に話し続け呆然として日本語で聞こうとしても無視してチェックインさせられて(後略)」。日本語の担当者がいるにも関わらず対応してもらえなかったという事例。「聞こうとしても」という一文についてアクションがあったのかどうか判断が微妙である。

話者はどう受け取るだろうか。簡易調査においては、タクシー乗車時に行き先を告げても返答（反応）がないことについて「ちゃんと聞こえたのか不安」のように挙げた被験者が複数存在した。似たものとしては、「電話口等で相手のあいづちがないために聞こえているのか不安になる」といった記述が複数件見られた。「聞いているのか不安」「聞こえているのか不安」といった感想は、発表者が韓国滞在経験のある日本語母語話者や在韓日本語母語話者からよく聞くことでもある。

これに関しては「あいづち」に関する既存の研究から考察したい（本発表は「あいづち」を「反応」の一つとして捉える。予備調査における回答に「あいづち」に関する体験談が多いことから妥当と考える）。

任・井出(2004:62)によると、日本人にとってのあいづちについて、「共和の雰囲気作りのシグナル」であるとしている。の中で、相手の話していることに賛同できない時には、韓国語母語話者はあいづちを打たなくなり、日本語母語話者は同じ状況下でむしろあいづちが増えるという結果が報告されている。

この反対の事例として、予備調査において、「“うんうん”って言ってるけどちゃんとわかってるの?」と、韓国語母語話者から言われたという日本語母語話者の経験談が得られた。

つまりは、韓国語母語話者においては、あいづちを含めた「反応」が、「賛同」だけではなく「承諾」や「了解」のサインであると考えることができ、日本語母語話者においては、あいづちも含めて相手のアクションに対して「反応する」という行動は、賛同や承諾のサインというよりは、「聞いている」あるいは「聞こえている」ことのサインであると結論付けられる。そうであるから、自分のアクションに対して相手の反応がないときに「聞こえているか不安」という感情を抱かせてしまうのであろう。

4.1.2 (B) の場合

明確なアクションがない事例は32件が抽出された。「困っている状況」5件、「（接客）」27件である。

氏家(1996:69)には日本語文化について次のような記述がある。「「言う必要がない」から、また、「言わなくもわかる」から、「言わない」、社会である。（中略）聞き手は察することができる。言わないこと、察することに価値がおかれる。状況共有者間での言葉の在り方と言えよう。」このように、日本語文化においては、直接的な声掛けや依頼などがなくても「察し」て声をかけて“もらう”ことを欲する傾向があり、本研究の結果を見ると、それがなされないと「無視」とまで感じてしまうことがあることが分かる。

上記のことは、依頼行動研究に対してもある種の示唆をあたえる。つまり、明確に言語化された部分のみを「依頼行動」とすることが適切であるのかという素朴な疑問が生じるからである。この点に関しては本研究の趣旨からは外れるのでこれ以上の記述は控える。

そして、一番多かった「（接客）」であるが、これは日本語文化において「挨拶ことば」や「定型文」が重要視されることと密接に関係していることが考えられる。

井出(2006:74)では、あいさつや決まり文句について「そのような言語形式を使うことそのものがコンテキストを配慮した言語行動ということになり、それがポライトネスな言語使用となる」

と述べた。つまり、特に接客場面においては、だれかが入ってきたらサービス従事者側が「いらっしゃいませ（あいさつ・決まり文句）」ということが配慮された言語行動となり、それがなされないなら失礼な態度と受け取られ、「無視された」という感情まで起こさせてしまうのであろう。さらに、飲食店であれば、席に案内する、客が席についたら注文を取りに行く、といったスキーマが存在しており、その通りにならないことは配慮されていない、ポライトではない言動となることが予想される。

このほか、様々な場面において日本語文化では「決まった」形式の言語行動が好まれることが指摘されており、本研究は先行研究を補強するとともに、日本においては日本語の定型表現のみならず、「決まった」行動が言語と同じように期待され、ポライトな態度であると見なされる可能性を示唆するものとなる。

5. 考察と今後の課題

本研究の調査により、反応がないことを日本人は重く捉える傾向があることや、応答することは「聞いている」ことのサインであること、明確なアクションがなくても反応や対応を求める場合が少なくないこと、それらが得られない場合に「無視された」と感じてしまうことがあることなどが確認され（つまり、「無反応」「無視」をどのように捉えるかについて日韓で差があり）、こういったことは文化摩擦が生じかねない部分でもある。

「無反応」が韓国語文化においても望ましくないのはきっと確かだろう。しかし、日本語母語話者と比較したときに、韓国語母語話者の「無反応」への“タブー度”は低いと見てよいと思われる。それにより、例えば対日本人の接客・ビジネス場面において、日本語母語話者に不安を抱かせたり良くない印象を与えてしまうことが懸念される。

こういった点は教育の場面にも還元されるべきである。「どのように言うか」のみが目目され、「言わない」態度については扱われにくいことは現場教員の共通理解ではないだろうか。

また、依頼行動研究について、明確に言語化された部分のみを対象とすることが適切であるのかという疑問が生じ、現行の依頼行動研究に再考の余地があることが明らかになった。

さらに、冒頭で挙げた日本語の「無視（する）」と韓国語の「 무시 (하다)」についても、本研究の結果からさらに考察を深めることができよう。本研究の調査においては、調査結果として挙げた事例の他に、「コスト無視で」「タオルに長い髪の毛がささっていました。無視しましたが。」のように、“気にしない”というニュアンスでの用法が多く見られた。本研究においては対“人”ではないために本文中で考慮することはしなかったが、このような例も対象言語学的なアプローチによりさらなる理解が可能になるだろう。後続研究に期待したい。

【参考文献・URL】 紙幅の関係上、割愛させていただく

日本語会話授業におけるシャドーイング練習と 学習者の反応

－ OPI レベルにもとづいて －

迫田亜希子（明知大）

1. はじめに

シャドーイングとは、「聞こえてくるスピーチに対してほぼ同時にあるいは一定の間をおいてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為、または聴解訓練法」である（玉井 1997）。

もともと同時通訳の訓練法として使われていたが、アクセント、イントネーションの改善、聴解力の向上、スピーキング力の向上、語彙・表現の習得、自主学習ができるなどの利点があることから（土井 2011）、英語や日本語などの外国語教育で幅広く取り入れられるようになってきた。韓国における日本語教育の現場でもさまざまなシャドーイングの研究が行われ、シャドーイングとその他の練習法の効果、シャドーイングを取り入れた自立学習授業とその学習効果、内省ノート分析などが中心に論じられてきた。

本発表では、大学でのオンラインによる日本語会話授業にシャドーイング練習を取り入れた授業の実践報告を行うとともに、OPI¹⁾ レベル別の学習者の反応について分析を試みる。

2. 先行研究

これまで韓国におけるシャドーイング研究の調査対象者のレベルは、JLPT・JPTのような資格試験のレベルや点数（張・倉持 2008）、大学の学年（佐久間 2015）、SPOT²⁾の得点（崔・趙 2018; 崔2019）などで判定されている。一方、OPIのレベル別の学習者を対象にした研究には高橋 他（2010）や古本・リード（2020）があるが、これらはJSL（第二言語としての日本語）環境の日本語学習者が対象になっており、韓国国内で日本語を学ぶようなJFL（外国語としての日本語）環境でOPIレベル別の学習者を対象にシャドーイング練習の反応を調べた研究は、管見の限り見当たらない。

1) OPI(Oral Proficiency Interview)は、ACTFL(全米外国語教育協会)が開発したテストで、外国語学習者の口頭能力の熟達度を、汎言語的能力基準を参照しながら対面のインタビュー方式で判定するテストである。（牧野 他 2020）

2) SPOTは、母語話者の自然な話速度の読み上げ文を聞きながら、回答用紙に書かれた各同文を読み、それぞれ1個所のひらがな1文字分の空欄(文法項目部分)に穴埋めディクテーションするというテストである。（筑波テスト集TTBJ 教師向け解説資料 日本語版）

そこで、本研究では韓国の大学で日本語を学ぶ日本語学習者に対し、日本語の会話授業で4ヶ月間シャドーイング練習を取り入れ、OPIレベル別に学習者がどのような反応を示したのか、授業終了後に行ったアンケートの回答記述をもとに分析することを目的とする。

3. 調査の概要

3.1 調査対象者

調査対象者は、韓国の大学に在学する日本語学習者で、大学3年生の日本語会話授業を履修した受講生18名のうち、調査協力の許可が得られた6名である（表1）。

表1 調査対象者の背景情報

	学習者A	学習者B	学習者C	学習者D	学習者E	学習者F
日本語 学習歴	7年	7年	8年	5年	3年	3年
OPI レベル	上級－中	上級－中	上級－下	中級－上	中級－上	中級－上
母語	韓国語					中国語

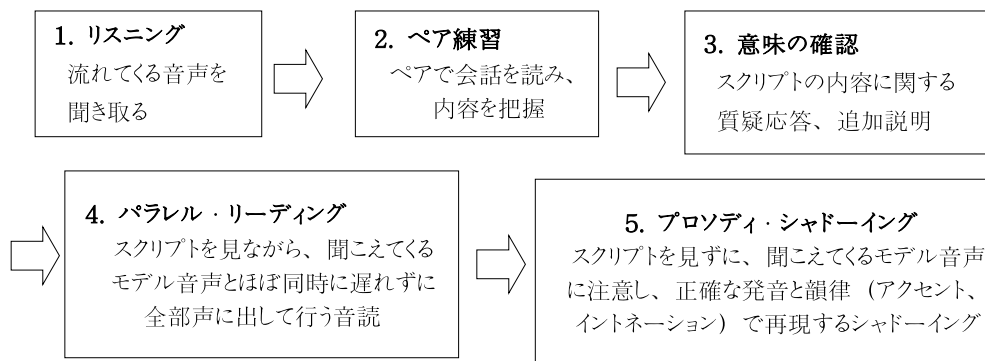
調査対象者には、学期開始時の2021年3月にOPIインタビューをZoomで実施し、OPIレベルおよびフィードバックなどのインタビュー結果をメールで送付した。学習者A,B,CはOPIの主要レベル³⁾では上級、学習者D,E,FはOPIの主要レベルが中級である。また、調査対象者の大半は母語が韓国語であるが、学習者Fのみ中国語である。

3.2 日本語会話授業でのシャドーイング練習

日本語会話授業は2021年3月から6月まで4ヵ月間行われ、1週間に2回、1回75分間の授業であった。シャドーイング練習は週の第1回目の授業にて開始後15分間、以下のような流れで行った。

3) OPIレベルは、超級・上級・中級・初級の4つの主要レベルに加え、上級・中級・初級の主要レベルは、さらに「－上」「－中」「－下」のサブレベルに細分化され、全10レベルで判定される。

授業開始前：LMS上にアップロードしたシャドーイングスクリプトを学習者が事前にダウンロード



3.3 授業終了後アンケート

日本語会話授業の全授業終了後、受講生にシャドーイング練習に関するアンケート調査を行った。そのうち、本発表で扱うアンケート項目は

1. 쉼도잉 연습은 일본어회화 능력 향상에 효과가 있다고 생각합니까? 이유는?
(シャドーイング練習が日本語会話能力向上に効果があるか。)
2. 교사의 피드백은 쉼도잉 연습에 도움이 되었습니까? 이유는?
(教員のフィードバックがシャドーイング練習の助けになったか。)
3. 쉼도잉 연습을 통해 자신의 말하는 일본어의 어떤 부분이 변했거나 개선되었다고 생각합니까? (シャドーイング練習を通じて、自身が話す日本語のどの部分が変化した・または改善したと思うか。)
4. 앞으로 또 일본어 수업에서 쉼도잉 연습 기회가 생기면 어떤 것을 교재(재료)로 연습을 해 보고 싶습니까?
(今後どのような教材を使ってシャドーイング練習をしてみたいか。)

の4項目である。アンケート項目により詳しく答えてもらうため、質問文は韓国語で提示したが、学習者の回答言語には条件を設けなかった。

3.4 シャドーイング練習の課題の評価およびフィードバック

授業でのシャドーイング練習後、教員がモデル音声を録画した動画ファイルを週の第1回目の授業後にLMS上にアップロードした。課題として、その動画のモデル音声を聞きながらシャドーイング練習を1週間行った後にシャドーイング録音ファイルを提出するよう指示した。

課題提出後、一人ずつ学習者の録音ファイルを聞き、正確さ(長音、撥音、濁音・半濁音、カタカナ語や漢字語の言い間違い等)・流暢さ(言い直し、詰まり等)・アクセントおよびイントネーション(単語のアクセント、文全体または部分的なイントネーション等)について各3点、計9点で評価を行った。また、評価後にはLMS上でフィードバックを行い、良かった点(コメント)・改善点(アドバイス)について細かく記述した。

4.授業終了後アンケートの結果および考察

4.1 日本語会話能力向上の効果に関する記述

アンケート項目1「쉐도잉 연습은 일본어회화 능력 향상에 효과가 있다고 생각합니까? 이유는? (シャドーイング練習が日本語会話能力向上に効果があると思うか? その理由は?)」の回答記述をOPI主要レベルの上級・中級学習者に分けたものが表2である。

表2 日本語会話能力向上の効果に関する上級・中級学習者の回答記述

上級	学習者A: 네이티브 스피커의 발음을 듣고 연습할 수 있어서 <u>악센트, 인토네이션 등을 더 자연스럽게 구사하는 것이 가능했습니다.</u>
	学習者B: 쉐도잉 연습을 하면서 발음을 신경 쓰게 되었고, 내가 말을 하고 있는 게 상대방에는 어떻게 들리는지 피드백을 통해서 알게 되면서 일본어회화 능력 향상에 효과가 있었습니다.
	学習者C: 문장을 말할 때 악센트나 발음에 좀 더 신경쓰게 되었다.
中級	学習者D: 쉐도잉 연습을 시작한 주에 비해 점점 일본어를 말하는 것이 자연스러워지는 것이 느껴졌기 때문입니다.
	学習者E: 발음을 연습하는 기회가 되었습니다.
	学習者F:とにかく、先生のおかげでたくさん学びました。

上級学習者A・Bの回答記述を見ると、「악센트, 인토네이션 등을 더 자연스럽게 구사하는 것이 가능했습니다.(アクセント、イントネーションなどより自然に駆使することができるようになりました。)」 「발음을 신경 쓰게 되었고, 내가 말을 하고 있는 게 상대방에는 어떻게 들리는지 피드백을 통해서 알게 되면서 일본어회화 능력 향상에 효과가 있었습니다.(発音に気をを使うようになり、自分が話していることが相手にどのように聞こえるのかフィードバックを通じて知り、日本語会話能力の向上に効果がありました。)」とあり、上達したと感じた部分、日本語能力の向上に効果を感じたことについて、具体的に記述されていることが分かる。一方、中級学習者E・Fの回答では、「발음을 연습하는 기회가 되었습니다.(発音を練習する機会ができました。)」 「とにかく、先生のおかげでたくさん学びました。」など、上級学習者の記述に比べると大まかで単純な感想になっている。上のレベルの学習者の方が内省の記述が充実しているという傾向や(崔 2019)、日本語運用能力の伸長度が大きい学習者はシャドーイング遂行時に困難を感じる原因についてよく認知している(古本 2016)という先行研究の結果と同様、本調査の結果でもOPIレベルの違いによってシャドーイング練習の日本語会話能力向上の効果の感じ方に差があることが分かった。

4.2 教員のフィードバックに対する記述

次に、アンケート項目2「교사의 피드백은 쉐도잉 연습에 도움이 되었습니까?이유는?(教員のフィードバックがシャドーイング練習の助けになったか?その理由は?)」からは上級・中級学習者の意見に差が見られず、両レベルの学習者の反応に大きく二つの共通点が確認された。まず一

つ目に、「 꼼꼼한 피드백을 주셔서 어떤 부분을 보완해야 할지 알기 쉬웠습니다.(細かいフィードバックをいただき、その部分を補うべきか分かりやすかったです。) 」のような教員によるフィードバック(アドバイス)により、自身では気づけなかった改善点に気づけたという点である。

二つ目に、「 긍정적인 답변을 주셔서 더 열심히 하고 싶은 마음이 들었다.(肯定的な返事をくださって、より熱心に練習しようという気持ちになった)」や学習者Fの「ほめていただいて自信になりました」のように、教員によるほめのフィードバック(コメント)が学習者のシャドーイング練習などの学習動機を向上させたり、日本語学習の自信につながっていたという点が挙げられる。教員のフィードバックについては、学習者のレベルに関係なく、新たな気づきの獲得と学習動機の向上に関する反応が見られた。

4.3 シャドーイング練習による自身の日本語の変化または改善点に対する記述

アンケート項目3「쉐도잉 연습을 통해 자신의 말하는 일본어의 어떤 부분이 변했거나 개선 되었다고 생각합니까?(シャドーイング練習を通じて、自身が話す日本語のどの部分が変化した・または改善したと思うか?)」については、上級・中級学習者のレベル差が見られず、アクセント(アクセント)やイントネーション(イントネーション)といった発音面に関する変化、また「문장을 좀 더 정확하게 말할 수 있게 되었습니다.(文をもう少し正確に話すことができました)」や「긴 문장을 말할 때 버벅거리는 경우가 많았는데 지금은 말하는 것이 좀 더 여유로워진 것 같다.(長い文を話すとき、詰まったりすることが多かったが、今は話すことに少し余裕が出てきた)」のように、正確さの変化に注目した反応が多く見られた。これは、プロソディ・シャドーイングを取り入れ、練習の際に特にアクセント・イントネーションに注意するよう促し、更に評価基準に正確さを取り入れたことが影響し、レベルに関わらずこれらの部分に自身の日本語の変化・改善を感じた学習者が多かったことが考えられる。

4.4 シャドーイング練習で希望する教材に関する記述

アンケート項目4では「앞으로 또 일본어 수업에서 쉐도잉 연습 기회가 생기면 어떤 것을 교재(재료)로 연습을 해 보고 싶습니까?(今後どのような教材を使ってシャドーイング練習をしてみたいか)」について質問し、表3のような回答を得た。

表3 シャドーイング練習で希望する教材の上級・中級学習者の回答記述

上級	学習者A: 커뮤니케이션 수업이므로 지금과 같은 과제나 <u>중급에서 고급으로 올라가보는 것도 좋다고 생각합니다.</u>
	学習者B: <u>실전 영상 (전철 안내 방송, 비행기 기내 방송)</u>
	学習者C: <u>좀 더 포괄한 대화의 쉐도잉을 연습해보고 싶다.</u>
中級	学習者D: <u>지금 쓰는 교재로도 충분하다고 생각합니다.</u>
	学習者E: <u>경어를 좀 더 많이 배워보고 싶다.</u>
	学習者F: <u>この様ないいいなにほんごでいいと思います</u>

今後希望するシャドーイング教材については、上級と中級学習者の記述に差が見られた。上級

学習者からは、「중급에서 고급으로 올라가보는 것도 좋다고 생각합니다.(中級から高級に(レベルを)上げるのも良いと思う)」「실전 영상 (전철 안내 방송, 비행기 기내 방송)(実践の映像(電車のアナウンス、飛行機の機内アナウンス))」「좀 더 포맷한 대화(少しフォーマルな対話)」のような、現在の教材よりも上のレベルの教材や、実際の生教材を取り入れた練習を望んでいることが分かる。このような傾向は、中級学習者Eからも確認されたが、多くは上級学習者から確認されたことから、上級学習者の特徴として捉えることができる。一方、中級学習者からは「지금 쓰는 교재로도 충분하다고 생각합니다.(今使っている教材で十分だと思う。)」 「この様なていねいなにほんごでいいと思います」のように、今回使用した教材を継続して使用することを望んでいることが窺えた。

5. まとめと今後の課題

日本語の会話授業においてシャドーイング練習を取り入れ、授業終了後に行ったアンケートからOPIの上級および中級レベルの学習者の反応について調査を行った。その結果、学習者のレベルによって、回答記述の内容に差が見られたアンケート項目と、回答記述の内容に差が見られなかった項目が確認され、以下のような傾向が見られた。

まず、「シャドーイング練習の日本語会話能力向上の効果」および「今後希望するシャドーイング教材」に関するアンケート回答記述にはレベルによる差が見られ、上級学習者からは、日本語会話能力向上の効果について上達したと感じた部分、日本語能力の向上に効果を感じたことについて、具体的に記述する傾向が見られたが、中級学習者からは大まかで単純な感想を記述する傾向が見られた。OPIの上級レベル能力基準の記述にある「積極的な姿勢」には、活発に会話の話題について話す意志を持っていること、相手と同等に、また独立した話者として話す能力および意思があると示されている。このような上級レベルの特徴が、上級学習者のアンケートの回答記述に関連していることが可能性として考えられる。また、中級レベルの記述には「受け身的なコミュニケーション」と記され、どのようなコミュニケーションのやりとりでも主導権をとりたがらないという記述があることから、まだこの段階では日本語会話能力向上の効果への具体的な評価が難しいことが予想される。一方、「教員からのフィードバックの感想」および「日本語の変化・改善点」に関するアンケート項目の回答記述からはレベルによる差が見られず、シャドーイングの練習方法や評価基準が結果に影響したことが可能性として挙げられた。今回の調査では調査対象者が6名であり、OPI上級・中級レベルのある一部レベルの学習者の反応について分析したが、今後は調査対象者を増やして幅広いレベルの学習者の傾向を捉え、更なる分析を試みる。また今回の調査では、シャドーイング練習に対するアンケート調査の回答記述の考察にとどまったが、シャドーイング練習の記録や日誌といった内省を記録するポートフォリオを使用し、縦断的に学習者の反応・変化を追跡するとともに、シャドーイング開始前後のOPIレベルの変化の有無についても明らかにしたい。

日本語学習者のフィラーの特徴

-連続フィラーに注目して-

小島堅嗣(培材大学校)

1. はじめに

日本語母語話者(以下、母語話者)と日本語学習者(以下、学習者)の対話音声聞いてみると、母語話者の発話におけるフィラーには「アノーエー」等、連続したものが多く見られる(以下「連続フィラー」と呼ぶ)。一方で学習者にも連続フィラーは多く見られるが、母語話者のものと異なる特徴があるように見受けられる。さらに学習者のレベル別の連続フィラーの表現も若干異なっているようである。本研究では母語話者のデータも参考にしながら学習者の連続フィラーを詳細に分析することで、レベル別の連続フィラーの特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究と本研究の関係

フィラーの定義として中島(2009)は「それを取り去っても伝達する文・談話の命題内容に変化を及ぼさない」ものとした。そしてフィラーを11種類の型に分類した(母音型、コソア型、エート型、ナンカ型、マー・モー型、ンー型、ハイ型、ヤー型、ヘー・ホー型、ホラ型、デ型)。

永井(2017)は、日本語母語話者は多様な形式を組み合わせたフィラーを使用しているのに対し、日本語母語話者は同じフィラーを繰り返しや限られたフィラーの組み合わせが不自然さにつながっていると指摘している。しかしながら、組み合わせの具体的な表現や集計数については述べられていない。

本研究では中島(2009)のフィラーの型に基づいて学習者のフィラーを集計し、永井(2017)が指摘した部分を実際のデータから検証することを目的とする。

3. 調査方法

3.1 予備調査(母語話者のデータ)

比較対象のために母語話者のデータ収集及び分析の予備調査を行った。調査対象者は日本人大学生5名(女性3名、男性2名)である。本調査で扱う日本語学習者のデータの多くが20代の学生であるため、予備調査のデータもそれに合わせて揃えた。5名にOPI¹⁾を実施し、録音データから文字起こしをした資料を作成した。そして資料の中に現れた連続フィラーの個数を表現別に収集・分析した。その結果を図1と図2に示す。

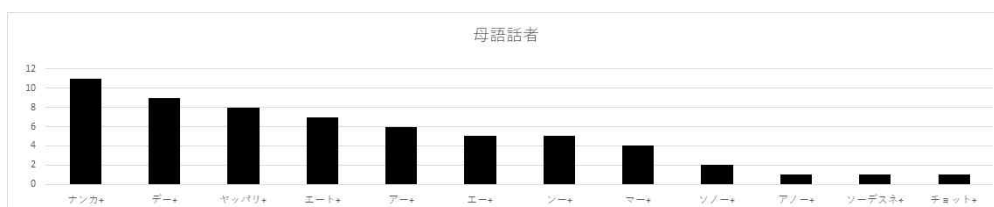


図1 母語話者の表現別連続フィラー(総数)

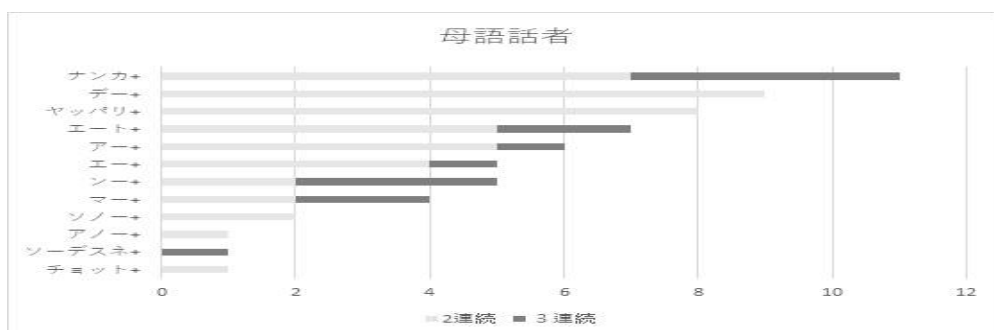


図2 母語話者の表現別連続フィラー(連続数別)

母語話者のフィラーは2連続(46カ所)と3連続(14カ所)の2種類であることが明らかになった。「デー+」「ヤッパリ+」「ソノー+」「アノー+」は2連続のみで「ソーデスネ+」は3連続のみだった。もっとも出現数が多かった「ナンカ+」の2連続の一例を挙げる。

T82:(韓国の生活に)合うとか合わないとか

1NJF83:ソウルのときはナンカアノー寮に入るときに注意されたのを聞いてなくて、またじんましんできて

母語話者ではこのような「ナンカ+」の表現が多く出現していた(2連続が7カ所、3連続が4カ所、合計11カ所)。

1) ACTFL(全米外国語教育協会)が開発した口頭能力試験、Oral Proficiency Interviewの略称

3.2 本調査(学習者のデータ)

本調査は予備調査と同様のOPIのインタビューデータである、国立国語研究所の「日本語学習者会話データベース」から3つのレベル(超級、上級、中級)別にそれぞれ20例ずつ抽出した。しかし超級については同じデータベースで不足していた11例を、OPIテスター資格を持つ発表者自身が被験者にOPIを行い、データベースと同様のプロセスで文字化・分析処理を行ってデータを作成した。以下の表における記号は「S=超級」「A=上級」「I=中級」のレベルを表す。また「F=女性」「M=男性」「期間=日本滞在期間」を表す。

表1 中級学習者

記号	年代	出身国	期間	記号	年代	出身国	期間
1IF	20代	韓国	2か月	11IM	10代	タイ	1年
2IF	20代	韓国	1か月	12IM	20代	タイ	1年1か月
3IF	30代	韓国	1か月	13IF	20代	台湾	7か月
4IM	20代	韓国	1か月	14IF	20代	台湾	1年
5IF	20代	韓国	1か月	15IF	10代	韓国	6か月
6IF	10代	ロシア	2か月	16IF	20代	韓国	6か月
7IM	20代	台湾	1年	17IF	20代	台湾	1年
8IF	20代	韓国	6か月	18IF	40代	中国	7か月
9IF	20代	韓国	1年	19IM	10代	モンゴル	7か月
10IM	30代	カナダ	5年	20IF	20代	台湾	1年

表2 上級学習者

記号	年代	出身国	期間	記号	年代	出身国	期間
1AM	20代	韓国	1年半	11AF	20代	韓国	1年半
2AM	20代	韓国	2か月	12AF	20代	韓国	1年3か月
3AF	10代	韓国	1年	13AF	20代	台湾	6年
4AF	20代	韓国	1年	14AM	20代	シンガポール	5か月
5AM	20代	韓国	11か月	15AM	20代	アメリカ	1年4か月
6AM	20代	韓国	2年	16AM	20代	中国	3か月
7AM	20代	ロシア	2年	17AM	20代	中国	4か月
8AF	20代	韓国	1か月	18AF	20代	ブルガリア	1年
9AF	20代	韓国	1年半	19AF	10代	韓国	1年半
10AF	30代	韓国	1か月	20AF	20代	韓国	9か月

表3 超級学習者

記号	年代	出身国	期間	記号	年代	出身国	期間
1SF	20代	韓国	5年	11SF	30代	韓国	2年
2SM	20代	韓国	3年	12SF	20代	韓国	なし
3SF	30代	韓国	5年	13SF	30代	韓国	10年
4SF	30代	韓国	10年	14SF	20代	韓国	2年
5SM	20代	中国	5年	15SF	30代	韓国	なし
6SF	40代	ブルガリア	18年	16SF	30代	韓国	5年

7SM	20代	韓国	5年	17SF	30代	韓国	なし
8SM	40代	韓国	22年	18SF	20代	韓国	なし
9SF	40代	韓国	15年	19SF	20代	韓国	なし
10SM	30代	韓国	3年	20SF	20代	韓国	3か月

表3の「10SM」から「20SF」の11名は、発表者が自らOPIを行い作成したデータである。

4. 調査結果

学習者のレベル別(中級・上級・超級)の連続フィラーの総数を表現別に集計したものを図3に示す。

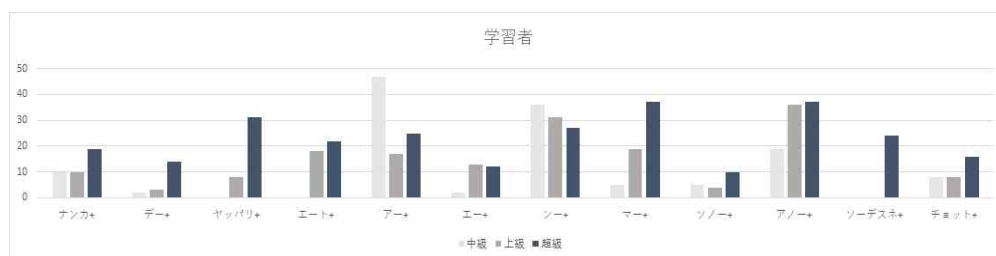


図3 学習者のレベル別の連続フィラー(総数)

中級では「アー+」と「ンー+」が圧倒的に多かった。上級は超級と似た傾向にあると言える。超級は「ナンカ+」「ヤッパリ+」「マー+」「チョット+」が多い。また「ソーデスネ+」は超級だけに現れた表現だった。

次にレベル別の連続フィラーにおいて表現別の連続数(2連続~5連続)がどのような構成になっているかを図4から図6に示す。

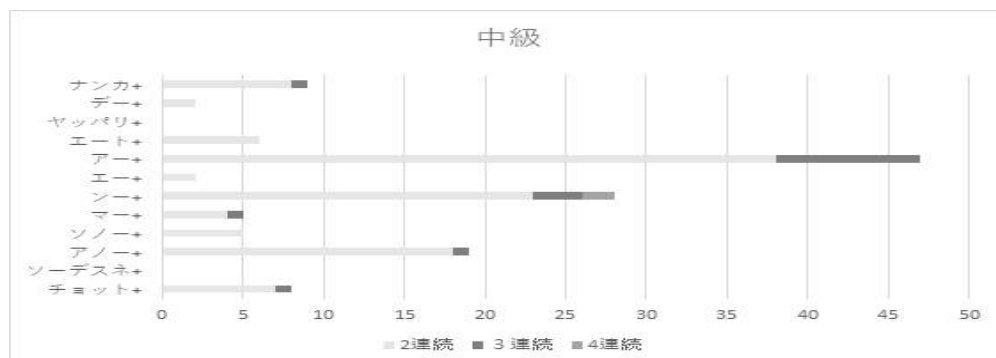


図4 中級学習者の表現別連続フィラー

中級では2連続が113カ所(86.2%)、3連続が16カ所(12.2%)、4連続が2カ所(1.6%)であった。以下に出現数が多かった「アー+」と「ソー+」の例を1つずつ挙げる。

T78:あ貿易ですね。

11F79:アー貿易アーアー、貿易を、勉強しています。

T141:例えばどんな橋があるんですか？

21F142:ソーアーいろいろ、でも、とてもきれいです。

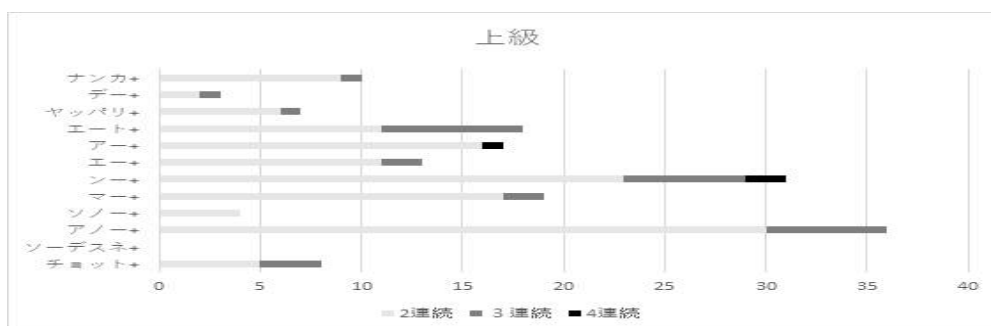


図5 上級学習者の表現別連続フィラー

上級では2連続が134カ所(80.7%)、3連続が29カ所(17.4%)、4連続が3カ所(1.9%)であった。

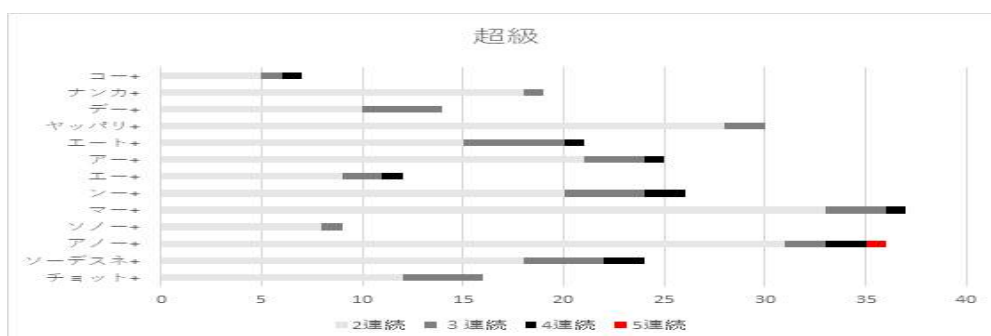


図6 超級の表現別連続フィラー

超級では2連続が223カ所(75.3%)、3連続が62カ所(20.9%)、4連続が10カ所(3.3%)、そして5連続が1カ所(0.5%)あった。

T103:(沖縄で)滞在したらいいよっていうおすすめみたいのありますか？

16SF104:行くところしか行かなかったのでヤッパリアノー女性の方にすごく有名なそのメイン通り

2SM56:(韓国社会について)人の個性をあんまり重視しないんですね。ちょっと極端な話かもしれないんですが、とりあえず学校でも、だれかマーチョット特異な、ほかの人とは違う発想とか・・・

5. 考察

4.の調査結果から、学習者が用いている連続フィラーについての大きな特徴として以下の 6つが挙げられる。

- (1)連続フィラーの総数でみると、超級(296カ所)は上級(166カ所)の約1.7倍、中級(131カ所)の約2.2倍多かった。
- (2)中級・上級・超級のいずれも「アー+」「ソー+」の表現が多く見られたが、特に中級が突出して多かった。これは日本語レベルが相対的に低いほど、学習者がフィラー表現を母語における類似の表現の代用として使用している傾向が強いことが推測される。
- (3)超級の連続フィラーでは「ヤッパリ+」と「マー+」が他のレベルよりも際立って多かった。そして実例でも示した「ヤッパリアノー」や「マーチョット」が、母語話者の例と非常に近い使われ方をしていた。
- (4)連続数(2連続～5連続)を母語話者と学習者で比較すると、母語話者が最大3連続であったのに対し、学習者は中級と上級が4連続、超級では5連続の表現も1例出現していた(アノーチョットアノーアノーアノー)。連続数が多くなるほど、母語話者とは異なった表現が多く出現していた(中級の「アーアーソーアー」、上級の「ヤッパリンソーソノーソー」等)。
- (5)母語話者では2連続しか現れなかった表現が5つあった(デー+、ヤッパリ+、ソノー+アノー+、チョット+)。一方で学習者の2連続のみの表現は中級で3つ(デー+、エー+、ソノー+)、上級で1つ(ソノー+)、超級では0であった。
- (6)3連続フィラーの特徴を比較すると、母語話者では7つの表現(ナンカ+、エート+、アー+、エー+、ソー+、マー+、ソーデスネ+)で出現していた。一方学習者では、中級で6つ(ナンカ+、チョット+、アノー+、アー+、ソー+、マー+)、上級で9つ(チョット+、アノー+、エー+、ソー+、マー+、エート+、ヤッパリ+、デー+、ナンカ+)、超級では図6で示した12の表現すべてにおいて3連続フィラーが出現していた。

全般的には学習者のレベルがあがるほど連続フィラーの表現や連続数が増えていることが確認できた。ただしもっとも上のレベルである超級においても、フィラー表現や連続数の特徴がすべての面で母語話者の特徴に近づいているとは言えない面も示唆された。

6. 今後の課題

今回の調査では扱えなかったが、年代別(年齢別)や所属(学生か社会人か)による差異も大きい可能性がある。この差異の検証は今後の課題とする。

<参考文献・参考サイト>

国立国語研究所「日本語学習者会話データベース」

<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/kaiwa/DB-summary.html>(検索日：2021年8月14日)

永井絢子(2017)「対話に見られる日本語学習者のフィラー-連続使用に注目して-」『日本語教育方法研究会誌』Vol.24 No.1, 10-11

中島悦子(2009)「自然談話に現れるフィラー-自然談話録音資料に基づいて-」『AsiaJapan Journal(4)』
国士舘大学アジア・日本研究センター, 1-21

인공지능에 의한 일본어 텍스트 생성 및 일본어능력시험 난이도 분석 시스템 개발 연구

김유영(동덕여자대학교)

1. 들어가기

IT 기술의 발전에 따라 언어 교육에 IT 기술을 응용하고자 하는 노력은 끊임없이 지속되어 왔다. 그 결과 하드웨어의 혁신과 함께 소프트웨어인 교육 콘텐츠에도 새로운 변화가 나타나기 시작했는데 바로 인공지능(AI) 기술을 교육에 활용하고자 하는 시도가 바로 그것이다. 이에 본 발표에서는 인공지능 경망 자연어 처리 플랫폼 GPT-2¹⁾를 기반으로 커스터마이징된 일본어판 GPT-2(gpt2-japanese)²⁾를 활용하여 일본어능력시험(이하, JLPT) 대비 텍스트를 자동으로 개발할 수 있는 시스템 개발에 대한 가능성을 엿보고자 한다.

2. 선행연구 및 문제 제기

일본어학 분야에서도 먼저 인공지능이 응용될 수 있을 법한 분야인 교육 분야에 관심이 나타나기 시작했는데, 박강훈(2019), 신민철(2021) 등을 그 예로 찾아볼 수 있다. 이어 정확히 인공지능 관련 선행연구라고 분류하기는 어려우나, 머신러닝을 가능케 한 또 다른 하나의 축인 빅데이터를 일본어 교육에 활용한 연구로서, 김유영(2014, 2015)와 같은 과거 20년간의 일본어능력시험 기출문제 빅데이터의 연구를 통해 텍스트의 가독성 및 난이도 분석을 수행한 연구, 그리고 빅데이터의 수집, 정제, 가공 등의 전처리뿐만 아니라 일본어 텍스트에 감정 분석의 기법을 도입한 김유영(2020)의 연구, 金蘭美(2016)와 같이 작문과제 등을 자동으로 채점하는 방안에 관한 연구 등을 관련 선행연구로 들 수 있겠다. 그러나 이와 같은 선행연구는 아직 상용 혹은 무료 인공지능 번역 서비스에 의존한 사용자 차원의 이용 사례의 연구 혹은 코퍼스 연구에서 파생된 일본어 빅데이터 연구에 머무르고 있다. 이에 본 발표에서는 자연어 처리 플랫폼의 사전 모델에 대한 전이학습(Transfer learning) 및 파인튜닝(Fine Tuning)을 통해 기존의 사전 모델에 대한 성능개선 및 일본어학 및 일본어 교육에 특화된 인공지능 시스템의 개발에 관한 연구를 수행하여 본격적으로 일본어학 분야에 인공지능 관련 연구를 도입하고자 한다.

1) 2015년 12월 11일 일론 머스크와 샘 알트만이 공동 설립한 인공지능 회사인 openAI사가 개발하여 2020년 5월에 공개한 자기회귀 언어 모델로, 정식 명칭은 Generative Pre-trained Transformer 2(GPT-2). 딥러닝을 이용해 마치 인간처럼 텍스트를 생성할 수 있는 인공지능 언어 모델.

2) GPT-2 기반 일본어판 인공지능 언어 모델 - <https://github.com/tanreinama/gpt2-japanese>

3. 인공지능(인공신경망)과 머신러닝의 이론적 배경

인간의 신경계는 신체 내외부에서 일어나는 변화로 촉발되는 자극을 빠르게 뇌로 전달하여 반응을 생성하는 기관을 의미한다. 다층으로 복잡다단하게 연결된 수많은 뉴런은 정보를 받아 처리하여 전기 혹은 화학적 신호를 다음 단의 뉴런으로 전달하는데, 인간의 '학습'이라고 하는 능력은 반복된 자극 속에서 뇌를 포함한 신경계 속 뉴런의 연결 관계가 변화하면서 자리를 잡는 과정의 결과물이라고 할 수 있다. 본 발표에서 말하는 '인공지능의 학습' 혹은 '기계 학습', 다른 말로 '머신러닝'은 이와 같은 인간의 신경계 학습 프로세스를 본떠 만든 것으로, 수많은 인공 뉴런을 다층적으로 엮어서 예측을 수행하는 알고리즘(다층 퍼셉트론 - Multi-Layer Perceptron, MLP)이라고 할 수 있다.

이와 같은 머신러닝에 대한 정의로 톰 미첼(Tom Mitchell, 1997)은 "기계가 학습한다는 것은, 프로그램이 특정 작업을 하는 데에 있어서 경험을 통해 작업의 성능을 향상시키는 것"³⁾라고 정의했는데, 이를 본 연구에 대입해 보자면 'JLPT 학습을 위한 일본어 텍스트 생성(문제출제=특정 작업)'을 '자동으로 신속하고 정확하게 수행(작업의 성능을 향상)'하고자 프로그램이 'JLPT 기출문제 빅데이터를 학습(경험)'하게 하는 것이라고 하겠다.

3.1. 인공신경망, GPT-2 그리고 파인튜닝

GPT는 Open AI가 2018년에 발표된 인공신경망 기반 언어모델로, 트랜스포머(Transformer)라는 딥러닝 체계를 기반으로 개발되었는데, 본 연구에서는 컴퓨터 사양의 한계와 언어모델의 공개 여부의 조건을 고려하여, GPT-2를 기반으로 「コーパス2020⁴⁾」를 사용한 사전학습을 통해 개발된 GPT2-Japanese에 파인튜닝을 실시하고자 한다.

본 발표에서는 사전학습 모델의 파인튜닝을 위해 다음의 (1)과 같이 구JLPT의 독해·문법 영역 기출문제의 독해 지문을 추출하여 'JLPT-DS-AOT' 데이터셋을 구축했으며, 이 과정에서 (2)와 같이 텍스트의 일부를 수정 및 전처리 과정을 수행했다.

(1) [구JLPT 독해·문법 영역 기출문제의 독해 지문 선정 문항] 중 구JLPT 1급만 발췌

a. 구JLPT 1급

- 1) 1990~1991·1993·1998년 : I·II·III 1~5 2) 1992·1994년 : I·II·III 1~7
- 3) 1995~1996·1999년 : I·II·III 1~6 4) 1997년 : I·III 1~5 (미공개 문항 II 생략)
- 5) 2000~2001년 : I·II 1~4·III 1~3
- 6) 2002·2004·2008·2009년 1차 : I·II 1~4·III 1~4
- 7) 2003년 : I·II 1~3·III 1~4 8) 2005~2007·2009년 2차 : I·II 1~4·III 1~5

김유영(2014, 216p)

3) "A computer program is said to learn from experience E with respect to some class of tasks T and performance measure P, if its performance at tasks in T, as measured by P, improves with experience E." Tom Mitchell, 1997.

4) コーパス2020 : 6,755,346개의 텍스트, 38.6억 token로 구성된 약 23.9G 용량의 텍스트 코퍼스
<https://github.com/tanreinama/gpt2-japanese/blob/master/report/corpus.md>

(2) [구JLPT 기출문제 전처리 및 데이터셋 구축 예시]

a. 정확도 높은 머신러닝을 위한 텍스트 수정 및 태깅을 통한 전처리

e.g. A 「日本人が昼ごはんによく食べるものは何だと思いますか。」→ 「日本人が昼ごはんによく食べるものは何だと思いますか。」 <endoftext> 2009년 2회차 3급, 문법 3-5 문제 중 일부

4. 일본어 텍스트 생성 및 JLPT 난이도 분석 인공지능 시스템

본 발표에서 인공지능에 의해 생성된 텍스트를 JLPT 문자·어휘, 문법, 한자 난이도 기준에 따라 자동 분석하기 위해 상기 (1)와 마찬가지로 20년간의 구JLPT 기출문제로부터 다음의 표 1과 같은 난이도 기준 데이터를 추출하여 분석 시스템에 도입했다.

표 1 JLPT 난이도 기준 통계

JLPT세션	수치	N1초과	N1	N2	N3	N4	N5	합계
문자·어휘		32	4,439	3,855	2,483	2,503	882	14,214
문법		0	684	559	719	380	33	2,375
한자		0	1,172	339	337	184	103	2,195

참고 1) 문자·어휘의 경우 기출문제를 우선, 차선으로 네이버 사전을 기준으로 설정

2) 한자의 경우 「或」「伊」와 같은 상용한자 외의 한자가 포함되어 2,136자를 초과 함

표 2. JLPT 난이도 기준 DB 예시(일부 발췌)

1) 문자·어휘	2) 한자
改訂,,1,名,21,かいてい,1,명사,개정,,,,↓	2167,悞,,1,Jouyo,,,,,,↓
街道,,1,名,22,かいどう,1,명사,가도,교통상 중요한 도로,,,,↓	2168,憐,,1,Jouyo,,,,,,↓
海拔,,1,名,23,かいばつ,1,명사,해발,표고,,,,↓	2169,憐,,1,Jouyo,,,,,,↓
幹旋,,1,名,24,あっせん,1,명사,말선,주선,,,,↓	2170,拉,,1,Jouyo,,,,,,↓
生き甲斐,いきがい,1,名,25,いきがい,NONE,NONE,보람,,,,↓	2171,攀,,1,Jouyo,,,,,,↓
遺跡,,1,名,26,いせき,1,명사,유적,유지,,,,↓	2172,暖,,1,Jouyo,,,,,,↓
隠居,,1,名,27,いんきょ,1,명사,은거,살림의 책임을 물려 주고,,,,↓	2173,楷,,1,Jouyo,,,,,,↓
衛星,,1,名,28,えいせい,2,명사,위성,,,,↓	2174,鬱,,1,Jouyo,,,,,,↓
閑覧,,1,名,29,えつらん,1,명사,열람,,,,↓	2175,炒,,1,NotJouyo,,,,,,↓
3) 문법	
,を鑑みて,,1,,명사+,~를 감안하여 / ~를 반영하여↓	
,をかんがみて,,1,,명사+,~를 감안하여 / ~를 반영하여↓	
,にしたって,,1,,동사 보통형+/ 이행용사 보통형+/ な형용사 어간(+である)+/ 명사(+である)+,~라도 / ~인 경우에도↓	
,にしたところで,,1,,동사 보통형+/ 이행용사 보통형+/ な형용사 어간(+である)+/ 명사(+である)+,~라고 한들 / ~이라도↓	
,に忍びない,,1,,동사 사전형+(자마) ~할 수 없다↓	
,ないではすまない,,1,ないではすまない,ずにはすまない,동사 ~하지 않으면 끝나지 않는다 / 반드시 ~해야 한다	

JLPT를 포함하여 일본어 교육에 필요한 텍스트를 생산하는 것은 다년간의 경험을 가진 일본어 교육 전문가에게도 쉬운 일은 아니며, 이는 경험이 부족한 교수자에게는 두말할 필요가 없다. 또한 생성

한 텍스트의 어휘와 문법 그리고 한자가 어느 정도의 난이도 즉, 어느 정도의 JLPT 레벨인지 판별하는 것 역시 전문가조차도 어려움을 겪을 수밖에 없다. 이를 해결하기 위해 본 발표에서는 크게 다음의 두 가지 인공지능 시스템의 개발을 시도했다. 첫 번째가 JLPT에 특화된 일본어 텍스트를 생성하는 시스템이며 두 번째가 전 단계에서 생성한 일본어 텍스트를 JLPT 기출문제를 기반으로 난이도를 검증하여 학습용 콘텐츠로 가공하는 시스템이다. 이를 도식화하면 다음의 그림 3과 같다.

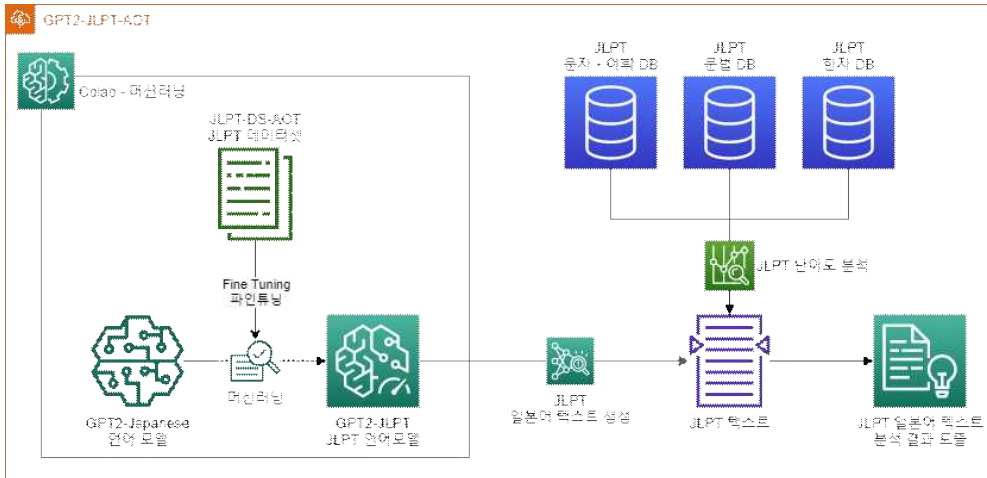


그림 3. GPT2-JLPT-AOT

5.1. 파인튜닝을 통한 JLPT 언어모델 구축

우선 아래 표 3과 같이 사전학습 완료된 GPT2-Japanese의 세 언어모델(small, medium, large)에 대해, 구JLPT의 독해·문법 영역 기출문제의 지문을 추출하여 정제한 후, 전처리 과정을 거쳐 생성한 AOT-ai-JLPT 데이터셋으로 머신러닝(파인튜닝)을 수행했다. 단, 파인튜닝을 수행하는 데에 있어 컴퓨터 사양의 문제와 과적합(Overfitting⁵⁾)을 방지하기 위해 각각 300회 학습으로 한정했으며, 그 결과 생성한 JLPT 언어모델 - 「GPT2-JLPT」는 다음의 (3)과 같으며, (3)d의 웹페이지에도 공개해 두었다.

표 3 파인튜닝 - 'GPT2-JLPT_small'의 경우

2021-07-14 03:31:28.778299: I tensorflow/stream_executor/platform/default/dso_loader.cc:53] Successfully opened dynamic library libcudart.so.11.0
2021-07-14 03:31:30.520511: I tensorflow/core/platform/cpu_feature_guard.cc:142] This TensorFlow binary is optimized with oneAPI Deep Neural Network Library (oneDNN) to use the following CPU instructions in performance-critical operations: AVX2 FMA To enable them in other operations, rebuild TensorFlow with the appropriate compiler flags.

5) 언어 모델에 파인튜닝을 수행할 때, 학습용 데이터셋을 과도하게 암기하여 데이터셋에 들어 있는 노이즈 까지 학습한 상태를 가리킴.

```

2021-07-14 03:31:30.523929: I tensorflow/stream_executor/platform/default/dso_loader.cc:53]
Successfully opened dynamic library libcuda.so.1
2021-07-14 03:31:30.533878: E tensorflow/stream_executor/cuda/cuda_driver.cc:328] failed call
to cuInit: CUDA_ERROR_NO_DEVICE: no CUDA-capable device is detected
2021-07-14 03:31:30.533935: I tensorflow/stream_executor/cuda/cuda_diagnostics.cc:156] kernel
driver does not appear to be running on this host (ab5560f78c04): /proc/driver/nvidia/version
does not exist
2021-07-14 03:31:32.588418: I tensorflow/core/platform/profile_utils/cpu_utils.cc:114] CPU
Frequency: 2299995000 Hz
Loading checkpoint gpt2ja-small/model-10412700
Loading dataset...
Training...
[1 | 7.26] loss=3.40 avg=3.40
[2 | 10.02] loss=2.97 avg=3.18
..... 중략 .....
[299 | 764.74] loss=1.65 avg=2.08
[300 | 767.31] loss=1.59 avg=2.07
Saving checkpoint/gpt2ja-small-finetune-210714/model-301

```

(3) GPT2-JLPT 언어모델

- a. GPT2-JLPT_small (gpt2ja-small-finetune-210714)
- b. GPT2-JLPT_medium (gpt2ja-medium-finetune-210714)
- c. GPT2-JLPT_large (gpt2ja-large-finetune-210714)
- d. 언어모델 배포 - 「4.2 GPT2-JLPT 언어모델」
http://www.japanese.or.kr/JapaneseNLP_main.aspx

5.2. GPT2-JLPT에 의한 자동 일본어 텍스트 생성

본 발표에서는 인공지능경망 자연어 처리 언어모델을 사용하여 일본어 텍스트를 자동으로 생성할 수 있는 프로그램⁶⁾을 파이썬을 기반으로 작성하고, 「GPT2-Japanese」의 세 언어모델(small, medium, large)을 사용하여 500자 이내의 일본어 텍스트를 각각 100건씩 생성케 했다. 마찬가지로 파인튜닝을 수행하여 구축한 상기 (3)의 「GPT2-JLPT」의 세 언어모델을 사용하여 500자 이내의 일본어 텍스트를 각각 100건씩 생성케 했다. 이렇게 생성한 총 600건의 텍스트는 웹페이지⁷⁾에서 확인할 수 있으며, 각 언어모델 중 small 규모의 언어모델에 의한 생성 텍스트는 아래 표 4과 같다.

표 4. GPT2-Japanese / GPT2-JLPT에 의해 각각 자동 생성된 텍스트 예시

1. GPT2-Japanese - gpt2ja-small : GPT2JAP_small.txt - 24,492자 / 1,279단어
1.6kgの缶詰チューブが入っています。この缶詰チューブに水が入っているため、水が入っているのに水が引

6) 「gpt2-jptxtgen_aot_auto.ipynb」

7) GPT2-JLPT TextData - <http://www.japanese.or.kr/JapaneseNLP-JText.aspx>

かかり、入らないようです。缶チューブが入っていない缶チューブは、水分が出てしまうといいです。
 他の方も仰っていますが、缶チューブだけの水なんて出せますか?
 また、缶チューブの水分が出てしまっているのでしょうか?
 ちなみに、缶チューブは水と一緒に出てくるので気になりました。ただ、缶チューブと水だけのものは缶チューブを使用しています。ご回答よろしくお願いします

2. GPT2-JLPT_small : GPT2JLPT_small.txt - 12,646字 / 326 단어

いいこともいっぱいありますよ。たとえば、料理はおいしいし、おいしい。

위 표 4에서는 인공지능으로 하여금 글자 수의 제한 이외에 어떠한 제약도 두지 않고 자유롭게 텍스트를 생성시켰으나 이번에는 「学校」라는 키워드를 주고 각각 1개씩의 텍스트를 생성시켜 보았으며 그 결과는 다음과 같다.

표 5. GPT2-Japanese / GPT2-JLPT에 의해 각각 자동 생성된 텍스트 예시 - 키워드 学校

1. GPT2-Japanese - gpt2ja-small

学校の友達で行ったんだけど、その子がいなくて。その子とは、仲良くしようとして、家を探していた。でも、どうしたらいいかわからなくて。でも、誰も見つけれられないと思って、一人で探していた矢先に声を掛けてきて、声に反応できるようになってきたんだ。だから、何を聞いても、どうしていいか、わからなくて」

「それは……、いいの……?」

「何も知らなかった時は本当に、ひどくうたえた、って思っていたから」

「……………」

私の話、聞いていたのか。私に話してくれた人、かなり気まずい空気の中を、ここまで話し始めて、その雰囲気飲まれていたのに。

「けど。その後、ずっとかみしんだような、寂しさを感じてた。そして、気がつくとその子と仲良くしていたらしくて。僕が見つけてくれた子は、その子の好きな人だったんだ。……僕も、初めて女の子を見たけど、本当の可愛いところは全然見えなくて。ただ、その子に自分の見える範囲の可愛さは全くなかった。多分、可愛い姿を見せるために女の子を集めてたのだと思うけど、その姿がどうしても好きになれずに、ずっと一人で彷徨っていたんです、けど。やっぱり、そんなダメだと思って、諦めようとした瞬間でし

1. GPT2-JLPT_small

学校へ行きなさい。きっと、あなたには分かっているはずだ。

5.3. JLPT 난이도 분석

이러 본 발표에서는 그림 4와 같이 키워드, 문장 길이, 언어모델을 선택하여 인공지능에 의한 텍스트 생성을 수행할 수 있도록 설계된 검증 프로그램을 개발하여, 「私」를 키워드로, 500자 이내, 언어모델은 GPT2-JLPT-large를 선택하여 표 6과 같은 일본어 텍스트를 자동 생성할 수 있었다.

- I. 생성하고자 하는 문장의 힌트가 되는 첫 문장을 입력해 주세요. 무작위 생성은 그냥 엔터를 누르세요 : 私は
 II. 최대길이를 입력해 주세요(일반적으로 500) : 500
 III. 언어모델을 숫자로 선택해 주세요. - 1.small 2.medium 3.large 4.small-JLPT 5.medium-JLPT 6.large-JLPT : 6
 *선택하신 언어모델은 checkpoint/gpr2ja-large-finetune-210714입니다

그림 4. 텍스트 자동 생성을 위한 조건 설정 화면

표 6 키워드, 글자 수, 언어모델 설정을 기반, 자동 텍스트 생성 예시

私は何を言いたいのだろうか。頭の処理が追いつかず、言葉が記憶されなくなるくらい複雑になる。これは、言葉が頭に残っているからだろうか。言葉を失った後である。だから、心のどなげを失う形ができるのかもしれない。考えてみると、これは自分のことを考えから変えたつもりだったが、その決心は鈍にせよ残りの五、六年のうちに打つことができた。

이어, 표 6의 텍스트 중 일부인, 「私は何を言いたいのだろうか。頭の処理が追いつかず、言葉が記憶されなくなるくらい複雑になる。これは、言葉が頭に残っているからだろうか。」 부분을 발췌하여 그림 5과 같이 JLPT 난이도 분석 시스템을 통해 분석을 시행했으며, 그 결과는 다음의 그림 6·7·8과 같다(지면 관계상, 그림 7·8과 6의 순서 변경)

© AI 답러닝 Tensor-AOT에 의해 자동 생성된 일본어 텍스트는 다음과 같습니다.

1. 私は何を言いたいのだろうか。頭の処理が追いつかず、言葉が記憶されなくなるくらい複雑になる。これは、言葉が頭に残っているからだろうか。言葉を失った後である。だから、心のどなげを失う形ができるのかもしれない。考えてみると、これは自分のことを考えから変えたつもりだったが、その決心は鈍にせよ残りの五、六年のうちに打つことができた。
 2. 私は何を言いたいのだろうか。頭の処理が追いつかず、言葉が記憶されなくなるくらい複雑になる。これは、言葉が頭に残っているからだろうか。言葉を失った後である。だから、心のどなげを失う形ができるのかもしれない。考えてみると、これは自分のことを考えから変えたつもりだったが、その決心は鈍にせよ残りの五、六年のうちに打つことができた。

IV. 사용하고자 하는 텍스트 번호를 입력해 주세요. 직접 입력하고자 한다면 3번을 입력하고, 직접 텍스트를 잘라붙여 주세요 : 3
 IV-2. 직접 텍스트를 잘라붙여 주세요 : 私は何を言いたいのだろうか。頭の処理が追いつかず、言葉が記憶されなくなるくらい複雑になる。これは、言葉が頭に残っているからだろうか。

그림 5. JLPT 난이도 분석 시스템을 통한 텍스트 분석

```
=====
【03. 한자 레벨 검색 결과】
*****
100% ██████████ 66/66 [00:00<00:00, 4135.71it/s]

■ N1 :
  ['憶']
■ N2 :
  ['処', '追', '記', '複', '雜']
■ N3 :
  ['葉', '残']
■ N4 :
  ['私', '頭', '理']
■ N5 :
  ['何', '言']
```

그림 6. JLPT 난이도 분석 시스템을 통한 텍스트
분석 결과 - 한자

【01. 어휘 레벨 검색 결과】

45/7 [00:00:00, 7.19s]

- 私(私) : [LV] N4급(NAVER-4) 【読み】 - (わたくし) 【意味】 자, 나, 사, 개인적인 것, 내밀.
- 何(何) : [LV] N6급(NAVER-4) 【読み】 - (なに) 【意味】 왜, 어디서, 무엇 때문에, ...
- 言う(言い) : [LV] N6급(NAVER-2) 【読み】 - (いふ) 【意味】 "이유, ..."
- たい(たい) : [LV] N6급(NAVER-NONE) 【読み】 たい- (たい) 【意味】 NONE, ...
- 誰(誰) : [LV] N4급(NAVER-1) 【読み】 - (かしら) 【意味】 대리, 무부, 두목, 우두머리, ...
- 処理(処理) : [LV] N2급(NAVER-2) 【読み】 - (しり) 【意味】 처리, 조처, 처분, ...
- 面白い(面白い) : [LV] NONE급(NAVER-2) 【読み】 面白い- (おもしろい) 【意味】 재미있다, 흥미롭다, 멋있다, ...
- 言葉(言葉) : [LV] N6급(NAVER-4) 【読み】 - (ことば) 【意味】 말, 어, 언어나 연어, 연어, ...
- 記憶(記憶) : [LV] N2급(NAVER-2) 【読み】 - (きおく) 【意味】 기억, ...
- する(さ) : [LV] N5급(NAVER-NONE) 【読み】 する- (する) 【意味】 NONE, 하다, (금액을) 처리하는 말을 받아서 / -의 값이다 / -하다, ("가수" 의 물음) (말이) 일어나다 / -이 느끼지다 / 생기다, ("C" "C" 를 받아서) 생각하다 / -으로 치다 / -으로 삼고 있다, / -을 골라잡다, / -에 착수하다; -을 하다, ...
- ない(ない) : [LV] NONE급(NAVER-4) 【読み】 ない- (ない) 【意味】 말하는 사람이 그 말하고 있는 사람이..., " ...지 아니하겠나", 말하는 사람이 그 말하고 있는 사람이 존재적인 것임을 단정하는 데 씀, 없다, 없다, ...
- なる(なる) : [LV] N6급(NAVER-NONE) 【読み】 なる- (なる) 【意味】 NONE, ...
- くらい(くらい) : [LV] N6급(NAVER-NONE) 【読み】 くらい- (くらい) 【意味】 NONE, ...
- 程度(程度) : [LV] N4급(NAVER-4) 【読み】 - (ど) 【意味】 정도, ...
- これ(これ) : [LV] N4급(NAVER-NONE) 【読み】 これ- (これ) 【意味】 NONE, ...
- 残る(残) : [LV] N4급(NAVER-4) 【読み】 - (のこる) 【意味】 남다, 여분이 생기다, ...
- て(て) : [LV] N6급(NAVER-NONE) 【読み】 て- (て) 【意味】 NONE, ...
- いる(いる) : [LV] N6급(NAVER-NONE) 【読み】 いる- (いる) 【意味】 NONE, ...
- から(から) : [LV] N6급(NAVER-NONE) 【読み】 から- (から) 【意味】 -로부터, -에서, -에게서, ...

그림 7. JLPT 난이도 분석 시스템을 통한 텍스트 분석 결과 - 어휘

【02. 문법 레벨 검색 결과】

100% 2376/2376 [00:08:00:00, 279.30us]

- -ず- : N3급
 - ◆Text = 頭の処理が違いつかず、言葉が記憶されなくなるくらい複雑になる
 - ◆유형 = NONE
 - ◆입력 = 조사 ない형+
 - ◆해석 = ~하지 않고 / ~하지 말고
- -って- : N3급
 - ◆Text = これは、言葉が頭に残っているからだろうか
 - ◆유형 = NONE
 - ◆입력 = 조사 보형형+/ 이형용사 보형형+/ 명사+/ 나형용사+
 - ◆해석 = ~(2)도 / ~(0)래
- -ている- : N4급
 - ◆Text = これは、言葉が頭に残っているからだろうか
 - ◆유형 = NONE
 - ◆입력 = 조사 て형+
 - ◆해석 = ~하고 있다
- -くなる- : N4급
 - ◆Text = 頭の処理が違いつかず、言葉が記憶されなくなるくらい複雑になる
 - ◆유형 = "くなります, "になります, "ようになります
 - ◆입력 = 이형용사 어간+
 - ◆해석 = ~하게 되다
- -になる- : N4급
 - ◆Text = 頭の処理が違いつかず、言葉が記憶されなくなるくらい複雑になる
 - ◆유형 = "くなります, "になります, "ようになります
 - ◆입력 = 나형용사 어간+/ 명사+
 - ◆해석 = ~하게 되다

그림 8. JLPT 난이도 분석 시스템을 통한 텍스트 분석 결과 - 문법

6. 결론

본 발표에서는 인공지능망 자연어 처리 플랫폼 GPT-2를 기반으로 일본어능력시험 기출문제 데이터 셋을 통해 파인튜닝을 수행하여, 인공지능을 통한 일본어능력시험 학습 및 교수를 위한 텍스트 생성의 가능성을 타진하고, 한발 더 나아가 생성된 텍스트에 대한 일본어능력시험 기준 난이도 분석을 수행할 수 있는 시스템의 개발을 수행했다. 이를 통해 인공지능을 통한 일본어 텍스트의 자동 생성에는 아직 한계가 많이 있다는 점을 확인함과 동시에, 머신러닝(파인튜닝) 및 조건 통제를 통해 수준 높은 일본어 텍스트를 생성할 수 있는 언어모델 개발의 가능성을 확인할 수 있었다. 또한 이와 같은 텍스트를 단순히 생성하는 것에서 그치지 않고 텍스트에 대한 어휘, 문법, 한자 차원의 JLPT 난이도 분석까지 수행할 수 있는 시스템을 개발하여 앞으로 인공지능을 통한 일본어학 및 일본어 교육 분야에의 응용 가능성 또한 확인할 수 있었다.

7. 참고문헌

金蘭美(2016) 「メール文の自動採点のための評価基準とタスク・タスクの達成の可否と必須語に焦点を当てて」 『일본어학연구일본어학연구』 제48집, 한국일본어학회, pp.3-19.

- 김유영(2014) 「일본어 텍스트 가독성 분석 -구JLPT 기출문제 기반 일본어텍스트의한자 및 한자 어휘 가독성 판단 프로그램의 개발-」 『言語文化』 27, 韓国日本言語文化学会, pp.211-236.
- 金嘯泳(2015) 「日本語のテキストの可読性レベル分析 - 旧日本語能力試験の既出問題データにおける統計的検証を中心に」 『日本學報』 Vol.103, 韓国日本学会, pp.21-40.
- 김유영(2020) 「텍스트마이닝 기법을 활용한 일본 미디어의 한국 뉴스의 감정 추이에 대한 분석-파이전을 활용한 단어감정극성대응표 분석기법의 수행을 통해-」 『日本語學研究』 第65輯, pp.25-43.
- 박강훈(2019) 「인공신경망 번역 엔진을 활용한 멀티링구얼 문법 교육-韓·日·英 삼중언어를 중심으로 -」 『일본문화학보』 80, 한국일본문화학회, pp.23-43.
- 신민철(2021) 「인공지능(AI) 번역기를 활용한 한일 한자어 비교의 가능성 모색」 『일본근대학연구』 71권, 한국일본근대학회, pp.97-112.
- 이상민(2020) 「인공신경망 기계번역의 오류분석 및 퀄리티 평가」 『외국어교육연구』 34권4호, 한국외국어대학교 외국어교육연구소, pp.129-153.
- 이치훈 · 이연지 · 이동희(2020) 「사전 학습된 한국어 BERT의 전이학습을 통한 한국어 기계독해 성능개선에 관한 연구」 『韓國IT서비스學會誌』 제19권 제5호第5號, pp.83-91.
- A Vaswani, N Shazeer, N Parmar, J Uszkoreit, Llion Jones, Aidan N. Gomez, Łukasz Kaiser, Attention Is All You Need, 31st Conference on Neural Information Processing Systems (NIPS 2017), Long Beach, CA, USA., 1-11.
- Samuel A.L. "Some studies in machine learning using the game of checkers." IBM J Res Dev. 1959; 3: 210-229
- T. Mitchell, "Machine learning", McGraw Hill, 1997.
- コラム 「自然言語処理モデル「GPT-3」の紹介」 人工知能 (AI) , エヌ・ティ・ティ・データ先端技術株式会社
<https://www.intellilink.co.jp/column/ai/2021/031700.aspx>(검색일: 2021.07.12)
- コーパス2020 <https://github.com/tanreinama/gpt2-japanese/blob/master/report/corpus.md>(검색일: 2021.07.12.)
- BERT - google-research/bert
<https://github.com/google-research/bert>(검색일: 2021.07.12)
- Colab - Colaboratory
<https://research.google.com/colaboratory/faq.html>(검색일: 2021.07.12)
- gpt2-japanese - Japanese GPT2 Generation Model
<https://github.com/tanreinama/gpt2-japanese>(검색일: 2021.07.12)
- openAI <https://openai.com>(검색일: 2021.07.12)
- TensorFlow 「TensorFlow를 사용해야 하는 이유」
<https://www.tensorflow.org/about?hl=ko>(검색일: 2021.07.12.)

AI時代における日本語音声教育の実践

李敬淑(アジュ大学)

1. 研究の背景

日本語教育の中で日本語の音声教育に関しては、学習者のニーズも高くコミュニケーションにおいても、極めて重要な指導項目であることは周知のとおりである。しかし、実際の日本語教育の現場で効果的な発音指導や音声教育は困難な部分もある。クラスの学生の人数が多く時間がなから音声指導まで手が回らない、と音声指導をする余裕がないことがよく教授らの間で挙げられる。

しかし、円滑な音声コミュニケーションにおいて発音教育は極めて重要なものであるため、様々な日本語音声教育の実践法が発表されてきた。

ひと昔前の音声教育は、教室で教師がモデル音声を示し、発音の仕方を説明した後、学生が発音してみるというのが一般的な発音練習のやり方であった。

しかし、今はインターネットとAI(人工知能)技術の発達で日本語教育環境も激変しており、ICT(Information and Communications Technology)を上手く活用することで、教師の音声教育への負担を減らせることができる時代となってきた。

また、音声認識技術の発達により2000年代以降はオンデマンド型発音教育(戸田・大久保 2014)や発音練習のできるアプリの開発などが進められてきた(佐々木・三輪 2015)。

また、AI技術の発達は著しく、AIと音声認識技術のコラボレーションによりスマホで音声入力をすると学習者の発音が正しいか否かを自動で評定してくれるアプリも登場している。「siri」や「Google アシスタント」を活用した自律発音練習も可能である(水田 2019)

さらに、HelloTalkやHiNativeのようなWebの外国語学習コミュニティも音声で質問投稿や回答が可能であり、音声教育に活用できる。

そして、最後にVR Chatのようなメタバース(Metaverse)系のプログラムを使って生の日本人と直接会話をすることで発音練習をする学生もいる。

本研究では、「ICT、オンライン授業、e-Learning」がキーワードの AI時代における新しい音声教育の実践報告である。様々なICTツールを実際の日本語クラスでどのように活用して日本語音声教育を行ったか、その一つの実践例として報告したい。

2. 日本語音声教育に役に立つICTツール

✓ Webの「Naver日本語辞書」：Naver日本語辞書には、単語の意味だけでなく単語の音声も提供しており、日本語の発音の特徴を説明する際にも活用できる。

✓ VoiceTra：「VoiceTra」は、日本の情報通信研究機構(NICT)が開発したAI多言語音声翻訳アプリであり、間違った発音をすれば異なる翻訳文が表示されるので、発音練習に活用できる。

✓ QJAD(日本語オンラインアクセント辞典)：QJADは日本語アクセント教育に使えるサイトで、QJAを使い日本語のアクセントやイントネーションの練習ができる。

✓ Youtube動画の自動字幕起こし機能の活用：日本語学習者が多く利用しているYoutube動画には、自動的に字幕がつけられる「自動字幕起こし機能」というものがある。例えば、NHKニュースのYoutube動画の場合、ほぼ100%に近い精度で正確に字幕をつけてくれるので、聞き取れなかった日本語の音声を字幕を通して確認することができ、日本語の聴解の訓練に利用できる。

✓ Ondoku(<https://ondoku3.com/ko/>)：「音読さん」は、日本語のテキスト文章を比較的自然的な音調で読み上げてくれるTTS(Text-to-Speech)であり、日本語でプレゼンテーションをする前に日本語の音調を確認したいときに使えるプログラムである。

✓ HiNativeやHelloTalk：外国語学習コミュニティであるHiNativeやHelloTalkは、音声での質問投稿や回答が可能である。例えば、「私の「つ」の発音は合っていますか」と言う風に音声を吹き込んで投稿すると日本人からテキストでも音声でも回答がもらえるため、直接日本人に発音を矯正してもらえる。

✓ VR Chat(ブイアールチャット)：メタバース(Metaverse)の一種であるVR Chatでは、日本人と直接日本語で音声チャットができるため、音声教育に活用できる。

3. ICTツールを活用したオンライン授業での日本語音声教育の実践

日本語音声教育を取り入れたのは、いわゆる教養日本語と呼ばれる総合日本語クラスであり、ここで報告するのは受講生26名の中級日本語クラスの例である。なお、授業は非対面オンラインで行っていた。

3.1 オンライン授業での音声教育

A. オンデマンド型授業(=授業動画の視聴)

- ✓ 韓国人学習者が注意すべき日本語の発音項目リストを提示。
- ✓ 毎週の授業動画の中で注意すべき日本語の発音について簡単に説明。

B. 同時双方向型授業(=ZOOMでのリアルタイム授業)

- ✓ 日本語の発音に関するQ&A
- ✓ 発音の実践練習
- ✓ 音読課題への総合的なフィードバック

- ✓ 発音練習に使えるICTツールの紹介

C. 音読課題の提出とフィードバック

✓教科書の会話本文を読み、スマホで録音した音声ファイルを学習管理システム(Learning Management System)へ提出させる。

- ✓ 提出された音読課題の音声ファイルを聞き、簡単なコメントを添えた後学生に返す。

✓ 音読課題に対するフィードバックは、間違った箇所を一つまたは二つほど指摘する程度の簡単なものであり、日本語音声への気づきを促すための役割を果たす。

3.2 教室の外でICTツールを活用した発音学習の例

✓ 授業時間に制限があるため、授業内でできなかった発音練習などは授業が終わってからICTツールを使い各自練習するようにする。

✓ オンライン授業で習った日本語の発音項目についてWebの「Naver日本語辞書」の単語音声を検索し、その発音の特徴をもう一度調べてみる。

✓ 「VoiceTra」を使い自分の苦手な発音の練習を行う。単音レベルの発音練習の場合、無意味語を使うように授業で説明してある。

✓ HiNativeで「私のそにてんてんの「ぞ」の発音、どうですか」という音声質問をなげかけると、日本語のネイティブスピーカーが「「じょ」に聞こえます」と言った回答を返してくれる。

HelloTalkで交流を続け個人的に連絡し合うようになり、直接その日本人の友人に発音を矯正してもらっている。

- ✓ VR Chatで日本人と会話しながら、日本語の発音についても質問をしたりする。

✓ HiNative、HelloTalk、VR Chatを使った発音学習は、日本人との交流を兼ねた音声教育の一例である。

4. まとめ

総合日本語クラスにおいて日本語音声教育は時間上の問題など、様々な理由から敬遠されがちである。日本語音声教育は、日本語の発音を意識化させ、自分の発音に対して内省が行えるように促すだけでも発音向上の効果が得られる。

また、本研究で報告したように発音練習にICTツールを活用すれば、より効果的な音声教育が行えるようになると考えられる。

今のところICTツールは、一長一短の限定的なものではある。しかし、AI技術の進歩は大変早く進んでおり、現場の日本語教師を手助けしてくれるICTのアシスタントがもうじき生まれてくるだろう。LMS上で学習者の日本語音声を自動的に評定するシステムの研究も進められている。

AI時代を向かえ、学習者自ら学べる自律学習の環境が整ってきている。AI基盤の自律学習のできる学習ツールの出現によって教師の役割も変わっていくと考えられる。教師の役割が教えるに

留まらず、様々な学習ツールを選別し提供するコーディネーターとしての役割がこれからの日本語教師には求められるのではないだろうか。

【参考文献】

- 이현진(2015) 「ICT를 활용한 일본어 음성교육 실천연구－Evernote와 교실 내 학습을 융합한 블렌디드 러닝－」 『일본언어문화』 Vol.33 한국일본언어문화학회 pp.229-253
- 河野俊之(2010) 「自己モニターを活用した音声教育とのためのeラーニング」 『日本語教育方法研究会誌』 Vol.17(2) pp.14-15
- 佐々木健太・三輪譲二(2015) 「Android機器を用いた日本語促音の対話型発音評価システムとその検討」 『電子情報通信学会技術研究報告; 信学技報』 Vol.114(441) pp.39-44
- 高橋恵利子他4人(2015) 「日本語学習者発音能力評価システムの開発」 『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』 pp.59-63
- 戸田貴子・大久保雅子(2014) 「新しい音声教育実践における学習者の学び: オンデマンド併用授業による発音学習」 『早稲田日本語教育学』 Vol.14 pp.1-18
- 畑佐由紀子ほか2人(2016) 「第二言語としての日本語の音声習得と評価研究」 『広島大学大学院教育学研究科紀要, 第二部, 文化教育開発関連領域』 Vol.65 pp.177-186
- 水田 佳歩(2019) 「フリー音声アシスタントを活用した自律発音練習の試み」 『富山大学国際機構紀要』 Vol.2 pp.44-49

日本語関係学科での自然言語処理技術の導入と応用の可能性

落合由治（台湾 淡江大学日本語文学科）

1. はじめに

発表者は、台湾の大学の日本語文学科で日本語教育と日本語による文学、歴史、社会文化などの分野の人文系教育を行っている。台湾でも世界各国の動きと連動し、急激に進む高度情報化社会に対応できる人材育成に方向転換し、現在、各レベルの教育機関で情報化教育を取り入れる試みが進んでいる。¹⁾発表者の所属校でも、大学レベルで「AI創智學院」を各学科の区別を超えて創立し、現在の情報化技術を教育や産業に応用する教育と支援を行うことになり、2000年9月の新学年度から開放された。マイクロソフトと協働して今後毎年6000名のAI人材を育成する計画である。²⁾一方、こうした時代の変化に対応するため、人文系の日本語文学科でも応用できる情報処理技術および自然言語処理技術（以下、情報学とする）について学習を進め、現在、導入と応用の試みを行っている。2018年から始め、2020年までに、1) 自然言語処理の基礎について学ぶ勉強会やワークショップの開催、2) 日本語許育関係学会での情報処理関係講演者による講演と研究発表、3) 大学の授業として外国語学部生向けの入門授業の開設、4) 大学院での自然言語処理の基礎に関する授業の開設、5) 関係教員による個人の研究や学生指導への応用の試行という5つの方向で、今までまったく接触のなかった情報科学や自然言語処理に関する知識や情報との接点を開拓しようと試みている。本論文では、今まで実施してきた導入と応用の各試行を紹介し、今後の深化、発展について考えていきたい。

2. 人文系教育への情報学の導入と応用の実践

人文系教育に情報学を導入し応用する場合、二つの課題が考えられる。一つは、人文系の教育と研究の特徴を情報学の導入と応用によって、今以上に活用し発展するにはどうすればよいか、もう一つは、具体的に情報学の各種内容について何をどのように人文系の教育と研究に応用する

1) 台湾教育部(2020)「AITC人工智慧技術暨應用人才培育計畫」<http://elitesports.tcus.edu.tw/index.html> (2020年10月14日閲覧)。

2) 淡江大学(2020)「AI創智學院孕育智慧人材淡江大小事」
<https://events.tku.edu.tw/FocusDetail.cshtml?sn=1700> (2020年10月16日閲覧)。AI創智學院
<http://www.tk.tku.edu.tw/> (2020年12月30日閲覧)。

かというということである。以下、順番に検討し、具体的実践の試みを紹介したい。

2.1 学術分野間の基本パラダイムの調整

情報学を人文系教育に導入・応用する際、一番、大きな問題は各研究分野の基本的パラダイムの相違をどう調整するかという課題である。この問題について、簡単に答えを出すことはできないが、出発点となる観点は、すでに量的研究と質的研究の問題として長い間、議論がなされてきた。以下は落合由治(2019)³⁾等で検討した内容であるが、日本語学、日本語教育学など日本の人文社会系の研究で、よくある誤解の一つは、データ・マイニング、テキスト・マイニングなどの方法で情報学的に処理できる数値データに対する量的研究のほうが、研究者が対象、資料との相互作用によって規則性を見出してくる質的研究よりも客観的で、取り出された規則性もより事実在即しているという見方であろう。しかし、具体的場面での人間あるいは集団の履歴、行為、心理等を研究対象に観察、インタビュー、言語資料などによって特徴を捉えようとする教育学、心理学、社会学、経営学、保健衛生学、看護学、介護学等の分野では、すでに早い時期から方法選択が大きな問題になっていた。久保田賢一は、教育学における客観主義と構成主義の基本的パラダイムの相違を捉え、扱う対象と問題、教育方法等の違いを検討し、量的研究と質的研究の方法選択の問題を論じている。久保田賢一(1997)は、客観主義と構成主義の言語観の相違を以下のように論じている。

量的研究の目的は、一般法則を見つけだすことであり、その法則に従って教育現場の出来事を説明し、さまざまな場面において起こる事象を予測することである。それに対し、質的研究の目的は、ある状況において人々がどのように現実を捉え、その現実との相互作用のなかでどのように生きているか、人々の主観的な立場を尊重し、理解することである。⁴⁾

言語研究で見れば、言語現象の一般的法則を見つけ、その法則に従って個々の言語現象を説明し、さまざまな場面で生じている現象を記述するのが言語研究における量的研究になり、ある状況において個々の言語主体が現実を捉え、その現実の相互作用の中で産み出している言語表現を理解し、言語主体の主観的な立場を尊重して、理解するのが言語研究での質的研究になる。目指すものが元々まったく異なっているため、明らかになるものもまったく意味が違い、研究方法の優劣を論じたり、客観性の程度を批評したりすることは、それぞれの研究の独自性を損なうことになる。日本語研究、日本語教育研究では、1980年代以降、欧米の質的研究が行ってきた研究パラダイムの質的相違に関する議論が基本的に欠けており、何を明らかにするかという点の根本的な違いの認識が共有されておらず、いまだに優劣を論じるような二者択一的観点が目立つと言える。しかし、両者の違いは優劣ではなく、哲学的前提の相違による目的、対象、方法の相違であり、価値的なものではなく、純粹に方法的問題である。久保田賢一(1997)は、両者の研究を以下のように比較している。日本語学や日本語教育学が問題にしている日本語は、20世紀前半に語、文、

3) 落合由治(2020)「日本語関係人文系研究の質的研究におけるテキストマイニング手法の応用と課題」『台大日本語文研究』39参照。

4) 久保田賢一(1997)「質的研究の評価基準に関する一考察：パラダイム論からみた研究評価の視点」『日本教育学雑誌』21-3, pp.163-177。

文章という質的単位の基準が置かれたことで、20世紀後半は、その基準に従って各単位で言語現象の一般的規則性を明らかにし、また歴史的変遷を明らかにする量的研究が中心に進んだと言える。その一方で、個々の言語主体の言語使用を問題にする文章・談話研究や社会言語学的研究、また語、文が特定の場面で果たす具体的機能を明らかにする文型、用法の研究も発展してきたが、これらは基本的に質的研究の方向性を採っていると言える。言語現象の一般性対言語使用の個性という、解明したい対象の性質の異なりで、採るべき方法はまったく違ってくる。文学、歴史、思想、宗教、社会文化などの人文系分野の場合、研究目的も研究対象となる質的表現単位も多種多様であるが、象徴的相互作用による資料の質的理解という点では共通性があり、教育内容も質的理解の訓練を中心にするようになる。情報学を人文系の教育・研究に導入・応用する場合、大事な点は、量的研究と質的研究の研究パラダイムの相違点を理解して、研究目的と対象に応じて方法と目標を切り替えていく調整力の育成にあると言える。どのようにそれを育成できるかは、研究者においても未だ解決のつかない問題であり、将来的課題となるが、そうした課題を認知することで、教育・教育への導入や応用はより有効なものとなると言える。

2.2 現在までの情報学の導入と応用の試行

次に、試行錯誤の段階ではあるが、今まで勤務校で行ってきた情報学の人文系教育への導入と応用の実践について紹介していきたい。

2.2.1 情報学の基礎について学ぶ勉強会やワークショップの開催

新学年度の107(2018)学年度の秋から、講師を選んで定期的に、今までまったく接点がない情報学について、現在までの情報処理技術の発展と現在の第三次AIブームのトレンド、および自然言語処理の中でテキストマイニングを中心に学ぶ勉強会とワークショップを台湾日本語教育学会を通じて参加者をつのり、定期的に開催してきた。勉強会では、主に、**Matlab, Python, KH Coder**⁵⁾を使ったテキストマイニングの方法について、日本語でも中国語でも処理ができる、ビッグデータのテキストマイニングを行っている情報経営学科の魏世杰教授に指導を仰ぎ、今まで扱ったことのなかった情報学の方法を学んだ。これによって、以降で紹介するような一連の活動、また教育研究への入り口が生まれた。

2.2.2 日本語教育関係学会での情報処理関係講演者による講演と研究発表

現在まで3回、情報学と日本語教育、日本関係の人文系研究と教育との接続を試行する学術シンポジウムを開催した。

1. 「2019年AIと日本語教育国際シンポジウム—AIと日本語教育—」(2019.3.9 淡江大学にて、2名基調講演者、14名口頭論文発表者、7名のパネラー 付録(1) 参照)

5) KH Coderについては、樋口耕一(2020)『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版参照。

2. 「2019年度台湾日本語教育研究国際シンポジウム—AIと日本語教育との対話—」(2019.11.30淡江大学、2名基調講演者、10名口頭論文発表者、9名のパネラー 付録(2)参照)
3. 「2020年AIと日本語教育国際シンポジウム—AIと日本語教育との協働—」(2020.6.20 淡江大学にて、2名基調講演者、1名招待発表者、10名口頭論文発表者、9名のパネラー 付録(3)参照)

講演者には、日本から佐藤理史(名古屋大学教授)、川村よし子(東京国際大学教授)、武田浩一(名古屋大学教授)、山本和英(長岡技術科学大学准教授)にお越しいただき、情報学の今までの発展と可能な処理、現在の開発状況の概要についてお話を伺った。今までまったく接点が無かった分野であり、また、計量言語学など従来の情報学を応用した分野を包括する現在の全体的な情報学の展開について、参加者に理解が生まれ、また、テキストマイニングを人文系の研究に活かす試行や各種情報技術を取り入れた授業実践について研究発表が行われた。従来あった日本語教育での情報リテラシー教育、ICT教育とは異なるレベルで、人文系での情報学の導入と応用という課題に焦点が当たったのは、大きな進歩と考えられる。

2.2.3大学の授業として外国語学部生向けの入門授業の開設

以上の学習と研究活動を活かし、同時に、台湾教育部のAI教育推進の動きと連動した勤務校での学科の領域を超えた情報教育課程の試行に合わせて、109(2020)年9月から、外国語教師に欠けている情報処理技術を専門的にした教授と学際的チームを組んで週2時間、「AIと外国語学習」(外国語文学部教養課程2単位)の教養講座授業を本学科主体で開講した。大学外部講師(2名、うち1名がデータサイエンティスト)、内部講師(12名、そのうち、他学部の講師6名)を合わせ、14名の講師が連携し、開講する形を採った。18週間で組んだ一学期の講座授業の前半では、情報処理技術を専門的にした工学出身の教授達に担当してもらい、AI技術面の機械学習、ディープラーニングなどの概念や応用について、講義や授業中に行ったゲーム(「Thing translator」、「AutoDraw」、「Talk to books」、「Quick draw ゲーム」、「Semantris ゲーム」、「ワードクラウド制作ゲーム」と、放課後課した宿題「外語人才如何升級」(外国語人材を如何にアップグレードするか)、「我面對培養[AI五力]的看法」(AIの五力について思うこと)、「如何在大数据時代下的口碑與行銷議題中，殺出外語專業的一條生路」(口コミとマーケティングが重んじるビックデータ時代を生き残る道)などを通して、履修生に新しい知識を伝え、言語学習上のマスメディアツールを実際に操作し、楽しんでもらうことにした。さらに、AI的思考力、AI技術の応用力を身に付けて、専門的に学んだ外国語学習のプログラミングをするようにも要求する。これらの実際に操作した記録や練習、感想文などは凡て本淡江大学のサーバーの「iclass学習平台」⁶⁾ [6]に記録されており、8週目から纏められた履修生の学習状況、学習効果を可視化した資料として利用できる。このように、外国語を専攻している履修生がAI技術面の機械学習、ディープラーニングなどに馴染んでいくプロセスが明

6) 淡江大學「iclass學習平台」<https://iclass.tku.edu.tw/course/145627/content#/>。(2020年10月30日閲覧)。

らかになると共に、AI的思考力、AI技術の応用力を身につけさせるといった教学目标の達成度を見る指針ともなる。そこで、成績評価については、出席(10%)、感想文・授業参与(40%)、期末レポート(50%)と言ったパーセントテージで最終成績を出すことにした。

中間テストを挟んで講座の後半では、外国語を専門的にした外国語教師に担当してもらう。担当教師の殆どは、前述のAI関係の講習、ワークショップに参加したり、AIの国際シンポジウムで論文発表をしたりした経験者ばかりであり、AI技術を実際に応用した経験を講義してもらう。外国語教師が履修生の専攻と同じく、AIに触れた経験談を親身に語ってもらうことがより効果的だと考えられるからである。なお、本大学の情報センターが本学年度に開発したPE図(Performance Engagement)表示することにより、各週の受講者の授業参与と進展などの学習状況を把握することが出来る。その結果、受講者のモチベーションは高く、意欲的に「AIと外国語学習」講座の授業に取り組んだことが分かった。AI時代を先取り、開設した「AIと外国語学習」は、初めての試みだが、AIとHIを兼ね備えた外国語人材2.0の育成促進へ一歩進んだと言えよう。

2.2.4 大学院での自然言語処理の基礎に関する授業の開設

108 (2019) 、109(2020)の2年間、日本語文学科修士課程で、「人文社会研究におけるAI日本語言語処理の応用」科目を開設し、現在まで1週間2時間、3学期の授業を修士課程の学生に実施した。内容は、情報技術の発展、自然言語処理の基本的技術である文字コードシステム、形態素解析とKH Coder、Pythonを使ったデータマイニングの方法を中心にしたもので、データ収集、形態素解析の方法や設定、各種の前処理、データの読み取り等、人文系の質的研究にも活かせるように学習者と実習し、日本でのテキストマイニングコンクールであるNTT「学生研究奨励賞」⁷⁾にも出せるレベルで研究報告をまとめることができた。

2.2.5 関係教員による個人の研究や学生指導への応用の試行

付録に示したように、現在まで、葉菱、曾秋桂、王嘉臨、落合由治の4名の教員がテキストマイニングを質的研究として人文系研究教育に応用する試行について定期的に研究発表を行い、台湾の学術雑誌に投稿を行っている。社会科学系ではテキストマイニングはすでにかなり応用が進んでいるが、人文系研究では有効な利用についての研究はまだ少なく、活用の方法は探索途上であり、今後も試行しながら、新しい自然言語処理を質的研究に応用する手法を開発していく必要がある。日本でテキストマイニングを使用した人文社会系の研究は、樋口耕一(2020)等に紹介されているが、今までのテーマは社会調査やフィールドワーク、インタビュー、アンケート等の結果を量的集計と合わせて質的にまとめる場合の応用が中心であった。文学、歴史、文化、思想等の人文系の中心的テーマでの応用は今後追求してゆくべき分野であり、今までの繰り返しとは異なる課題を明らかにしてゆく必要がある。教育への応用についても、授業活動の中にどのように情報学のスキルを活かしていくか、今後の課題である。

7) NTT DATA, 「VMStudio & TMStudio 学生研究奨励賞, NTT DATA TEXTMINING STUDIO」
<https://www.msi.co.jp/tmstudio/literature.html>. (2020年10月15日閲覧)。

3. おわりに

以上、人文系分野で情報学を導入・応用する場合の研究パラダイム的问题点と、質的研究および教育に応用する教育と研究実践について紹介した。今後も、新時代への対応を模索していきたい。

参考文献

- NTT DATA.「VMStudio & TMStudio 学生研究奨励賞. NTT DATA TEXTMINING STUDIO」
<https://www.msi.co.jp/tmstudio/literature.html>. (2020年10月15日閲覧)。
- 落合由治(2020)「日本語関係人文系研究の質的研究におけるテキストマイニング手法の応用と課題」
『台大日本語文研究』39参照。
- 久保田賢一(1997)「質的研究の評価基準に関する一考察:パラダイム論からみた研究評価の視点」『日本教育学雑誌』21-3,pp.163-177。
- 台湾教育部(2020)「AITC人工智慧技術暨應用人才培育計畫」<http://elitesports.tcus.edu.tw/index.html>
(2020年10月14日閲覧)。
- 淡江大學(2020)「AI創智學院孕育智慧人材淡江大小事」<https://events.tku.edu.tw/FocusDetail.cshtml?sn=1700> (2020年10月16日閲覧)。
- 淡江大學「iclass學習平台」<https://iclass.tku.edu.tw/course/145627/content#/>.(2020年10月30日閲覧)。
- 淡江大學AI創智學院<http://www.tk.tku.edu.tw/> (2020年12月30日閲覧)
- 樋口耕一(2020)『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版参照。
- Merriam,S.B. (1988) Case Study Research in Edcation: A Qualitative Approach. Jossey—Bass Publishers,San Francisco.

註記

本論文は、科技部研究案MOST 109-2410-H-032 -061 -MY3の研究成果である。なお、本論文は、落合由治、曾秋桂、王嘉臨、葉菱(2020)「人文系教育への情報処理・自然言語処理技術の導入と応用」『淡江日本論叢』42号で発表した内容を踏まえ新たに加筆、訂正したものである。

기계번역 관련 컴퓨터 공학의 발전과 한일 언어학 연구 동향

이해미(경희대)

1. 들어가며

최근에 번역학 연구에서 가장 화제가 되는 분야를 꼽는다면 단연 기계번역일 것이다. 기계번역은 번역학계 연구자가 아니라도 인문학계 전체가 관심을 갖는 분야이기도 하다. 하지만 이보다 훨씬 오래 전인 약 70년 전부터 인류의 바벨론적 혼란을 끝내기 위한 노력이 컴퓨터 공학계에서 꾸준히 진행되어 왔다. 그 지난한 노력은 지금의 구글 번역, 네이버 파파고 번역, Kakao i 번역 및 각 회사에서 자체 개발한 무수한 번역기 등으로 결실을 맺고 있다. KT경제경영연구소에 따르면 기계번역이 현재 상당한 수준의 정확도와 유창성을 가진 번역 결과물을 제공하는 것으로 나타났다¹⁾. 반면, 문학 번역 결과를 비교분석해보면 기계번역은 인간 번역가에 비해 질적 수준이 현저하게 떨어져 인간 번역가를 결코 대체하거나 능가할 수 없다는 마승혜(2018), 세노우에(瀬上, 2018), 전해진(2019)의 지적과 같이 한계점 또한 여전히 존재한다.

기계번역은 인간이 사용하는 자연어를 컴퓨터에 맡겨 처리하는 분야이다. 기계와 번역의 조합은 인문학과 공학의 조합이라고도 할 수 있을 것이다. 기계번역의 마지막 고비라고 할 수 있는 문학 번역에서의 질적 한계점을 극복하기 위해서는 인문학계 특히 언어학계에서 그 해결책을 내놓아야 할 것이다. 지금이 바로 컴퓨터 공학과 인문학의 경계를 넘는 융합과 협력이 필요한 때이다.

따라서 본고에서는 컴퓨터 공학적 발전 과정을 간략하게 살펴보고 국내 언어학계의 전반적인 선행 연구를 개관하여 지금까지의 발자취를 살펴보고 공학적 발전과 언어학계의 연구가 발걸음을 같이 하고 있는지 알아보겠다. 그리고 개별 언어인 일본어에 집중해서 기계번역 관련 연구를 종합해서 현주소를 파악하는 메타분석을 하고자 한다.

이항(2011), 김혜림(2013)이 지적하였듯이 기계번역 관련 연구는 주로 영어에 편중되어 있다. 일본어의 경우, 특정 언어 표현이나 상황을 분석하는 단일 연구는 산발적으로 이루어지고 있지만 기존의 선행연구를 전체적으로 종합한 메타분석은 아직 없다. 연구가 충분히 축적되지 않은 단계에서 기계번역을 연구대상으로 삼는 연구자들에게 연구 기반을 제공하는 일이 될 것이다.

2. 기계번역의 컴퓨터 공학적 발전 개요

1) 김슬기(2018), 『인공지능으로 날개 단 자동통번역 서비스』, kt경제경영연구소, pp.1-10.

인간은 선천적으로 언어를 습득하고 구사할 수 있는 능력을 가지고 태어났다. 언어는 인간만이 가진 독특한 능력이자 가장 강력한 힘이다. 인간은 선천적인 능력과 후천적인 노력을 통해 자신의 생각이나 느낌을 말과 글로 표현하게 되었다. 말은 쉽고 빠르게 정보를 전달하고, 글은 시간과 장소 그리고 전달 상대 등의 제약을 받지 않아 동시대인을 넘어 후대에까지 대대로 정보와 지식을 전달할 수 있다. 바로 이 언어의 힘 때문에 인간은 지금과 같은 고도의 과학 기술을 발전시킬 수 있었다. 인간은 인간만의 특권이자 최대 권력인 언어를 과학 기술의 산물인 기계에 탑재시키기 위해 온힘을 기울여왔으며 현재 그 가시적인 성과가 속속들이 나타나고 있다.

인간과 컴퓨터는 구조와 특성이 다른 만큼 언어 인식 체계 또한 완전히 다르다. 인간은 음성과 문자를 사용하는데 반해, 컴퓨터는 1600년대에 라이프니츠(Gottfried W. Leibniz)가 고안한 2진법을 사용해서 0과 1이라는 숫자로 모든 것을 나타낸다. 컴퓨터는 인간의 언어 또한 2진수로 인식한다. 따라서 인간이 사용하는 언어 즉, 자연어²⁾를 컴퓨터가 인식하고 묘사할 수 있도록 처리해야 하는데 이때 사용하는 기술을 ‘자연어 처리(NLP: Natural Language Processing)’라고 한다. 형태소 분석, 구문 분석, 의미 분석 등을 통해 의미를 도출하는 기술이다. 바로 이 자연어 처리 내 하나의 분야가 기계번역이다.

기계번역이라는 용어는 1949년에 워렌 위버(Warren Weaver)가 처음 제안하여 사용되기 시작했는데 그 기원은 “2차 세계대전 당시 독일군의 암호체계 해독 과정에서 축적된 경험이 1950년대에 미국의 대학과 연구기관으로 이전되면서 시작되었다. 1960년대를 거치면서 미국과 소련이 상대국 언어로 작성된 과학기술문서를 신속히 해독하고자 하는 군사적 목적이 기계번역 연구를 추동하였다(구본권 2015: 57)”

초연결, 초지능, 초융합으로 대표되는 4차 산업혁명 시대에 학제간 연구는 필수불가결하다. 인문학계에서 기계번역에 대해 언급할 때에도 그 혁명을 가능하게 한 공학적 발전 과정에 대해 어느 정도는 이해할 필요가 있다. 본고는 인문학계 중에서도 일본어학계가 공학적 발전 과정에 맞춰 어떻게 걸어왔고 나아가고 있는지 살펴보고 미래로 전환하기 위한 토대를 제공하는 목적이 있다. 따라서 인문학 연구자들이 알아야할 기본적인 내용과 전체적인 흐름을 간략하게 파악하고자 한다.

기계번역 관련 공학적 발전 과정을 간략하게 그림으로 정리하면 다음과 같다.

2) 이와 반대되는 개념으로는 사람이 의도적으로 만들어 컴퓨터에서 사용하는 인공어(constructed language)가 있다.

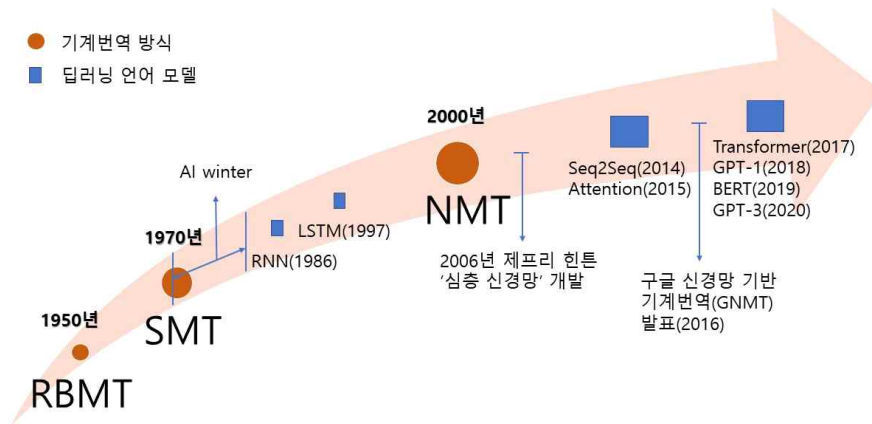


그림1. 기계번역 방식과 딥러닝 언어 모델의 발전 순서

〈기계번역 방식 발전 순서〉

규칙 기반 기계번역(RBMT: Rule-Based Machine Translation) -> 통계 방식 기계번역(SMT: Statistical Machine Translation) -> 신경망 기반 기계번역(NMT: Neural Machine Translation)

전통적으로 기계번역에는 단어 사전과 번역 규칙을 이용하는 규칙 기반 기계번역(RBMT: Rule-Based Machine Translation)과 원문과 해당 번역문에 대한 대량의 말뭉치(corpus) 데이터를 활용하는 통계적 기계번역(SMT: Statistical Machine Translation)이 주로 사용되어 왔다. 2013년에 원문과 해당 번역문 사이의 관계를 인공 신경망으로 학습하는 방법이 개발되었으며, 기존의 통계적 기계번역(SMT)보다 우수한 성능을 보였다. 신경망 기계번역은 DNN의 여러 모델 중 주로 심층 순환 신경망(deep RNN: deep Recurrent Neural Network)을 사용하고 있으며, 기계번역의 주류 기술이 되고 있다.

3. 기계번역의 국내 연구 전체 동향

최문선(2019)에 따르면 통계 기반 번역이 발전하고 딥러닝 언어 모델이 개발되기 시작한 90년대에 기계번역을 다룬 연구가 진행되다가 이후 약 20여년 넘게 번역학에서 기계번역은 연구대상으로 거의 고려되지 않았다. 컴퓨터공학과 자연어 처리 분야에서는 꾸준히 연구가 이어져 왔음에도 불구하고 인문학에서는 '기계번역 연구의 겨울'을 지냈다. 2016년에 구글의 신경망 기계번역(GNMT)이 발표되어 기계번역에 대한 인지도와 신뢰도가 높아지면서 기계번역을 다룬 연구가 가파른 증가세를 보였다. 신

경망 기계번역, Attention, Transformer라는 컴퓨터 공학적 발전을 계기로 번역학 연구 분야에서도 기계번역이라는 주제가 본격적으로 편입되기 시작하였다.

기계번역을 다룬 연구는 크게 오류와 한계점을 지적하는 연구와 품질 보안을 위한 프리에디팅, 포스트에디팅에 관한 연구로 나뉜다.

- 1) 기계번역의 오류와 한계점 지적 - 임형재·왕철(2018), 서보현·김순영(2018), 최효은·이지은(2017), 이준호(2019), 마승혜(2018) 등
- 2) 기계번역 보안을 위한 프리에디팅, 포스트에디팅에 관한 연구 - 이성화·김세현(2018), 진용주 외(2018), 한현희(2019), 이상빈(2018) 등
- 3) 기타 - 한승희(2017), 이창수(2019), 이향(2011), 김혜림(2013) 등

신경망 기반 번역(NMT)이 출현한 2016년 이후는 기계번역 결과물의 언어적 품질을 중심으로 기계번역을 ‘평가’하는 연구가 다수를 차지하고 있다.

4. 한일 기계번역 연구 동향

기계번역을 주제로 한 일본어학계의 연구 동향을 분석하겠다. 국내 연구 동향을 살펴보기 위해 한국의 학술연구 전문 데이터베이스인 RISS에서 ‘기계번역’, ‘한일기계번역’, ‘일한기계번역’을 검색어로 사용해서 논문을 수집한다. 일본의 연구 동향은 국립정보학연구소(国立情報学研究所)의 CiNii Articles에서 ‘機械翻訳’, ‘日韓機械翻訳’, ‘韓日機械翻訳’을 검색어로 넣어 논문을 검색한다. 이렇게 해서 얻은 논문을 분석 대상으로 확정하여 연구 동향을 살핀다.

〈분석 진행 중〉

5. 나가며

언어학계의 기계번역 관련 연구 동향을 살펴보면 대부분 기계번역의 컴퓨터공학적 발전을 따라가는 보조적 수단 또는 변방에서 그 발전을 평가하는 위치에 머물러 있었다. 일본어학계의 경우는 그것조차 활발하게 이루어지지 않고 있어 기계번역 관련해서는 아직 연구가 본격적으로 시작되지 않은 블루오션 상태라 할 수 있겠다.

이제는 인문학과 공학의 분업적 사고, 위계적으로 나누는 사고를 멈추어야 한다. 과학기술이 만들어 낸 것을 나중에 평가하는 연구에서 언어학계가 한발 앞서 인공지능이 학습할 언어를 정제하는 연구로 기계번역 관련 연구의 패러다임이 바뀌어야 한다. 이를 위해 국내 학계에서도 그리고 개별 언어학계별 로도 지속적이고 치밀하게 연구를 진행하여 공존과 발전, 변화를 도모해 나아가야 한다.

AIと日本語教育について

落合由治（台湾 淡江大学日本語文学科）

1.はじめに

メディアで注目されているのは、数値データやマルチモーダル情報データの処理の成果であるが、現在、急速に発展しているAI技術は、自然言語処理においても大きな影響を与えるようになっている。本発表では、作文、会話、読解、翻訳の面から、日本語教育へのAI技術の応用について現状と課題を取り上げて見ていきたい。AI技術は、狭義では第三期の深層学習等の自己学習機能の発達に関わる技術や人間的活動ができる強い人工知能の技術開発を指すが、ここでは広義に第一期から現在までの自然言語処理に関わる情報処理技術の意味で用いる。¹⁾

2. 作文教育へのAI技術の応用

自然言語処理技術の発達によって、AI技術は言語に関する人間の作業や活動に直接、関わる分野が拡大している。その分野の一つは、文章作成、要約などに関する部分で、すでにビジネスの現場で技術が用いられている。²⁾こうしたビジネス用のシステムは利用料が高額で、教育現場での使用には適さないが、こうした技術が急速に発展し、企業や個人の活動と密接に関係している現状に目を向けて、今後の作文教育で何をを目指すのかを再検討する必要があると言える。

欧米ではすでに、人間と変わらない文章が自動生成できるシステムが産まれており、早晚、今まで文書作成を主な仕事にしてきた新聞、雑誌、テレビメディアや企業の事務部門等の業務の多くが置き換えられるのは時間の問題と言える。³⁾

1) 情報処理技術、人工知能技術の歴史については、総務省(2016)『平成28年版情報通信白書』第一部第四章を参照。<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/>(2021年8月18日閲覧、以下同様。)

2) 新聞、雑誌、Webサイトなど、メディア記事は現在、記事の自動作成などが急速に発達し、応用が広がっている。日本での一例として、日本経済新聞は「決算サマリー」をAIで自動生成して配信している。<https://pr.nikkei.com/qreports-ai/>。また、会話、会議、インタビューなどの内容をAIが文字化して処理する文章生成システムも実用化され、販売されている。Ledge.AI(2019)「AI文章生成サービス「easywriter」の先行登録、始めました!」<https://ledge.ai/2019-07-23-10254092845d367531caee5/>。記事要約システムも実用化が進んでいる。ITmedia エンタープライズ(2018)「記事要約を瞬時に作るAIを富士通が開発 その精度とスピードに驚いた」<https://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/1805/17/news024.html>。

従来の作文教育の主目的は、日本語の書き言葉の習得であり、また社会的ジャンルに応じた文章表現の基礎を学ぶことであったが、すでに文章構成が一定の定型の文章はAI化が急速に進んでいるため、言語事項の練習で終わってしまうと今後の日本語関係の仕事では学習者たちが重大な困難に直面することになる。大事なことは、AI技術を助手として自分の業務に活かす、文章作成のスキル、能力の基礎を身につけることである。個人営業しているWEBライターなどの戦略を参考に、創造性のある言語使用者という方向性を持つキャリアパスの展開ができる作文教育をデザインする必要がある。現在のWEBライターはすでに、AI技術を応用して、自分のビジネスに活用している。主なアプリケーションは以下のとおりである。⁴⁾

表1文章作成関係のアプリやサイト

ジャンル	アプリケーション	機能
文章自動生成	GPT-2、Articoolo、自動要約無料ツール by ユーザーローカル、ゴーストライター、easy writer、Skylera、直子の代筆、パーフェクト・サテライト・ライター (PSW) ver. 2、即席アイデアメーカー - タロットプロット、ライターズボックス、イージー★ライター、ValuePress! ⁵⁾	GPT-2は英語で、Articooloは英語と日本語で記事の生成、自動要約無料ツール by ユーザーローカルは要約、ゴーストライター、Skyleraはベースとなる文章を入れると以降を自動生成してくれる、easy writerは音声を文字化する、直子の代筆は一定の形式で手紙を書ける、パーフェクト・サテライト・ライター (PSW) ver. 2はWEB記事自動生成、即席アイデアメーカー-タロットプロットは物語のプロット生成、ライターズボックスはプロの手本を元に文章作成ができる、イージー★ライターは商品紹介作成、ValuePress!はプレスリリース作成
文章校正	Enno、日本語の文章校正をサポート、テキスト処理ツール ⁶⁾	タイプやスペースのエラー、誤字脱字、変換ミス、入力後の編集ミス、文字化けチェック、読みやすさのチェック
類似度確認	CopyContentDetector、こびらん、影武者、剽窃チェッカー、sujiko ⁷⁾	他の文章との類似度を自動判定、著作権違反に該当しないか自分で確認できる。剽窃チェッカーは多言語対応でチェックできる。sujiko (スジコ) は類似ページを検索

3) 代表的な高性能文章生成AIはOPEN AIのGPT-2で人間のライターと区別が出来ない各ジャンルの内容を英語で自動生成できる。<https://lifelikewriter.com/textual-content-generator/>。GPT-3に進化して、ビジネス用に応用されている。

4) 実際にWEBライターが使っているアプリ紹介を基に編集した。有料の場合も無料の場合もある。TechBook(2015)「WEBライターにおすすめの文章作成ツール23選 | 無料版のみ!」<https://c.techbook.jp/contents-marketing/writing-tool#1-2>、らいかつ(2019)「文章生成ツールはライターの仕事を奪えるか? 文章自動生成アプリ9選【フリーソフトあり】」<https://lifelikewriter.com/textual-content-generator/>、WORK-BOOK(2019)「【2019年度版】文章作成ツールとアプリ12選! 便利なツール選びのポイントとメリット・デメリットも解説」<https://flouu.work/media/0036>、WORK-BOOK(2019)「【2019年度版】文書作成におすすめアプリ11選。パソコンやスマホで効率的に文書を作成しましょう」<https://flouu.work/media/0038>等を参照。現在は、ビジネス用の校正ツールが販売されている。文賢https://rider-store.jp/bun-ken/#section_plan等を参照。

キャッチコピー	コピーメカ、キャッチコピー無料作成 ⁸⁾	キャッチコピーを自動生成
スマホでの文書作成	M i c r o s o f t Word、iテキスト、Pages、Googleドキュメント、Evernote ⁹⁾	M i c r o s o f t Word、Googleドキュメント、Evernoteは機種を問わずスマホ、PCで使える。iテキスト、PagesはiphoneなどApple用。
キーワード選定	goodkeyword、キーワードウォッチャー、 ¹⁰⁾	Goodkeyword、キーワードウォッチャー、は関連キーワードを各サイトで自動検索、
表現	日本語表現インフォ ¹¹⁾	キーワードを入力すると、小説のような表現を検索してかえしてくれる
辞書	weblio類語辞典、アルク英和・和英辞典 ¹²⁾	weblio類語辞典は関連する類語を検索、表示できる。アルク英和・和英辞典は文例付きで単語検索ができる。
文章解析・レベル判定	numMojinなんもじ、EKWords、小説形態素解析CGI (β)、Jreadability、帯3 ¹³⁾	numMojinは文章の文字数カウント、EKWordsは文章中でのキーワードを検索、表示する、小説形態素解析CGI (β)は漢字など文字種や品詞を調べ、文体の感じを教えてくれる、Jreadabilityは日本語教育用の文章の難易度、作文評価、語彙、例文が分かる、帯3は小学校から大学までのレベルで文章の難しさを判定

- 5) Better Language Models and Their Implications <https://openai.com/blog/better-language-models/>、Articoolo<https://articoolo.com/>、自動要約無料ツールbyユーザーローカル <https://lifelikewriter.com/textual-content-generator/>、ゴーストライター <https://peta.okechan.net/tools/ghost-writer.html>、easy writer <https://www.easy-writer.jp/>、Skylara <https://www.vector.co.jp/soft/winnt/writing/se481607.html>、直子の代筆 <http://www.teglet.co.jp/naoko/>、パーフェクト・サテライト・ライター (PSW) ver.2 <https://psw2.info/>、即席アイデアメーカー・タロットプロット<https://tarot-plot.com/theme/idea>、ライターズボックス<https://writersbox.com/ja/>、文章作成のための「イージー★ライター」<https://ds.moshimo.com/ds/shop/service/ew>、ValuePresshttps://www.value-press.com/tool_3minute。
- 6) Enno <http://enno.jp/>、日本語の文章校正をサポート<https://www.kiji-check.com/>、日本語文章校正ツール<https://so-zou.jp/web-app/text/proofreading/>。
- 7) CopyContentDetector<https://ccd.cloud/>、こぴらん<http://copyrun.net/>、影武者<http://kagemusya.biz-samurai.com/>、剽窃チェッカー<http://plagiarism.strud.net/>、sujiko <http://sujiko.jp/>。
- 8) コピーメカ<http://www.copymecha.com/>、キャッチコピー無料作成 <http://imu-net.jp/word/copywriting.php>。
- 9) Microsoft Word <https://products.office.com/ja-jp/word>、iテキスト<https://apps.apple.com/jp/app/i%E3%83%86%E3%82%AD%E3%82%B9%E3%83%88/id558205794>、Pages <https://apps.apple.com/jp/app/pages/id409201541?ls=1&mt=12>、Googleドキュメント https://www.google.com/intl/ja_jp/docs/about/、Evernote <https://evernote.com/intl/jp>。
- 10) goodkeyword <http://goodkeyword.net/>、キーワードウォッチャー<https://www.keywordwatcher.jp/>。
- 11) 日本語表現インフォ<https://hyogen.info/>。
- 12) weblio類語辞典<https://thesaurus.weblio.jp/>、アルク英和・和英辞典<http://www.alc.co.jp/>。
- 13) numMojinなんもじ <http://www.nummoji.kenjisugimoto.com/>、EKWords <http://www.djsoft.co.jp/products/ekwords.html>、JReadability<https://jreadability.net/>、帯3<http://kotoba.nuee.nagoya-u.ac.jp/sc/obi3/>。

こうしたリソースを作文授業で活かして利用することで、言語習得と同時に情報収集や情報リテラシー、リベラル・アーツのスキルと組み合わせ、より創造的な感性や言語能力を育成できる。

3.会話教育へのAI技術の応用

AIの発達で音声認識技術は急速に進歩している。会話AIやBOTAIを応用した日本語教育での会話教育の展望についてみていきたい。現在、Docomoが外国人向け日本語学習プラットフォーム「Japanese Language Training AI」を開発、テスト中であるが、AIが自律的に対応できる実用レベルまではまだ課題が多いと考えられる。¹⁴⁾しかし、定型的会話ではすでに多くの企業でBOTAIが利用され、電話やサイトでの対応などをおこなっている。¹⁵⁾また、ネット上で開発されているさまざまなbotを利用できるサービスも広がっている。¹⁶⁾公開されているChatbotのサービスを使って、LINEなどで問い合わせなどの会話の練習をすることは可能である。今のところ、一番使いやすい音声認識AIは、Googleのアプリやサイトで、テキストを入力して朗読させる、発音練習として原稿を読んで文字化させることで発音を確認することができる。Youtubeも音声認識で字幕表示が可能になっている。また、Botの体験として、Discardを使うと、AIとのコミュニケーション体験が可能である。¹⁷⁾

4.読解教育へのAI技術の応用

14)アプリの日本語教室は、決まったパターンの会話は出来るが、それ以上のレベルは難しい。その他、ビジネスで使われているBOTAIの能力も、聞き取りに失敗する、雑談や自由会話などにはできない、多義的な表現が理解できない、相手の感情が理解できない、朗読などで誤読やイントネーションなどの問題が起こるなど自然な会話までには多くの課題がある。ITmedia(2019)「チャットbot利用者、およそ半数が不満 理由は？」<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/1905/30/news115.html>、スマートスピーカーの機能比較は、株式会社アント(2019)「【必見！】AIは本当に必要か？AIスピーカー、AmazonEchoとGoogleHomeの徹底比較・検証！～どちらを買うか迷っている方のために～」<https://unt-ad.jp/blog/post.php?a=18>。

15) 企業での応用例は、ChatPlus+「チャットボットの導入事例13選！企業の活用例から効果まで徹底解説」<https://chatplus.jp/blog/%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%9C%E3%83%83%E3%83%88/customers/>等参照。日本でのChatbot一覧は、チャットボット事例集<https://chatbot-list.userlocal.jp/>。

16) Chatbotの開発メーカーマップは、AI専門メディア「AINOW」<https://ainow.ai/chatbot servicemap2019/>

17) ドットアップス(2019)「【最新2019年版】Discordbotの導入方法とおすすめbot一覧」<https://dotapps.jp/articles/qzghi8mvd77abilw#toc4>

定型的な文章の生成と要約に関して、AI技術の発展はめざましい。AIを応用した日本語教育の可能性を探ってみたい。日本では、AIの急速な発展によって、AIに負けない人間の能力をどうすれば養えるかが話題となりAIによる東京大学入試挑戦のプロジェクトでさまざまな読解に関する課題が明らかになった。¹⁸⁾AIの自己学習機能で語彙の概念的な包含や相互関係が処理できるようになり、いわゆる論説文、説明文など概念的フレームで理解できる文章はAIが処理して、自己生成したり、要約を作成したりできるようになっている。¹⁹⁾記事の自動生成については、OPEN AIが非常に高度な能力を備えたGPT-2を発表し、人間の書いたものと区別が出来ないレベルに近づいている。²⁰⁾記事の解析についても、すでに人間を越えるレベルで学習が進んでいると言える。定型的記事の要約、会議内容要約などの分野では今後、AIに多くの業務が代替されることは避けられない。²¹⁾AIを使いこなす方向に教育内容を転換していく必要があると言える。

しかし、AIは意味を理解しているのではなく、語彙の分布をベクトル化して数値処理し、語彙相互の相関関係を数値化して表現しているため、語彙の一義的な使用を基本とする文章は処理できるが、多義的な使用に大きな意味のある人文社会系の分野、文学、芸術、歴史、思想、宗教などのテキストでは、人間的な活動の余地はまだ十分に大きいと考えられる。読解に関しても同じで、説明文などのように定型的な論理的文章はAIの処理に適している。学習例が十分に集まれば、かなりの精度で要約などの正解を出すことは可能であろう。日本語教育において読解力として必要な部分は論理性ばかりではなく、多義性の理解、主題的な理解など一定の方向性を自分で決めた読み方の重要さが増していくと考えられる。²²⁾

この問題を、テキスト・マイニングの結果をどう扱うかという問題として考えて見たい。以下、フリーのテキスト・マイニングツールを使用して、結果を読み取る場合の例を示したい。²³⁾新聞社説を例にすると、ワードクラウド(TF-IDF法)で記事のキーワードを取り出すことができる。²⁴⁾一方、文章構成の相違についても理解していく必要がある。小説をテキストマイニングで

18) 新井紀子(2018)『AIvs.教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社参照。

19) Ledge.ai(2019)「業界初、コールセンターの通話内容をAIにより自動要約 葬儀社のオペレーションを効率化する音声認識システム「音声認識できるくん」を開発・導入」<https://ledge.ai/2019-09-27-10402409355d8d951e1b4eb/>、新聞記事の要約は富士通が実用化試験を公開している。IT Leaders(2019)「富士通、自動記事要約システムを試用公開、ディープラーニング使い「生成型要約機能」を実現」<https://it.impressbm.co.jp/articles/-/18215>、カレントアウェアネス・ポータル(2018)「AIを利用して論文の要約を自動生成するサービス“Paper Digest”がDigital Science社の“Catalyst Grant Award”を受賞」<https://current.ndl.go.jp/node/36840>。

20) Gigazin(2019)「「危険すぎる」と言われたAIの自動文章作成ツール「GPT-2」のモデルが新たに公開へ」<https://gigazine.net/news/20190821-openai-releases-gpt-2-language-model/>

21) クラウド・ソーシングTIMES(2019)「議事録を自動作成するには？4つの自動作成ツールを徹底比較！」<https://crowdworks.jp/times/efficiency/2783>。

22) 佐藤理史(2016)『コンピュータが小説を書く日—AI作家に「賞」は取れるか』日本経済新聞出版会の第六章「コンピュータは文章が読めない」参照。

23) フリーで使えるテキスト・マイニングツールとしてユーザーローカル「AIテキストマイニング」<https://textmining.userlocal.jp/>が教室で使用できる。ビジネス用のテキストマイニングツールの発達はめざましく、Google, Amazon, Microsoft等からもAPIが公開されている。フリーのテキストマイニングツールは、KH Coder <https://kncoder.net/>等がある。

分析した場合、結果の読み方は論説文の場合とは大きく異なる。ワードクラウドではなく登場人物と物語の場所、景物等に関する語彙が中心に出てくる。文章構成上はストーリー（描写）に当たる部分を取り出される割合が高いと考えられる。

しかし、小説の文章構成はストーリー（描写）とプロット（説明）という相互に異質な部分に分かれるので、論説文のように語彙の分布率などで要旨を取り出すことはできない。どう読むかを工夫する必要がある。その手掛かりになるのは、共起語マップや階層的クラスタリングによる語彙のまとまりで場面の区切れをたどることができる。また、語彙の感情分析で作品中での主な感情の変化をたどることができる。読解については、文章構成の相違で指導を変え、AIでは処理しきれない部分を学習者が読み取れるように工夫して、読解力を身につける必要がある。テキストマイニングは、AI学習を今後、日本語教育課程に採り入れていく場合の中心的スキルとして接続しやすい部分であり、RやPythonなどのプログラミングを学ぶ場合も最も導入しやすいスキルである。

5.翻訳・通訳教育

自動翻訳、機械翻訳の分野でのAI技術の進歩は著しい。AIを応用した翻訳教育について展望をさぐっていききたい。自動翻訳、機械翻訳の分野は、すでにビジネスでの応用が広がっている分野で、今まで台湾の日本語教育学習者の進路に関わって大きな労働市場であった英語-日本語、英語-中国語の翻訳関係は、代替が急速に進んでいると考えられる。日本語-中国語の翻訳は、まだAIの学習量が十分ではないため自動翻訳、機械翻訳の精度は十分ではないが、今後、学習が進むにつれ、また翻訳処理の技術が発達するにつれて代替が進んで行く予想される。²⁵⁾しかし、翻訳市場はグローバル化の進展で急速に成長しており、日本語関係であっても日本でのインバウンド需要の拡大や地方産業の海外進出などで新しい市場が広がる可能性がある。また、AIの学習をサポートする、自動翻訳の結果を校正するなどの業務は需要が急増しており、新しい分野の業務が誕生しつつある。²⁶⁾Google翻訳などを翻訳アシスタントと考えて利用し、訳を訂正する、間違いを

24) TF-IDF法は、「テキスト中に高頻度で出現する内容語はテキストの主題を表す傾向がある」という仮定によるTF値と、「出現する文書数が少ない索引語は、その索引語により該当テキストをより小さく絞り込める」IDF値を掛けた方法で、資料検索などの場合によく使われる、そのテキストの特徴的な語彙を捉える数値のひとつである。奥村学(2010)『自然言語処理の基礎』コロナ社pp.117-119参照。

25) 翻訳業者の評価としてWIP Japan Corporation(2019)「AI翻訳アプリの精度をプロの英語翻訳者が実際に検証してみた」<https://japan.wipgroup.com/media/ai-translation>、Googleの報告としてQuoc V. Le & Mike Schuster(2016)A Neural Network for Machine Translation, at Production Scale, Google AI Blog <https://ai.googleblog.com/2016/09/a-neural-network-for-machine.html>、機械翻訳の原理と精度は中澤敏明(2017)「機械翻訳の新しいパラダイム：ニューラル機械翻訳の原理」『情報管理』60(2017-2018)5参照。

26) 翻訳業界のニュースとしてAt mark IT(2018)「機械翻訳は、翻訳家の仕事を奪うのかー「人工知能」

見つける、間違いの原因を探すなどの訓練をしておくことで、自分自身が翻訳する場合の注意点を明確化でき、また今後の仕事での活用を考えておくことは、自動翻訳、機械翻訳の分野でのAI技術の進歩に対応するために必要な対応と言える。訳すスピードを上げる場合、業務用の翻訳アシスタントを上手に活用するスキルは翻訳業界では避けて通れない問題と言える。

6. おわりに

現在、使われているAI技術を概観し日本語教育に活かす方法を考えてきた。台湾の高等教育における日本語教育がAI時代に対応するには、二種類の方向性が必要と言える。一つは、従来の日本語教育の内容を活かし、横軸で多義的な文脈に対応できるより精緻な日本語の運用力と理解力を高めていくことである。もう一つは、縦軸として新しいスキルを採り入れることで人文社会科学の基礎である「リベラル・アーツ」を応用したスキルの訓練を行うことである。AIの応用もその重要な一分野になる。

註記

参考文献は注を参照。本論文は、科技部研究案MOST 109-2410-H-032 -061 -MY3の研究成果である。なお、本論文は、落合由治(2019)「日本語教育におけるAI の自然言語処理の応用」台湾日本語教育學會2019台湾日本語教育国際シンポジウムで発表した内容を踏まえ新たに加筆、訂正したものである。

を作る上での良質な栄養素とは？(1/2)」<https://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1812/27/news008.html>、CrimsonInteractiveJapan(2019)「2019年に翻訳業界を揺らす5つの動き」<https://www.crimsonjapan.co.jp/blog/5-trends-in-translation-industry-2019/>等を参照。

クリエイティブ・ラーニング

- 創造社会の学びと教育 -

井庭 崇（慶應義塾大学 教授）

I. はじめに - これからの社会

「教育者は他のどのような職業人よりも、遠い将来を見定めることにかかわっている」——かつて、アメリカの哲学者であり教育学者でもあるジョン・デューイは、このように述べた（Dewey, 1938）。教育者が未来を見定める必要があるのは、教育が提供するの、学習者が未来で生きていくための準備となる経験だからである。いまの子どもたちは、これからどのような世界に生きることになるのか、私はそれを、誰もが自分の創造性を発揮して生きる「創造社会」だと捉えている。

近未来を含むここ100年の変化を、各時代を象徴する3つのCで捉えることを私は提唱している（井庭, 2019）。3つのCとは、Consumption（消費）、Communication（コミュニケーション）、Creation（創造）である。それぞれの時代の社会の特徴を言うならば、「消費社会」、「情報社会」、「創造社会」である（図1）。まず最初は、Consumptionの時代である「消費社会」は、物やサービスを消費することによって人々の中心関心が置かれ、どれだけ消費できているかが、生活・人生の「豊かさ」を象徴した時代である。その後到来したのが、Communicationの時代である「情報社会」であり、それは1990年代半ば以降、インターネットや携帯電話の普及によって加速的に広がった。情報社会では、人々の関心が、コミュニケーションやその基盤となる人間関係に移った時代である。

そして、いま始まりつつあり、これから本格化していくと思われるのが、「創造社会」と呼んでいる新しい時代である。「創造社会」は、英語で言うところの「クリエイティブ・ソサエティ」（Creative Society）であり、「創造」「つくる」ということが人々の関心や生活における中心関心となる時代である。創造社会においては、人々は、自分（たち）がつくりたいと思うものを自分（たち）でつくることができるようになり、どれだけ自分がつくりたいものをつくられているかが、生活・人生における「豊かさ」を象徴することになるだろう。そして、消費やコミュニケーションは、「つくる」という文脈に取り込まれて価値を発揮するようになる。

創造社会においてあまねく行われるようになる「つくる」というのは、何も「ものづくり」や芸術活動に限ったことではない。そこには、仕組みやコミュニティ、やり方やあり方をつくることも含まれている。情報社会において、対人関係、生活、仕事、ビジネス、行政、経営、教育など、あらゆるものが「情報化」されてきたように、社会の「創造化」もありとあらゆる分野・領域に及ぶことになる。つまり、創造社会では、生活のあり方が変わり、ビジネスのあり方が変わり、

教育のあり方が変わるのである。ありとあらゆるものが「つくる」対象になることは、すなわち、自分たちの未来を自分たちでつくるということも意味している。

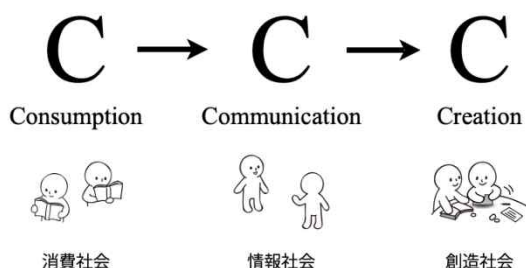


図1. Cで象徴される時代の変化

私たちは、これからの創造社会において、一人ひとりがもつ自然な創造性（ナチュラル・クリエイティビティ）を磨き、発揮しながら生きていくことが不可欠となる。創造的であることを一部の職種や天才に任せるのではなく、誰もが創造的に「つくる」ことに参加する社会。これが、私が見据えている未来である。

II. 創造的に考えてつくる力を育む - クリエイティブ・ラーニング

創造的に考えてつくる力は、どのように身につけることができるだろうか。それは、創造という実践的行為に関わるものであることから、これまでのような教科書に書かれていることや先生の言うことを理解・記憶していくような学び方ではないだろう。そして、それは、他者とコミュニケーションや話し合い、議論をすることで、身につくものでもないだろう。

私は、これからの教育で重要になるのは、「つくる」ことに軸を置いた「クリエイティブ・ラーニング」（Creative Learning：創造的な学び）であると考えている（井庭，2019）。クリエイティブ・ラーニングは、つくるなかで学びを深める学び方である。これは、別の言い方をすれば、「つくることによる学び」（Learning by Creating）、もしくは、「つくるなかでの学び」（Learning through Creating）とすることができる。

なぜつくるのが学びにつながるのだろうか？それは、多くの作家や芸術家が語るように、何かを「つくる」というのは、そのことによってそれまで見ていなかったことが見えてくるといふ新しい発見が生じるプロセスであり、それゆえ、そこには学びがあり、成長があるのである。

何かを「つくる」ことは、つくり始める時点ですでに自分のなかにある何かを外に出すということではなく、つくることで新たな発見が生じ、学びが深まり、成長につながるという「構成的」なものである。このことを、「KJ法」で広く知られる文化人類学者の川喜田二郎は、次のように述べた。

創造的行為は、まずその対象となるもの、つまり「客体」を創造するが、同時に、そ

の創造を行なうことによって自らをも脱皮変容させる。つまり「主体」も創造されるのであって、一方的に対象を作り出すだけというのは、本当の創造的行為ではないのである。そして創造的であればあるほど、その主体である人間の脱皮変容には目^みを眩^{くら}るものがある。（川喜田, 1993, p.86）

つくることは発見することであり、学ぶこと、変わることなのだ。まさにこのことが、クリエイティブ・ラーニングという学びのあり方が可能である理由になっている。そのようなことが起きるためには、その創造は、頭のなかにすでにあるものを外化することにはとどまらない営みである必要がある。また、それは、先が見えないなかで自らの限界を超えた挑戦をするという冒険的側面を多分に含むものである必要がある。予定調和的な活動ではなく、想定外の驚きに満ちたものとなるのである。「つくってみなければ、わからない」からこそ、「つくることが学びになる」のである。

Ⅲ. クリエイティブ・ラーニング時代の新たな役割 - ジェネレーター

学び方が、クリエイティブ・ラーニングへと変化することで、学校の役割もその重点がシフトしていく。これからの学校は、創造的に学ぶための「つくる」場となる。創造が冒険であることに変わりはないが、その大枠として安全・安心な領域であり、その冒険に専念できる環境が提供される。

クリエイティブ・ラーニングを実現する教育においては、教師の役割も変わってくる。教師は、生徒・学生がつくることを支援するとともに、それだけでなく、一緒に問題に挑戦し、一緒につくることに取り組む仲間となる。クリエイティブ・ラーニングにおけるそのような教師像を、私と市川力は、「ジェネレーター」（generator）と呼んでいる（図2）。

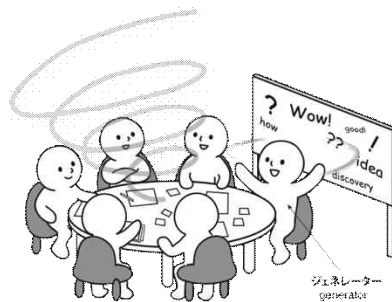


図2. ともにつくる「ジェネレーター」

ジェネレーターは、ジェネレート（生成）する人という意味である。ジェネレーターは、つくり手のチームの一員として、創造を進めるとともに、そのためのコミュニケーションも誘発して

いく。ジェネレーターは、創造における発見の生成・連鎖を自らも進めるとともに、他のメンバーが発見の生成・連鎖に関わる支援も行い、またメンバー間のコミュニケーションの生成・連鎖も促していく存在である。

ジェネレーターは、生徒・学生たちとともに創造的活動に取り組む一人のメンバーとなり、一緒に「つくる」ことに参加する。その「つくる」活動のなかで、そのときどきに必要なことを教え、自らも「つくる」ために手を動かし、その実践を見て生徒・学生も学んでいく、そのような存在である。すでにあるものを渡すのではなく、生徒・生と同じ側に立ち、ともに考え、自分も実際に手を動かすことで、一緒につくっていくのが、ジェネレーターとしての教師の特徴となる。

ジェネレーターは、創造における発見も、そのためのコミュニケーションも、どんどん促し、動かしていく。それは、もはや、教える／教わる、（成果を外部から）評価する／評価される、という非対称な関係性が崩れることを意味している。ジェネレーターとしての教師は、その取り組みにおける（少し特殊な）一メンバーになるということである。ジェネレーターの役割は、創造を前に進めることの一翼を、外部からのアドバイスではなく、内側から担うことで、生徒・学生だけではできない高いレベルにまで到達することを一緒に成し遂げることである。ジェネレーターとしての教師が提供するのは、「つくる」ことによって高みまで登る「経験」であり、その創造的な活動から学ぶ機会である。

このジェネレーターとしての教師像は、知識やスキルを教え伝える「ティーチャー」（teacher）や「インストラクター」（instructor）ではなく、話し合いの流れを促す「ファシリテーター」（facilitator）でもない、新しい教師の姿である。この変化はちょうど、消費社会の時代における教師像、情報社会の時代における教師像、創造社会の時代における教師像に対応している。

ジェネレーターとしての教師に求められるのは、これまでと異なるだけでなく、かなり複雑度が上がり、より難しい役割を担うことになる。しかし、心配は無用である。創造的な学びと教育には、それを支援する強力なツール（道具）がある。創造実践を支援する「パターン・ランゲージ」である。最後に、クリエイティブ・ラーニングを支援するメディアであるパターン・ランゲージについて見ていこう。

IV. クリエイティブ・ラーニングを支えるメディア - パターン・ランゲージ

パターン・ランゲージは、実践におけるよいやり方の経験則を言語化したものである。よい実践に潜む共通「パターン」を「ランゲージ」（言語）化するため、パターン・ランゲージと呼ばれている（井庭, 2013）。

パターン・ランゲージは、もともとは建築の分野で、よい街や建物に共通する設計の共通パターンを言語化する方法として考案されたものであるが、その後、ソフトウェアのよい設計や実践、教育や組織における実践に応用され、さらに近年、より広い範囲の創造実践活動の秘訣・コ

ツを言語化するのに用いられるようになった。

現在、パターン・ランゲージの適用領域は、学び、プレゼンテーション、読書、探究、対話（井庭・長井，2018）、進路選択、企画、創造的思考、おもてなし、料理、子育てと仕事の両立、いきいきと美しく生きること、エンカル・ライフ、認知症のご本人や家族がよりよく暮らすこと、障害者の就労、福祉品のイノベーション、保育園のミドルリーダーの実践、地域にひらかれた学校づくり、防災、ソーシャル・イノベーション、政策デザイン、生態系保全活動、難民問題の解決など、かなり幅広い分野に応用されている。

自分のなかの経験則は、暗黙的に用いることはできるが、必ずしも明示的に自覚されているわけではない。それを明示的に記述し、それに言葉を与えるのが、パターン・ランゲージである。パターン・ランゲージの要素は、個々の経験則を表す「パターン」という。パターンは、どのような「状況」（context）でどのような「問題」（problem）が生じやすく、うまく実践している人はそれをどう「解決」（solution）しているのか、そしてその「結果」（consequence）どうなるのかという、「状況」「問題」「解決」「結果」という形式でまとめられており、それに「名前」（パターン名：pattern name）が付けられている。この名前をつける（そのパターンを指し示す言葉をつくる）という点が、パターン・ランゲージで言う「言語化」の意味である。

個々のパターンは、書籍や冊子などで示されるときには、パターン名、パターン・イラスト、状況、問題、解決、結果という形式で記述されるのが基本である。これらのパターンは、一つひとつはその状況における行動をよりよくすることに寄与するが、そのパターン・ランゲージ全体では、その実践の全体の質をよりよくすることができる。

パターン・ランゲージでは、経験則が文章として記述されているだけでなく、その経験則を指し示す言葉（名前）が与えられることで、その経験則について語ったり、考えたりすることが容易になるという効果がある。その実践について語るための新たな語彙（ボキャブラリー）を得ることになる。私たちは日頃、ものや動作を表す言葉はたくさん持っているが、物事をうまく行う経験則についての語彙は意外と持っていない。パターン・ランゲージは、その経験則に言葉を与えることで、それについて語りやすくなり、考えやすくなりしてくれる。

ある分野の経験則を言語化したパターン・ランゲージを知ること、それを自らの経験を振り返る際の観点として用いることができる。これを私は「認識のメガネ」の機能と呼んでいる。また、今後の実践において、自分がどう行動するかを計画する際や行動する際にも活かすことができる。これは、「思考のビルディング・ブロック」の機能である。

さらに、具体的な経験や経験則について語り合うための対話のメディアとしても用いることができる。その実践についての「コミュニケーションの語彙」が増えることで、それぞれのパターンに該当する自分の具体的な経験が語りやすくなるとともに、他者にその実践の経験談を引き出す質問をすることもできるようになる。このことから、パターン・ランゲージでは、パターンを介して経験談を語り合う「対話ワークショップ」で用いられることが多い。テーブルを囲んで経験談の対話をすることを支援するために、カード形式でも提供されている。各分野のパターン・ランゲージの具体的なものについては、<http://patternlanguage.jp>、および <https://creativeshift.co.jp/products/> をご覧いただきたい。

V. おわりに

かつて作家のミヒャエル・エンデは、「創造的であるというのは、要するに、人間的であるということにほかならない」と述べた (Beuys & Ende, 1989)。創造性が人間の最大の特徴であることを考えると、本当にそのとおりだと思う。また心理学者のレフ・ヴィゴツキーも、「まさに人間の創造的な活動こそが人間が未来を向いていて、未来をつくりだし、自らの現状を変えるような存在にしている」と述べた (Vygotsky, 1930)。これもまた、私たち一人ひとりが持つ自然な創造性 (ナチュラル・クリエイティビティ) の可能性を感じさせる魅力的な一文である。

教師も親も、そして生徒・学生も子ども「つくる」ことを通じて、自らのナチュラル・クリエイティビティを高めていく。本講演が、みなさんの今後の活動の参考・刺激となり、ナチュラルにクリエイティブに生きる創造社会にともに向かう仲間になるきっかけとなることを願っている。

参考文献

- Beuys, J. & Ende, M., Kunst und Politik Ein Gespräch, FIU-Verlag, 1989 (『芸術と政治をめぐる対話 (エンデ全集16)』, 丘沢 静也 訳, 岩波書店, 1996)
- Dewey, J., Experience and Education, 1938, (ジョン・デューイ, 『経験と教育』, 市村 尚久 訳, 講談社, 2004)
- Vygotsky, L.S.(1930), Imagination and Creativity, In Soviet Psychology, vol.29. (ヴィゴツキー, 『子どもの想像力と創造』, 広瀬 信雄 訳, 新訳版, 新読書社, 2002)
- 井庭 崇 編著, 鈴木 寛, 岩瀬 直樹, 今井 むつみ, 市川 力, 『クリエイティブ・ラーニング: 創造社会の学びと教育』, 慶應義塾大学出版会, 2019
- 井庭 崇, 長井 雅史, 『対話のことば: オープンダイアログに学ぶ問題解消のための対話の心得』, 丸善出版, 2018
- 井庭 崇 編著, 中埜 博, 江渡 浩一郎, 中西 泰人, 竹中 平蔵, 羽生田 栄一, 『パターン・ランゲージ: 創造的な未来をつくるための言語』, 慶應義塾大学出版会, 2013
- 川喜田 二郎, 『創造と伝統: 人間の深奥と民主主義の根元を探る』, 祥伝社, 1993

韓国における「AIとクリエイティブ・ラーニング研究会」の創立とその意義

検校裕朗（極東大学校）

1. はじめに - 韓国の日本語学・日本語教育学におけるAI

民間シンクタンクK政策プラットフォームが経済協力開発機構（OECD）の資料を分析した結果

Q 国家別AI技術普及率ランキング



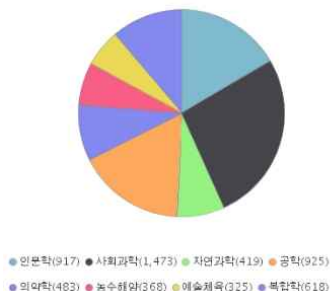
によると、韓国は2020年国家別AI技術普及率ランキングで3位になった。1位はインド、2位は米国、そのほかシンガポール、中国、イスラエル、カナダ、ドイツ、フィンランド、スウェーデンがトップ10入りを果たした。

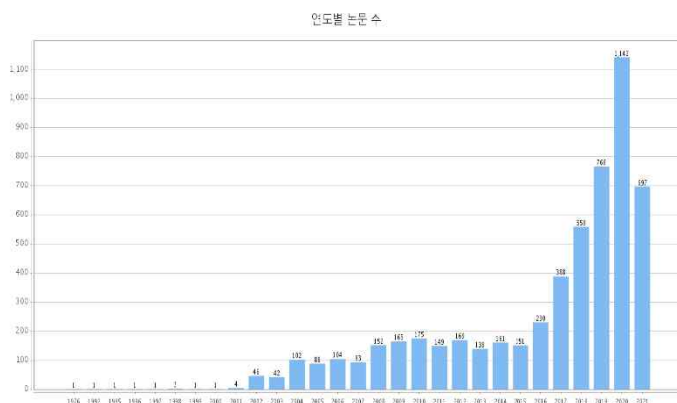
該当のランキングはOECDが2016年から2020年のグローバル人的資源（HR）サービスであるLinkedInのデータベースを活用し、各国のAI技術普及率と標本内のすべての国家・地域の平均AI技術普及率の比率を推定し、算出したものである。2016年に4位だった韓国は、2017年には6位、2018年には7位まで下降したが、2019年に5位に上昇し、昨年には3位となり、歴代最高順位を記録した。2年間でランキングが7位から3位へ、4ランクアップした。一方、デジタル先導企業と中小企業間の生産性の格差はよりいっそう拡大したという懸念も提起されている。（朝鮮日報日本語版

2021.4.2)このように、IT分野やAI技術に関しては普及している韓国であるが、日本語学・日本語教育学における活用はいかなる状況であろうか。韓国研究財団の学術誌引用索引(KCI: Korea

Citation Index)に登載されているAI全体論文は現在のところ5531本(2021.8.25基準)である。分野別には社会科学(1473)、工学(925)、人文学(917)、複合学(618)、医学(483)、自然科学(419)、農水海洋(368)、芸術体育(325)のように多岐に渡る。また、2016年以降急激に増加している。韓国で人工知能が社会一般の注目を浴びようになったのは、2016年のアルファGoと李世乭九段との大局の影響が大きいと考えられるが、新聞のデータベースの検索か結果同様、2016年を前後にして大きな変化が見受

주제별 논문 수





けられ、学問研究にも影響が表れている。「AI、日本語」に該当する論文は13本であるが、内容を見ると日本語学・日本語教育分野に関するものは4本である。落合由治(2020)、申忠均(2020)、曾秋桂(2021)、신민철(2021)。このうち前の3本が、いずれも台湾淡江大学で

の一連のシンポジウムに関連された方々のものである。

2016年から、人工知能の開発などに直接関わる理工系の学問分野ではない、人文分野においても人工知能をめぐる様々な議論や研究報告が行われるようになり、ついに、2018年には『人工知能人文学』という人文系の学術誌が創刊されるに至った。人文学においては、哲学分野での議論が活発であるが、言語研究、外国語教育に関しては、まだ人工知能を活用した外国語教育の胎動期と言え、外国語教育の分野では、特に英語教育分野の研究成果が量的に断然多く、その中でも特に、チャットボット、AIスピーカー、機械翻訳に関する論議が活発である。英語教育以外の分野では、まだそれほど注目を集めてはいないのが現状であり、それぞれの言語教育の分野で数編の研究発表を見るにとどめ、また、分野的にも偏りがあり、その多くが機械翻訳・通訳の分野のものである、機械翻訳には古典漢文、とりわけ韓国内の歴史資料の機械翻訳への関心が高く、韓中/中韓翻訳に関する考察が目立つ。また、日本語教育関連では、人工知能関連の研究は未開拓の分野であり、機械翻訳関連の分野は、比較的早い時期から関心が寄せられており、日本語教育への応用なども提案されているが、今後、AI音声アシスタントの活用などは積極的に取り入れる必要がある。〈申忠均(2020)〉

落合由治(2020)は、テキスト・マイニングプログラムを活用して、人文系研究と教育が日本語教育と結びついて、日本語教育現場やカリキュラムでのAI技術応用の端緒になっていく可能性をまとめた。曾秋桂(2021)は、AIとHIを兼ね備えた外国語人材2.0の育成といった目標を達成させるために実行した成果を述べ、신민철(2021)は、人工知能(AI)翻訳機を活用して漢語の特徴分析を試みている。

翻訳分野の中で日本語教育に通じる研究には、李朱利愛・朴惠環・朴星姝(2017)、李朱利愛・朴惠環・尙禹延(2018)等がある。

更に、論文化されていないが、プログラムの中でAIが動いていると思われるアプリケーションの活用方法と実践を報告として行われているものは、金允嬪(2021)、趙潁羅(2020)等、大学教育よりも中学・高校の中等教育分野において先行している状況である。

2. クリエイティブラーニング

筆者がとりあげる『クリエイティブ・ラーニング』は、2019年2月に日本で出版された『クリエイティブ・ラーニング：創造社会の学びと教育』（慶應義塾大学出版会）の編著者である慶應義塾大学総合政策学部教授・井庭崇氏が提唱した新しい教育概念である。本人は、2020年11月 台湾で行われた日本語教育研究国際シンポジウム（主題：クリエイティブ・ラーニングを目指す日本語教育）にパネリストとして参加し、本人の実践研究を基に「外国語（日本語）クリエイティブ・ラーニング」について発表し、各国・学会代表者7名とパネルディスカッションを行った。井庭氏はクリエイティブ・ラーニング全体を提唱しており、外国語教育に応用する試みについては具体的な言及はないが、筆者はその前後から、井庭氏とやり取りし「外国語（日本語）クリエイティブ・ラーニング」を目指すことにした。その後、2021年4月10日台湾淡江大学で行われた2021年AIと日本語教育国際シンポジウム（主題：クリエイティブラーニングを目指すAIと日本語教育）での講演とパネルディスカッションを通して、この分野の研究の必要性和重要性を更に痛感した。その観点から井庭氏の著作を引用しまとめる。

同著では、クリエイティブ・ラーニング（創造的な学び）とは、「つくることで学ぶ」という新しい学びのスタイルであるとする。「自ら知識を構成する」学習観は、「アクティブ・ラーニング」や「プロジェクト型学習」「探究学習」のように、学び手自身による活動がベースとなるが、クリエイティブ・ラーニングは、何かを「つくる」ことをより一層重視する。そして、これからの学校は、創造的に学ぶための「つくる」経験を積む場となり、教師は、生徒が「つくる」ことを支援するだけでなく、一緒に問題に挑戦し、一緒につくることに取り組む仲間である「ジェネレーター」となる必要があることを述べている。

「序章 構成主義の学びと創造——クリエイティブ・ラーニング入門」では、「デューイの「経験の連続性」と「経験の再構成」等について述べられている。プラグマティズムの教育哲学者であるジョン・デューイの言葉に「教育者は他のどのような職業人よりも、遠い将来を見定めることにかかわっている」がある。

筆者の学部時代の恩師は、日本イギリス理想主義学会会長、日本道德教育学会会長代行、日本デューイ学会常任理事等を歴任した行安茂氏である。行安茂(2018)『アクティブ・ラーニングの理論と実践』では、デューイが「なすことによって学ぶこと」(Learning by Doing)の主張者であったことを想起しながら、アクティブ・ラーニングの先駆者であったと見ることができるとし、デューイの哲学から現代のアクティブ・ラーニングに通じる理論を読み解いている。

井庭氏は、教わる時代から、話す時代、そして、創る時代になり、今後さらに創ることを通して学ぶ時代になると主張する。それはまさに「Learning by Creating」であり、「Learning through Creating」であり、つくることは変わること、学ぶことである。そこでは、学生が「無我の創造」の経験をするのが大切であり、教師自身がジェネレーターになることを目指し、パターンランゲージの活用が重要である。創造的読書（クリエイティブ・リーディング）の推進も求められ、創造社会における人々の創造実践の支援が肝要になってくると言えるであろう。

3. 創造の7つの原理

井庭氏があげる創造の第一の原理は、つくり手の意図・作為によるコントロールを手放すということである。

この感覚について、実際に、様々な分野の作家や芸術家が語っている。例えば、村上春樹は、自らの創作について、次のように語っている。

「本を書き始めるとき、僕の中には何のプランもありません。ただ物語がやってくるのをじっと待ち受けているだけです。それがどのような物語であるのか、そこで何が起ころうとしているのか、僕が意図して選択するようなことはありません。物語が何を求めているのかを聴き取るのが僕の仕事です。」

日常的な感覚では、「つくる」ということは、つくり手が「こうしたい」という思いや、「こうしよう」という頭のなかの青写真や設計図にもとづいて、手を動かし、それを外部に表現することだと捉えられることが多いだろう。しかし、ここで語られている創造は、つくり手の作為によるのではなく、作品に引っ張られて進んでいくようなつくり手像である。

このように、意識的な意図や作為によるコントロールを手放し、無我 (egoless) な状態で「つくる」ということを、井庭氏は「無我の創造」(egoless creation) と呼んでいる。これが、創造の7つの原則の第一のポイントである。

以下、2. 生成と分化 (植物が絶えず一つの全体として育つように、つくっているものが育つことを支援する。) 3. 内側から感じる (つくっている対象になりきって感じる。) 4. 冒険的創造 (先が見えないなかで探索的に進んでいく。) 5. あるべきかたち (創造の制約・ルールを手掛かりに、パズルのピースをはめてつめていく。) 6. 発掘したものを磨き上げる (深く埋もれていた状態から掘り起こしたものの良さが出るように、徹底的に手直しをして美しい状態に整える。) 7. つくることで生きる (つくることが生きることそのものに重なり、生きることの本質となるように、自分の人生を生きる。) の7つの原理が重要である。〈井庭崇(2019)〉

4. 外国語(日本語)クリエイティブラーニング実践

- 4-1. クリエイティブCM制作プロジェクト
- 4-2. クリエイティブ・ロールプレイ
- 4-3. クリエイティブ・ウェブ・ミニドラマ
- 4-4. クリエイティブ・カナコン

5. おわりに - 「AIとクリエイティブ・ラーニング研究会」創立とその意義

AIを活用した日本語教育も、日本語教育におけるクリエイティブラーニングもまだ、草創期の段階にあり、更なる研究が望まれるところである。今後、日本語教育への応用・発展につながることを切に願い、実践と研究を推進していきたい。

◀ 参考文献 ▶

- 井庭 崇(2019)『クリエイティブ・ラーニング:創造社会の学びと教育』慶應義塾大学出版会
- 落合由治(2020)「AI技術からみた日本語学、日本語教育研究の展望と課題- 日本語教育の繋がりと協働の新領域をめざして-」『日本語教育研究』第50輯、韓国日語教育学会、pp.23-34
- 検校裕朗(2020)「クリエイティブ・ラーニングを目指す日本語教育について」『淡江大学設立70周年記念行事シリーズ活動 2020年度台湾日本語教育研究国際シンポジウムークリエイティブ・ラーニングを目指す日本語教育』台湾日本語教育学会
- (2021a) 「つながりの日本語教育と日本語クリエイティブラーニング」『韓国日本語教育研究会 全国日本語教師授業研究発表大会』基調講演、韓国日本語教育研究会
- (2021b) 「韓国における日本語教育の成果と今後の展望ー韓国日語教育学会(KAJE)(20周年期:2019~20年)における会長経験者のナラティブ分析をもとにー」『日本語教育研究』第54輯、韓国日語教育学会、pp.39-56
- (2021c) 「韓国の日本語教育におけるAIとクリエイティブラーニング」『2021年 AIと日本語教育 国際シンポジウムークリエイティブラーニングを目指す AIと日本語教育ー』招待講演、韓国日本語教育研究会、pp.35-44
- 辛銀眞(2020)「クリエイティブ・ラーニングを引き出す授業設計」『淡江大学設立70周年記念行事シリーズ活動 2020年度台湾日本語教育研究国際シンポジウムークリエイティブ・ラーニングを目指す日本語教育』台湾日本語教育学会<他。当日PPTにて紹介>

中学校でのエデュテックの活用事例

- クラスカードとパドレット及び様々なクイズ形式の 学習ツールについて -

全州雨林中学校 ^{チヨ}趙 ^{サ ラ}シ 思羅

I. コロナ後の韓国教育とエデュテック導入の背景

2020年コロナ事態によってオンライン授業で新学期が始まった。初めてのオンライン授業の形式はオンデマンド型の授業だったが、最近、様々なプラットフォームと機能を利用したリアルタイムのオンライン双方向授業の比率が高まりつつある。また、オンライン授業と対面授業が交互に行われるために、この二つの授業の間の連係性が高い授業ができるようになった。このような流れの中で、

1. オンライン授業の無力感に起因する学習欠損と学習格差の発生
2. 感染リスクに起因する消極的な対面授業(グループワークや討論等の授業が困難)
3. 本を利用した従来の授業方法に対する魅力度の低下
4. 教師間・学生間のデジタル力量の差が発生
5. 新しい学習ツールに対する違和感の発生

上記の問題を克服するために生徒の積極的な学習参加を導こうと対面授業でケータイを利用するエデュテック授業を実施した。本稿では、いくつかのエデュテック活動事例を紹介する。

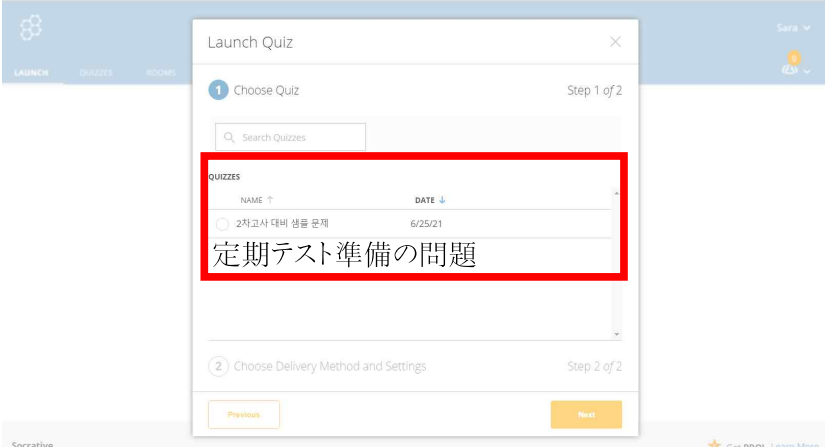
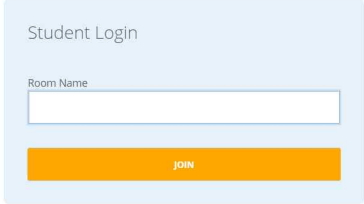
II. 学習ツールと事例

1. クラスカード	
活動タイプ	個別学習(○) / 創作() / 協力(○) / 討論() / プロジェクト()
特 徴	復習の機能を通じて外国語の単語と文章を効率的に覚えられる。
使用方法	①アプリストアで ‘クラスカード’検索 → ②教師・生徒 登録 → ③クラス 登録 → ④セット 登録
重な機能 と 長 所	1. 単語・文章・用語の暗記機能 2. ドリル(問題出題後自動採点機能)セットやリスニングセットが利用できる。 3. クイズバトル・スライド・クイズタイムを通じて団体学習ができる。 4. フィードバック機能:レポート,リモート学習活動モニタリング,メッセージ送信
実 際 活用事例	1. かな文字・単語の暗記が必要な場合に利用できる。

実 際 活用事例	2. 教師は学習するセットを指定すると、生徒は暗記・リコール・スペル・テスト等を進める。 3. リモート学習活動モニタリング機能を実行させた後、教室を巡回しながら生徒を助ける。 4. モニタリングの結果をチェックした後、クイズバトルやクイズタイムを通じて学習を確認する。
問 題 点	1. 同じ学校の教師3人が登録して‘学校認証’をすると、各教師につき150人まで生徒を登録させて一部の機能を無料で利用できる。 2. 様々な機能を使うために有料版を購入しなければならない。 3. いくつかの言葉に発音のエラーが発生することもある。 4. 書き込み機能が不十分なので、別の活動が必要である。

2. パドレット	
活動タイプ	個別学習(○) / 創作(○) / 協力(○) / 討論() / プロジェクト(○)
特 徴	多くの人が同時にアクセスして、様々な作業ができる。
使用方法	① 「パドレット」検索 及び登録 ② パドレット 作成 ③ QRコードで 参加・作業
重な機能 と 長 所	1. 7つの機能(壁,ストリーム,グリッド,シェルフ,地図,キャンバス,タイムライン) 2. リアルタイムに協同学習ができる。 3. 機能別で創造的な作業ができる。
実 際 活用事例	1. 地図機能 - 行きたい日本の観光地チェック  2. シェルフ機能 1) 復習ノート  2) けんだま実習  3) 部活 
問 題 点	1. 一般の加入者は3つを、教師は5つのパドレットを無料で利用できる。 2. 5つ以上を使う時、有料で購入しなければならない。 (12ヶ月で 98,000ウォン) 3. 海外決済であり、ウォン単位の手数料が発生する場合があるので、 あらかじめ 学校側と相談しなければならない。 4. 決済を取り消す場合、パドレット側とメールで連絡する時、円滑ではない こともある。

3. クイズツール	
ツール名	メンチメーター / カフト / ソクラティブ
活動タイプ	個別学習(○) / 創作() / 協力() / 討論() / プロジェクト()
特 徴	1. 多くの人が同時にアクセスして問題を解くことができる。 2. 復習や形成評価などの学習内容の確認として利用できる。
重な機能 と 長 所	1. 様々なタイプの問題、出題可能 2. プリントなどの補助資料なしにリアルタイムで問題が解ける。
実 際 活用事例	1. メンチメーター：日本事情と発音(濁音と半濁音)  2. カフト：日本事情とひらがな文字 

実 際 活用事例	3. ソクラティブ：定期テスト準備の問題 
生 徒 の ログイン 方 法	1. メンチメーター ① アドレスバーに www.menti.com. または QRコードでログイン ② 8桁コード番号を入力 Go to www.menti.com  Enter the code 52 48 32 2 Or use QR code
	2. カフト ① アドレスバーに 「kahoot it」 検索 ② 「Play Kahoot! - Enter game PIN here!」 クリック ③ 提示されたピン番号を入力 
	3. ソクラティブ ① アドレスバーに 「ソクラティブ」 検索 ② 「Student Login」 クリック ③ 提示されたルーム番号を入力 

問 題 点	1. 学習の内容と特徴によってツールを交代しながら使用する。 2. それぞれのツールの使い方とログイン方式が異なるので教師は必ずあらかじめ熟知した後、使用する。 3. メンチメーターの場合、問題の種類と数が限られているので、多くの問題を作る時、有料版を購入する必要がある。 4. 必要に応じては、プリントを作り、配付する。
-------	--

III. 結論

韓国の中高等教育課程の中で日本語の位置は、複数の科目の中で生徒や父兄に選ばれる「選択教科」である。選ばれる立場として中学校の日本語教師の主な役割は、いま教えている生徒が高校に入っても日本語を選択するように「懸け橋」になることである。この悩みの果てに対面授業で色々なツールを使うことに至った。

では、「エデュテックを使うのが果たして言語能力の向上に役に立つのか」という問いについては、どのツールを使うか、どのくらい繰り返すかによるものだと考える。一応、エデュテックを使う授業に多くの生徒が興味や関心を示している。もし、生徒が日本語がうまく話せなくても、日本語の授業で喜びと幸せを感じたら、それで十分だと思う。今までの経験が少しでも将来の進路に役に立つと信じているからである。生徒の知識や経験が高校まで「つながる」ように生徒の関心を維持しながら、デジタルマナーとデジタルリテラシーの教育を伴う授業と日本語能力向上のための研究が行わなければならないと考える。

성인 일본어 학습자의 모놀로그형 발화를 통한 유창성 연구

서유리(고려대)

1. 들어가며

제2언어를 구사하는데 있어 대부분의 학습자들이 가지고 있는 학습목표 중 원어민처럼 유창하게 말하거나 자연스러운 대화를 하기 위한 목적을 가지고 있다. 실제로 필자의 수업에서 ‘일본인과 대화했던 경험’을 이야기한 적이 있다. 현지에서 일본인에게 설명을 할 때 외국인일 것이라 생각하고 눈치를 보는 행동에서 학습자 스스로의 일본어 실력이 미흡하다고 생각하는 경우가 있었다. 또 다른 일례로 일본어로 본인의 의사표현이나 발표를 할 때 간혹 발화 사이에 ‘그니까’, ‘그’, ‘뭐’와 같은 한국어가 버릇처럼 나오는 경우도 있었다.

물론 모국어 화자도 유창하게 말하는 것은 쉽지 않지만, 일본어 학습자가 제2언어로서 일본어를 유창하게 하는 것은 더 어렵다고 볼 수 있다. 또한 일본어 학습수준이 높아질수록 원활한 커뮤니케이션 능력향상을 위한 자연스러운 말하기에 초점이 맞춰지는 것은 자연스러운 일일 것이다.

본 연구에서는 기존의 선행연구의 대상자에서는 보이지 않은 JFL환경의 성인 일본어 학습자를 대상으로, 이들의 모놀로그형 발화(モノログ型タスク)를 통해 이들의 유창성 양상을 파악하고자 한다.

2. 선행연구 및 본 연구의 입장

제2언어교육과 관련하여 유창성에 대한 개념은 70년대 이전에 ‘정확성’이라는 개념에 포함되어 사용되었다. 그러나 이후 정확성을 요구하는 언어능력을 비판하며 매끄럽게 말하는 능력에 초점이 맞춰지기 시작하였다. 특히, 일본어교육에서는 유창성에 영향을 주는 요인으로 발화속도, 머뭇거림, 휴지(フィラー、ポーズ), 반복, 말고침(言い直し), 침묵과 관련하여 다양하게 연구되었다(渡部, 2008; 주인원, 2013; 青森·崔, 2017; 山田, 2018).

渡部(2018)는 중급학습자와 상급학습자를 대상으로 시간적 요소, 정확한 문법 및 어휘, 자연스러운 발음이 영향을 미치는지 고찰하였는데 학습수준에 관계없이 시간적 요소에 유의미한 영향을 미치는 것으로 나타났다.

한국인 학습자를 대상으로 한 연구 중 주인원(2013)은 상급학습자를 대상으로 음독시간, 오류량, 오류음절수, 포즈의 빈도 등에 대해, 青森·崔(2017)는 일본어를 전공으로 하는 대학생 학습자를 대상으로 낭독음성을 통한 피치, 포즈, 강약에 대해, 山田(2018)는 중/상급학습자를 대상으로 유창성과 정확

성을 시간적 요소와 같은 객관적 평가와 모어화자의 주관적 평가를 통한 유창성과 관련한 연구가 진행되어왔다.

기존의 선행연구를 살펴보면, 유창성을 평가하기 위한 개별적인 요소(비유창성 요소) 중 하나인 フィラーナポーズ 등에 대해 낭독자료를 통한 발화 데이터나 코퍼스 자료를 활용하여 기능적인 분석에 기초한 지도법에 대한 제안은 많이 보였다(고용진, 2018; 김주연, 2020). 달리 말하면 앞으로의 유창성을 평가하기 위한 연구는, 각 요소를 전체적으로 고려하여 실제 학습자의 발화에 적용하여 교사가 직접 판단하는 실천보고에 대한 필요성이 요구되는 것이라 생각한다.

어학교사라면 정해진 학기나 한정된 코스 안에서 학습자의 발화수준의 변화가 있다는 점은 어느 정도 인지하게 된다. 그러나 직감적인 주관적인 평가보다는 객관적인 지표를 사용하여 교사 스스로가 분석 및 평가해야 학습자에게 타당한 학습평가를 내릴 수 있을 것이다. 또한 비모어화자인 교사일지라도 대학에서는 이머전교육으로 수업을 하는 경우도 있고, 사내교육 프로그램으로는 외국인 교사의 비자 문제로 한국인 교사가 한인회화 수업을 진행하는 경우도 있다.

이에 본 연구는 교사가 학습자의 발화 데이터를 분석하여 학습평가 및 수업개선에 활용할 수 있도록 하는데 의의가 있으며, 이번 발표는 1차적으로 수집한 데이터를 통한 기초조사이다.

3. 연구방법

본 연구를 위해 한국에서 일본어를 학습하고 있는 성인(직장인) 학습자 15명의 회화테스트 데이터를 활용하였다. 2020년 10월부터 11월까지 15명의 자료를 수집하였다. JFL환경이라는 특수성을 일치시키기 위해 회사에서 일본어 사용빈도가 현저히 낮은 20대 후반에서 40대 초반의 성인 학습자를 대상으로 하였다. 회화테스트를 수행하기에 앞서 현재 일본어 수준을 판단하기 위해 TTBJ의 종합테스트를 진행하여 각각 초급5명, 중급7명, 상급3명으로 구분하였다¹⁾.

자유회화 주제는 각각 과거, 현재, 미래와 관련한 3문항²⁾으로 일본어로 진행하였으며 온라인 ZOOM을 활용하였다. 수집된 일본어 자료는 정밀한 음성파형과 스펙트로그램 구분에 용이한 음향분석기인 praat6.1.16을 이용하였다.

수집된 자료는 연구자가 직접 음성을 들으며 전사하였으며 분석대상의 발화를 Praat의 TextGrid과 일을 이용하여 <그림1>과 같이 문장층, 발화내용층, 유창성 및 비유창성 요인층, 각각의 발화시간으로 나누어 표기하였다. 비유창성³⁾요소인 무언휴지(P)와 유언휴지(F), 자기수정(Er), 모어의 개입(U), 단어와

1) TTBJ(Tsukuba Test Battery of Japanese)는 츠쿠바 대학에서 개발한 일본어 테스트로 SPOT90+문법90+한자90의 종합테스트로 성적표에 '일본어능력 종합점수'와 '한자능력 종합점수'가 기재된다. 각각 100점 만점이다. TTBJ 종합테스트를 통해 초급, 중급, 상급 수준의 학습자로 나누었으며 徐ユリ(2021)의 기준을 참고하였다.

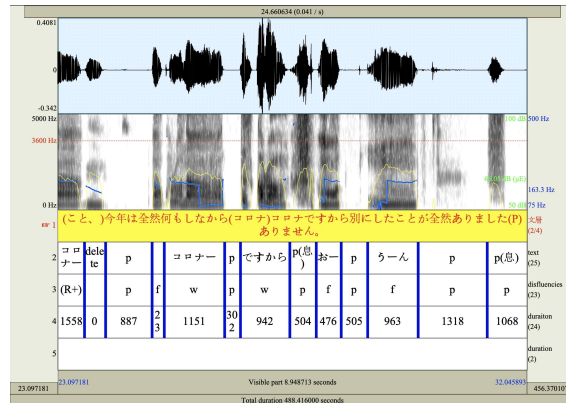
2) 門1 今年ももう10月になりました。今年はどうな1年でしたか。

門2 最近読んだ本または見た映画とかを一つ紹介してください。

門3 5年後についてまたは5年後したいことについて話してください。

3) Yaruss(1998:31)과 水上・山下(2007), 홍민경(2019:352)을 참고하여 필자가 일본어 예시로 새롭게 구성한

음절, 구의 반복(R)으로 구분하여 Excel파일에 음절(拍) 수 분석 자료로 활용하였다⁴⁾.



<그림32> praat 표기 예(KC a문 발화1)

발화구간은 피험자의 독화로 진행하였기 때문에 필자가 피험자의 발화에 대해 ‘うん’과 같은 맞장구와 피험자의 웃음소리, 발화를 마무리하는 구간은 제외하였다. 발화속도는 휴지구간을 포함한 음절(拍) 수를 발화 지속 시간으로 나누어 초당 음절 수(SPS: syllable per second)로 계산하였다. 조음속도는 유·무언휴지 구간을 제외하여 산출하였다.

4. 결과 및 고찰

4.1 발화속도 및 조음속도

추출된 학습자들의 학습수준별 발화를 각 문항당 전체 발화속도와 유·무언휴지를 제외한 조음속도(発音速度)를 제시하면 다음과 같다.

비유창성 요소는 다음과 같다.

P(ポーズ, pause): 휴지를 피하기 위한 들숨, 0.3초 이상의 무언휴지(hesitations).

예) じゃないかと +(1.5秒) + 思います。

F(フィラー, filler): 무의미한 단어 삽입(interjections)은 ‘えーと’, ‘まー’, ‘うーん’, ‘なんか’, ‘こー’와 같은 유언휴지(Filler)로 구분. 예) 今年は(F, まー)ウィルスが...

Er(修復, error repair): 발화 도중 문법 및 발음의 수정. 예) 短いに、短くしたんです。

U(母語, unfinished words): 불완전한 단어 생성이나 모어개입. 예) 남부의 여왕は

R(反復, Repetitions): 구(phrase)나 단어(word), 음절(syllable)의 반복. 예) ①興味を持って、興味を持って... ②どんな、どんな意味だったのかは分からないけど。③コ、コメディ

- 4) 近藤・小森(2012)에 의하면 일본어의 ‘あの’나 ‘えーと’, 영어의 “uh”나 “um”과 같이 단어 자체에 의미를 지니지 않는 표현으로 일본어로는 言い淀み, 場つなぎ言葉, 영어에서는 filled pause, hesitation 등으로 사용한다. 본 연구에서 활용하는 1초 이상의 무언휴지(pause, 이하, P)와 의미를 지니지 않는 유언휴지(filler, 이하, F)는 각주3과 같다.

<표89> 학습자별 문항별 발화속도와 조음속도

시험자		문항1		문항2		문항3	
		발화속도	조음속도	발화속도	조음속도	발화속도	조음속도
초급	1(KS)	1.56	3.52	1.27	3.11	1.34	3.12
	2(KH)	1.33	3.24	1.48	3.43	1.25	3.08
	3(KC)	1.75	3.67	1.49	3.53	1.64	3.45
	4(KA)	1.46	3.64	1.52	3.92	0.95	2.52
	5(KU)	1.62	3.37	1.95	3.84	1.48	3.69
중급	6(KY)	3.09	5.50	3.93	6.42	3.84	5.78
	7(KZ)	4.23	5.62	3.86	4.93	4.38	5.46
	8(KG)	2.52	3.96	2.41	3.84	2.36	3.52
	9(KQ)	2.48	3.87	2.19	3.48	2.57	3.73
	10(KJ)	2.48	3.73	2.87	3.96	2.53	3.66
	11(KP)	2.24	3.37	2.56	3.65	2.15	3.29
	12(KO)	3.45	5.83	3.82	5.97	3.63	5.43
상급	13(KE)	2.12*	3.34*	4.21	5.37	4.46	5.52
	14(KB)	5.50	7.41	5.38	6.75	5.17	6.66
	15(KL)	5.91	7.50	6.11	7.28	5.86	7.04

학습수준에 관계없이 모든 학습자의 조음속도가 발화속도보다 빠른 것을 알 수 있는데 이는 휴지구 간을 제외한 실제 일본어로 발화된 속도이기 때문이다. 일본어와 유사한 언어인 한국인 모어화자를 대상으로 기존의 발화속도에 대한 연구결과를 보면(신지영, 2004), 유창성평가에서 좋은 점수를 받은 발화속도는 5.82음절(초), 조음속도는 6.99음절(초)로 나타났다. 그러나 휴지구간 비율에 따라 조음속도에서는 차이가 나타나 휴지를 포함한 비유창성 5요소를 고려하여 분석할 필요가 있을 것으로 보인다.

4.2 비유창성 5요소

시간적 지표로 학습자의 유창성을 평가하기 위해 발화속도 외에 비유창성 요소 5가지를 고려하여 분석한 결과는 다음과 같았다. (구체지표는 발표자료에 기재)

1)ポーズ(P) + 2) フィラー(F): 학습레벨에 관계없이 문말 포즈의 사용이 보였으며 대부분의 P는 F와 함께 사용되는 경우가 많았다. 다만, 초급학습자의 경우 단어 혹은 음절 사이에서의 F의 빈번한 출현, 마지막 음절의 불필요한 장음화, 침묵으로 볼 수 있는 다소 긴 P가 나타나 유창한 발화를 저해하는 것으로 판단되었다.

3) 자기수정(Er): 일부 초급학습자(KA)와 중급과 상급학습자에서만 나타난 요소였다. 초급학습자는 명사의 오용수정에서, 중급과 상급학습자는 형용사나 동사를 활용하는 경우 휴지구간 없이 자연스럽게 빠르게 자기수정을 하였다. 중급과 상급학습자는 오용수정이 아니라, 보다 나은 구조적 발화를 도출하기 위함으로 판단된다.

4) 불완전한 단어(U): 초급학습자와 일부 중급학습자(KJ)의 경우, 모르는 단어의 표현을 위해 모어인 한국어가 사용되거나 영어 발음을 일본식 발음으로 바꾸어 말하려 했으나 오히려 불완전한 단어의 사용으로 듣는 이의 이해를 저해하는 것으로 보였다.

5) 반복(R): 구, 단어, 음절의 반복은 특히 초급 학습자에게서 많이 보였다. 중급학습자는 구나 단어의 반복을 통해 발화의 내용을 생각하면서 바로 이어가려는 경우가 많았고 상급학습자는 '별로 생각해

본 적이 없긴 한데'나 '글쎄요, ~는 어떻게 될까요'와 같은 넓은 의미에서의 필터기능의 발화를 통해 휴지구간의 발생을 억제하고 있다는 점을 알 수 있었다.

5. 나오며

이번 연구는 유창성 평가에 객관적인 지표인 '발화속도와 조음속도', '비유창성 5요소'(유·무언휴지, 자기수정, 불완전한 단어, 반복)에 초점을 두어 JFL환경에 있는 성인(직장인) 일본어 학습자의 모놀로 그형 발화를 분석한 기초조사의 결과이다.

일본어 학습자의 대다수가 원활한 커뮤니케이션 능력을 향상시키고 싶어하나 JFL환경에서는 쉽지 않은 실정이다. 후속연구를 통해 학습자간의 개인차를 고려한 후, 유창성 지표의 변화를 살펴볼 필요가 있겠다.

참고문헌

- 고용진(2018) 「초급과정의 일본어교육에 있어서 ‘필러(fillers)’」 『언어학연구』 23(1), 한국언어연구학회, pp.263-281.
- 김주연(2020) 「포즈의 지도가 한국인 일본어 학습자의 말하기 유창성 평가에 미치는 영향」 『일본근대학연구』 70, 한국일본근대학회, pp.31-49.
- 주인원(2013) 「第二言語における音読の流暢さと文章理解の関係」 『일본어교육』 64, 한국일본어교육학회, pp.67-79.
- 홍민경(2019) 「자유 대화에서의 한국어 원어민 화자와 한국어 고급 학습자들의 발화 속도 비교」 『한국어교육』 29(3), 국제한국어교육학회, pp.345-363.
- 青森剛·崔英淑(2017) 「韓国人日本語学習者による音読音声の特徴-ピッチ・ポーズ・強さを中心に」 『외국학연구』 41, 중앙대학교 외국학연구소, pp.58-69.
- 近藤安月子·小森和子(2012) 『研究社 日本語教育事典』 研究社
- 徐윌리(2021) 「韓國の社会人学習者の日本語学習継続に関する一考察-修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ」 『日本語学研究』 Vol.68, pp.75-89.
- 渡部倫子(2008) 「日本語の流暢さに対する評価にかかわる要因」 『留学生教育』, 13, 留学生教育学会編集委員会, pp.11-18.
- J. Scott Yaruss (1998), Real-Time Analysis of Speech Fluency: Procedures and Reliability Training, Journal of Speech-Language Pathology, 7(2), 25-37.

韓国語母語話者における“基本のナル”の使用状況

—KYコーパスから分かること—

植松 容子（昭和女子大学）

1. 問題の背景

日本語教育では初級でナル表現を学習する。そのうち、「イ形容詞+ナル」、「ナ形容詞+ナル」、「名詞+ナル」は、どの教科書においても初級前半で扱われる（表1）。これまでの研究では、より難易度が高いと思われる「～ようになる」や「～ことになる」、もしくは自動詞と他動詞の観点から分析した研究は見られるが、先に示した基本的なナル表現を取り上げたものは管見の限りでは見当たらない。初級で学習した一見すると易しい文法項目は、初級以降、特に問題なく習得されていくのであろうか。本研究では、「イ形容詞+ナル」、「ナ形容詞+ナル」、「名詞+ナル」を“基本のナル”と呼び、韓国語母語話者における使用状況を観察する。

表1 日本語の教科書におけるナルの提出課¹⁾（“基本のナル”は*で示す）

	み改	文改	SFJ	げ改	でき	つな	大地	JB(B)
*イ形+ナル	19	12	9	10	初10	14	23	24
*ナ形+ナル	19	12	9	10	初10	14	23	24
*名詞+ナル	19	12	3	10	初10	14	23	24
Vようになる	36	23	21		初中1	20, 28	24	38
Vなくなる		23	21			20, 28	24	38
Vことになる			23		初中9		29	37
総課数	50	36	24	23	初15 初中15	30	42	42

2. 日本語のナル表現と韓国語のナル表現

- 1) 教科書名の略称 み改：『みんなの日本語初級改訂版』上下、文改：『文化初級日本語改訂版』1,2、SFJ：『Situational Functional Japanese』Vol.1-3、げ改：『初級日本語げんき改訂版』1,2、でき：『できる日本語初級』『できる日本語初中級』、つな：『つなぐにほんご』1,2、大地：『日本語初級大地 メインテキスト』1,2、JB(B)：『J.Bridge for Beginners』1,2

韓国語にもナルに相当する表現はある。植松（2017）では、日本語のナル表現とそれに対応する韓国語について、以下のとおり整理している。

表2 韓国語と日本語のナル表現（植松2017：39）

品詞	日本語例文	韓国語例文	韓国語における「되다」の使用
名詞	10時になりました	10시가 되었습니다.	名詞+가/이 되다
形容詞	顔が赤くなりました	얼굴이 빨게졌습니다.	形容詞+게 되다、 形容詞+어 / 아 / 여지다
ことになる	来年結婚することになりました	내년에 결혼하게 되었습니다. ²⁾	動詞 + 게 되다
ようになる	日本に来てから、料理をするようになりました	일본에 와서, 요리를 하게 되었습니다.	

表2から、形容詞のみ「어/아/여지다」という形式が使われることがあるが、全てに共通して「되다(doeda)」が使われていることが分かる。

3. KYコーパスにおける“基本のナル”

タグ付きKYコーパス³⁾の検索文字列で「形態素単位で検索」を選んで「なる」と入力、中国語母語話者、韓国語母語話者、英語母語話者の全レベルを対象とした。その後、目視でデータを確認し、変化のナルではないもの（例：「なんでもいいです」（CAH03）、「冷たいなっていうのを」（KS06））を除外した。まずは“基本のナル”に限らず、全てのナルの使用状況を以下に示す。

韓国語母語話者は上級から超級にかけての使用が多く、中国語母語話者は上級が最も多い。但し、KYコーパスは初級と超級が5名ずつ、中級と上級が10名ずつと人数が異なる。1人当たりの平均使用数で見てみると、中国語母語話者は上級が13.3、超級が13.2であるため、あまり変化がない。一方、韓国語母語話者は上級が9.8、超級が18.6であるため、顕著に増加していることが分かる。

表2 KYコーパスにおけるナル表現の使用状況

	初級	中級	上級	超級	合計
中国語	2	40	133	66	241

2) 植松（2017）ではこの表現に注がつけられており、「これは非文とは言えないが、自分のことを報告する際には使わない」、「たとえば、ある人物の経歴を述べる（～という経緯により、〇〇年に結婚することになった）場合など、状況設定によっては自然になる」と補足されている。

3) タグ付きKYコーパス（<http://jhlee.sakura.ne.jp/kyc/corpus/>）とは、李在鎬氏がKYコーパスにタグをつけ、オンライン上で検索ができるようになっているシステムのことである。

韓国語	0	42	98	93	233
英語	1	28	98	62	189
合計	3	110	329	221	663

4. 韓国語母語話者における“基本のナル”の使用状況

韓国語母語話者における“基本のナル”の使用数及び1人あたりの使用平均数を表3に示す。このデータから、韓国語母語話者は、“基本のナル”の中でもとりわけ「名詞+ナル」を、上級から超級にかけて多用していることが分かる。

表3 韓国語母語話者における“基本のナル”の使用状況

	初級		中級		上級		超級		合計
	数	Ave	数	Ave	数	Ave	数	Ave	
イ形	0	0	6	0.6	12	1.2	8	1.6	26
ナ形	0	0	7	0.7	7	0.7	5	1	19
名詞	0	0	20	2	45	4.5	63	12.6	128

4. 1 イ形容詞の使用状況

イ形容詞はレベルを問わず、誤用や不自然な使用は見当たらない。但し、上級においては使用数に個人による偏りが見られ、上級における12例のうちKA01が4例、KA02が6例使用している。超級では5名全員に使用が見られる。

4. 2 ナ形容詞の使用状況

ナ形容詞はレベルを問わず、誤用や不自然な使用は見当たらない。また、イ形容詞に見られたような個人による使用の偏りも見られない。

4. 3 名詞の使用状況

名詞は、中級では誤用はほとんどなく、不自然なものとしては以下の2例があげられる。

- (1) あ、あの、一応、材料をかって、材料というのは、〈うん〉あの、えのきとか、〈うん〉ただ、ほんとの日本、韓国の材料じゃない、〈うんうん〉ただ、材料は、キムチが、〈うん〉しゅになって、(KIH01)
- (2) 授業が、終わっ、て、〈うん〉留学生会館に、〈うん〉戻って、〈うん〉んー、わたしが、〈ええ〉きのう〈ええ〉勉強した、〈ええ〉{笑い}、勉強した〈ええ〉**を整理して、〈ええ〉1時間になりました、(KIM02)

上級では1人あたりの使用数は増えるが、決まった用法が多い。45例中26例(58%)が「先生になりたい」というようにNに職業等のステータスを取るもの(17例)、「20歳になったら」「夜になる」のように年齢や時間に関する名詞を取るもの(9例)である。なお、この中には(5)のように「(話者の認識の中で振り返って計算すると)〇年になる」のような例も含まれる。

(3) 日本語を勉強して、観光ガイドになりたいって思っている人もいるし、(KA05)

(4) (大学1年生は大人ではないという話で)

でも一なんかに、にん、なんかん、はたちになるとき、〈うん〉それで一全部、大人になったと言って選挙もできるし、〈はーはーはーはー〉これがちょっと変ですね、〈あーそう〉なんか19歳とはたちとなんーの差があるか知らないけど

(KAH03)

(5) (去年の10月に日本に来たという話で)

T: ああそう、〈ん〉じゃあもうそろそろー

S: 1年に、なるんですね (KAH03)

上級におけるその他19例には、「横になる」「勉強になる」等の慣用句(5例)、「友達になる」など相手との関係を表すもの(3例)などが見られる。誤用や不自然な使用と判定されるものはほとんど見当たらず、以下の例のみである。

(6) だからわたしたちは一、必ずーは、〈うん〉うーん、なに、続いち、〈うん〉といつ、統一、〈うん〉がなる、なりたい、〈うん〉うん、は、んー、だから、〈うん〉そのふうになりたいんーですうん(KA03)

超級における「名詞+ナル」63例のうち、上級と同様に決まった用法(職業等のステータスを表す名詞/年齢や時間に関する名詞)の割合を見てみると、Nに職業等のステータスを取るものが13例、年齢や時間に関する名詞を取るものが8例、合計21例(33%)であった。上級では58%であったものが33%になっていることから、「名詞+ナル」が多様な場面で使われるようになっていくことが分かる。また、誤用や不自然な使用はほとんど見当たらず、残りの42例の中で不自然な使用と判定できるのは以下の1例のみである。

(7) 理想のタイプがですね、あったんですよまへは、〈はい、えーえー〉(中略)

まあ歳になるとですね、〈{笑い}〉特別にそういう、条件というよりも、わたしのこと、〈うん〉が好きでやっぱりこう性格とかですね、(KS06)

KYコーパスにおける韓国語母語話者の“基本のナル”を観察した結果、上級から超級にかけて「名詞+ナル」の使用が顕著に増加することが分かった。また、使用された語彙に注目して観察した結果、上級では「先生になる」「夜になる」などの特定の用法が6割程度を占めるのに対し、超級では3割程度に減少する。日本語の習熟度が高まるにつれて、「名詞+ナル」の使用にも広がり

が見られると言えるだろう。

5. 「名詞+ナル」の韓国語との対照

韓国語母語話者が産出した「名詞+ナル」のうち、誤用や不自然な使用、また、正用ではあるが日本語教育の教科書ではあまり扱われないコロケーションを30取り上げ、それが韓国語でどのように表現されるのかについて追調査した。

調査は、選定した30の「名詞+ナル」の日本語文を韓国語に翻訳してもらった上で、「되다」の有無及び文章の自然さについて判定してもらった。次に、それをもとにZoomによる補足インタビューを行った。調査の結果、30の例文は以下4つのパターンに分けることができた。

【A：韓国語でも問題なく「名詞+되다」で言えるもの】

(8) 思い通りの 結果に なりました。

예상한 대로의 결과가 되었습니다.

(9) 部外者は 入れない システムに なっています。

외부인은 들어갈 수 없는 시스템으로 되어 있습니다.

【B：文脈があれば、韓国語で「名詞+되다」で言えるもの】

(10) これで お祝いの スピーチに なっていますか？

이걸로 축하 연설은 되어있을까요？

⇒言えないことはないが、嫌々スピーチをしたというニュアンスが出る

(11) ?その料理の 材料は キムチが 主になります。

그 요리의 재료는 김치가 주가됩니다.

⇒「今からキムチ鍋を作ります。この料理の材料はキムチが主になります。」

というように前に説明があれば自然になる。

(12) *ここから ここまで 赤で 統一に なっています4)。

여기부터 여기까지 빨강으로 통일이 되어 있어요.

⇒「ここは赤で統一しよう」ならスルを使うが、上記の文脈ならナルで言える。

【C：名詞を変更すれば「名詞+되다」で言えるもの】

(13) 今日の お話は 勉強に なりました。

?오늘의 이야기는 공부가 되었습니다.

⇒参考 (참고)

【D：「名詞+되다」ではなく別の言い方が選ばれるもの】

4) 「統一になりたい」という誤用をもとに作例した例文であり、日本語では非文である。

(14) (花火の見物客は) すごい 数に なっています。(→人波が集まっています)

엄청난 인파가 모여 있습니다.

(15) 報道の 仕方が 気になります。(→神経が使われます)

보도의 방식이 신경쓰입니다.

(16) ジェスチャーは ことばの かわりになります。(→かわりに使われます)

제스처는 말 대신쓰입니다.

上記4つのパターンのうち、A,C,Dには誤用や不適切な使用は見られない。C,Dは日本語とは異なる表し方をするが、「勉強になる」等の慣用表現は、ナルと共に使われるチャンクとして意識されやすいためと考えられる。一方、誤用や不適切な使用が見られるのは、Bのパターンに集中する。Bには韓国語の「名詞+되다」のニュアンスが日本語の「名詞+ナル」とは異なるもの、韓国語では文脈によって「名詞+되다」で言えるが、日本語では言えないものが含まれる。

6. おわりに

本研究では、KYコーパスを用いて韓国語母語話者における“基本のナル”の使用状況を観察した。その結果、韓国語母語話者は上級から超級にかけて「名詞+ナル」に顕著な増加が見られることが分かった。また、「名詞+ナル」の実例を観察し、韓国語表現と対照した結果、①慣用表現的な「名詞+ナル」（例：「勉強になる」）はあまり問題がない、②韓国語では文脈によって「名詞+되다」で言えるが、日本語では言えないものは誤りやすい、という仮説が得られた。岡（2018：607）でも、韓国語では「漢語サ変動詞がナル表現になる場合がある（「当选なる」「混乱なる」）」と指摘されている。初級で学習する基本的な（一見すると易しい）文法項目であっても、段階に応じて情報を更新していく必要がある。今後は、中級以降でどのような文法情報を提示することが自然なナル表現の運用につながるのか、具体的に考えていきたい。

引用文献

- 植松容子（2017）「韓国語母語話者、中国語母語話者の「勘どころ」を押さえた記述とは―「スルようになる」を例に」、『日本語／日本語教育研究』第8号、pp.37-52
- 岡智之（2018）「日本語と朝鮮語のナル的表現と事態把握―ナル的表現のスキーマ設定に向けて―」、『日本認知言語学会論文集』18、pp.604-609
- 謝辞：韓国語の翻訳は、ソンダビン氏（昭和女子大学学部生）の協力を得た。記して感謝申し上げる。

日本語教育による国家能力指標へのアプローチ

－日本・韓国・マレーシアの大学教育における能力指標の利活用－

古賀万紀子（大正大学）・KIMURA Kaori（University of Malaya）

1. 研究背景および研究目的

本研究の目的は、大学教育で育成目標とされる能力指標を整理し、日本語教育の現場から能力指標にどのようにアプローチするかを検討することである。

学士課程教育の質を保証し、学位授与の方針を明確化するために、大学で育成すべき能力指標とその教育方針を策定することは、大学において喫緊の課題となっている。中央教育審議会答申（2008:8-9）は、国際的な大学教育改革の動向として、学生が修得すべき学習成果、すなわち「何ができるようになるか」に力点が置かれるようになり、主要国では各機関の個性や特色をふまえて学位授与方針等の具体化が進められていることを指摘している。

しかし、日本の大学で育成する能力指標は国家的に制定されていない。本答申で提言された「各専攻分野を通じて培う学士力」（以下、学士力）のほか、経済産業省による「社会人基礎力」、厚生労働省による「職業能力評価基準」、中央教育審議会答申（2011）でキャリア教育の中心課題として提示された「汎用的・基礎的能力」など、多様な能力指標を政府機関が独自に策定している現状がある。

一方、諸外国では、国家による学術資格・職業資格の認定制度として国家資格枠組み（National Qualifications Framework）の整備が進められている。韓国では2002年から開発が進み、2015年に国家職務能力基準（국가직무능력; National Competency Standards、以下NCS）が、2019年には韓国型国家力量体系（한국형 국가역량체계; Korean Qualifications Framework、以下KQF）が制定された。また、マレーシアも2007年にMalaysian Qualifications Framework（以下MQF）を制定した。

そこで、本研究では、日本・韓国・マレーシアの能力指標を整理し、日本語教育による国家能力指標へのアプローチという観点から考察を述べる。

2. 日本の政府機関が提示する能力指標

1.で述べたように、日本では各機関がさまざまな能力指標を提唱している。1.で挙げた4つの能力指標と韓国NCSにおける「職業基礎能力」を次の表1にまとめた。

表 1 日本の各機関が提唱する諸能力および韓国NCS「職業基礎能力」（国立教育政策研究所
生徒指導研究センター2011:33,表3-2とNCSホームページをもとに筆者作成）

社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力（中教審,2011）		就職基礎能力（厚労省,2004）	社会人基礎力（経産省,2006）	学士力（中教審,2008）	NCS職業基礎能力（韓国）
基礎的・汎用的能力	基礎的・汎用的な知識・技能	読み書き 計算・数学的思考		多文化・異文化に関する知識の理解 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 数量的スキル 情報リテラシー	数理能力 情報能力
	勤労観・職業観等の価値観	職業意識・勤労観			
	意欲・態度	向上心・探求心			
	論理的思考力・想像力		創造力	論理的思考力	
	人間関係形成・社会形成能力	意思疎通 協調性 自己表現力 社会人常識 基本的なマナー	働きかけ力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性	コミュニケーション・スキル チームワーク、リーダーシップ 市民としての社会的責任	意思疎通能力 対人関係能力 組織理解能力 職業倫理能力
	自己理解・自己管理能力	責任感	主体性 ストレスコントロール力	自己管理能力 倫理観 生涯学習力	資源管理能力
	課題対応能力		主体性 実行力 課題発見力 計画力	問題解決力 統合的な学習経験と創造的思考力	問題解決能力
	キャリアプランニング能力				自己開発能力
	専門的な知識・技能	情報技術関係の資格 経理・財務関係の資格 語学関係の資格		多文化・異文化に関する知識の理解 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	技術能力

中教審答申（2011）では、キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義され、幼児期から高等教育までのキャリア教育の中心課題は「基礎的・汎用的能力」にあたる4つの能力の育成とされている。表1からわかるように、「基礎的・汎用的能力」は、他機関により示された諸能力の大半を包括するものである。

本答申では、この4つの能力はそれぞれ独立したものではなく相互に関連があること、全員が同じ程度あるいは均一に能力を身に付けることを求めるものではないことが強調されている。つまり、各学校に求められているのは、これらの能力を「参考」にし、フィールド（地域・学校・専門分野・対象者等）の状況をふまえてどのような能力をどの程度・どのように育成するかを策定し、実践することである。

「基礎的・汎用的能力」の前身である「4領域8能力」では、発達段階に応じた具体的な能力を一覧で示したがゆえに、「多くの学校では、学校や地域の特色や生徒の実態等を必ずしも前提としない、固定的・画一的な運用が目立つ」という問題が生じた（国立教育政策研究所生徒指導研究センター2011:18）。そのため、「基礎的・汎用的能力」では、具体的な能力の一覧は「固定的な解釈と運用を助長する可能性を勘案」して作成されず、「身に付けるべき能力の具体化の作業は、それぞれの学校が主体となって進められるべき」であるという方針が改めて示された（同:87）。つまり、こうした能力指標は教育実践を構想するための観点として柔軟に利活用すべきものであり、絶対的・統一的な目標ではないということに、教育関係者は留意する必要がある。

3.韓国における「国家職務能力基準（NCS）」と「韓国型国家力量体系（KQF）」

NCSは、職務遂行に必要な知識・技術・素養等を産業部門別・水準別に体系化したものである。NCSにおける「職業基礎能力」は、分野を問わず職務で必要とされる基礎的能力を指す。表1のとおり、職業基礎能力の指標は、日本でいう「基礎的・汎用的能力」とほぼコンセプトは同じといえるだろう。

江藤（2020）は、建学の精神や学部・学科のポリシーを変えず、既存のカリキュラムと融合する形でNCSに基づく教育カリキュラムを導入した大学の事例として、敬仁女子大学を取り上げている。そして、「資格等の教育課程にのみ頼るのではなく、大学の独自性を尊重しながら教育プログラム改編を行う点は、日本にも示唆を与える」（同:29）と述べている。このように、大学や学部・学科の特性をふまえた能力指標の利活用は、本来の能力指標の趣旨とも合致しているといえよう。

2019年には教育部からKQFが告示された。KQFは、NCS等に基づき、学歴、資格、就業経験および教育訓練の履修結果などの相互連携を意図した水準体系である。KQFの構成要素は「知識」「技術」「自律性および責任性」で、各々8水準に区分される。KQFではこの基本枠のみ提示され、これを参考に各産業別の力量体系（SQF）を開発・活用することが勧告されている。정향진ほか（2019:viii）は、KQFを個人の学修・勤労経験の認定基準として適用していくためには、現場に応じたSQF開発と活用事例を示し、その活用性や効率性を可視化することが必要だと主張している。そうした実践的努力により、政策供給者中心の議論から、政策の受惠者、すなわち生涯にわたって学ぶ人たち中心の議論へと流れが変わることが期待されるという。こうした韓国の先行事例や議論から示唆されるのは、能力指標をトップダウンに受容するのではなく、実践に基づくボトムアップでの議論・改革の重要性である。日本語教育においても能力指標に迎合するのではなく、現場の実情をふまえて主体的に能力指標を利活用する立場に立つべきではないだろうか。

4.マレーシアにおける「能力指標」とその利活用

現在、マレーシアで能力指標とされているMQFは、2017年に出された第2版である。これは、2013年に発表された教育青書（Malaysia Education Blueprint 2015-2025 Higher Education）を受けて出された。第2版では、資質・能力が「1.知識・理解」「2.認知力」「3.職業基礎能力」「4. キャリアデベロップメントスキル・企業（事業）に関する知識」「5.倫理観・社会的責任」の5つのクラスターに項目分類された。さらに、「3.職業基礎能力」の下位には、「a.知的／職業活動における実践力」「b.人間関係力」「c.コミュニケーション力」「d.ICTスキル・情報リテラシー」「e.数理的能力」「f.リーダーシップ力・自律性・責任感」というカテゴリーが作られ、計10項目となっ

いる。日本の「学士力」や韓国のNCSと同様の領域（クラスター）で分類しているが、細部を見ると、教育青書で強調されているEmployability（雇用可能性）を高める能力をかなり意識していることがわかる。

各高等教育機関は、MQFに基づき学士レベルなら学士レベルの質を保証しながらもそれぞれの特色を生かした教育目標や目標学習成果（Program Learning Outcome、以下PLO）を定めることが求められている。つまり、学部・学科等は、プログラムの特徴に合わせ、MQFの提示するクラスターを各学部・学科のPLOとして再編成して示す。図1のグラフは、ある人文系学科のPLOの配列例である。PLOの数の異なりは、プログラムの特徴を示している。

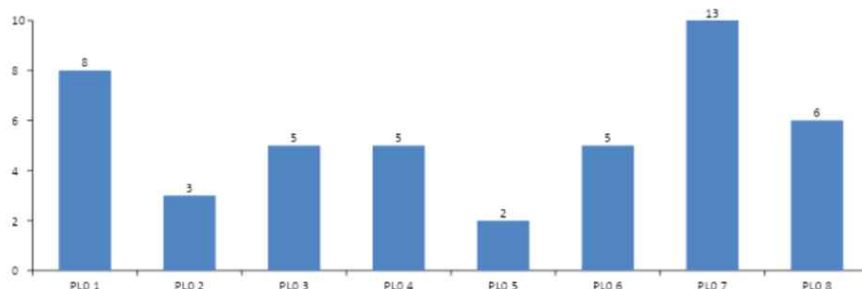


図 1 某人文系学科のPLOの配列例

また、グラフの縦軸が示す数値の異なりは、MQFで示されている全ての資質・能力を同じレベルで育成することを目指しているのではないことを示している。また、学科内の1つの科目で全ての資質・能力を育成するのではなく、1つの科目で、1つだけの資質・能力の育成をするのではない。

ところが、2011年にMQF第1版ができた当初、大学は「1つのプログラムで全ての資質・能力を育成することを目指すこと」が求められていると捉え、混乱したと推測できる。なぜなら、大学が教員に示したPLOが「問題解決能力」というようにかなり曖昧で汎用的であったからである。一方、学科では、各科目で目指す学習成果Course Learning Outcome（以下CLO）を決めなければならなかったが、混乱から学部や学科は、PLOとの整合性を熟考せずにCLOを定めていた。

上記のような混乱は教師たちにどのような影響を与えるのか。たとえば、ある日本語科目のCLOは、「複雑な日本語の記事をマレー語に解釈する」、「中級程度の言語技術を使って、やや複雑な内容のレポートを書く」、「文法的な問題を辞書や参考書、クラスメートとの議論を通して解決する」といったものであった。こうしたCLOを授業の学習目標とすることに違和感はないが、こうしたCLOがどのような資質・能力の育成につながるかは不明である。これに対し、当時のプログラムの学習目標は、PLO6「問題解決能力」やPLO7「情報管理能力」であった。だが、「複雑な日本語の記事をマレー語に解釈」できるようになれば、「問題解決能力」が養われるとは思えない。CLOとPLOに整合性が見えず、学科では、この科目の目標を達成するための履修内容に『みんなの日本語』42課～50課とだけ記した。着任したばかりの筆者もそれに従い、授業を実施した。そし

て、言語技術の向上を目指すCLOとPLOに整合性がないことだけを批判した。

1学期間授業を行い省察した結果、気づくことがあった。それは、このプログラムで育成しようとする学生像が見えないのではなく、CLOの細部だけにこだわって、マレーシアの高等教育が置かれた文脈にPLOを見ようとしていないということであった。そのために、目指す学生像を見出せていないということであった。CLOとPLOに整合性がないのではなく、現場の教師がCLOとPLOを振り返り、捉え直し、PLOの意味を考えることをしていないのである。この気づきにより、筆者は、PLOが示す学生像を具体化するためにCLOを捉え直し、授業内容を考え直し、次学期に新たな授業を実践した。その実践を他者と議論し、木村(2013) として発表した。

2017年マレーシア教育省からMQF第2版が出された。それは、現場の省察と議論から生み出されたものであるとも解釈できる。そして、大学・学部もPLOおよびCLOを含むカリキュラムを改善し続けている。

5.日本語教育による国家能力指標へのアプローチに関する考察

本稿で論じた日本語教育の現場から国家能力指標へアプローチするあり方は、国家能力指標をトップダウンで受容するのではなく、参照すべき枠組みとして捉え、自身の実践をつくりだすという主体的態度につながる。教師個人に求められるのは、能力指標を活用した教育実践を構想し、省察し、他者との議論を通じて自らの教育実践や実践を取り巻く状況を、ひいては能力指標そのものを改革していく姿勢である。それこそが、能力指標に挙げられている「統合的な学修経験と創造的思考力」「問題解決能力」「リーダーシップ力・自律性・責任感」といった能力ではないだろうか。このように、日本語教師が主体的に能力指標を捉える視座に立つてこそ、日本語教育を通じた能力育成に関する議論が活発化すると考える。

参考文献

- 江藤智佐子 (2020) 「韓国NCSにおける職業能力と学習モジュールービジネス分野の基礎レベル能力に着目して」『久留米大学文学部紀要 情報社会学科編』15、pp.19-32
- 木村かおり (2013) 「多文化社会における異文化間言語学習能力を考えるーおにぎりプロジェクトを通して」『日本語プロフィシエンシー研究』1、pp.138-156、凡人社。
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2011) 「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/22career_shiryou/22career_shiryou.htm (2021/08/18閲覧)
- 中央教育審議会答申 (2008) 「学士課程教育の構築に向けて」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (2021/08/18閲覧)

- 中央教育審議会答申 (2011) 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1315467.htm
(2021/08/18閲覧)
- 정향진·김상진·김윤아·강일규 (2019) 『교육 분야 한국형 국가역량체계(KQF) 적용 방안』 한국직업능력
개발원
- 한국산업인력공단 「NC국가직무능력표준」 <https://www.ncs.go.kr/index.do> (2021/08/18閲覧)
- Malaysia Education Blueprint 2015-2025 Higher Education
https://www.kooperation-international.de/uploads/media/3_Malaysia_Education_Blueprint_2015-2025_Higher_Education_.pdf(Retrieved 20210803)
- Malaysian Qualifications Framework 2nd Edition <https://www.mqa.gov.my/pv4/mqf.cfm> (Retrieved 20210803)

ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)による オンライン交流学習実践報告

検校裕朗（極東大学校）・二ノ神正路（文教大学）

1. はじめに

21世紀に入り、グローバル化が急速に進む中、国境を越えて、テクノロジーにより、人・モノ・情報・文化の移動が広範囲におこり、人、文化、経済交流、統合が急速に進んできた。ICTとツールの発達により、これまでつながることができなかった人々とも容易に、そして瞬時につながることが可能になり、その中で言語の様相も変わり、言語の役割も変化している。特に2019年末からのパンデミック(COVID-19)と、それに対するオンラインでの新しい教育であるパンデミック・ペタゴジーも後押しして、教育の目標、役割、形態も変化し、日本語を含む言語教育にも革新(イノベーション)が求められている。

21世紀は「つながる」ことがキーワードであると言われるが、當作『NIPPON3.0の処方箋』は言語を使い、人、モノ、情報と新しいつながりを作り、社会活動を行い、社会に貢献し、社会を変えていく知識、能力、資質を身に付け、人間として成長していくことを目標とした 新時代の言語教育のアプローチである「ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)」を提唱した。

ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)では学習者は世界や社会や教室外の人々とつながり、幅広く交流し、協働学習と自律学習、そして相互交流を通して、問題発見や課題解決をしていく活動から言語を習得し、そして異文化理解を深め、社会力を伸ばしていく。

2. ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)

當作(2017)によるとソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)とは「学習のめやす」(2012)に示された考えを発展拡大したものである。

教育理念：「他者の発見・自己の発見・つながりの実現」

教育目標：「学習者の人間的成長を促し、21世紀に生きる力を育てる」

学習目標：「総合的コミュニケーション能力の獲得」

学習目標のキーコンセプト：3×3+3〈言語・文化・グローバル社会〉の3領域における〈知識理解(わかる)・技能(できる)・関係性(つながる)〉という3能力を〈学習者・他教科・教室外〉との3連繫によって育む」

4段階の言語レベルと15の話題分野別コミュニケーション能力指標を能力記述文(Can-do statements)で表す。

外国語教育の新たな理念、教育目標、学習目標とともに、それらを達成するためのカリキュラムデザインや授業設計の方法、さらに具体的な学習活動や学習内容を提案している。

なお、2021年4月24日に「SNA交流学习実践研究会」(顧問：當作靖彦、会長：検校)を創立し、韓国日語教育学会第39回国際学術大会で「SNA交流学习実践研究会 創立企画セッション」を行った。韓国日語教育学会ともMOU締結が行われ、これから、更にSNAによる交流学习等の教育実践が望まれるところである。

3. ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)によるオンライン交流学习実践

筆者の勤務校では、毎年夏に日本研修を行い、2004年より、協定先である日本の文教大学を訪問し、体験型・プロジェクト型研修を行っている。数年前より、日本研修に行く前に、事前交流として、オンラインの交流学习を行っている。例えば、2017年1学期(3月から7月)の事例は次のようである。

ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)、21世紀型スキル学習。

〈実践A：オンライン交流学习(4-6月)+実践B：日本でのプロジェクト学習(6-7月：2週間)+実践C：韓国でのホームステイ及び交流学习(9月：3泊4日)〉

〈実践A〉オンライン交流学习(時期：2017年4月-6月)

目標：日本の大学生に韓国と自身の大学を紹介し、オンライン上で交流する。

科目：日本語会話1(2年生)、応用日本語会話1(3年生)、集中日本語会話(2、3年生)

・学科紹介グループ：「日本語学科教員紹介」「日本語学科サークル紹介」「大学紹介」「初等特殊教育学科紹介」「中国航空運航サービス学科紹介」

・韓国紹介グループ：「韓国の軍隊制度紹介」「韓国の公共交通紹介」「韓国の総合スーパー紹介」

1. LINE上にチャットルームを開設し、文章で自己紹介を行う。
2. 自己紹介動画を作成し、LINEに上げ、交流する。
3. グループごとにテーマ動画を作成する。
4. テーマ動画をLINEに上げ、交流する。
5. 普段のオンライン交流以外に、教室でスクリーンを見ながら、映像チャットで交流し、文字や動画だけでは伝わらない感想などを伝える、交流授業を行う。

〈実践B〉その後、グループを代表した学生が研修参加メンバーとして、日本に行き、プロジェクト研修を受けた。テーマは以下の通りである。

Aクラス(中級)「自分たちが決めた日韓比較」

〈グループで決めたテーマについて現地調査・インタビュー等を行い、比較考察して最後にプロジェクト発表(プレゼンテーション)。

グループ1:日韓カップラーメン比較 グループ2:日韓伝統菓子比較 グループ3:日韓コンビニ比較

Bクラス(初級)「日本の“おいしさ”を探究する」

日本で評判になっている食品について調査し、その食品を購入する。実際に食べてみて、事前に調査した評判が期待以上・予想通り・期待外れ、だったのか検討し発表する。

〈実践C〉その後、日本の学生代表が韓国を訪問し、ホームステイと交流学习を行う。

2020年度から、コロナ・パンデミックの中、パンデミックペタゴジーとして、全授業がオンライン化されることになった。オンライン授業の中で、それぞれ、同期型・非同期型の授業を行い、事前に映像や資料で自習をした後、教室での活動を行うFlipped learning(反転授業) Blended learning(ブレンド型学習)が行われてきた。その中で、2021年度には、研修自体もすべて、オンラインにした形を企画して、2週間の研修を全てオンラインで行った初ケースとなった。

ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)、21世紀型スキル学習。

〈実践A: オンライン交流学习(4-6月)+実践B: オンラインプロジェクト型研修(6-7月)2週間〉

〈実践A〉オンライン交流学习(時期:2021年4月-6月)

目標:日本の大学生に韓国と自身の大学を紹介し、オンライン上で交流する。

科目:メディア日本語(2年生)、応用日本語会話(3年生)、日本人と日本語会話(教養)

〈LINEでの交流〉

- 1.LINE上にチャットルームを開設し、文章で自己紹介を行う。
- 2.自己紹介動画を作成し、LINEに上げ、交流する。
- 3.メディア日本語の授業で行った〈CM制作プロジェクト〉の成果物であるCM動画をLINE上に上げ、交流する。

〈ZOOMによる交流授業〉

- 1.LINEでの交流の後に、ZOOMによる交流授業を行う。
 - ①段階式自己紹介、②動画によるキャンパス紹介、③実況中継型キャンパス案内
- 2、日本の代表学生を招いての、グループ討論
 - ①ストレス・健康 ②目標・夢
- 3、日本の代表学生を招いての、日韓学生討論
 - ①福島の汚染水海洋放出問題
 - ②「鬼滅の刃」における耳飾りの修正と旭日旗問題

〈実践B〉

実践Aを終えた後の、2週間のオンライン研修。日本語教育実践としての授業+「コリア語」授業でのゲストセッションとしての交流

本発表では、実践Aを中心に発表する。

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる／知識理解	・自身のテーマを実行するために必要な語彙・表現がわかる。 ・発表準備や知らないことを尋ねるために必要な言語表現がわかる。	・自分たちと異なるグループメンバーが準備した発表の文化的特徴がわかる。 ・日本人に紹介したい韓国の状況や文化、日本側から紹介された日本の状況や文化について理解できる。	・21世紀の多言語多文化社会の一つとして、日韓関係の促進の為、韓国の日本の大学生同士の交流の大切さを知ることができる。 ・グローバル社会に生きるために、21世紀型スキルを身につけることが必要であることが理解できる。
できる／技能	・自分の課題を遂行する文章を作成することができる。 ・日本人に聞いて情報を収集し、グループメンバーのアドバイスや添削を通じて完成版を作ることができる。	・自分たちの課題の結論の特徴がどのような背景から生まれたのかを思考し、分析することができる。	・メンバーと意見を交換し、グループ目標達成のために自分の役割を責任を持って行うことができる。(協働) ・発表資料を作成するために必要な資料・情報を収集し、客観的に解釈・分析し、これに基づいてICTを活用し、成果物を効果的に作ることができる(高度思考)(情報活用)。
つながる／関係性	・メンバーとは韓国語で、日本人大学生とは日本語を使用して、コミュニケーションをしながら関係を構築することができる。	・文化的背景の異なる日本の大学生と積極的に関わりながら、文化差を越えて相互交流することができる。	・人・モノ・情報にアクセスして、メンバーと助けあい協力して行動する。日韓の国をこえたつながりが実現できる。SNSなどに成果物を上げ、情報発信ができる。
3 連携	連携1：身近なテーマを選び、メンバーとつながる。 連携2：すでに学んだ内容を基に、日韓両文化とつながる。 連携3：日本の大学生とSNSとインターネットでつながり、相互交流する。		

4. おわりに

今後、ソーシャルネットワーキングアプローチ(SNA)を通しての21世紀を生きる能力の育成につながる言語教育のデザインと実践と研究が願われ、更にそのひろがり求められる。

《参考文献》

- 겐코 히로아키(2021) 「CEFR, JF-SD, J-GAP의 성과를 토대로 한 일본어 immersion 교육(immersion education)의 실천연구 및 성과 - Intensive Japanese Language Program을 중심으로 - 」 『한국일본학회 기획총서 4 일본어학·일본어교육학 편 정보화시대의 일본어·일본어교육 연구』 한국일본학회, pp.172-207
- 檢校裕朗(2017) 「『外国語学習のめやす』と実践報告」 韓国日本学会国際学術大会 Proceedings
- _____ (2018) 「日韓交流学習実践報告」 韓国日語教育学会 国際学術大会
- _____ (2021a) 「韓国におけるSNA交流学習実践研究会の創立と実践の意義」 韓国日語教育学会 国際学術大会
- 檢校裕朗・ニノ神正路(2009) 「体験学習を中心とした語学研修への取り組み-極東大学校日本語学科現地日本語研修の事例-」 『日本語教育研究17』 韓国日語教育学会
- _____ (2016) 「Can do statementsによるルーブリック評価を取り入れた研修の実践報告」 『韓国日本学会 第92回国際学術大会 Proceedings』 韓国日本学会
- 清水秀子(2017) 『ソーシャルネットワーキングアプローチと日本語教育研究発表会報告論集』 科研費
- 當作靖彦(2013) 『NIPPON 3.0の処方箋』 講談社
- _____ (2013) 「日本語教育のソーシャルネットワーキングアプローチ-日本語能力、つながる力、社会力、21世紀のスキルを伸ばす-」 『日本語教育研究』 27、韓国日語教育学会, pp.7-10
- _____ (2017) 「グローバル時代のつながる言語教育ソーシャルネットワーキングアプローチ:理論と実践」 『ソーシャルネットワーキングアプローチと日本語教育研究発表会報告論集』, pp.5-16
- 當作靖彦・中野佳代子(2013) 『外国語学習のめやす2012』 国際文化フォーラム
- 鄭起永・檢校裕朗・金熙靜・車尚禹・小野里恵・松浦恵子(2015) 「J-GAPを通して 高等学校と大学と社会のアーティキュレーションを考える」 『日語日文学』 66、大韓日語日文学会

家庭での継承日本語教育の実態について

川口 慶子（崇実大学校）

1. はじめに

韓国国内の継承日本語教育(自助グループ及び個人)のネットワーク拡大、及びそれらの支援を拡大することを目的とし、国際交流基金ソウル文化センターの委託を受け2021年2月にオンラインによるアンケート調査を行った。調査対象者は、韓国国内に生活の拠点を置き、両親のどちらかが日本語を母語として子育てをしている家庭である。その結果、368家庭から回答が得られた。

本稿は、本調査の中でも家庭での言語の使用状況について、主に次の3点から分析する。第一に、家族構成員の言語使用状況、第二に、子どもの日本語の現在の能力と期待するレベル、第三に、子どもへの継承日本語教育の働きかけである。

2. 分析の結果

2.1 家族構成員の言語使用状況

図1は家族構成員の言語使用状況、主に親子間で使用される言語について第1子、第2子以降に分けてまとめたものである。

	第1子	第2子以降
(1) 父→子	「韓国語」	「韓国語」
(2) 母→子	「日本語」次いで 「韓国語と日本語」	「韓国語と日本語」次いで 「日本語」
(3) 子→父	「韓国語」	「韓国語」
(4) 子→母	「韓国語と日本語」次いで 「日本語」	「韓国語と日本語」次いで 「韓国語」

<図1> 家族構成員の言語使用状況

図1の結果から、(1)父→子、(3)子→父へは、どちらも「韓国語」が圧倒的に多く、父子間では

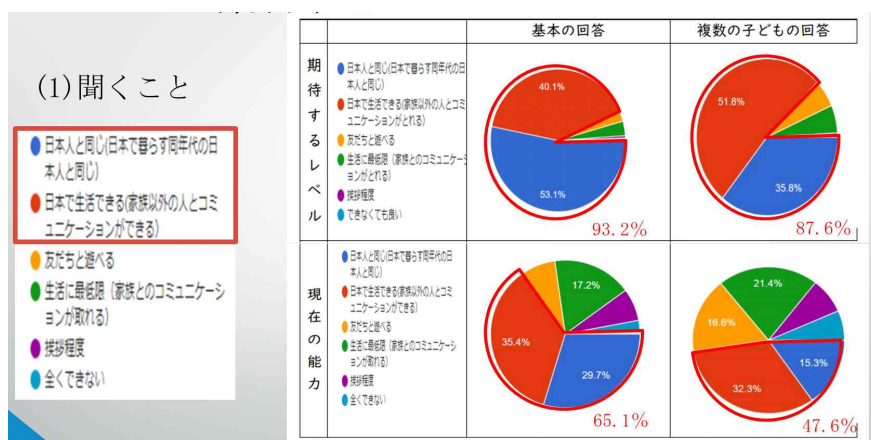
韓国語が使用されている傾向が確認できた。次に、母子間については(2)母→子へ話しかける場合、第1子の場合は「日本語」次いで「韓国語と日本語」、第2子以降の場合は「韓国語と日本語」、次いで「日本語」と順番が逆になる。(4)子→母へ話しかける場合、第1子の場合は「韓国語と日本語」次いで「日本語」、第2子以降の場合は「韓国語と日本語」次いで「韓国語」となる。つまり、母子間では韓国語と日本語どちらも使用されるが、第2子以降は韓国語の使用割合の方が高いと言える。

次に、夫婦間、家族全員で話す場合、兄弟間での言語使用を見てみると、全てにおいて「韓国語」次いで「韓国語と日本語」であり、韓国語の使用割合が高い傾向が確認できた。

2.2 子どもの日本語の現在の能力と期待するレベル

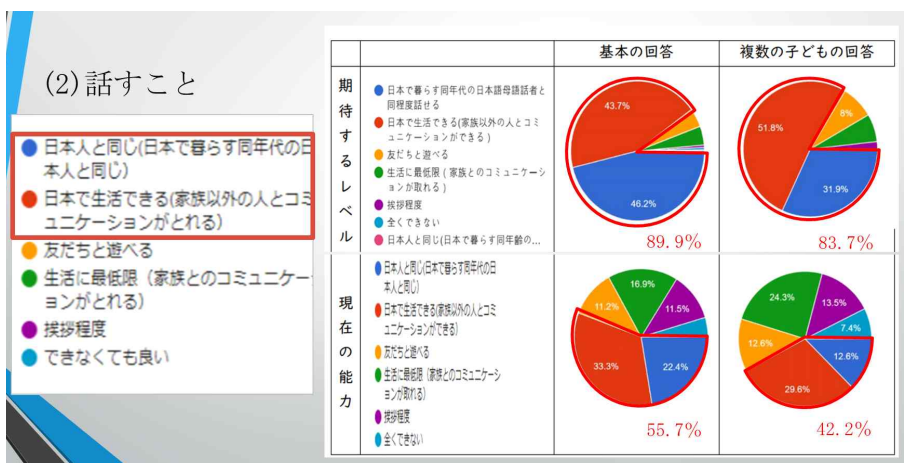
本節では子どもの日本語の現在の能力(親の判断によるもの)と期待するレベルについて述べる。(1)聞くこと、(2)話すこと、(3)読むこと、(4)書くことの順に見ていく。以下の図のうち左の図が基本の回答から、右の図が複数の子どもの回答から得た結果である。また、上段は期待するレベル、下段は現在の能力を示す。

聞くことについて、親はどの子どもに対しても「同年代の日本人と同じ」あるいは「日本で生活できる」を期待し、第1子への期待度がより高い。聞く能力について見てみると、どちらの回答においても「日本で生活できる」レベルが最も多いが、第1子は「日本で暮らす同年代の日本語母語話者と同程度」が109件(29.7%)に対し、第2子以降は35件(15.3%)である。第1子のほうが聞く能力が高い傾向が見える。

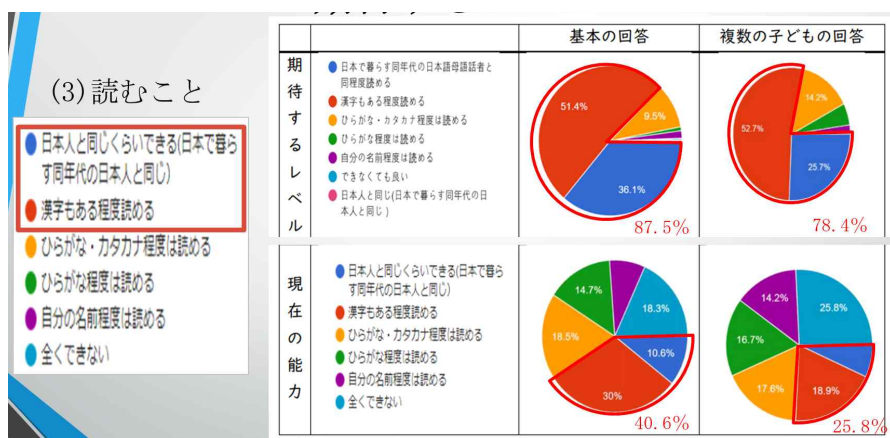


話すことについて、親はどの子どもに対しても「同年代の日本人と同程度」あるいは「日本で生活できる」能力を求めている。しかし、第1子へは169件(46.2%)、第1子以外には72件(31.9%)が「日本で暮らす同年代の日本語母語話者と同程度」の能力を求めており、第1子への期待度がより高い。話す能力について見てみると、どちらの回答においても「日本で生活できる」レベ

ルが最も多いが、第1子は「日本で暮らす同年代の日本語母語話者と同程度」が82件（22.4%）に対し、第1子以外は29件（12.6%）である。第1子のほうが話す能力が高い傾向が見える。

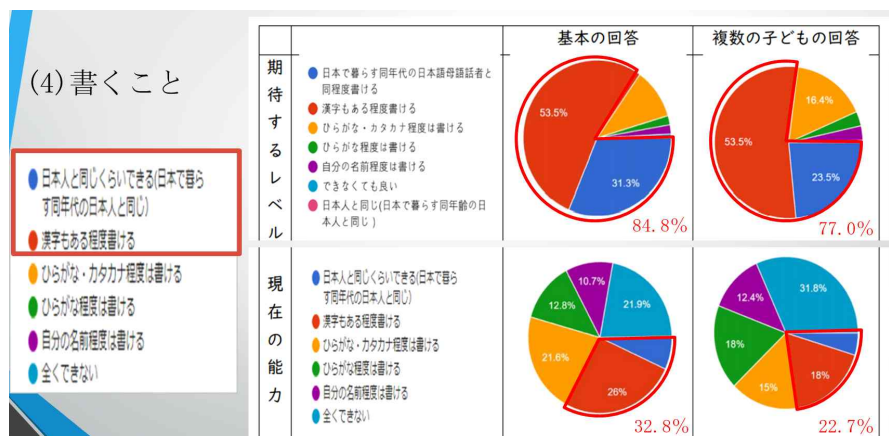


読むことについて、親はどの子どもに対しても「漢字もある程度読める」次いで「同年代の日本人と同程度」の能力を求めている。第1子への期待度の方が若干高い。読む能力について見てみると、第1子と第1子以外の子どもで差が見られる。第1子は「漢字もある程度読める」が110件（30%）に対し、第1子以外は44件（18.9%）である。第1子のほうが読む能力が高い傾向が見えるが、これについては年齢別の詳細な分析が必要であろう。読み書きの能力は年齢にも大きく左右されるからである。



書くことについて、親はどの子どもに対しても「漢字もある程度書ける」次いで「同年代の日本人と同程度」の能力を求めている。ここでも、第1子への期待度の方が若干高い。書く能力につ

いて見てみると、能力の多様さがグラフからわかる。また、第1子と第1子以外の子どもで差が見られる。第1子は「漢字もある程度書ける」が95件（26%）で最も多いが、第1子以外は「全くできない」が31.8%で最も多い結果となった。第1子のほうが書く能力が高い傾向が見えるが、これについても年齢別の詳細な分析が必要である。



全体の傾向を述べると、親は4技能すべてにおいて、日本に暮らす同年代の母語話者と同程度、日本で生活できるレベルを期待している。ただし、第1子により高い期待を持っている傾向がうかがわれる。また、実際の子どもの能力は親の期待レベルより低い。特に「読むこと」「書くこと」にはその差が顕著に表れている。4技能の能力について、青色(母語話者とほぼ同等)と赤色(日本で生活できる)部分だけを見ると、聞く→話す→読む→書くの順で割合は減少する。また、第1子の方がレベルが高い傾向はある。一方で、挨拶程度(紫)・ほとんどできない(水色)に属する子どもたちが4技能全てに存在し、「聞くこと」と「話すこと」もあまりできない子どもが一定数いるのは非常に残念な状況である。

2.3 子どもへの継承日本語教育の働きかけ

子どもが日本の文化や日本語に触れられるよう意識して生活している親は全体の87%で、継承日本語教育への親の興味関心は高い。具体的な方法としては多い順に、①日本語での話しかけ、②日本のテレビ、Youtube、映画を見せる、③日本の漫画や絵本、④文字の練習をする漫画や絵本、という結果が得られた。継承日本語教育への親の興味関心は高いが、実際には「教育」を行うよりも日々の生活の中で自然に取り入れやすい方法が多い。

3. まとめ

紙幅の都合上、割愛します。

コロナ禍における継承日本語教育の実態

- 「韓国の継承日本語教育ネットワーク拡大のための基礎調査」を中心 -

及川 ひろ絵（弘益大学教養語学部）

1. はじめに

2020年は、新型コロナウイルス(COVID-19)が世界を席卷したことにより、これまでの学校教育のあり方、授業の進め方が大きく変化した一年であった。特に言語教育の分野においては対面コミュニケーションがより重要な役割を果たしていると言えるが、全ての分野でオンライン授業を余儀なくされ、それは継承語教育の現場でも然りであった。

継承語とは中島(2005)によると、「親から受け継ぐことば」であり、「継承語」と呼ぶことで保護者や教育者の努力で“意識的”に継承させなければならないことばであることを強調していると言う。本稿ではこれに倣い、韓国在住の韓日多文化家庭の子どもたち¹⁾にとっての日本語を「継承日本語」と呼ぶこととする。

1990年以降、韓国でも国際化が進み、2018年時点で全人口比3.4%に当たる約176万人の外国籍保有者が居住している。韓日多文化家庭の子どもの数に関しては、中国、ベトナム、フィリピンに次いで第4位であり、18歳以下の子どもの数は2007年時点の6016名から2015年には17,195名に増加、短期間に約3倍も急増しており、中でも12歳以下の若年層が60%以上を占めている²⁾。

現在、韓国国内において日本語の継承を目的とした学習者は主に2000年以降、海外留学などの理由から第三国で出会い、恋愛をし、結婚に至ったケースや韓流などの影響から韓国留学などを通して国際結婚に至った30代、40代を中心とした比較的若い父母を持つ、韓日多文化家庭の子どもたちである³⁾。特に2000年以降、国際結婚に至った世代はグローバル化などの影響からも、子どもに日本語を継承させたいという意志も強く⁴⁾、母親⁵⁾から子どもに日本語を使用するパターンは

1) 国際結婚による子どもの呼称に関しては「移動する子ども」「国際児」「異言語間家庭の子ども」「ハーフ」「ミックス」「ダブル」など様々なものがあるが、それらに該当するものを本稿では“多文化家庭の子ども”と呼ぶこととする。「多文化家庭」という言葉は、英語のmulticultural familyの日本語訳であるが、家庭内における文化的差異や家族の構成員の多様な状況を表す言葉として、国際結婚の家庭及びその子どもと外国人労働者の家庭、及びその子どもを総称する言葉である。

2) KOSIS(多文化家族関連年度別統計調査, 2015) 国家統計ポータル<https://kosis.kr>

3) 韓日国際結婚の特徴に関しては李尚美(2015)及び박양순(2020)による。

4) 本稿の分析資料として用いる「韓国の継承日本語教育ネットワーク拡大のための基礎調査」(2021年度報告)の中でも、子どもが日本の文化や日本語に触れられるように意識して生活している親は全体の87%という結果が出ており、子どもの継承日本語への高い関心が見られる。

川口(2017)によると71%と高いものとなっている⁶⁾。このような状況から見ても韓国国内で日本にルーツを持つ就学児童の数は今後しばらく増加傾向が続くと予測され、親子や家族をつなぐ言語である「継承語」としての日本語教育をどう行っていくべきかが問題となっている。

だが、韓国には未だ「日本語補習校」⁷⁾が存在せず、日本人学校はソウルと釜山にそれぞれあるものの数も限られており、入学条件も厳しい。それ故に子どもたちの多くは現地校に通っており、彼らの継承日本語教育を担っているのは実質上、各家庭での学習及び母親たちによるコミュニティベースの継承日本語教室（本稿では「自助グループ⁸⁾」と呼ぶ）であると言ってよい。

本稿では、未だ収束の見えないパンデミック下で、韓国に在住する日本にルーツを持つ子どもたちを対象とした継承日本語教育の実態はどうであるのかということを整理解析することに目的を置いている。分析に用いる資料は、韓国国内の継承日本語教育(自助グループ及び個人)のネットワークの拡大、及びそれらの支援を拡大することを目的とし、国際交流基金ソウル日本文化センターの委託を受け筆者らが行ったオンラインによるアンケート調査結果である⁹⁾。

さまざまな混乱がある中でも、学齢期という言語習得においても重要な時期にある韓日多文化家庭の子どもたちに向けた継承語教育を停滞させるわけにはいかない。従って本稿では、今後の見通しを探るためにコロナ禍における継承日本語教育の実態について、以下3点のアンケート結果の整理・分析を行う。第一、コロナ禍のため対面による教室活動は難しくなり家庭学習をせざるを得ない状況になっている家庭が多いと考えられるが、継承日本語教育に関わる活動を家庭でも

5) 日本政府による人口動態調査「外国における日本人の婚姻件数、夫婦の国籍別」によると、2017年の韓日国際結婚カップルのうち、夫が日本人で妻が韓国・朝鮮人の件数は38人、妻が日本人で夫が韓国・朝鮮人の件数は779件であることから、妻が日本人である件数がほとんどを占めており、各家庭での継承日本語教育は母親達に任されていると言えるだろう。

6) この値は川口(2017)が小学校に在籍する児童63名(53家庭)を対象に行った調査中の「母親から子どもに話しかける言語」の割合であり、子どもから母親のパターンは約半数の54%であるという。同調査では、学年が上がるにつれ、日本語の使用率が減少するだけでなく、その使用頻度や言語能力も徐々に低下すると報告している。

7) 主に土曜日に開講されることが多く、日本政府から正式に認可されれば、財政面でも助成が受けられる。世界55ヶ国1地域に229校が設置されており、約2万2千人が学んでいるという。CLARINET 在外教育施設の概要

8) 当事者同士の自発的な繋がりから始まり、当事者たちが自立して問題意識を持って取り組んでいるグループという意味で、これらの継承日本語教室を「自助グループ」と呼ぶこととする。韓国の多文化政策によって各小学校や多文化センターなどで二重言語教室が開かれている場合もある。だが、これらの教室のプログラムは日本人の母親が求めているニーズと乖離しており、多くは期待できない。従って同じ境遇にある母親達自らがコミュニティを形成し、子どもの日本語環境を確保し、情報を交換する場としてあちこちで実践教育が行われるようになったが、現在のところその数や規模について把握するのは難しい。

9) 韓国継承日本語教育研究会（以下、研究会）に委託があり、2021年2月にオンラインによるアンケート調査を行った。調査対象者は、韓国国内に生活の拠点を置き、両親のどちらかが日本語を母語として20歳以下の子どもを育てている家庭であり、その結果、368家庭から回答が得られた。同研究会は2013年5月より韓国における継承日本語教育の実践と理論研究、指導法と教材の開発、評価法、国際学会との連携などを目的として活動している研究グループである。詳細は<http://krkeishougo.net> 筆者は運営委員の一人として同研究会に所属している。

続いているかどうか、及びその具体的内容とは何か、第二、オンライン活動に参加している場合は具体的にどのような内容か、第三、これまでに子どもが参加したオンライン活動の中で印象に残っている活動は何か、などである。今後も状況次第では、対面授業へ移行することは困難となり、遠隔学習プラットフォームに移行しなければならない可能性もある中、以上の点に関し整理・分析し考察を行うことで、オンラインによる継承日本語教育の可能性を模索したい。

2. 先行研究

韓国でも継承語教育の意義や必要性への理解が高まるにつれ、継承日本語教育に関する研究も分野が広まっている。いかにすれば継承語が習得されるのか、子どもの継承日本語能力はいかなるものかなど言語教育的観点に焦点を置いたものから、最近の傾向としては、継承日本語教育の場が家庭外の自助グループでも行われるようになってきたことから、その現況を明らかにするための研究も見られるようになった。

これら自助グループ活動の教育実践に焦点を当てたものとしては、奈須他(2014)、及川・田辺(2017)、及川・尹(2021)などが挙げられよう。その他、韓国における継承日本語教育に関する近年の動向を把握するために、李尚美(2015)では日本人コミュニティによる日本語教室の実態を紹介し、その問題点を整理している。川口(2016)では、韓国における継承日本語教育に関連した場として、公立小学校、多文化家族支援センター、地域のコミュニティによる教室、NPOによる教室の4つに分類し、これらを全体的に整理した上で、その現状と問題点について論じている。及川・岩間(2020)では複数の自助グループに向けたアンケート調査を通して、自助グループが長期安定した形で活動運営を行うための条件を運営形態と活動内容の側面から分析している。それらの条件とは、第一、教室運営のためのインフラ環境の整備、第二、人的資源の豊富さ、第三、教室運営陣の負担の分散、第四、教室運営のノウハウ及び活動記録などの保存である。岩間・及川(2021)では及川・岩間(2020)で論じられた運営形態の部分に焦点を当て、自助グループ活動に対する支援課題¹⁰⁾を明らかにしている。それらの課題とは、第一、施設面や担当者、財政課題に対する具体的支援、第二、韓国国内に散らばる中小規模の継承日本語自助グループの実態を常に把握していくための調査研究への支援を挙げている。これらの支援が緊急かつ迅速に行われることが望ましいが、ポストコロナという転換期において、継承日本語教育の現場も大きく変化せざるをえない事態を迎えており、それに合わせた支援も必要であろう。岩間・及川(2021)では第一の支援課題と関連し、新型コロナウィルス拡散防止法に基づき、多文化センター等の公共施設が使えなくなりオフライン活動の停止を余儀なくされたことから、自助グループの中でも独自にオンライン授業を行うな

10) 2019年6月28日「日本語教育の推進に関する法律」通称「日本語教育推進法」が公布・施行されたことによって、日本国外で生まれた日本にルーツを持つ子ども達も国際交流基金を通した日本政府からの法的支援を受けられるようになったことが明文化されたが、「日本語教育推進法」を継承日本語教育の現場で具体的にどのように活用していくのかは未知数である。

ど、新たな環境確保への模索が始まっている、と述べている。だが現在のところ、先の見えないコロナ禍において、韓国における継承日本語教育の現場で具体的にどのような施策が取られているのかに関する調査報告は管見の限り見当たらない。2021年8月現在もコロナ禍は続いており、各学校により対応はまちまちであるが、義務化されているわけではない自助グループの活動が対面に移行するまでには時間がかかるであろう。従って、自助グループの活動もオンライン授業という方法を取らざるを得ず、韓国における全ての継承日本語教育活動は現在、家庭という場でのみ行われている。自助グループに所属していない子ども達もオンラインで何らかの活動に参加するようになった可能性もあることから、本稿では自助グループ所属の有無に関わらず、調査協力者の全ての子ども達をその分析対象としたことを断っておきたい。

一方、ポストコロナの学校教育のあり方に関し、各国で小学校、中学校、高校、大学に至るまで各分野で様々な視点による研究が行われている。ここでは継承日本語教育も日本語教育の範疇にあることから、主に日本国内における日本語教育関連の研究について概観してみたい。藤田他(2020)では留学生の中でも入学も間もない外国人学生に対し大学の日本語教育センターがどのようにオンライン授業を行っていたのか、武田(2020)では外国人留学生のうちでも日本語学習背景から継承語プログラムと外国語としての日本語プログラムに分け、2つのプログラムにどのように取り組んでいたのか、深川(2021)では外国人留学生の受け入れプログラムに焦点を当て、いかに国際交流と教育の継続を維持したかを総合日本語プログラムの取り組みを例として分析を行うなど、主に大学での日本語教育を中心として様々な実践研究が見られる。その他、韓国における研究では澤田(2021)が外国語教育のオンライン授業における学生の意識(対面・非対面授業、動画・ライブ授業との意識の差)、オンライン授業におけるアクティビティ、オンライン授業における評価に関し学生へのアンケート調査をもとに分析し、峯崎・岩井(2020)では、リアルタイムのオンライン授業に変更になった初級日本語の授業の実践の実態とそこから得られた知見についてまとめている。このように、主に大学での日本語教育と関連した研究は既にいくつか存在し、その数は今後も増えていくと予想される。

一方で、継承日本語教育は学齢期以前から各家庭で保護者によって行われている場合が多いため、学校ではなく家庭でどのようなサポートが行われているのかについても見る必要がある。子どもの年齢が若年層の場合、保護者がどのように家庭という空間で子どもの教育環境をサポートしているのかに関する石井他(2021)や伊藤(2021)の研究はあるものの、現在のところその数は少ない。またその他の教育現場として考えられる地域の日本語教育教室に関する実践報告として中東(2021)が挙げられるが、岡山県総社市におけるケース・スタディであり、日本国内全域にまたがった研究ではない。その他、継承語教育の実践として王他(2021)では、中国語継承語話者を対象とした作文指導の実践について整理しているが、継承語教育の方法やその内容などに関するケース・スタディなどもさらに積み重ねていくことを通し、国や地域を超えることができるオンラインというツールを上手く活用し、さらに効果的な継承語教育の実践を目指していくための研究が求められよう。それだけでなく今後は、国家単位で学校、家庭、地域でこの非常事態にそれぞれの現場で教育環境を支えるためにどのような施策が取られ、どう対応していくべきなのか、という研究課題に取り組む必要がある。

本稿では前述したように国際交流基金ソウル日本文化センターより委託を受け、韓国全国規模で行ったアンケート調査を分析資料として用いる。これは、「日本語教育推進法」制定によって日本にルーツを持つ子どもに対する日本語教育環境に関し、その実態の把握や課題を見出すための作業の一環として行われたものである。本調査結果を通し韓国における継承日本語教育活動の現状を探ることは、第一、コロナ禍における韓国での日本語教育の一部としての継承日本語教育の現状把握、第二、韓国における韓日多文化家庭における保護者の若年層の子ども達に対する教育環境支援の把握、第三、韓国全国規模での継承日本語教育の現状の把握、という三つの点からも緊急かつ意義のある作業であるといえよう。

(以下、アンケート結果の整理・分析に関しては紙面の都合上、割愛させていただきます)

参考文献

- 伊藤賢一 (2021) 「コロナ禍における小学生のメディア利用―保護者を対象とした緊急web調査に基づいて―」『群馬大学社会情報学部研究論集』第28巻 pp.1-15
- 石井正子・木村英美・横山愛(2021)「新型コロナウイルス感染症流行下で、保育者はどのように子どもや家庭への支援を行ったか」『昭和女子大学現代教育研究紀要』第6号 pp.117-127
- 岩間晶子・及川ひろ絵(2021)「韓国の日本語教育活動の実態と支援課題―自助グループの運営形態に関する考察をもとに―」『日語日文学研究』第116集 韓国日語日文学会 pp.121-146
- 及川ひろ絵・岩間晶子 (2020) 「韓国の継承日本語教育活動をめぐる実態―母親たちによる自助グループに関する調査を中心に―」『日語日文学研究』第113集韓国日語日文学会 pp.189-215
- 及川ひろ絵・田辺理子(2017)「多文化センターでの継承語及び文化活動実践報告―韓国における継承日本語教育の方向性を探って―」『日本語学研究』第52号 韓国日本語学会 pp.33-52
- 及川ひろ絵・尹チョジャ(2020)「継承日本語教育における歴史教育の必要性―「朝鮮通信使」をテーマとした活動実践を中心に―」『日本語学研究』第66号 韓国日本語学会 pp.63-84
- 王夢薇・陳薇・西川朋美(2021)「オンラインによる継承語教育の可能性―中国語継承語話者の児童生徒を対象とした作文指導を通して―」母語・継承語・バイリンガル教育学会(MHB) 2021年度研究大会 要綱集 pp.62-63
- 川口慶子(2016)「韓日国際結婚家庭の子女を取り巻く継承日本語教育の現況と課題」『日語日文学研究』第97集 韓国日語日文学会 pp.254-273
- 川口慶子(2017)「韓日国際結婚家庭の言語環境について―小学生を中心に―」『人文研究』45巻崇実大学人文科学研究所 pp.1-17
- 澤田信恵(2021)「日本語会話の非対面授業の実践と課題―学生へのアンケート調査結果の考察を中心に―」『日本語教育研究』第55号 韓国日本語教育学会 pp.51-66
- 武田知子(2020)「コロナ禍における日本語教育課程(JLP)の取り組み」ICU日本語教育研究17 pp.23-30
- 中島和子(2005)「バイリンガル育成と二言語相互依存性」『第二言語としての日本語習得研究』8号

pp.135-66

深川美帆(2021)「コロナ禍における総合日本語プログラムの遠隔教育－国際交流と言語教育を止めないための取り組み－」 金沢大学国際機構紀要3 pp.73-89

藤田恵・数野恵理・金庭久美子・任ジェヒ・小林友美・小松満帆・池田伸子・丸山千歌(2020)「新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う日本語教育プログラムの対応－2020年度の立教大学日本語教育センターの取り組み－」 『日本語・日本語教育』第4号 pp.1-20

峯崎知子・岩井朝乃(2020)「大学の教養科目における初級日本語の同期型オンライン授業－対面授業との比較を通して探る特徴と課題－」 『日語日文学研究』第115集韓国日語日文学会 pp.193-216

李尚美(2015)「日韓国際結婚家庭の子供の継承語教育：韓国の多文化政策と日本人親の継承意識の変化」一橋大学博士学位請求論文概要 pp.1-6

박양순(2020)「재한일본인여성의 언어환경의 비교」 『日語日文学研究』第113集 한국일어일문학회 pp.3-22
<https://koisis.kr> 韓国国家統計ポータルサイト

<https://www.mext.go.jp> 文部科学省 CLARINET 在外教育施設の概要

日韓国際結婚家庭の韓国社会での生活について

-韓国社会とのかかわり方と満足度に関するアンケート結果をもとに-

関陽子 *

1. はじめに

韓国には1万人以上の日本にルーツを持つ学齢期の子どもが住んでいる。昨今日本においても海外在住の日本語教育を必要とする家庭についての援助について支援するが成立するなど、継承語教育についての関心も高まっている。国際結婚の家庭は、自分の生まれ育った環境とは違う場所で生活している家族が含まれることが多い。家庭環境は、子どもの教育に与える影響は大きく、継承語教育は家庭での教育が重要であるとされていることから考えると、家庭環境、特に、子どもの親がどのように社会とかかわっているかは、子どもの教育に大きな影響を与えるものと考えられる。本稿は、2020年度に韓国継承日本語教育研究会が国際交流基金の委託を受けて行った、韓国在住の日本語継承教育を必要とする家庭の実態調査のデータのなかで、日韓国際結婚の家庭の子どもの保護者がどのような形で地域社会とかかわっているか、また、韓国社会についてどのような意識を持っているかについて調査した結果を分析し、韓国の日韓国際結婚家庭における問題や継承語教育との関係などについて考察する。

2. 調査の設問内容と分析方法

2.1 設問方法と内容について

- ・「韓国社会とのかかわり方について」の設問方法は複数回答とし、その他は自由回答式で記入してもらった。

- ・満足度については、「大変満足している」、「満足している」、「どちらともいえない」「不満のほうが多い」

- 「全く満足していない」の中から一つを選択し、その理由については自由回答式で記入してもらった。

2.2 分析方法について

満足、不満足の原因については類似回答をグループ化し、分析するKJ法を利用した。

3. 調査結果

3.1 韓国社会とのかかわり方について

回答者の「韓国社会とのかかわり方」に関して、基本の回答から366件の有効回答が得られた。

回答の多かった項目は以下の①～⑤であった。（多い順から）

- ①地域社会のコミュニティ（近所づきあいなど） 171件（46.7%）
- ②職場・ボランティア163件（44.5%）
- ③学校などの教育機関152件（41.5%）
- ④習いごとや趣味（同好会などの集まりも含む） 122件（33.3%）
- ⑤宗教78件（21.3%）

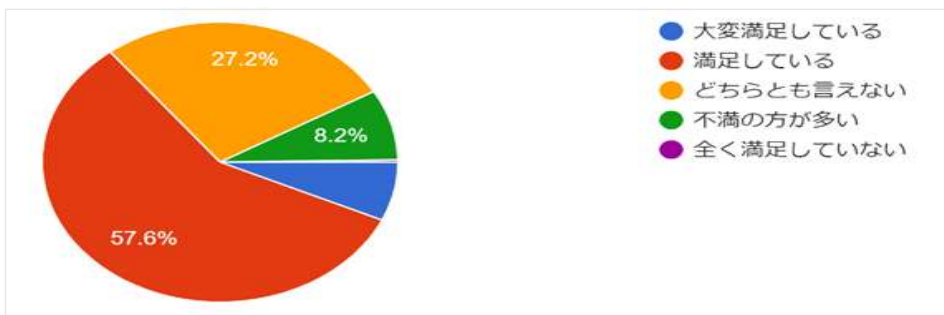
上記の結果から見ると、①、④のように、身近な人間関係や小規模の人間関係と、②、③のように社会の組織の一員としてのかかわりが、ほぼ同じくらいなされていることが分かった。また、⑤の宗教と答えた回答者も21.3%いるなど、日本とは違った社会との関わり方が確認された。しかし、比率は低いが、「かかわっていない」と答えた回答者が13件（4.2%）おり、義実家（夫の家族）及び家族のみとかかわっていると回答した2件を加えると、全体の4.8%が、家族、家庭以外の社会と関わりを持たずに生活していることが確認された。

3.2 現在の韓国での生活に関する満足度

3.2.1 満足度の度合い分析

「現在の韓国での暮らしに対する満足度」に関しては、368件の有効回答が得られた。

<図1> 韓国での暮らしに対する満足度



韓国生活の満足度については、「満足している」212件（57.6%）、「どちらとも言えない」という回答が100件（27.2%）、「大変満足している」25件（6.8%）、「不満のほうが多い」30件（8.2%）という結果が得られた。「満足している」212件（57.6%）と、「大変満足している」25件（6.8%）を合わせると「満足」に属する回答が全体の65%を占めており、回答者の韓国生活の満足度は比較的高いことが確認できた。しかし、「まったく満足していない」という回答者はいなかったが、「どちらとも言えない」という回答が100件（27.2%）、「不満のほうが多い」という回答が30件（8.2%）合わせて35.4%の回答者が少なからず韓国生活にマイナスイメージや、不満を感じていることが確認できた。

3.2.2 満足・不満足に感じる理由分析

上記の満足の度合いのうち「満足」の上位属性として、「大変満足している」と、「満足している」を選択した回答者の満足している理由についてのコメントを分析してみると、最も多い回答内容が「言語の問題がなく、韓国そのものに満足してる」に類似している回答52件。次に多かったのが、「福祉・インフラの良さや子育て環境、生活環境など、周辺的环境について満足している」に類似した回答が42件。続いて「経済的豊かさや経済的安定、経済的に満足している」など、経済に関する理由を述べた回答35件、「家族関係の良さ」を満足の理由として回答した34件であった。また、「周囲との関係がいい」など周辺の人間関係に満足してる、「自己実現の成功」など自分自身の生活について満足してるとの回答がそれぞれ29件であった。この結果を見ると、社会へ適応や自己実現など、回答者自身の社会への適応度が満足度に最も影響を与えていることがわかる。そして、それに続く満足度の要因は、生活環境、人間関係などの「周囲との関係」や「経済力」であることがわかった。次に、上位属性の中で、より満足度の高い「大変満足してる」と回答した回答者の満足の理由を見てみると、「生活環境についての満足」が最も多く、その次に仕事を持つなど「自己実現の成功」が多いという特徴が確認された。それに対し、「満足している」と答えた回答者は、「家族との関係や周囲との関係」への満足度が高いなど、より強い満足度には、自己達成や生活環境への理解が必要であることがうかがえる。また、「満足している」と答えた回答者の場合、日本と比較し、韓国での生活を肯定的にとらえていたり、日本とのつながり維持など、日本についてのコメントが「大変満足している」の回答より多くみられるという特徴が確認された。そして、もう一つの特徴として、「言葉に不自由していない（韓国語での意思疎通が容易である）」や、「住みはじめて長い」「慣れた」「15年前に比べ」など、結婚生活もしくは韓国生活が長いことを示唆する語彙が多く確認された。

<表1> 「大変満足している」理由（n=36）

カテゴリー	コメント数合計	具体的内容の例
福祉・インフラの良さ	13（36.1%）	・ 公共サービスが充実している。 ・ ネットやスマホ対応・活用がスムーズで交通も便利で安い。 ・ インフラが整っていて暮らしやすい。

子育て環境の良さ	5 (13.8%)	・ 子育てのサポートが日本よりも豊富。 ・ 子育て、教育の面でも多文化支援など日本よりもサポートが厚い。 ・ 子ども好きの人が多い。・ 学校教育が子どもに合っている。
自己実現の成功	5 (13.8%)	・ 仕事もあり充実している・ やりたいことを実践できている
経済的豊かさ	4 (11.1%)	・ 安定した収入・ 経済的に恵まれている
周囲との関係の良さ	3 (8.3%)	・ 義家族はみな仲が良く夫も仕事熱心 ・ 家族関係、友人関係が良好
精神面への肯定的影響	3 (8.3%)	・ 精神的に楽・ 精神的に余裕がある・ 精神的に安定
その他	3 (8.3%)	・ 配偶者が日本にいた時より安定している ・ 15年前に比べて食べ物の多様化、サービスの質が上がった ・ 適度に仕事し、子どもとの時間もそれぞれに楽しい

<表2> 「満足している」理由 (n=229)

カテゴリー	コメント数合計	具体的内容の例
韓国文化・社会への適応	52 (22.7%)	・ 言葉に不自由はない ・ 生活する上で不自由がない・ 住めば都 ・ 住み始めて長くなったので慣れた
家族関係の良さ	34 (14.8%)	・ 夫婦円満・ 家族仲良く暮らしている ・ 義家族や親族が多文化に理解がある
経済的安定	31 (13.5%)	・ 安定した収入・ 経済的に困窮することがない ・ 衣食住に困らない・ 普通に生活できている ・ 専業主婦で家計が成り立っている
周囲との良好な関係	26 (11.3%)	・ 韓国の方々も優しい・ 地域の人達が親切 ・ 周囲には韓国人の友人がたくさんいる ・ お互い助け合える日本人がいる
自己実現の成功	24 (10.4%)	・ 自分の仕事に生きがいを感じている ・ 仕事も得て日本ではできない多様な経験ができています ・ 自分の好きな仕事している ・ 仕事とプライベートの充実・ 何事にも選択肢がある
生活環境の良さ	16 (6.9%)	・ 全てが早くて便利・ 生活する上で必要な環境が整っている・ ソウルの生活が便利・ 治安がいい・ 住居環境がいい・ インターネットが発達している・ 行政手続きが迅速
子育て環境の良さ	8 (3.4%)	・ 子どもの塾や習い事充実している ・ 子どもに優しく子育てしやすい ・ 子ども達が伸び伸び生活している ・ 保育園に預けやすい

日本との比較	7 (3.05%)	・ 日本より民主主義であるという実態 ・ 日本と比較して合理的な点も多い ・ 日本は融通が利かない・ 日本より子育てがしやすい ・ 日本の地方より医療・ 教育面でも便利
多文化支援の充実	7 (3.05%)	・ 日本よりしっかりした多文化支援のサポート ・ 多文化支援センターの先生による子どもへの学習指導 ・ 国家支援の充実・ 外国人に対するサポートの手厚さ
食生活に満足	4 (1.7%)	・ 食べ物が合う
日本との繋がりの維持	4 (1.7%)	・ 頻繁に帰省 ・ 日本人との繋がりが多いため、外国に住んでいる感覚がない・ 日本に住んでいるのと変わらない生活
幸福感	2 (0.87%)	幸せを感じているから
子どもの成長	2 (0.87%)	・ 子どもが成長し自分達である程度のことができるようになった
子どもの幸せ	2 (0.87%)	・ 子どもが問題なく学校生活を送れている

次に、「満足」の下位属性である「どちらとも言えない」「不満が多い」と回答した回答者の、回答の理由について分析してみると、「環境への不満」や「自己実現」が不十分であることや、「義家族との関係」や「韓国の文化、習慣についての不満」が多くみられた。また、日韓関係についてのコメントが多いのも下位属性の特徴と言える。特に、「不満の方が多い」と回答した回答者の理由の特徴として、韓国文化に対するマイナスイメージが不道德という強い表現で表されたり、外国人差別を受けたなど、韓国社会への不信や、外国人（日本人）として孤立していると感じていることが挙げられる。

<表3> 「どちらとも言えない」理由 (n=104)

カテゴリー	コメント数合計	具体的内容の例
韓国文化の影響	20 (19.2%)	・ 義家族との関係、名節などで嫁たちが働かされること ・ 文化の違い・ 義父母との距離感 ・ 義母との同居への不満・ 言葉の壁
子どもの教育環境	15 (14.4%)	・ 学校で習うことを先取りさせる ・ 小学校の教育内容に不安を感じる ・ 子どもが小さい時は育てやすいが、学歴社会なので大きくなるつれ心配
ある程度満足	9 (8.65%)	・ 日常生活自体に問題はない・ 大きな不満や不便さはない
海外生活の難しさ	8 (7.69%)	・ 海外生活のストレス・ 外国人親としての立場の難しさ ・ 外国人が住むには限界がある・ 永住したいとは思えない・ 夫がいないと何をするにも不便
自己実現の難しさ	6 (5.76%)	・ 自身の就職が困難 ・ 仕事ができておらず、社会との繋がりが乏しい
日韓関係の影響	6 (5.76%)	・ 不買運動などで子どもが傷つく

経済的不安	6 (5.76%)	・ 日韓関係が良くない時、周りの目を気にしてしまう ・ 経済的にあまり余裕がない
コロナ禍の影響	5 (4.8%)	・ 子どもたちが学校へ行けない ・ 日韓を自由に行き来できない・自由に行動できない
良し悪し両面あり	5 (4.8%)	・ 日本と比較して良いところもあれば悪いところもあり判断できない
生活環境の影響	4 (4.8%)	・ 欲しいものが手に入らない（ベビー用品など） ・ 東京生まれなので、田舎で不便ことが多い
孤独感	4 (4.8%)	・ 疎外感を感じる・友達を作る機会がない
将来への不安	3 (2.8%)	・ 老後の不安・将来への不安
日本の方がいい	3 (2.8%)	・ 日本がもっと楽しい

<表4> 「不満の方が多い」理由 (n=43)

カテゴリー	コメント数合計	具体的内容の例
子どもの教育環境に対する不満	7 (16.2%)	・ 勉強や塾に凄い韓国教育についていけない ・ 学校の先生達に問題が多い ・ 子育ての価値観の違い
自己実現の不可	7 (16.2%)	・ 働きたいが制限されてしまう ・ 日本では自立できていたことができずに自信をなくす
韓国文化への不満	7 (16.2%)	・ 韓国文化に慣れない ・ 義家族との付き合いが疲れる ・ 道徳的、倫理的にかけている人が多い適当
生活環境への不満	7 (16.2%)	・ 福祉の援助があまりない・住宅事情・医療 ・ 使いたいものが使いたい時に手に入らない ・ 治安の悪さ・物価の高さ・道が不潔だ
日韓関係による悪影響	5 (11.6%)	・ 反日政策 ・ 日韓関係の悪化で子ども達が傷つくことがある ・ 子どもが学校で日本人だといじわるされる
外国人差別	5 (11.6%)	・ 外国人であることに不利だと感じるがよくある ・ 外国人に対する政府の対応や社会的雰囲気
コロナ禍	4 (9.3%)	・ コロナのせいでどこにも行けない、日本へ行けない ・ 家庭へ丸投げのコロナ禍における学校教育
その他	1 (2.3%)	・ 配偶者の収入が低い

4. まとめと今後の課題

継承語教育における家庭の役割が重要であることは既に述べたが、継承語教育において、重要だと言われていることに幼少期や学童期の継承語教育の重要性など、教育の時期についての重要性も述べられている。そして、幼少期や学齢期の子どもたちにもっとも近いのは母親であるた

め、母親の継承日本語教育の役割について議論されることも多い。しかし、継承語教育を必要とする子どもたちは、韓国という社会で生活していく以上、韓国社会にうまくかかわり合える子どもであることが望ましく、韓国で日本の子どもを育てるということではない。両国で生きていかれる子どもを育てるためにも、母親の韓国社会とのかかわり方と韓国に対する意識が子どもに与える影響は大きいと考える。

本稿の分析の結果を見ると、韓国生活に対する満足度の主な要因として、「環境」「自己実現」「人間関係」があげられる。また、「日本と韓国を比較する意識」も満足度に影響を与えていることが確認できた。では、これらの要因をどのように満足度に繋げていけばいいのだろうか。不満を持っている回答者の「環境」「自己実現」「人間関係」に関する問題点の原因として、「韓国語能力の問題」、「韓国社会の理解への問題」が挙げられる。つまり、韓国社会との繋がり、韓国社会を理解するための韓国語能力が必要であり、「自己実現の成功」や「人間関係の構築」にも結び付けることも容易であるということになる。韓国の生活に「満足している」と回答した理由に、長期滞在や、結婚生活の長さを意味する語彙が多くみられたことから、韓国滞在期間や回答者の韓国語能力が韓国生活に対する満足度に影響を与えていると考えられる。今後は、滞在期間と両親の言語レベルの調査結果と満足度の関連性の分析を行い、これらの因果関係について確認する必要があると考える。また、KJ法のグループ分けについて再検討を行い、多様な意見の分析の信頼性を高め、それらのデータを基に、日本と韓国両国をバランス良く吸収し、両国を理解できる子どもの成長に対応できる家庭の構築に寄与していきたい。

<参考文献>

- 中島和子 (2007) 「「ダブルリミテッド・一時的セミリンガル現象を考える」について」『母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究』 pp1-2
- 吉川敏博 (2016) 「第二言語習得における臨界期仮説再考」『天理大学学報68』 pp21-34

ライブ動画配信における疑問表現の機能

張允娥(慶熙大学)

1. はじめに

今は誰もが情報を発信するのが可能で、一人一人が小さなメディアになれる時代であり、最近是一般ユーザーが動画コンテンツを制作して共有するUGC(User Generated Contents)の時代から、ライブ配信でリアルタイムに映像を発信する時代になったと言われている。リアルタイムで映像を発信する配信者の役割は、円滑にコンテンツの内容を展開しながら視聴者とリアルタイムに相互作用を行うことで視聴者と友好的な関係を構築することであろう。そのために、配信者は様々なストラテジーを用いていると思われるが、ライブ配信における配信者の言語行動に関する研究は、管見の限り行われていない。そこで、本発表では、ライブ動画配信で配信者が用いる疑問表現に注目し、疑問表現がどのような言語行動として用いられており、どのようなストラテジーとして使用されているかを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

疑問表現とは、命題内容に対しての「疑い」を表出する機能と、相手に問いかけてその疑いを解消しようとする「問い」の機能を持つ表現である。宮崎(2005)によれば、問いかけの機能を果たす質問文の典型的な言語形式は、文末に助詞「か」を添える、疑問詞を用いる、文末の音調が上がるといふ3つの中のいずれかの特徴を持つ。宮崎(2005)が指摘した3つの要素に加えて、斎藤(1999)は、終助詞「な」「ね」を文末に追加して確認要求を表す、「かしら」「かな」を文末に添えるという5つのうち1つ以上を持つものを質問表現としている。仁田(1991)は、「疑い」と「問いかけ」の両方を有する表現が本来の疑問表現であるとし、「疑い」と「問いかけ」の中で、いずれかの性質が希薄化された表現は非典型的な疑問表現であるとしている。宮崎(2005: 91)は、「話し手の「疑い」を聞き手に差し向けることによって、聞き手にも、それについて考えることを要求するという、間接的な〈問いかけ性〉が認められる」と述べている。このように、疑問表現は、自分の中で不確実である事柄についての疑いを表し、相手に何等かの反応を要求するものであるが、どのような場面で発話されたかによって異なる意味をもたらしているため、文の形式や機能だけではなく、発話されたコンテキストとの関わりを視野に入れて分析を行う必要がある(Tanaka 2015)。たとえば、論文や講義のジャンルでは、自ら用いた疑問文に対して自らその答えを示すことがあ

る。また、テレビ討論における疑問表現を分析した전정미(2016)によれば、疑問表現は自らの意見を主張したり、反論したり、批判したりするなど相手を説得するためのストラテジーとして用いられている。櫻田(2020)は、パブリック・スピーチ場面における問いかけを分析している。櫻田(2020)によれば、問いかけはメタ言語的機能として主題を提示する、行動を進める、解説を導く、話題の焦点を絞る、主張を強調する機能を果たしており、相互協調的機能として聴衆の知識や感情を問う、笑いを誘う、同意を促す機能を果たしているという。

以上のように、疑問表現はコンテキストによって様々な機能を果たしているが、非対面・映像・半個人的・一対多・双方向コミュニケーションという特徴を持つ、ライブ配信で疑問表現がどのような機能を果たしており、どのようなストラテジーとして用いられているかを分析したものは見当たらない。そこで、本研究では、ライブ動画配信における配信者の疑問表現に焦点を当て、疑問表現がどのようなストラテジーとして用いられているかを明らかにすることを目的とする。

3. 分析データ

本研究では、世界最大の動画共有サービスであるYouTubeで発信されたライブ動画を分析データとする。YouTubeでライブ配信されているコンテンツは、ゲーム、メイク、音楽など多様であるが、その中で食事をしながら視聴者と自由に話すコンテンツを分析資料として選定した。配信者は、一人でライブを配信している女性に限定しており、チャンネル登録者が10万人以上であるチャンネルの中で、編集作業を行っていないライブ動画を分析資料とした。分析データの詳細な情報を〈表1〉に示す¹⁾。

〈表1〉 ライブ配信のデータ

ID	チャンネル名	チャンネル登録者数	動画再生回数	ライブストリーミング日	タイトル	時間
A	Marina Takewaki	261万	357,585	2020. 5. 21	【LIVE】一緒に食べて語ろう！アラサー女子の悩みあるあるを解決してポジティブになる会	1時間8分
B	ロシアン佐藤『おながやすいたらMONSTER!』	88万4千	308,200	2021. 2. 27	【大食い ノーカット】#15 お米1升とソーセージ食べきるまで生配信。シャウエッセン・アルトバイエルン・香燻【#ご飯1升ライブ?】【#ロシアン佐藤?】 【RussianSato】	2時間23分
C	かほの登山日記	15万6千	61,235	2021. 2. 28	【生配信】とりあえずゆっくり飲んだり、食べたり、山の話をしたり…♪	1時間22分
D	爆食ますぶちさちちよ	12万3千	71,484	2021. 4. 24	【ライブ配信】10万人記念！一升瓶飲む夜ごはん編【1日3回10kg生放送】	3時間36分

1) 〈表1〉の情報は、2021年08月04日に検索したものである。

4. 分析結果

4.1 要求ストラテジーとしての疑問表現

配信者は視聴者に応答を要求するために疑問表現を用いることがある。この場合、配信者は視聴者の応答を確認したことを表してからライブを展開していくパターンが観察される。

4.1.1 情報要求のための疑問表現

まず、配信者は、視聴者とのコミュニケーションを行うための回路が出来上がっているかを確認するために、疑問表現を用いて視聴者に情報を要求することがある。(1)を見てみよう。

(1) 【動画A】

配信者：音声聞こえてるかな？ 音声聞こえておりましたよね？ う <@うん？>@ 音声聞こえておりますかね？こんばんは

チャット：[聞こえてます!!!] [きこえてる!] [聞こえてまーす!!!] [聞こえてるよ^^*]

配信者：あ 聞こえてみたい よかった

(1)で、配信者は連続的に疑問表現を用いることで、視聴者に音声の問題なく送信されているかに対する応答を要求しており、視聴者の応答を繰り返すことで応答を確認していることを表している。

(2) 【動画B】

チャット：[カメラの表示が出ますよ]

配信者：カメラの表示が出ますよ え？ どれどれ？ 今大丈夫？

また、(2)のように視聴者はチャットを通じて音や映像に問題があることを配信者に伝えることもある。この場合、配信者は問題を解決するため、疑問表現を用いて積極的に視聴者に情報を求める用例も観察されている。

4.1.2 許可要求のための疑問表現

次に、配信者は視聴者から許可を得るために疑問表現を用いている用例が観察されている。

(3) 【動画B】

配信者：##とかがおらんとわからんくてさ まあ でも 大丈夫じゃない？ だめ?@@ カメ

ラの表示出るとだめかしら？ お これ違うわ 喋りながらやったらあれしそうだった

チャット：[了解ですよ いいよ そのままで]

配信者：了解ですよ いいよ そのままで 本当？ ごめんね

(3)は、画面にディスプレイの設定の表示が出ているカメラをそのまま使ってもいいかと視聴者に許可を得ようとしている場面であり、配信者は疑問表現を用いて視聴者に許可を求めている。配信者は、視聴者の応答をそのまま繰り返して発話することで、視聴者の応答を確認したことを表すと同時に、他の視聴者に許可が得られていることを共有している。

以上のように、配信者は疑問表現を用いて視聴者に情報を要求したり、許可を要求することがあり、この場合、[疑問]-[応答]-[反応]という相互行為が主に観察されている。

4.2 展開ストラテジーとしての疑問表現

配信者は視聴者から応答を得るためではなく、これからの行為を予告したり、疑いを表して視聴者に働きかけながらライブを進めていくためのストラテジーとして疑問表現を用いていることがある。

4.2.1 行為予告のための疑問表現

配信者は、疑問表現を用いて自分が行う行為を視聴者に予告した後、ライブを展開していくことがある。用例を見てみよう。

(4)【動画B】もう一種類 この子もいきますか？

(5)【動画D】そして これをご覧くださいよ みなさん 開けちゃう？ ジャジャーン賀茂鶴
の特製ゴールド金箔入りでございます 純金箔入り 開けちゃうね

配信者は「いきますか」、「開けちゃう？」と疑問表現を用いているものの、視聴者からの応答を確認する様子は観察されておらず、発話した後すぐ行動を行っている。このように配信者は視聴者に問いかけているように疑問表現を用いることで直接的な意思表明は避けながら自分の行為を予告するために疑問表現を用いることがある。

4.2.2 疑い表出としての疑問表現

次に、配信者は未確定の自分の行為や認識についての迷いを表したり、疑いを表すことで断言を避けると同時に視聴者に働きかけるために疑問表現を用いることがある。

(6)【動画D】先にお肉いっちゃう？ 鯛いっちゃおうかな？ ###さんの鯛を食べXX

(7)【動画D】今飲んで意味あるのかな？ ねえ 今 はあとか言って わからん

(6)と(7)で、配信者は未確定の自分の行為についての迷いを表し、視聴者からの後押しを求めているように発話している。このような疑いを表す疑問表現は、視聴者からのチャット内容に対する配信者の反応の発話にも観察される。

(8)【動画B】

チャット：[ウィンナー全然食べないね]

配信者：ウィンナー全然食べないね まだね まだじゃないかな？ なんか そんなすぐ温まるんかな？ これ おいしい

(8)で、配信者は「まだじゃないかな？ なんか そんなすぐ温まるんかな？」と疑いを表すことで断言を避けながらライブを進めている。このような疑問表現の使用は、視聴者に配慮していることを表すだけではなく、視聴者に働きかけながらライブを円滑に展開するためのストラテジーとして捉えられる。

4.3 接近ストラテジーとして疑問表現

配信者は視聴者に関心を表明したり、共感を形成したり、共同行為を促すことで視聴者との距離を縮めるためのストラテジーとして疑問表現を用いることがある。

4.3.1 関心表明のための疑問表現

まず、配信者は視聴者に関心を表明するために疑問表現を用いることがある。

- (9) 【動画A】 まずは みなさん え:: もうみんなご飯食べた？ どうか？ 皆さんご飯は食べてしまいましたか？ どう？ みんなの晩ご飯は何ですか？ 久しぶり 本当 嬉しい

(9)で配信者は、連続的に疑問表現を用いることで視聴者の状態に関心を持っていることを表現している。また、配信者は、視聴者に対して個別的に質問することで関心を表明する用例も観察されている。

- (10) 【動画D】

チャット：[皆で お祝いだ~ 美味しくお祝いしよう~]

配信者：###ちゃん みんなでお祝いだ おいしく おい おいしくお祝いしよう
寝れた？ 大丈夫？ 私めっちゃ寝たよ 2時間ぐらい寝た@

(10)で、チャットメッセージを送った参加者は当日の朝にもライブに参加した人物である。そのことを知っている配信者は、相手の領域に踏み込んで体調がどうであるかを聞くことで関心を持っていることを表現している。

4.3.2 共感形成のための疑問表現

次に、配信者は疑問表現を用いることで視聴者との共感を形成しようとすることがある。

- (11) 【動画D】 肩出しドレスドレスです 今日 ドレスかわいいでしょう？

配信者は「でしょう」を用いて命題に対する同意を要求することで、視聴者と共感の場を作ろうとしている。共感を形成するための疑問表現は、(12)、(13)のように否定疑問文で実現されることも多い。

- (12) 【動画B】 この 可愛くない？これ 視聴者さんに頂いたコースターです

(13) 【動画C】 パエリアって なんか 最初油で具材とか 米を炒めて あの 作るじゃな いですか？ ちょっと簡単にできたらいいなと思って

(12)と(13)に見られるように、配信者は否定疑問文を用いて視聴者に問いかけることで同意の発話を誘導しつつ、共感の場を作ろうとすることがある。

4.3.3 共同行為のための疑問表現

次に、配信者は共同行為を勧誘するために疑問表現を用いることがある。

- (14) 【動画A】 じゃあね あの いただきますもしましょうか？
(15) 【動画C】 皆さんもちょっとお酒を準備していただいて ちょっと乾杯しましょうか？
(16) 【動画B】 チャット：コメント：覗いてみて

配信者：覗いてみて ソーセージ 覗いてみようか？

(14)と(15)のように、配信者は疑問形式を用いて勧誘したり、(16)のように、配信者は、ソーセージがどうなっているか確認してほしいという視聴者の「覗いてみて」という発話を繰り返した後、「ソーセージ 覗いてみようか?」と発話し、ライブに視聴者を引き込みながら共同行為を促す戦略として疑問表現を用いることがある。

5. まとめと今後の課題

本発表では、非対面・映像・半個人的・一对多・双方向コミュニケーションという特徴を持つ、ライブ配信で疑問表現がどのような機能を果たしており、どのような戦略として用いられているかを分析した。その結果、ライブ配信で、疑問表現は視聴者に情報や許可を要求する戦略として用いられることがあり、この場合、[疑問]—[応答]—[反応]の相互行為が観察されることが確認できた。配信者は視聴者から応答を得るためではなく、これからの行為を予告したり、疑いを表し、視聴者に働きかけながらライブを進めていくための戦略として疑問表現を用いていることが分かった。また、視聴者に関心を表明したり、共感を形成したり、共同行為を促すことで、視聴者との距離を縮めるための戦略として疑問表現を用いていることが確認できた。

今回は、食べながら話すことを目的としたライブ動画における疑問表現のみに着目したが、他ジャンルや動画における疑問表現の特徴との比較などを行い、疑問表現の機能を明らかにしていく必要があると考えている。

用例の文字化表記

?	疑問表現	@	笑い
# #	個人情報	:	音の伸ばし
[...]]	チャット	X	聞き取り不明

【参考文献】

- 전정미(2016)「TV 토론 텍스트에 나타난 의문 표현의 설득 전략 연구」『겨레어문학』 57, pp.313-338, 겨레어문학회
- 斎藤里美(1999)「日本語教育における疑問文・質問文—コミュニケーション上の機能からみた日本語教材の課題—」『日本語学』 8, pp.41-56, 明治書院
- 櫻田怜佳(2020)「パブリック・スピーチにおける問いかけのメタ言語的機能について」『日本女子大学大学院文学研究科紀要』 26, pp.37-50, 日本女子大学
- 仁田義雄(1991)「日本語のモダリティと人称」ひつじ書房
- 宮崎和人(2005)「現代日本語の疑問表現：疑いと確認要求」ひつじ書房
- Tanaka, Lidia(2015) Japanese Questions: Discourse, Context and Language. London: Bloomsbury Academic

会話結末部における「ありがとう」の解釈と対応

－「子ども科学電話相談」の場合－

大谷鉄平（北陸大学）

1. はじめに

一般に、挨拶表現の「ありがとう（ございます／ございました）」¹⁾は「すみません」「感謝します」などと同様、感謝の意を伝達するために用いられる。一方、会話の結末部（と発話者が捉える場面）では、次の作例などのように、暗意としての「会話の終了」を示唆する。

【作例】 報道番組での一場面。ある話題に関する報道にコメンテーターが解説を行った後。

アナウンサー:ここまで、（コメンテーター）さんでした。ありがとうございました（1）。

コメンテーター:ありがとうございました（2）。

（??コメンテーター:どういたしまして（3）。）

アナウンサー:では、次のニュースです。

当該会話において、アナウンサーの「ありがとうございました（1）」との発話に対し推論を働かせれば、「『解説をしてくれたことに』感謝します」「『本番組に出演して下さったことに』感謝します」等々の解釈は可能であるものの、だからといって、ここでコメンテーターの応答が、（2）でなく、「感謝への応答」たる「どういたしまして」であれば、不自然な印象を拭えない（＝（3））。つまり、このやりとりにおける「ありがとうございました（1）／（2）」には、ともに、「会話の終了」が含意され、互いにその解釈が共有されているがゆえ、スムーズな会話として成立している。

我々が「ありがとうーありがとう」の隣接ペアを形成できる背景には、語用論的知識の獲得がある。しかしながら、このようなやりとりが、なぜ可能なのか、あるいは、どのようにして教授ー獲得するのか、との論点に対する具体例を用いた考察の蓄積は、必ずしも十分ではない。そこで、本研究では、質的調査として暗意のレベルで「会話の終了」を含む「ありがとう」との言語形式に注目し、使用場面を観察し「発信側ー受信側」のやりとりを精緻に分析したうえで、発信側の方略や受信側の反応を整理することで、語用論的知識の獲得過程の一端を記述する。

1) 以下、紙幅の都合上、「ありがとう」のみの表記とし、これに「ありがとうございました／ました」を含む、とする。

2. 先行研究

当然ながら、「ありがとう」は、感謝表現研究の枠組みでの成果に豊富な蓄積があり、その潮流面としては、談話上の機能やストラテジーの検討ならびに提案、位相差やポライトネスからの考察として提出され、「すみません」との対比を発端とする議論が盛んに展開されている（住田（1990）、岡本（1992）、小川（1993）、坂本（1999）、尾鼻（2015）、飯尾（2017）など）。

一方、「会話の終了」とのメタ・メッセージに関しては、熊取谷（1994）では、前終結 pre-closing が感謝表現を形成することから、会話を終結に導く談話機能を認めている。また、坂本（1999）には「インタビューなどの終わりに使われる「ありがとう」はこれで終了することを示す。…中略…インタビュー最後の「ありがとう」に対する「どういたしまして」などが不自然なのは、それが本当に感謝を表しているだけではないからである。（p.25）」との言及がある。なお、これとは別に、西（2006）は「ありがとうございました」と言われた際の応答に関する意識調査を行い、そもそも隣接ペアとしての「ありがとう—どういたしまして」が出現する機会が少ないことを指摘した（抜粋は【表1】）。

【表1】 西（2006）でのアンケート調査における対象別の結果上位2位（p.3）

対象	1位		2位	
親しい友人	「いいよ」系	14名	「はい」系	5名
クラスメート	「いいよ」系	13名	「いえいえ」系	6名
親しい近所のおばさん	「いえいえ」系	12名	「いえいえ、どういたしまして」	3名
見知らぬおばさん	「いえいえ」系	12名	「どういたしまして」	3名
その他 親	「はい」系	5名	「いいよ」系	4名
その他 小さな子ども	「どういたしまして」	3名		
※1「いいよ」系：「いいよ」「いいよいいよ」「いいってことよ」「いいですよ」等				
※2「はい」系：「はい」「うん」「はいはい」「はいー」等				
※3「いえいえ」系：「いえいえ」「いいえ」「ううん」「いやいや」等				
※4「その他」は自由記述であり、全員が回答したわけではない。				
※5西（2006）では別の対象者に同じ調査を行い、「無言」との回答も見られた。				

西（2006）での分類枠を参照すると、「会話の終了」を含意する発信側の発話に対する応答文のうち、同様のメタ・メッセージを包含する「ありがとうございました」以外の多様性として、大きく、「いいよ」などの「感謝には及ばない」すなわち（Ⅰ）「（感謝）不要」、「はい」「うん」などの（Ⅱ）「（感謝の）肯定」、「いえいえ」「いいえ」などの（Ⅲ）「（感謝への）否定」、（Ⅳ）「どういたしまして」、（Ⅴ）「無言」を指定できる。本稿ではこれに（Ⅵ）「ありがとうございました」を加えた計6つの応答文の分類枠を設けたうえで、分析を試みたい。

3. 「冬休み子ども科学電話相談」を対照とした小調査

3. 1 調査の方針

本研究では「会話の終了」を「発信側/受信側による推論に基づく様々な語用論的過程を経た『解釈』の次元」と捉え、解釈と対応に関する記述を明意 explicature と暗意 implicature²⁾ の観点から試みる。「会話の終了」は言語形式からの発展により得られる解釈ではないため、暗意に属するとし、冒頭の作例におけるコメンテーターの「会話の終了」との暗意の獲得過程における推論を次のように仮定する(今井(2015)によれば、(ii)の傍線部は「暗意された前提」)。

【仮定1】 (i) アナウンサーが「ここまで」「~でした」「~ました」を伴う発話をした。

(ii) 私(コメンテーター)の当該話題に対する解説は終了している。

∴ 「会話の終了」である。

これを踏まえ、会話の終結部における「ありがとう」の字義・明意・暗意を以下のように仮定する(便宜上、ここでは「ありがとうございました」の場合について記述する)。

【仮定2】 a. 発話の論理形式: 感謝を表す表現形式 (=ありがとう) + 丁寧 (=ございました) + 過去・完了 (=た)

b. 明意: (自身の何らかの行為に対する) 感謝の意思表示

c. 暗意: 会話の終了

つまり、概略的には、受信側においてa. の意味論的意味を「字面通りに」解釈した場合は、a. そのものではなく、語用論の発展を経たうえでb. との解釈を得る、と考える。また、ある受信者は、推論よりb. とともに(あるいはより前景化し)c. の解釈を得ることで、対応する文言「ありがとうございました (=前掲の分類枠 (VI))」を発話する、と考える。一方、他の応答 (I) ~ (V)) に関しては、c. の解釈が得られなかったものとする。

そのうえで、本研究の目的は、「会話の終了」という語用論的知識の獲得、ないしそれを促す方略について検討することにある。そこで、調査対象として「年少者-年長者」間でのやりとりのあるNHKラジオ番組「冬休み子ども科学電話相談 (2018年12月24日 ~ 2019年1月4日 <https://resemom.jp/article/2018/12/17/48214.html>)」のうち、第1回分 (=12月24日分) の音声データを用いた。なお、本調査ではこれをELAN (<https://tla.mpi.nl/tools/tla-tools/elan>) によりアノテーションを施したうえスクリプト化した。また、調査に際し、次のような仮説を掲げる。

【仮説】 相談者である子どもは、語用言語能力の発達段階にある。ゆえに、談話の結末部において、発信側 (年長者にあたる司会者・解説者) の「ありがとうございました」との発話に対し「感謝の意思表示 (明意)」と「会話の終了 (暗意)」との解釈を正確に得ることができず、結果的に上掲 (I) ~ (V) のような応答をし、「スムーズな会話」が成立しない可能性がある。一方、このような場面は、全国配信される生放送番組としては適切ではない (ラジオ (音声のみ) との媒体的要因も加味する)。そのため、発信側は妥当な「ありがとうございました (= (VI))」の呼び水となる、あるいは (I) ~ (V) の応答に見合う文言を伴う発話を行う。

本調査ではこの仮説をもとに、上掲の手法で得たスクリプトのうち、特に各相談者 (=子ども

2) 大雑把には、前者は発信側が「明示的に伝えようとしていること」、後者は「非明示的に伝えようとしていること」。

も)と司会者・解説者(=年長者)との会話の結末部に注目し、やりとりに用いられる文言を注意深く観察した。そのうえで、子ども・年長者の発話内容を分析し、検証を踏まえた考察の提出を試みる。³⁾なお、当該言語資料に登場する相談者(=子ども)の詳細については、【表2】の通りである。

【表2】言語資料における相談者(=子ども)の学年ならびに性別

順番	学年	性別	順番	学年	性別	順番	学年	性別	順番	学年	性別	順番	学年	性別
1	S1	M	7	S2	M	13	S2	M	19	S1	M	25	S5	M
2	S4	M	8	S3	F	14	S1	F	20	A6	M	26	S1	M
3	S2	F	9	S3	M	15	S3	F	21	S4	F	A=未就学児 S=小学生 M=男子 F=女子		
4	A6	F	10	S3	M	16	A5	M	22	S3	M			
5	S2	F	11	S2	F	17	S4	M	23	S4	M			
6	A3	F	12	S4	M	18	S3	F	24	S3	M			

以下では紙幅の都合上、調査結果ならびに考察の提示のみ、行うこととする。

3. 2 調査の結果

スクリプトの観察の結果、26の相談全てにおいて、「会話の終了」を含意する「ありがとうございました」が出現する隣接ペアは「司会者による『ありがとう』を含む発話→相談者による応答の発話」の順であった。そのうえで、後者の発話を前掲(Ⅰ)～(Ⅵ)の枠組みで分類し、集計した。

【表3】司会者の発話に続く相談者の発話の分類・集計結果

Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	※No.21
0	4	0	0	0	23	Ⅱ, Ⅵ重複

同表にて確認されるように、今回収集した資料においては、司会者の「ありがとう」を含む発話を受け、大多数の相談者が同じく「ありがとう」を含む発話で応答していた。この結果は、【仮説】の前半部を大きく否定するものとなった。一方、末尾の「発信側は妥当な『ありがとうございました(=Ⅵ)』の呼び水となる、あるいは(Ⅰ)～(Ⅴ)の応答に見合う文言を伴う発話を行う。」の部分は、個々のやりとりに多数観察された。また、一部言及した「(発話に対する)媒体的要因」の可能性が窺える点も認められた。なお、(Ⅱ)に分類した相談者の発話としては、「はい(【表2】No.5, No.9)」「はい(同No.21)」「わかり(ました)(同No.12)」が確認された。

3. 3 相談者からの「ありがとう」のための、司会者からの発話方略

【表3】の結果が導出された要因を探るうえでは、個々の相談の結末部において、相談者の発話

3) 言語資料の出演者に関し略述する。司会はNHKアナウンサー(女性)、解説者は専門家3名(昆虫・動物・科学。いずれも男性)であり、約3時間の番組内で計26名の子どもの相談に答える、との内容であった。

に先行し司会者が「ありがとう」との文言に加え、「何に対して『ありがとう（＝感謝）』なのか」について言明している点が注目される。すなわち、当該言明があることで、相談者もまた、「相談に答えてくれて『ありがとう（＝感謝）』」と発話することが容易となり、結果的に「会話の終了」との暗意への想起の有無に関わらず、「ありがとうございました—ありがとうございました」との自然な隣接ペアが構築されるのではないかと推察される。以下、紙幅の都合上、代表的な例のみを挙げる。

【例1】 No.2

- 21 司会 は::い (.) わかりましたか:: ↑
 22 子ども はい
 23 司会 はい
 24 司会 きょうはしつもんしてくれてどうもありがと::
 25 子ども ありがとうございました
 26 司会 はい
 27 司会 さよなら::
 28 子ども さよなら::
 29 解説者 さよなら::

【例2】 No.1

- 06 司会 だいじょうぶですか:: ↑
 07 子ども はい
 08 司会 わかりました:: ↑
 09 子ども はい
 10 司会 は::い
 11 司会 きょうはどうもありがと::
 12 子ども ありがとうございました[た]
 13 司会 [は]::い
 14 司会 さよなら::
 15 解説者 さよなら
 16 子ども さよなら

【例1】など、収集した前全26例の言語資料では、結末部での司会者の発話において、「ありがとう」に「質問をしたことに対して」との内容が付加される事例が16件、それ以外の10件が【例2】などの「ありがとう」のみ、であった。前者の件数が後者を上回る結果となった背景には、年長者側である司会者による、相談者（＝年少者側）の「ありがとう」への理解補助との方略が推察される。一方、【表3】（Ⅵ）に分類されるすべての事例は、判を押したように「ありがとうございました」となっており、定型的な発話との印象が窺えた。次に、この背景についての検討を行う。

3. 4 （発話に対する）媒体的要因の可能性が窺える点

26の相談全てにおいて、結末部での会話の展開として、「解説者による解説の終了→司会者からの理解の確認⁴⁾→相談者からの理解の表明→司会者からの『ありがとう』を伴う発話→相談者からの応答→相談の終結」のような流れが認められた。また、「相談（=会話）の終結」は、決まって「司会者—解説者—子ども」間で「さよなら」との挨拶表現を交わすかたちで展開されている実態が確認された（【例1】「27~29」、【例2】「14~16」）。⁵⁾ここで注目したいのは、相談（=会話）の終結部でのこの展開が相談者側にも共有されていることが窺える点である。これについて、【表3】（Ⅱ）とした「（感謝の）肯定」の事例から検討する。

【例3】 No.9

- 40 司会者 （名前）くんだいじょうぶですか::↑
 41 子ども はい
 42 司会者 は::い
 43 司会者 きょうはしつもんどうもありがと::
 44 子ども はい
 45 司会者 はい
 46 司会者 さよなら::
 47 子ども [あ]りがとうございま
 48 子ども あ
 49 子ども さよなら::
 50 解説者 さよなら::

【例3】では、「43」で司会者の「ありがとう」を伴う発話に対し、相談者は「はい」と応答（=「44」）し、これに対し司会者は「さよなら」と発話することで相談の終結へと展開させている。一方、相談者はこれに一旦「ありがとう」を伴う発話をしかけるが、「さよなら」と言い直しを行っている（=「47~49」）。ここでの言い直しは、相談者が「さよなら」への応答として「ありがとう」が不適切と気付いたことによるが、ここで「ありがとうございました」と言いかけた理由としては、相談者に「ありがとう→さよなら」の展開、具体的には終結部における「司会者からの理解の確認→相談者からの理解の表明→司会者からの『ありがとう』を伴う発話→相談者からの応答→相談の終結」との定型的な展開への理解があった、との説明が可能ではないかと考える。

今回の調査結果からは、以上のような（Ⅱ）の数例も含め、26の事例すべてにおいて、相談者にも「解説者による解説の終了→司会者からの理解の確認→相談者からの理解の表明→司会者からの『ありがとう』を伴う発話→相談者からの応答→相談の終結」との展開がある程度（あるいは完全に）理解されている様子が窺えた。なお、なぜ当該の展開を共有し得たのかについては、個々の相談がマス媒体により配信されており、自分の相談を待つ子どもが、他の相談者からの相談や会話

4) 上掲【例1】「21」の「わかりましたか」、【例2】「06」の「だいじょうぶ」などの文言を伴う発話をさす。

5) 当然ながら、当該の定型的な展開の背景には、ラジオ番組との性質上、台本のようなものが存在し、「司会者—解説者」間で情報が共有されていることが容易に推察できる。

のやり取りを聴取できる点が要因として大きいと思われるが、この点にはさらなる検討が必要と考える。

4. 考察—「ありがとうございました」の語用論的解釈—

今回の調査からは、【仮説】に反し、ほぼすべての会話で「ありがとう—ありがとう」の隣接ペアが観察される、との結果を得た。一方、相談者の「感謝」との解釈を得るため、先行する司会者の発話において「しつもんしてくれて」などの文言を付加することにより、「何に対して『ありがとう（＝感謝）』なのか」について明示する、との方略が確認できた。これにより、相談者は「明意：感謝の意思表示」との解釈を得ることが容易となり、結果的に、自身も同様に「明意：感謝の意思表示（＝『答えてくれて／教えてくれて／…』ありがとう）」での発話を行っている可能性が推察される。

また、今回の調査からは、相談者が「暗意：会話の終了」の解釈を得、これに基づき「ありがとうございました」との発話を行う、ということを論証するだけの明示的な根拠は得られなかったものの、その可能性を示唆する点を認めることはできよう。すなわち、26例全ての会話の結末部において、「司会者からの理解の確認→相談者からの理解の表明→司会者からの『ありがとう』を伴う発話→相談者からの応答→相談の終結」との定型的な展開が確認できた。また、マス媒体の特性上、個々の相談者は他の相談者と司会者・解説者のやり取りを聞くことが可能である。ゆえに、前掲（i）（ii）と同様、「暗意された前提」から相談者が推論をはたらかせることで、「『ありがとうございました』というべき場面である」との解釈を得ている、との解釈可能性を指摘することはできよう。

(iii) 司会者が「ありがとう」と発話した。

(iv) 「①司会者からの理解の確認→②相談者からの理解の表明→③司会者からの『ありがとう』を伴う発話→④相談者からの応答→⑤相談の終結」という展開があり、今、③が終了した。

∴ ここは「ありがとうございました」と言う場面である（≡「会話の終了」である）。

なお、ここで「会話の終了」を（ ）付きとしているのは、相談者が単に、他の相談のやり取りを参考に同様の発話を行っている、との可能性が排除できないことによる。しかし一方、関連性理論の観点からは、「その発話には関連性があると考え、自動的に（＝非意識的に）解釈を始める。その解釈方法も自動的にであり、且つきわめて迅速である（今井（2015）p.55）」との考え方もあり、これに従えば、先行する司会者の発話に対し何の解釈もせずにオウム返しのように発話を行っているとは考えにくく、また、【例3】（No.9）などからも確認できるように、定型的展開による（iv）の推論は、すべての相談者に共通した想定として存在するものと考えられる。ゆえに、本研究では大きく「ここは『ありがとうございました』と言う場面である」を暗意とし、「会話の終了」をその一部として捉えたい。

【主要参考文献】（この他は発表時、PPTにてお示いたします）

今井邦彦（2015）『言語理論としての語用論』開拓社

岡本真一郎（1992）「感謝表現の使い分けに関与する要因（2）―「ありがとうタイプ」と「すみませんタイプ」はどのように使い分けられるか―」『愛知学院大学文学部紀要』22、愛知学院大学、pp.35-44

坂本恵（1999）「「ありがとう」と「すみません」」『麒麟』8巻、神奈川大学、pp.24-27

西香織（2006）「「ありがとう」と言われたら―鹿児島市における意識調査及び街頭調査を通して―」『鹿児島県立短期大学紀要人文・社会学編』37、鹿児島県立短期大学、pp.1-15

Schegloff, E. & Sacks, H. (1973) Opening up Closings. *Semiotica* (8), pp.289-327

한·일 양어의 코로나 관련 신어의 비교 고찰

田宇(전남대학교)

1. 서론

코로나19 사태가 어느새 벌어진 지 벌써 1년 반 남짓 되었다. 이왕의 감염병처럼 잠깐 끝날 줄 알았는데 맨날 뉴스에서 나오는 국내의 확진자의 데이터를 보면 대유행의 기세가 아직도 꺾이지 않고 지속적 확산 추세를 보인다. 이번의 코로나바이러스 감염증은 역사상 어느 때보다도 가장 파괴력이 있는 것이다. 코로나 사태는 정치, 경제, 문화, 교육 등 모든 면에서 엄청난 파급효과를 가져왔다고 해도 과언이 아니다. 우리 일상생활에서 사용하고 있는 언어까지도 예외 없이 변화를 초래하게 되었다. 코로나 사태 이후에 ‘생활 속 거리두기’, ‘포스트 팬데믹’, ‘무관중 경기’, ‘온택트’, ‘집콕’ 등처럼 코로나 감염병으로 인해 새로이 생겨난 낱말들은 각국의 대표적 유행어로 품미하게 되었다.

코로나 사태가 낱말이 불거지면서 각국 코로나 관련 신어의 수가 차츰차츰 증가하고 있음에도 불구하고, 지금까지 신어를 중심으로 비교된 연구는 전무하다고 할 수 있으며, 대부분 한 나라의 신어에 한정되어 연구되어왔을 따름이다. 이와 달리 본고에서는 대조 언어학 측면에서 한·일 양국어의 코로나 관련 신어를 유형별로 나눠 형태적 특징을 중점으로 분석하는데 그 의미가 있다고 할 수 있다.

지금까지 한국에서 언어적 관점에서 코로나를 대상으로 다루어진 대표적인 연구는 주로 이수진·강현아·남길임(2020), 이해미(2020), 강희숙(2021), 김주아(2021)를 들 수 있다. 이 가운데 이수진·강현아·남길임(2020)에서는 코로나 사태 초기에 생겨난 신어를 수집하여 이를 통해 코로나 사태가 실생활의 언어에 미친 영향과 더불어 한국인들의 전염병에 대한 위기의식, 대처방식 등을 고찰하였다. 이해미(2020)에서는 일본 코로나 관련 신조어를 정부발 신조어와 국민발 신조어로 분류하여 의미적 특징을 분석하여 정부가 코로나 사태에 대한 대책과 국민이 이에 대한 평가와 함께 살펴보았다. 강희숙(2021)에서는 코로나-19와 관련한 신어를 통하여 드러난 비대면 문화와 집콕 문화, 온택트 소통 및 정부가 마련한 각종 대책·제도 등 소위 ‘코로나 뉴노멀’의 양상을 중점적으로 살펴보았다. 김주아(2021)에서는 코로나 이전의 전염병으로 인해 만든 신조어와 코로나 이후의 출현한 신조어를 비교하며 또 2020년도 중국에서 선전된 열 개 신조어를 경제류와 의학류로 나눠서 집중적으로 분석함을 통하여 중국에서 겪은 사회 변화를 고찰하였다. 이처럼 이러한 연구들의 공통점은 코로나19에 관한 신어를 통해 한 나라의 사회 제반의 모습에 치중하여 살펴본다는 것이다. 그리고 이들 연구에서 수집된 신어들은 코로나19 사태 초기에 나왔던 것들을 주된 것이다.

지금까지 코로나 관련 신어를 비교·분석한 연구는 전무하다고 할 수 있다. 따라서 본 발표문은 한자 문화권에 속해 있는 한·일 양국어에서의 코로나 관련 신어를 고찰대상으로 삼아 이들에 관한 신어를 추출하여 유형별로 나눠 형태·의미적 특징을 살펴보는 데 목표를 둔다.

2. 조사자료 및 신어 추출

본 연구에서는 온전한 한·일 양어의 코로나와 관련한 신어 자료를 수집하기 위해 가능한 한 많은 자료를 접하였다. 그중에 한국 측에 주로 남길임·이수진 등에 의하여 편찬한 『신어 2020』을 일차 자료로 삼았고 그 외에 보조 자료로 한국언론진흥재단에서 제공하는 뉴스빅데이터 분석시스템인 빅카인즈(BIG KINDS)도 병행하여 활용하였다. 일본 측에 아직까지 공식적으로 언어기관으로부터 나온 코로나와 관련한 신어 자료가 없었기 때문에 개인적 수집 작업이 필요하다. 이 작업을 수행하기 위해서 필자가 최대한 많은 웹사이트를 이용하여 일본의 신어를 나타낸 각종 신문 기사, 용어사전, 블로그 등을 광범위하게 검색하였다¹⁾. 이렇듯 한·일 양국에서 각각 150개, 130개 코로나 관련 신어²⁾를 추려내어 금번의 고찰대상으로 삼았다. 이들을 조어법과 의미 범주에 따라 분류하여 어종, 접사, 복합어, 약어 등의 형태적 특징과 의미적 특징을 중심으로 분석하는 데 목표를 둔다.

3. 한·일 양어의 코로나 관련 신어의 비교분석

이 장에서는 한·일 양어 중에 추출된 코로나 관련 신어를 대상으로 어종, 구성유형, 의미 범주 등의 측면에서 형태·의미적 분석을 시도하였다. 지면 관계상 분석 결과를 주로 표의 형식으로 제시한다. 먼저 한·일 양어의 어종별을 정리하면 다음과 같다.

<표1> 한·일 코로나 관련 신어 어종별 분포

言語	固有語	漢語	外來語	混種語	합계
한국어	1.3%(2)	31.3%(47)	27.3%(41)	40.0%(60)	100%(150)
일본어	1(0.8%)	43.1%(56)	24.6%(32)	31.5%(41)	100%(130)

위의 <표1>에서 보는 바와 같이 한·일 양어 중에 어종별의 분포 비율은 한국어에서 혼종어가 차지하는 비율은 가장 높았고 40.0%로 나타났는데 뒤를 이어서 한자어(31.3%), 외래어(27.3%), 고유어(1.3%) 순으로 나타났다. 이에 비하여 일본어에서 한자어가 43.1%로 가장 많이 나타났고 뒤를 이어서 혼종어(31.5%), 외래어(24.6%), 고유어(0.8%) 순으로 나타났다. 이왕의 신어는 한자어보다 외래어가 더 많이 차지하고 있었다는 것과 달리 코로나19를 나타낸 신어에는 한자어가 외래어를 앞섰다는 것이 특징적이다. 이것에 비추어보면 외래어보다 역시 한자어가 더 전문성을 띠고 적극적으로 생산하고 있다는 것을 짐작할 수 있었다. 왜냐하면 코로나 감염증으로 인해 의학과 보건의 분야에 많은 전문용어가 생겨났기 때문이다. 원어에 따른 코로나 관련 신어의 유형은 단일원어와 복합원어로 나눌 수 있다. 단

1) 예컨대, 「言葉の手帳」, 「三省堂第18回ことばの時事問題(5)」, 「現代用語の基礎知識」, 「新型コロナウイルス流行語大賞」, 「新型コロナウイルスの関連用語まとめ記事」 등이다.

2) 본고에서 말하는 신어는 코로나19로 인해 완전히 새롭게 생겨난 용어뿐만 아니라 그 외에 코로나 사태가 벌어진 후에 빈번히 사용된 어휘도 포함된다.

일원어에서 한·일 양국의 한자어의 비율이 가장 높고 각각 31.3%, 43.1%로 나타났다. 이와 같은 경향성은 복합원어에서도 보일 수 있다. 이를 정리하면 다음과 같다.

<표2> 한·일 양어의 코로나 관련 신어의 유형

어종		한국		일본	
		어수	비율	어수	비율
단일원어	고유어	2	1.3%	1	0.8%
	한자어	47	31.3%	56	43.1%
	외래어	41	27.3%	32	24.6%
복합원어	고+외/외+고	9	6.0%	8	6.2%
	고+한/한+고	16	10.7%	12	9.2%
	외+한/한+외	34	22.7%	21	16.2%
	고+외+한	1	0.7%	×	×
합계		150	100	130	100

위의 <표2>에서 보이듯이 복합원어의 경우는 외래어와 한자어 혹은 한자어와 외래어의 결합이 가장 많았고 뒤를 이어서 ‘고유어+한자어/한자어+고유어’, ‘고유어+외래어/외래어+고유어’의 순으로 나타난다. 셋 이상의 원어가 결합된 ‘고+외+한’의 경우는 한국어에만 나타나고 있다. 이처럼 복합원어에서도 한자어와의 결합률이 가장 높다는 것을 알 수 있다.

다음은 한·일 양국에 있는 코로나 관련 신어의 조어법의 특징을 알아보기 위하여 이들 신어종의 구를 제외하고 각각 65개, 49개 단어를 추출하여 비교·분석하고자 한다. 분석 결과를 정리하면 다음과 같다.

<표3> 한국어의 코로나 관련 신어의 구성³⁾

항목		어수(%)	예
단일어	차용	4(6.2%)	팬데믹, 코비디보스, 어퍼웨어, 코비디엇
복합어	합성	합성 32(49.2%)	쭈뚱탄, 언택트주
		혼성 14(21.5%)	입스크, 텍스크, 산린이, 공스장, 코로노미,
		축약 5(7.7%)	집관, 돌밥돌밥
	파생	접두 4(6.2%)	비대면, 온택트, K방역
		접미 6(9.2%)	확찐자, 집콕족, 가림막, 코로나등이
합계		65(100%)	

<표4> 일본어의 코로나 관련 신어의 구성

항목		어수(%)	예
단일어	차용	15(30.6%)	アウトブレイク, オーバーシュート, パンデミック
복합어	합성	합성 22(44.9%)	コロナ不況, クラスター感染, おうち時間, コロナ鬱
		축약 3(6.1%)	3密, まん防
	파생	접두 5(10.2%)	眞水, 新コロ, 再感染, 無観客

3) 본고의 조어법의 분류 기준은 고영근·구본관(2009)에 따른다. 일본어에도 이와 같은 기준으로 적용한다.

	접미	4(8.2%)	濃厚接觸者, 特別措置法, アクリル板, コロナ棒
합계		49(100%)	

위의 <표3>과 <표4>에서 보는 바와 같이 양국의 신어에서 단일어보다 복합어가 더 압도적이며 특히 한국어의 경우는 단일어가 차지하는 비중은 10분의 1에도 미치지 못하는 가장 낮은 비율로 나타났다. 단일어 중에 신어를 형성하는 방식은 차용만 보이고 완전히 새로 만들어진 단어가 아직 발견될 수 없었다. 차용의 비중을 보면 한국어보다 일본어가 더 높은 비율을 차지하고 있다는 것을 알 수 있다. 한국어의 조어법에 따른 신어의 유형은 합성(49.2%)>혼성(21.5%)>파생(15.4%)>축약(7.7%)>차용(6.2%)의 순으로 나타나며 일본어에는 합성(44.9%)>차용(30.6%)>파생(18.4%)>축약(6.1%)의 순으로 나타났다. 코로나 관련 신어중에 약어의 비중이 양국에서도 낮게 나타나며 이의 생성방식은 대부분 단어 혹은 구의 첫음절을 이용하여 만든 것이다. 파생의 유형은 일반적으로 접사의 위치에 따라 ‘접두 파생’과 ‘접미 파생’으로 나눌 수 있으며 이 부분의 분포 비율은 한·일 양어에서 비슷하게 나타났다. 접두 파생 신어중에는 일본어의 경우는 ‘-眞’, ‘-新’, ‘-再’, ‘-無’처럼 한자어 접두사만 나타나고 있는 반면에 한국어의 경우는 ‘비(非)-’와 같은 한자어 접두사뿐만 아니라 ‘온(on)-’, ‘K-’와 같은 영어 접두사도 있다. 접미 파생 신어중에는 양국에서 주로 한자어 접미사와 고유어 접미사가 쓰였다는 것을 보일 수 있다.

다음으로 양국에서 추출된 코로나 신어의 의미 분야에 따라 다음과 같이 분류하여 이들의 의미적 특징을 살펴보고자 한다.

<표5> 한·일 양어의 코로나 관련 신어의 의미 범주

분야	한국		일본	
	어수	비율	어수	비율
행정·복지	49	32.7%	44	33.8%
삶	33	22.0%	26	20.0%
의료·보건	28	18.7%	40	30.8%
사회	13	8.7%	15	11.5%
경제	8	5.3%	5	3.8%
교육	6	4.0%	×	×
인간	6	4.0%	×	×
의생활	5	3.3%	×	×
식생활	2	1.3%	×	×
합계	150	100	130	100%

위의 <표5>에서 보이듯이 코로나 신어의 의미 범주에 따라 크게 행정·복지, 의료·보건 등 9가지로 분류할 수 있으며 그중에 행정·복지 분야의 신어가 한·일 양어에서 한결같이 가장 높은 비율로 차지한다. 코로나 사태가 아직 종결되지 않아 각국에서 최대한 코로나바이러스를 차단하여 집단감염 사태를 제어하고 확산세를 꺾기 위해 이에 대응하는 행정적 정책과 복지적 지원이 무엇보다도 급선무이기 때문이다. 뒤를 이어서 의료·보건과 삶의 분야도 적지 않게 나타났으며 의료·보건의 분야에 일본이

30.8%로 한국을 앞섰다는 반면에 삶의 분야에 한국이 22.0%로 일본보다 더 높았다. 경제 분야가 양국에서도 비교적 낮게 나타났다는 것이 이왕 신어의 범주에 비해 특징적이다. 한편, 한국어의 코로나 신어의 의미 범주는 9개의 영역에 분포되었으나 일본어에는 행정·복지, 삶, 의료·보건, 사회, 경제와 같이 5개의 영역에 불과하다. 교육, 인간 및 의·식생활의 분야가 찾을 수 없었다. 이것으로 보아 일본어보다 한국어의 코로나 신어의 의미영역이 더 다양하다는 것이 굉장히 특징적이라고 할 수 있다.

4. 결론

이상으로 한·일 양국에서 코로나 관련 신어에 대한 비교·분석을 통해 몇 가지 특징점을 찾을 수 있다. 첫째, 어종별에서 양국에서도 한자어가 많이 차지하고 있으며 외래어를 앞섰다는 것이 특징적이다. 특히 일본어에서 한자어의 비율은 혼종어보다 더 높게 나타났다. 이것으로 보면 한자어가 더 생산적이고 전문성과 규범성을 띠고 있다. 둘째, 원어에 따른 코로나 신어의 유형은 단일원어와 복합원어로 나눌 수 있다. 단일원어에서 한·일 양국의 한자어의 비율이 가장 높았고 복합원어에서도 역시 한자어와의 결합률이 가장 높았다는 것을 알 수 있었다. 셋 이상의 원어가 결합된 ‘고+외+한’의 경우는 한국어에서만 찾을 수 있다. 셋째, 조어법에 따른 신어의 유형은 한국어에는 합성>혼성>파생>축약>차용의 순으로 나타나며 일본어에는 합성>차용>파생>축약의 순으로 나타났다. 넷째, 의미 범주에 따른 분포율은 양국에서도 행정·복지 분야가 가장 높게 나타났으며 한국어의 코로나 신어의 영역은 총 9개이고 일본어보다 더 다양하다는 것이 특징적이다.

신어는 흔히 사회의 거울이다. 위드 코로나 시대에서 코로나 관련 신어가 바로 각국의 키워드이며 이들을 통해 각국의 방역정책과 행정복지 등 여러 분야의 각 단계의 동향을 보여줄 수 있다. 따라서 이들을 분석·비교하는 작업이 매우 중요하다. 특히 현재까지 일본에서 공식적으로 수집된 코로나 신어가 없었기 때문에 본고에서 수작업을 통해 수집한 130개의 신어 자체도 의미가 있다. 이들을 형태·의미적 비교·분석하는 과정에서 시간과 지면 관계상 더 세분하지 못하는 미진한 부분이 있다. 이는 훗날의 과제로 남기면서 이것으로 마무리하고자 한다.

【参考文献】

- 김주아(2021), 「언어로 보는 중국의 ‘코로나19’」, 『한중언어문화연구』, 제60호, pp.329-359.
 강희숙(2021), 「코로나-19 신어와 코로나 뉴노멀」, 『인문학연구』, 제61호, pp.115-138.
 남길임 외(2021), 『신어 2020: 코로나 팬데믹 시대의 새로운 언어』, 한국문화사. 이수진·강현아·남길임
 (2020), 「코로나-19 신어의 수집과 사용 양상 연구」, 『한국사전학』, 제46집, pp.136-171.
 이수진·김예니(2014), 「2013년 신어의 추출 방법론과 형태·의미적 특성」, 『한국사전학』, 제23호, pp.232-262.
 이해미(2020), 「코로나 시대의 신조어, 일본 사회」, 『비교문화연구』, 제60집, pp.275-300.

沖縄県八重山諸島の言語景観研究

－マクロとミクロの視点－

ダニエル・ロング（東京都立大学）

1. 研究の背景と目的

本発表では沖縄県八重山諸島における言語景観の分析をもとに、三つの社会言語学的課題に取り組む。まず言語景観に認められる言語接触現象からそこに潜む言語的規則を解明する。そこで得られた社会言語学的知見の応用性、つまり当該地域の言語が文化的観光資源としてどのように地域活性化につながるか、言語景観現象がどのように言語教育で活用できるかを考察する。

本発表に関連する試みとしては、これまで李舜炯（2019a）や磯野（2020）などがあるが、いずれも言語教育における言語景観の利用方法を模索したものである。また、ロング&斎藤（2021）では、方言と標準語との言語接触現象がどのように言語景観に反映されるかを検証している。さらに、李舜炯（2019b）では、観光による地域活性化と看板等の視覚的言語を用いた媒体との関係を検討している。本発表はこうした研究の一つとして位置付けられる。

2. 調査概要

本稿で分析対象とする言語景観資料は、中井精一（2010年11月）および磯野英治（2011年3月、2012年3月）と共に撮影を行なったものである。資料収集にあたり、「方言で書かれた看板類を網羅的に採集する調査」いわゆる悉皆調査ではなく、現地を訪ねる人を想定し、「意図的に探さなくても自然に遭遇することのできる方言看板」を収集する方針を採用した。なお、発表者は「言語景観」を（ロング2010の定義に基づいて）何らかの語句を含む看板類、道路標識、空港や港湾の公的表示、意図しなくても目に入ってしまう（＝受動的に読んでしまう）商品名などの総称として用いている。なお、本発表は、沖縄県八重山諸島の島々で撮影した看板を質的に分析する研究である。八重山諸島の玄関口は、東京との直行便で結ばれる石垣島で、そこからフェリーで西表島や竹富島、波照間島、小浜島、黒島に渡ることができる。表1に撮影を行った看板類の数を示しているが、この枚数は、「島にあるすべての方言看板」として理解すべきではなく、「黒島よりも小浜島の方言看板が多い」などと主張しているわけではない。

表1 撮影した方言看板の枚数

地域	時期	方言看板類
石垣島	2010年11月	230
波照間島	"	57
黒島	"	72
小浜島	"	88
西表島	2011年3月	125
石垣島	"	98
竹富島	"	71
鳩間島	"	27
石垣島	2012年3月	76
与那国島	"	75

3. 「我が島」に相当する単語とアイデンティティ

沖縄に行くと、三線や歌、闘牛などで「全島一」を競う大会のポスターをよく見かける。ここから、沖縄県民という意識よりも「〇〇島の人」という意識が島民の人々のアイデンティティに結びついていると考えられる。特に離島に渡ると標準語の「我が島」に相当する言い方を頻繁に目にする。これが観光客に向けて使われることを考えると島民が訪問者に向けてアイデンティティを表明している表現でもある。従来は「方言は身内同士で使い、標準語はよそものに向かって使う」というのが常識であった。しかし、島外から来る観光客が理解できるはずがない「ベスマ」（我が島）を、島民の人々が敢えて使うのはそうした常識をくつがえす言語行動と言える。「よそ者に方言」を使うという一見非常識な（生産的ではない）行動にさえ思えるのである。

図1は、波照間島小学校に掲げられている「学校大すきふるさと大すき波照間（ベスマ）っ子」という標語である。「ベスマ」は「我が島」という意味である。「べ」は石垣島や宮古島で使われる一人称代名詞「ば」に当たる。これは沖縄本島における「わ」に相当する。「スマ」は「島（しま）」の音変化した形である。以前は、学校で島ことばを使ったら罰として首に方言札を掛けられたが、皮肉にも21世紀の現在、学校では方言使用が奨励されている。

図2は防波堤に書かれた標語である。子供たちの名前や手形と一緒に「島を愛すかけがえのないベスマピトゥぬ心」と書かれている。方言と標準語の混交文だが、「ピトゥ」は「人」を表し「我が島人」に相当する。ちなみに、「ぬ」は標準語の「の」に当る名詞修飾の助詞であるが、名詞の後のみに使われ、代名詞の後には用いない。これは本土諸方言と琉球諸語が異なる文法事項である。例えば那覇方言で「ティーダヌファー」（太陽の子）は〈名詞ぬ名詞〉の構文だが、「わったーとくる」（私達の所）は〈代名詞名詞〉の構文で「ぬ」は入らない。

図3の「食事処ばしま」から分かるように、西表島の一人称代名詞は「べ」ではなく「ば」である。図4の「バンタ ドゥナンチマ カティラリヌン！」は標準語に翻訳すると「私たちの与那国島を捨てられない！」となる。「我が島」ではいし、単数形ではなく、複数形であるが、これで与那国島の一人称は「ば」であることが分かる。「我」に当たる「ば」は鳩間島の「バスラ島」（図5）や竹富島の「バヤケーラ」（図6）でも使われる。この「ば」は石垣島や宮古島にもみられる。図

7の「バガージマ」や図8の「ばんたがすま」に確認できる。



図1 「ベスマ」 (我が島) / 波照間島 図2 「ベスマピトゥ」 (我が島人) / 波照間島



図3 「ばしま」 (我が島) / 西表島

図4 「バンタ」 (私達) / 与那国島

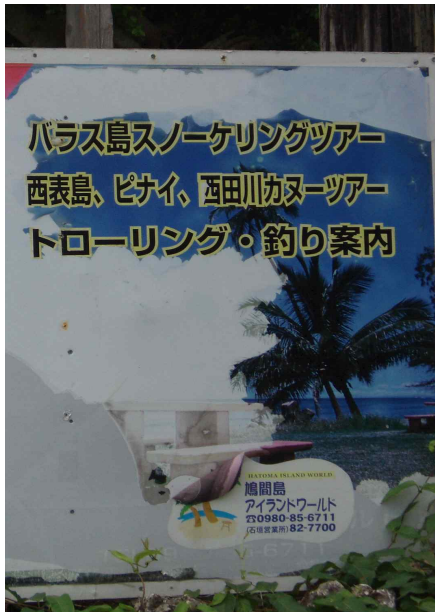


図5 「バラス島」 (我が島) / 鳩間島



図6 「バヤケエラ」 (我が島) / 竹富島

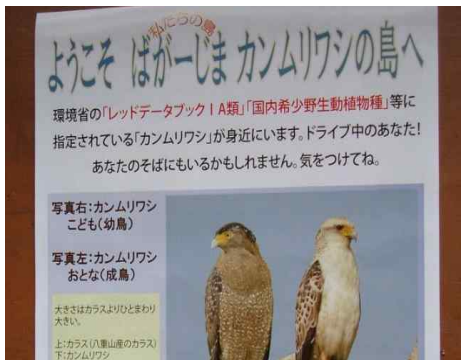


図7 「はがーじま」 (我が島) / 石垣島



図8 「ばんたがすま」 (私達の島) / 宮古島

4. 観光客にむけた歓迎の挨拶ことば

観光客が八重山諸島に向かう場合、フェリーに乗るのが一般的であるが、到着時に観光客に向けられる歓迎の挨拶は、各島で異なっている。波照間行きのフェリーの入口には「おりたぼりー」と書かれている(図9)。黒島で見た歓迎挨拶の看板は「ワーリタボーリ」(図10)という種類だった。これと対照的だったのは小浜島でみた4種類の変異形であった。

小浜島全図という大型地図がその島の船着き場の向かい側に立てられており、その上には「ワーリタポリ」という島ことばが書かれている（図11）。小浜島総合案内所に書かれているのは「わーりーたぼーり」（図12）で、方言内バリエーションとして母音の長短およびp/bの無声・有声の変異が見られる。図13の釣り船のチラシには「わーりたぼーり」という別の組み合わせが見られる。それにこれまでの例に現れていなかった標準語訳の「いらっしやいませ」が付いている。図14は小浜島小中学校の「わーりたぼーりー」である。字が読みづらい写真だが、p音であると考えられる。これで言語景観には少なくとも4通りのバリエーション、すなわち「ワーリタポリ」（長短短短p）、「ワーリータボーリ」（長長長短b）、ワーリタポーリ（長短長短p）、ワーリタポーリー（長短長長p）が見られた。ちなみに、石垣島でこれらに当たるのは「おーりとーりー」であり、離島に残っている両唇破裂音（pやb）が消えている形である（図15）。



図9 「わーりたぼーりー」 / 波照間島



図10 「わーりたぼーり」 / 黒島



図11 「ワーリタポリ」 / 小浜島



図12 「わーりーたぼーり」 / 小浜島



図13 「わーりたぼーり」 / 小浜島



図14 「わーりたぼーりー」 / 小浜島



図15 「おーりとーりー」 / 石垣島



図16 「ウチカビ」 / 今帰仁村

5. マクロの視点とミクロの視点

ここでは、本稿で言っている「ミクロとマクロ」について説明する。「マクロ的」とは、例えば標準語との対照で考えると、本土系諸方言と琉球系諸方言全体（「日本語族」）とを対照する上で得られる言語変異である。例えば、歓迎の挨拶として、標準語は「いらっしゃいませ」を使うのに対して、那覇は「めんそーれ」、石垣島は「おーりとーりー」、波照間島は「おりたぼりー」が使われる（表2）。こうした対比は「日本語族」全体の言語変異をマクロ的に見る方法である。一方、波照間島の「おりたぼりー」を小浜島「わーりたぼーりー」と比べる時に、短母音と長母音の比較、またはア行・ワ行の比較、濁音のbと半濁音のpの子音の比較に焦点を絞ることができる。これがミクロ的なバリエーション（言語変異）である。

表2 言語景観にみられた単語のマクロ的変異・ミクロ的変異

標準語	わがしま	いらっしやいませ
那覇	わった一、わした（複数形）	めんそーれ めんそーれー
宮古島	ばんたがすま（複数形）	んみゃーち
石垣島	ばがーじま	おーりとーりー
竹富島	ばやけーら	おーりとーり、おーりとーりー
波照間島	べすま	おりたぼりー
黒島	ばしま	わーりたぼーり、わあーりたぼーり
小浜島	ばすま	わーりたぼり、わーりーたぼーり、 わーりたぼーり、わーりたぼーりー
鳩間島	ばらすしま	おーりたぼろーり
与那国島	ばんた（私達）	わーりいー、わーり

6. 言語景観を材料とした研究や教育

今回の調査結果から見た標準語と沖縄諸語（諸方言）を言語接触という観点から考察すると良い。例えば、図14で「わーりたぼーりー小浜島へ」という標語が見られたが、これは純粋な方言ならば「わーりたぼーりー小浜島かい」（那覇の「んかい」に当たる）となる。そのため、これは標準語と現地語をまぜた一種の接触言語として見ることができる。黒島に見られる「わーりたぼーり」という敬語は、本土の「^{たわ}賜る」とどう関係しているか。標準語において「さびしい」「さみしい」のようにbとmが交代する単語が見られるが、沖縄の儀式で使われる「うちかび」（打ち紙、図15）にみられるbとmの関係と、これらの例はどう関係しているか。言語景観を資料としてうまく活用することで、歴史的文献にしか見られないすでに廃れた表現や死語となった表現ではなく、地方に部分的に生き残っていることばとして面白さが増すと考えられる。

「かけがえのないベスマピトゥ」（図2）という言い方には方言と標準語とが混ざって用いられている。標準語と方言が接触した場合に、方言のどの部分が残りにやすく、どの部分が消えて標準語に切り替えられてしまうかを調査することは、興味深い課題である。また、敢えて島民以外のよそ者にアピールする文化的資源として方言を使うのはなぜか、どういう場合に使われるか（歓迎の挨拶に方言の使用が見られるが、キャンセル料に関する注意書きには方言の使用が見られるどうか等）も重要なテーマである。こうした看板の資料は、上級・超級の日本語学習者の授業でも、学部生の言語学概論の講義でも生きた材料として役立つ。他にも、日本語の地理的変異だけではなく、日本語史の言語変化と結びつけて考えることも有効である。例えば、一人称代名詞「我」を意味することばは、波照間島（図1、2）で「べ」だったが西表島（図3）や与那国島（図4）、鳩間島（図5）、竹富島（図6）、石垣島（図7）では「ば」であった。これらの/b/が音韻論的に本土の

/w/（わがしま）とどう関係しているか。宮古島の「ばんたがすま」（図8）に複数形が見られたが、他の島において単数形と複数形がどのように区別されるか。これらは全部「先島」と呼ばれる沖縄本島の南にある方言であるが、北上すると本土諸方言の「我が島」と同じ/w/が沖縄本島の「わったーしま」や「わしたしま」（私達の島）に使われている。

以上でみたように、「言語景観」は地域活性化に活用される方言や言語接触の実態を把握するためのデータとしても、言語教育の題材としても非常に有効なものと言えるのである。

謝辞：本発表は「韓国と日本の言語景観に関する実証的研究—言語接触・言語教育活用・地域活性化を中心に—」という韓国教育省の研究プロジェクトの一環として行なっています。プロジェクトメンバーの皆様に御礼を申し上げます。This work was supported by the Ministry of Education of the Republic of Korea and the National Research Foundation of Korea (NRF-2019S1A5A2A03043546).

参考文献

- 李舜炯編(2019a)『都市空間を編む言語景観』大邱：中文出版社
李舜炯編(2019b)『言語景観研究の無限なる可能性』研究報告論文集
磯野英治(2020)『言語景観から学ぶ日本語』東京：大修館書店
ロング、ダニエル(2010)「奄美ことばの言語景観」『東アジア内海的环境と文化』（内山純蔵、中井精一、中村大編）174-200、富山：桂書房
ロング、ダニエル・斎藤敬太(印刷中)『言語景観から考える日本の言語環境』横浜：春風社

韓国「青春通り」言語景観における日本語使用特性*

—多様性とこだわりの側面から—

李舜炯(慶北大学校)

1. はじめに

言語景観に関心を持ち始めてから10年以上になるが、2020年、研究のきっかけになった「눈의 꽃」という看板が大邱の街から姿を消した。街の中ではもう見られなくなった言語景観ではあるが、「눈꽃:雪の花」ではなく「名詞+の+名詞」という日本語文型構造の韓国語表記として李舜炯(2019a:247)に書き残してある。これはロング(2021)の指摘にもあったように、書記言語である「言語景観」が「記録」と同様に時空間を越えて伝えられることを意味するだろう。変化が激しいために研究対象として価値がないのではなく、いつ姿が消えるか分からないからこそ時間の許す限り調査し、記録することも言語景観研究の意義のひとつであろう。

ここ数年、磯野(2020、2021)、ロング(2017、2019)などで、言語景観の日本語教育へ有効性が主張されている。その影響で発表者も対面・非対面問わず担当している授業のなかで「(PBL型)言語景観調査」を課題提示し、日本語の言語景観を教育ツールとして活用し、その可能性を多角的に打診している(李舜炯2019b, 李舜炯・甲賀2021)。その際、学習者から、「授業内容の復習や深い理解」ができ、「社会のなかで日本語使用状況の理解」ができたという意見を確認している。これは学習者が言語景観調査を通し、JFL環境であっても文法、語彙といった言語形式や内容はもちろん、地域社会に目を向け関心をもつきっかけになり、言語景観をつくり出し、情報を送り出している送り手が何を発信しているのかが理解できたことを意味するだろう。つまり、言語景観から言語学習ができ、言語景観から社会変化が読み取れるようになったと考えられる。

そこで、本発表では若者が集まる韓国の「青春通り」言語景観における日本語使用状況から、語彙、文法という言語内的特性および地域社会の理解という言語外的特性の分析を試みる。分析においては、「多様性」の大小や「こだわり」の強弱という側面から探検的に考察し日本語使用特性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

*This work was supported by the Ministry of Education of the Republic of Korea and the National Research Foundation of Korea(NRF-2019S1A5A2A03043546)

2.1 調査地域

若者向けの繁華街である大邱とソウルにある「若者の通り」「ヤングストリート」などとも訳される「젊음의 거리(チョルムメコリ)」一帯(大邱の東城路も含む)を調査対象地とした(以下、「青春通り」と称する¹⁾)。



図1 大邱とソウルにある青春通りの入り口

2.2 調査方法

①現地調査：ビフォー・コロナ

- ・ソウル：2017年3月、9月、2018年3月、9月、2019年3月、12月(計6回)
- ・大邱：2016年11月、2017年9月、2018年9月、12月、2019年4月、11月(計6回)

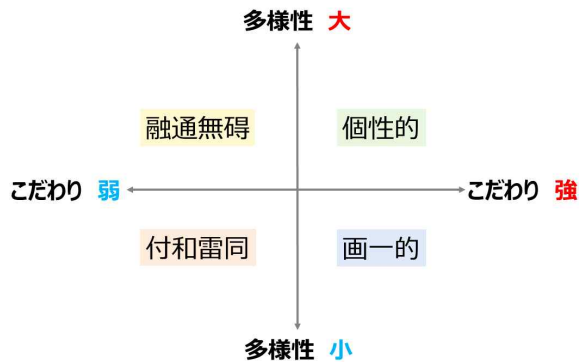
②Daumポータルサイトロードビュー調査：アンダー・コロナ²⁾

2.3 調査対象：主看板や補助看板に書かれている日本語

- ①ハングル表記日本語：例)스시, 이자카야 ②ひらがな表記日本語：例)すし, いざかや
- ③カタカナ表記日本語：例)タコ, カレー ④漢字表記日本語：例)寿司、居酒屋
- ⑤ローマ字表記日本語：例)SUSHI、IZAKAYA

2.4 調査対象の分析に用いる概念図

1)大邱慶北大学の北門付近と東城路(トンソンノ)は若者向けのグルメ、ショップ、映画館などで知られる繁華街。https://www.konest.com/contents/spot_mise_map.html?id=16460
ソウル地下鉄1号線鐘閣(チョンガッ)駅一帯で、飲食店や居酒屋が集まる繁華街。
https://www.konest.com/contents/spot_mise_map.html?id=2707
2)<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/chiikigo127>では、関西弁の世界進出を調べるためにGoogleマップを利用した(井上2010.11.27.)が、양민호(2015:134)では、過去と最近の様子が同時に検索できるDaumポータルサイト「ロードビュー」による調査が紹介されている。



(李舜炯訳2009:157, NHK放送文化研究所世論調査部編2008:196)

3. 分析と考察

3.1 個性的言語景観：多様性大＋こだわり強

3.1.1 日本の地域社会が体験できる言語景観

大阪、東京、神戸、鳥取、北海道、京都、福岡、博多、江戸(東京の旧称)など日本の有名地域を言語景観にし、本場の雰囲気をつくり出している。



3.1.2 日本語文型構造が分かる言語景観

助詞「の」、イ形容詞の名詞修飾、希望の「～たい」、ウナギ文など、日本語の文型的特徴を

もって日本風の食文化をアピールしている。



3.1.3 日本風の屋号・商号ロゴを用いた言語景観

漢字一文字、ロゴ、シンボルマークなどを使用し、集客効果を図る。



3.2 画一的な言語景観：多様性小+こだわり強

3.2.1 商業開始時期を示した言語景観

Since〇〇年という創業年数を言語景観に書出し、顧客への信頼を求める。



3.2.2 純化対象語になっているハングル表記日本語の言語景観

すし、おでん、焼き、さしみ、焼肉など、馴染みのある日本語で親近感をつくり出す。



3.3 融通無碍の言語景観：多様性大＋こだわり弱

「IZAKAYA」「DOMO」「GIRI」など日本語であるにもかかわらず、ローマ字表記になっているため、社会情勢に拘わらず使用している。



3.4 付和雷同の言語景観：多様性小＋こだわり弱

社会情勢などの影響で日本語の基本的な文字であるひらがな表記だけがなくなっている。



4. まとめ 詳細は当日pptで提示。

参考文献

- 양민호(2015) 「한일 언어경관 연구의 현재와 향후 모델에 대한 연구」 『日本學』 40, 동국대학교 일본학연구소, pp.131-146.
- 이순형옴김(2009) 『일본인이 좋아하는 것-데이터로 이해하는 기호와 가치관』 NHK방송문화연구소 여론 조사부 편저, 한국문화사
- 李舜炯(2019a) 「韓国大邱広域市の日本語の言語景観にみられる言語接触—日本語習得環境・社会的役割・受容状況を追究して—」 ダニエル, 롱그・中井精一監修、李舜炯(編) 『都市空間を編む言語景観』 中文出版, pp.231-256.
- 李舜炯(2019b) 「大学の通常の日本語授業におけるPBL型言語景観調査の導入と学習者評価」 『日本語教育研究』 48, 韓国日語教育学会, pp.175-190.
- 李舜炯・甲賀真広(2021) 「JFL環境でアクティブラーニングを促す『言語景観調査』の有効性」 『韓國日本研究總聯合會第9回國際學術大會予稿集』 韓國日本研究總聯合會, pp.65-69.
- 磯野英治(2021) 「言語景観の教材化と授業実践—異文化コミュニケーション科目におけるビデオ教材・教科書の活用—」 『日本語学研究』 第67輯、韓国日本語学会, pp.107-117.
- 磯野英治(2020) 『言語景観から学ぶ日本語』 大修館書店
- 롱그, 다니엘(2017) 「語学授業に興味を持ってもらうツールとしての言語景観」 『首都大学東京教職課程紀要』 1, 首都大学東京教職課程紀要編集委員会, pp.79-89.
- 롱그, 다니엘(2021) 「言語景観に「記録」された植民地時代の言語的残存物」 2021年度韓国研究財団一般共同研究言語景観研究チーム専門家招聘講演会資料

愛知県の言語景観を活用した教育実践

磯野 英治（名古屋商科大学）

1. はじめに

研究対象としての「言語景観」（街中にある看板やポスター、ラベルやステッカーなどの書き言葉）という用語が言語・社会研究を中心に広がり、定着するとともに、日本語教育や異文化コミュニケーションなどの授業での活用（磯野2011,2013a,b,2015,2019,2021、鎌田2014、ロング2014,2017,2019、磯野・西郡2015,2017、西郡・黒田ら2016、李2019、池田2019、甲賀2019）や、教育に生かすためのまとめた論考と教材の提供（磯野・西郡2017、磯野・西郡2019、磯野2020）も開始されるなど、教育面でも注目、認識され始めている。言語景観を活用した教育について、端的には以下のようにまとめることができる。

- (1) 言語景観を教育に応用するための観点と方法論に関する研究
- (2) 言語景観を部分的に活用した教育の事例研究
- (3) 言語景観を中心に据えた教育実践

上記のように、言語景観を教育に活用するための研究・教育の変遷をたどると「教育に活用できるのではないか」という観点と方法論に関する試論から始まり、比較的短い期間の間に、その授業実践までが行われてきているというように概観できる（詳しくは磯野（2021）参照）。

本発表では、上記のように現在、日本語教育や異文化コミュニケーションの領域で広く行われている言語景観を活用した教育実践の事例として、愛知県の言語景観を活用した教育実践を取り上げる。

2. カリキュラムと教材

本発表では、2021年度前期Term2（6月～7月）に行われた授業である「異文化コミュニケーション」の中で、とりわけ愛知県の特徴的な言語景観を扱った回を取り上げ、授業受講者の理解を課題レポートから分析する。加えて、教員が自身の教えている地域で扱うことのできる、あるいは学習者が住んでいる地域でも学ぶことのできる言語景観の観点を提供したい。

2.1 カリキュラム

以下の表1-3に科目の特徴、各回の授業内容と進行について示す。なお、授業は1週間に1回、1

コマ100分で2コマ連続、全7週で14回である（下記表2は15回分になっているが、第13-15回を7週目に実施）。

表1 科目の特徴

科目名	受講生	科目の位置づけ
異文化コミュニケーション	受講者数 103名 学部生(うち留学生18名)	学部専門科目 (教職科目にも該当)

表2 各回授業の内容

第1回 言語景観の概論 (定義・対象・ 観点)	第2回 公共表示と 民間表示の違 い	第3回 音声と表記	第4回 使用文字の 多様性と その効果	第5回 使用語彙 の多様性 と その効果
第6回 ピクトグラム・ 記号	第7回 正用と誤用	第8回 適切性・自然さ	第9回 役割・多様 性	第10回 言語と経 済
第11回 方言使用と 都市・地方	第12回 外国人集住地 域と国際化・ 多民族化	第13回 電気・サブカル チャーなど特定 分野における街 の表記	第14回 社会的背景 や使用意図	第15回 語用論的 使用

表3 毎回の授業の流れ

授業の流れ	学習活動
5-10分 ビデオ教材『言語景観で 学ぶ日本語』の視聴	内容の概論的な理解
10-20分 教科書『言語景観から学 ぶ日本語』の【考え方】 の解説	・ 内容の理論的な理解 ・ 内容の具体的な理解
15-30分 教科書『言語景観から学 ぶ日本語』の【実践篇】 の演習	・ グループディスカッションによる意見の出し合い ・ グループとしての意見の取りまとめ ・ 口頭で発表 ・ 教員と学生によるまとめ
15-30分	・ グループディスカッションによる意見の出し合い

教科書『言語景観から学ぶ日本語』の【応用篇】の課題1の演習	・ グループとしての意見の取りまとめ ・ 口頭で発表 ・ 教員と学生による評価
15-30分 教科書『言語景観から学ぶ日本語』の【応用篇】の課題2の提示	・ 課題2の内容と留意点の解説 ・ 次回授業までに行う準備の説明（データ収集、口頭で発言できる簡単な資料の作成） ・ データ収集や発表準備などの役割分担について、各グループの話し合い促進

2.2 教材

カリキュラムと連携したビデオ教材、および教科書の概要を以下の表4、5に示す。

表4 ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』（磯野・西郡2019）の概要

目的	① 国内外の上級日本語教育や日本語教育学、異文化コミュニケーション、社会言語学のための教材・研究用資料としての活用
内容	② 国内外の日本語の言語景観の把握 ③ 言語景観に関する概説 ④ 公共表示と民間表示の違いや観点 ⑤ 音声学・音韻論や語用論など、分野ごとに分類された言語景観の概論
活用場面 映像の時間	毎回の授業の冒頭、あるいは途中でその日のテーマに沿ったショートビデオ（3-5分）×全15回：1本の教材ビデオとして約32分
公開方法	名古屋商科大学 磯野英治研究室 http://opinion.nucba.ac.jp/~isono/

表5 教科書『言語景観から学ぶ日本語』（磯野2020）の概要

目的	① 言語景観を活用した1科目、1コースとして成立する学習書として作られた書籍であり、一言語としての「日本語」を段階的に学べるように構成 ② 上級日本語教育や異文化コミュニケーション、社会言語学での活用
内容	・ 序章 言語景観の勉強を始める皆さんへー言語景観とは何か ・ レッスン1～15（各レッスンは「考え方」「実践篇」「問題を解くヒント」「応用篇」で構成され、授業カリキュラムやビデオ教材と連携） ・ 終章 言語景観研究のこれから
活用場面	毎回の授業（計15回）で1レッスン
出典	2020年9月 大修館書店

3. 授業実践と考察

まず授業テーマとして、愛知県の特徴的な言語景観が学びにつながるのは、表2でハイライトした第11回「方言使用と都市・地方」、第12回「外国人集住地域と国際化・多民族化」、第13回「電気・サブカルチャーなど特定分野における街の表記」である。第11回のテーマは、地方に住んでいれば必ず方言を使用した言語景観があり、「共通語への変換練習を通じて自身の言葉を見直す」「方言の活用と意識（公共表示と民間表示・外向けと地元向け）」という二つの観点（磯野2020）から具体的な学びを得ることができる。次に第12回のテーマは、愛知県ならではの特徴とも言うべきものである。愛知県の外国人住民数は東京に次いで全国第二位（28万1153人）であり、出入国管理及び難民認定法の改正により、日系ブラジル人の無期限就労が可能となった1990年から日系ブラジル人住民が一気に急増したという歴史がある（愛知県2021）。そして、現在はブラジル人を中心とした日系南米人が多く住む地域（保見団地、豊明団地など）が多くある。このような地域・人々が身近に存在することを意識し、その言語景観に注目することによって、日本国内の「内なる国際化・多民族化」（磯野2012）に気づき、その特徴や課題について考えることができるようになる。そして、第13回のテーマは、名古屋大須に関するものである。東京秋葉原、大阪日本橋とともに、日本三大電気・サブカルチャー街と称される大須は、普段歩いている街とは全く違う雰囲気を感じられる。店舗にはプラモデルやカードゲーム、アニメグッズをはじめとする子どもから大人までが楽しめるような玩具が溢れ、店頭には一般的には置いていないようなコミックやグッズが多数見られる。また販売店だけではなく、メイドカフェなど特定の趣向に特化した飲食店やサービス店が多いことも傾向と言える。そして、このような地域に表れる言語景観、すなわち使用語彙や文字表記は、a.特徴的な語彙（メイド・同人・ジャンク品など）、b.混成語や縮約系（もじバラなど）、c.特徴的な表記（旧漢字遣いや大字、文字と絵や記号の複合系など）、d.フォントや文字のデザイン（丸文字・手書き風など）など、一般的な商店街とは一線を画す（磯野・上仲・大平・田中2016、磯野・上仲・田中2018、磯野2020）。大須をただ楽しく歩くだけではなく、言語景観に注目することによって、電気・サブカルチャーの街の諸特徴と店舗の狙いを考える契機とすることができるのである。

学生達の授業受講前の言語景観への意識を確認するために、初回授業の冒頭で「言語景観に関するアンケート調査」を実施した磯野（2015,2021）では、5段階評価の質問（①全く気にならない、②あまり気にならない、③普通、④やや気になる、⑤とても気になる）で、それぞれ2015年（平均3.05、調査者52名、①～③で32名）、2021年（平均2.46、調査者118名、①～③で89名）ともに、総じて受講生たちの言語景観への意識が低い、あるいは関心が高くないことが報告されている。しかしながら、以下のように受講生達が当該科目受講中の課題として提出したレポートは、カリキュラムに沿った学習を行うことで言語景観への意識が高まり、かつ「愛知県の言語景観の諸特徴をどのように観察、分析すればよいのか」を習得していることを示している。

学生Aの課題レポート

科目名	担当者名	学籍番号	学年	氏名	評価
異文化コミュニケーション	磯野英治		3	A	
曜日・時限	月曜・1,2限	レポートテーマ	レッスン11 方言使用と都市・地方		

方言は、共通語への変換練習を通じて自身の言葉を見直すきっかけになったり、方言の活用と意識を学ぶことができる。



写真1 愛知県の公共表示



写真2 名古屋の民間表示

写真1は愛知県の三河弁を利用した看板である。交通ルールに関する表示で、地元住民向けの方言活用と言える。豊川警察署の公共表示であり、言語の歩み寄り型のローカル化使用をしている。地元民に向けた堅苦しくならない様にメッセージが込められていると考えられる。同じ方言を持つもの同士であれば、スムーズに意思疎通ができ、短く簡潔にまとめる事ができるので親しみを持ちやすく、スムーズに文章が頭に入ってくるので、このような表示にしてあると考える。

写真2は名古屋にある「しゃぶしゃぶいちばん」の看板である。この店舗は名古屋のど真ん中にあることから、とことん名古屋弁を利用した表示になっている。方言を新鮮に感じる、あるいは理解できない観光客にとっては、日常とは一線を画す場所であると言う印象を与える外向けの方言活用であり、店舗の民間表示である。他店舗と比べ、インパクトがある為、観光客の目を引きやすい。また方言の衰退を阻止し、多くの人々が身近に故郷を感じるきっかけにもなると考える。

参考文献

磯野英治 (2020) 『言語景観から学ぶ日本語』、大修館書店、pp.95-102.

上記のレポートは日本人学生が書いたレポートであり、テーマは第13回「方言使用と都市・地方」に関するものである。学生は、愛知県の方言看板に注目して「公共・民間表示」、「誰に向けているのか」、そして「使用意図」の観点から、当該テーマの内容を理解してレポートを書き上げている。

4. おわりに

本発表では、日本語教育や異文化コミュニケーションの領域で広く行われている言語景観を活用した教育実践の事例として、愛知県の言語景観を活用した教育実践を取り上げ、授業受講者の課題レポートから、その理解を分析した。加えて、愛知県の方言を取り上げることによって、他地域でも導入可能なテーマを示し、教員が自身の教えている地域で扱うことのできる、あるいは学習者が住んでいる地域でも学ぶことのできる言語景観の観点を提供した。既述のように現在、言語景観を教育の中心に据えた教育、すなわち上級日本語教育や異文化コミュニケーション、社会言語学での言語景観の活用が国内外で注目され、広がってきている。今後は、引き続き情報共有を図りながら、学習や在学の段階を視野に入れた研究を行っていきたいと考えている。

参考文献

- 愛知県ホームページ (2021) 「愛知県内の市町村における外国人住民数の状況 (2020年12月末現在)」
(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/gaikokuzinjuminsu-2020-12.html>、2021年8月13日閲覧)
- 磯野英治 (2011) 「韓国における日本語の言語景観－各都市の現状分析と日本語教育への応用可能性について－」『世界の言語景観 日本の言語景観－景色のなかのことば－』、内山純蔵 監修・中井精一・ダニエル ロング 編、桂書房、pp.74-95.
- 磯野英治 (2012) 「言語景観から読み解く多民族社会－韓国ソウル特別市における外国人居住地域からの分析－」『日本語研究』第32号、首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会、pp.191-205.
- (2013) 「言語景観を日本語教育に応用する視点」『日語日文学研究』第86集、韓国日語日文学会、pp.289-302.
- (2015) 「身近にある言語景観を素材とした多文化クラスにおける教育実践」『日本語研究』第35号、首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会、pp.193-200.
- (2019) 「日本語教育に活用可能な言語景観と教育実践－理論と方法－」、中井精一・ダニエル・ロング 監修、李舜炯 編『都市空間を編む言語景観』、中文出版社 (韓国大邱)、pp.183-206.
- (2020) 『言語景観から学ぶ日本語』、pp.1-160. 大修館書店.

- (2021) 「言語景観の教材化と授業実践－異文化コミュニケーション科目におけるビデオ教材・教科書の活用－」 『日本語学研究』第67輯、韓国日本語学会、pp.107-117.
- 磯野英治・西郡仁朗 (2017) 「ビデオ教材『東京の言語景観－現在・未来－』の公開と教育実践」 『日本語教育』166号、日本語教育学会、pp.108-114.
- (2019) 監修ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』、2017年度～2019年度科学研究費若手研究(B)研究課題番号17K13490 「言語景観を教材とした社会文化的理解を目指す内容重視型日本語教育の研究」 (研究代表者：磯野英治) (https://youtu.be/qB0-eSC_yUQ)
- 中井精一・ダニエル・ロング 監修、李舜炯 編 (2019) 『都市空間を編む言語景観』、中文出版社 (韓国大邱) .

※ほか参考文献は、発表資料参照のこと。

付記

이 논문 또는 저서는 2019년 대한민국 교육부와 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구임 (NRF-2019S1A5A2A03043546).

なぜ言語景観を収集するのか

—手段としての言語景観・目的としての言語景観—

甲賀 真広（東京医科歯科大学非常勤講師）

1. はじめに

2021年8月、発表者は新型コロナウイルスの2回目のワクチン接種のために、慶應義塾大学三田キャンパスを訪れた。慶應義塾大学は初回のワクチン接種以来、2回目の訪問であったため、最寄りの田町駅から徒歩10分の道で言語景観を収集しながら向かっていた。図1はその際に収集した「10人中9人がおいしいと言ってくれるステーキソース」と書かれたものである。



図1 「10人中9人がおいしいと言ってくれるステーキソース」の言語景観（東京都港区三田）

図1の言語景観を撮影している際、偶然同日にワクチン接種をする予定で同行していた先輩から「なんで撮ってるの？あ、このステーキに興味ある？」と言われた。彼は歴史学を専門としているため、なぜ言語景観を収集するのかということは専門外のことである。しかし、言語景観を収集していると、一緒にいる人から似たような質問をたびたび受けることがある。そこで、本発表では、その質問に答えるため、そして、まだ言語景観を研究していない人、もしくはこれから研究をしてみたいと考えている人、言語景観を授業で取り入れたいという人のために、なぜ言語景観を収集するのかということを述べる。特に、言語景観を収集する理由を手段と目的に分けて言及する。

2. 手段としての言語景観

言語景観を収集することをひとつの「手段」として用いることがある。それは授業（日本語教育や異文化コミュニケーション、日本語表現法、社会言語学の授業や短期研修など）で提示することを念頭に置いたものである。例えば、先の図1「10人中9人がおいしいと言ってくれるステーキソース」ならば、日本語教育の授業で用いるなら授受表現「くれる」の実際の使用例、レアリアを見せる手段として学習者に提示することができる。また、異文化コミュニケーション、日本語表現法、社会言語学など、表現について考える授業であれば、「10人中9人がおいしいと言ってくれるステーキソース」が何を意図しているのかということを考えさせる手段として提示できる。ここでは、「ステーキソース」（あるいは「ステーキ」）が店のおすすめのメニューであることを言いたいのだろう。このように、学習者や受講生にレアリアを提示するという手段として言語景観を収集するのである。

なお、授業で取り入れる際には気を付けなければならない。図1のように一事例として取り上げる場合はそれほど問題とはならないが、一授業として言語景観を扱う場合には特に注意が必要である。学習者の日本語能力や受講生の言語景観の知識などを考慮する必要があるからである。ただし、本発表では、なぜ収集するのかということに焦点を置いているため、詳細な言及は控えるが、参考となる先行研究を簡単に列挙し紹介しておく。言語景観を活用した授業についての考察したものには、磯野2021、2020、2019、ロング2018、2017、李・甲賀2021などがある。これらはいずれも言語景観を体系的に取り入れた授業であり、参考にするには有益であろう。

また、言語景観を収集することは授業以外でも活用できる。それは、短期日本語研修においてである。短期研修は日数が限られるために、研修生が能動的であればあるほど充実した研修となる。甲賀(2019)では、短期日本語研修に言語景観調査を取り入れることで、研修生にアクティブラーニングを促せたことを述べている。このように、教師が自ら言語景観を収集し提示するだけでなく、研修生や受講生に収集してもらうのも有効な「手段」となる。図2、図3は短期研修生（韓国入級日本語学習者）が自ら収集し、分析したスライドである。

英語を韓国語に誤訳した例 池袋



図2 短期研修生による言語景観に見られる「誤訳」の分析

2. 外国人が理解しにくい日本語 - 言葉遊び

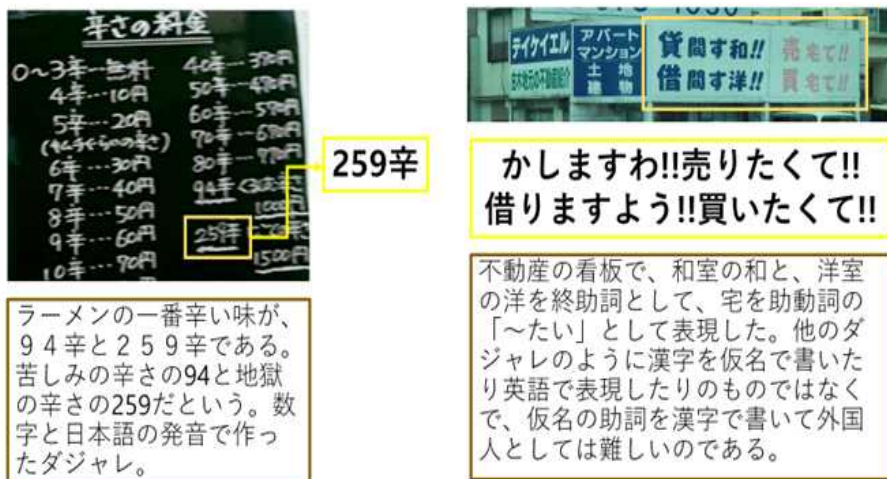


図3 短期研修生による言語景観に見られる「言葉遊び」の分析

この研修は2週間程度であったが、「収集 → 分析 → まとめ → 発表」まで行なうことができ

た。特に図2ではなぜこうした誤訳が起こっているかという原因の分析（韓国語では「米国検討」となっているが、英語の“Review US”の機械翻訳している）、図3では日本社会でよくみられる語呂合わせやダジャレの分析までできている。言語景観を収集することを手段として用いることで、言語や日本社会について理解を深めることができるのである。

3. 目的としての言語景観

「手段」として言語景観を収集するだけでなく、ある「目的」を持って言語景観を収集することであろう。特に言語景観を通じてある地域の研究をする目的で収集されることが近年増えている。例えば、日本語に関する研究として日本においても韓国においても言語景観から特定の地域を分析するために言語景観が収集されている（李貞姫2019、李舜炯2019、李承民2019、李賢貞2019、今村2019、上仲ほか2019、孫2019など）。このような特定の地域を研究する場合は、その地域の特徴を表すような言語景観のみを収集する場合（ロング2011、張2011など）もあれば、調査地にみられるすべての言語景観を収集する場合もある（磯野ほか2018、斎藤2019など）。どちらもある地域の研究をするという目的に変わりないが、調査目的に適った調査方法を採用が必要であるということがわかるだろう。特に、日本国内であれば「日本の言語景観」としてさまざまな観点からの調査・分析が可能だが、国外はそもそも日本語が存在する理由が異なるため、分析の際にはその点を考慮する必要がある。甲賀(2020)では、その環境の違いに注目し分析を行なっている。国外で見られる日本語の言語景観は、店から観光客に向けたもの（図4）や装飾効果（図5）、多言語表記（図6）が中心となる。国外における言語景観の収集はなぜ存在するか、どのような表記・形式かということを明らかにすることが目的となるだろう。図7では韓国人学習者が韓国大邱市内を走る鉄道の車内電光掲示板を撮影したものである。電光掲示板に表示された日本語「まもなく〔達城公園〕駅です」に注目している。この言語景観について甲賀(2020)で、日本語と観光を関連付けた分析ができたこと、JFL環境で日本語が表示されていることが興味深いということに学習者が目を向けられたことを指摘している。つまり、国外になぜ日本語が存在するかを分析できており、言語景観を収集する目的を達成できているのである。

図5 サンパウロにある言語景観（装飾効果）



図4 ソウルにある言語景観（店→観光客）

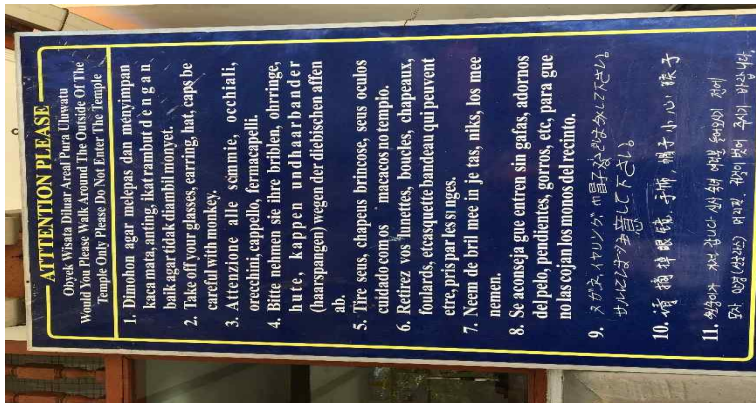




図6 バリにある言語景観（多言語表記）



図7 韓国人学習者による言語景観に見られる日本語表示の理由分析（赤枠は発表者による）

他にもある目的をもって言語景観を収集する場合がある。それは記録という目的である。李舜炯(2018)では、大邱という一地域の定点観測を行なっている。撮影時点では面白味がないものでも、月日を経た結果、さまざまな理由で変化が起こり興味深くなるものがある。変化によってその興味深さが生まれる可能性があるため、「記録」を目的として言語景観を収集することも重要なのである。

4. おわりに

詳細は当日pptで提示。

参考文献

- 李貞姫(2019)「境港の言語景観から読み解く日本の妖怪文化」『都市空間を編む言語景観』、中分出版、pp.51-73.
- 李舜炯(2019)「韓国広域市の日本語の言語景観にみられる言語接触」『都市空間を編む言語景観』pp.231-256.
- 李舜炯・甲賀真広(2021)「JFL環境でアクティブラーニングを促す『言語景観調査』の有効性」『韓国日本研究総聯合会第9回国際學術大會予稿集』韓国日本研究総聯合会、pp.65-69.
- 磯野英治(2021)「言語景観の教材化と授業実践—異文化コミュニケーション科目におけるビデオ教材・教科書の活用—」『日本語学研究』第67輯、韓国日本語学会、pp.107-117.
- 磯野英治(2020)『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店
- 磯野英治(2019)「日本語教育に活用可能な言語景観と教育実践—理論と方法—」、中井精一・ダニエル・ロング監修、李舜炯編『都市空間を編む言語景観』中文出版社、pp.183-206.
- 磯野英治・上仲淳・田中真衣(2018)「電気とサブカルチャーの街『名古屋大須』の言語景観—大阪日本橋との比較研究—」『日本語研究』第38号、pp.75-83.
- 李承民(2019)「日本の観覧施設に見られる言語景観」『都市空間を編む言語景観』pp.167-182.
- 李賢貞(2019)「韓国の商品販売市場に見られる日本語の使用実態」『都市空間を編む言語景観』pp.147-165.
- 今村圭介(2019)「言語景観に見られる米軍基地と地域コミュニティの関わり」『都市空間を編む言語景観』pp.75-99.
- 上仲淳・田中真衣・磯野英治(2019)「大阪道頓堀の国際化と多言語景観」『ことばと文字』11号、pp.70-79.
- 斎藤敬太(2019)「ブラジル人集住地域の言語景観に採用された言語に関する定量的研究」『都市空間を編む言語景観』pp.121-146.
- 斎藤敬太(2015)「ブラジル人集住地域のリンガフランカー群馬県大泉町と三重県伊賀市の比較—」『日本語研究』第35号、pp.43-57.
- 孫美貞(2019)「対馬の韓国観光客の密集地域における言語景観—比田勝港と厳原港を中心に—」『都市空間を編む言語景観』、pp.101-120.
- ロング、ダニエル(2018)「日本語表現法における言語学的課題の分類を考えるツールとしての言語景観の応用について」『首都大学東京 教職課程紀要』第2集、pp.51-64.
- ロング、ダニエル(2017)「語学授業に興味を持ってもらうツールとしての言語景観」『首都大学東京教職課程紀要』第1集、pp.79-89.

言語景観の受け手と送り手

—在日外国人に注目して—

斎藤 敬太(津田塾大学)

1. はじめに

発表者は、立正大学の「日本語学研究法1」や東京学芸大学の留学生科目「日本理解C」などを担当しているが、これらは日本語学および社会言語学の内容を、発表者が撮影した言語景観の解説、そして各回のテーマに合わせて履修生が撮影した言語景観についての彼ら自身の発表を通して、より体感することを目的とした授業である。これらの授業では当然言語景観に書かれた内容そのもの（あるいは語用論的な解釈を含むもの）にも目を向けるが、「子ども向け」「外国人住民向け」「外国人観光客向け」といった「誰に向けた言語景観か」、つまり言語景観の「受け手」といった点をテーマにした回が少なくなかった。また、履修生の授業に対するコメントでもこれから「送り手と受け手」について意識しながら言語景観を見ていきたいといった意見が目立った。このように、「誰のために」「誰がつくったか」という点ははっきりと「お客様へ」や「店長」といったように明示される場合もあるが、それでも本文の内容に注目されがちである。発表ではこのような言語景観を作成した「送り手」とそれを見る「受け手」について、特に在日外国人が関係する場合を中心に考えたい。なお、本発表では先行研究で用いられる「日本人」「外国人」という語を用いるが、実際には「日本語母語話者」「日本語非母語話者」と読み替えることができる。

2. 「受け手」と「送り手」

庄司(2009)では「受け手」と「送り手」のそれぞれについてどのような人や組織が考えられるか詳述している。また庄司・バックハウス・クルマス編(2009)の序文で言及され、バックハウス(2011)で新たな項目を加えて整理された「西欧化」「国際化」「多民族化」「アジア化」という日本の多言語景観を作る要素があるが、これは言語景観の「送り手」と「受け手」がそれぞれ日本人なのか外国人なのかに着目した分類である(表1)。「誰によって?」は「送り手」、「誰のため?」は「受け手」と読み替えることができる。

表1 日本の多言語景観を作る要素（バックハウス2011より）

	誰によって？	誰のため？
(1)「西欧化」	日本人	日本人
(2)「国際化」	日本人	外国人
(3)「多民族化」	外国人	外国人
(4)「アジア化」	外国人	日本人

そしてこの(1)「西欧化」に当たるもの、つまり日本人が日本人に向けて作成した外国語表示の多くがいわゆる「装飾的表示」になる。

この分類は要点をシンプルにまとめてあり非常に理解しやすい分類ではあるが、ややまとめすぎの感があり、もう少し区別したほうが、より日本の多言語景観の「送り手」と「受け手」を映し出すことができる。本発表では前述のとおり在日外国人を中心に、また多言語表示に限らず、具体的にはどのような「送り手」と「受け手」が予想され、またその場合言語景観にどのような効果があるかを考察していく。

3. 在日外国人か外国人観光客か

表1では特に区別をしてはいないが、言語景観の想定される「受け手」が日本で暮らす在外日本人なのか、あるいは一時的に旅行に来ている外国人観光客なのかというのは大きな違いがある。日本政府観光局（JNTO）（2021）によると、庄司・バックハウス・クルマス編(2009)が出版された2009年の訪日外客（外国人観光客）の数は6,789,658人であったのに対し、コロナ禍直前の2019年は31,882,049人であった。2009年当時でも2002年の日韓ワールドカップや2005年の愛知万博など外国人観光客が来日する機会が増えた時期であり、それに伴い多言語表示が増加していたが、コロナ禍直前までの外国人観光客の更なる増加により外国人観光客向けの言語景観はより多様化してきた。このような外国人観光客に向けた言語景観は、在日外国人に向けたそれとは書かれる内容の性質が異なることが多い。したがって在日外国人向けか外国人観光客向けかという要素は言語景観の違いを生み出す。図1は群馬県大泉町にあるごみ捨て場の注意喚起の看板であるが、日本語とポルトガル語の2言語表示になっている。大型家電はゴミ捨て場に出さないように伝えているものであるが、当然ながら外国人観光客が大型家電をゴミ捨て場に出すことはないので、これはここで暮らす在外日本人向けの言語景観と判断できる。図2は、千葉県成田市の成田空港の国際線到着ロビー付近にある歓迎の多言語景観である。実際のところ在外日本人でも日本を出国して再入国する際はここを通るわけだが、ここに書かれているのは「ようこそ」にあたる多言語訳である。通常は日本で暮らす人に対しては「ようこそ」ではなく「おかえり」になる（実際にこの看板より手前にあるエリアでは日本語の「おかえり」が書かれている）これは外国人観光客向けの言語景観といえる。



図1 在日外国人向けの言語景観



図2 外国人観光客向けの言語景観

また、「送り手」の側面から考えると、在日外国人が「送り手」になる場合はあるものの、基本的に外国人観光客が「送り手」になることは考えにくい。このことから、やはり区別する必要がある。

4. 公的なものか私的なものか

「送り手」が行政や公共施設などの公的な存在なのか、あるいは私企業や個人などの私的な存在なのか、ということも言語景観の性質に変化を与える。この区別についてはすでにバックハウス(2009)で示されているが、斎藤(2019)において公的な言語景観（公的表示）と私的な言語景観（私的表示）では同じエリアで調査してもその採用言語や多言語併記の状況が異なることが報告されている。図3と図4はともに三重県伊賀市で撮影した言語景観だが、図3は伊賀市が設置した避難所看板、つまり公的表示で、伊賀市在住の外国人の母語（日本語、英

語の次にポルトガル語、スペイン語が続く）を反映している。図4は伊賀市内のブラジル人経営の居酒屋に見られたメニューで、主にブラジル人を対象としているためポルトガル語のみの表示となっている。さらにこの場合は前節で触れた「在日外国人が「送り手」になっている場合」でもある



図3 公的表示

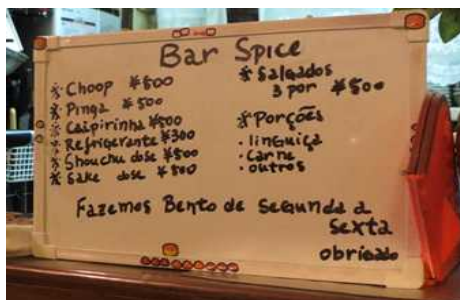


図4 私的表示

5. 母語か非母語か

言語景観に書かれている言語を考えた場合、その言語は「送り手」の母語か、「送り手」母語か、あるいは双方にとっての母語か、どちらにとっても母語ではない（非母語）か、ということも区別する必要がある。斎藤(2020)では「観光資源としてのことば」としてあることば（言語や方言）で言語景観が書かれた場合、「受け手」に非母語（方言）話者が想定されている点を指摘している（斎藤2020:126）が、在日外国人がかかわる言語景観の場合はより複雑になる。

5.1 「送り手」が在日外国人

「送り手」が在日外国人の場合、彼らの母語で書く場合と彼らの母語ではない言語で書く場合がある。母語で書いた場合、想定される「受け手」も同じ母語の在日外国人であれば単純な情報伝達の場合もある（図4がそれに当たる）が、アイデンティティ表出の場合も考えられる。図5は大阪府生野区にある在日コリアン向けの居宅介護支援事業所の看板であるが、名称が「ぱだ 바다」である。意味は韓国語の「海」である。生野区はオールドカマーが多く生活するエリアであり、現在、オールドカマーの在日コリアンの多くは日本語が母語となっており、韓国語は日本語と接触を起こしたものや、あるいは第二言語として習得している場合が多い。もちろんこの事業所の利用者には韓国語が母語の者もいるであろうし、これだけでは判断が難しいが、母語でなくとも継承語ではあるだろう。日本語が母語である場合でもあえて韓国語で名称を付けることによって自らのアイデンティティを表出することができる。なお、図6から他の関連施設の名称も同様に韓国語から付けられていることがわかる。



図5 アイデンティティ表出の韓国語使用1

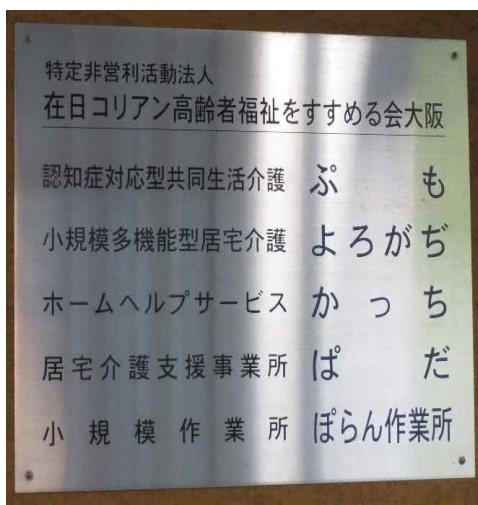


図6 アイデンティティ表出の韓国語使用2

また、母語が異なる外国人住民や日本人に向けて母語で書いた場合、それが商店やレストランであればより「本場感」を醸し出す要素となる。表1の(3)「アジア化」にあたるものであろうが、バックハウス(2011)で言及されていた韓国に限らず中央アジア、南米、東欧など様々な地域出身の在日外国人の母語による言語景観が見られる。図7は埼玉県春日部市のキルギス出身者の経営するパン屋にある商品名の表示である。民族的にはウズベク人であるため、母語はウズベク語である。表示にはパンの名前が日本語（外来語の食品名ではあるが）とウズベク語の2言語表示になっている。もちろんこの店にはウズベク語話者もやって来るが、春日部市はウズベク語話者が特に多いわけでもなく（最も多いのは中国、次にフィリピンが続く）（春日部市2021）、この表示は内容を読むことで理解する実用的な表示というよりは、ウズベク語が書いてあることで「ウズベク人が作った本格的な中央アジアのパン」であることを示す効果の方が大きいと思われる。



図7 ウズベク語母語話者経営のパン屋における日本語、ウズベク語の2言語表示

「送り手」である在日外国人が自らの母語ではない言語で書く場合、他の在日外国人の母語や日本語で書く場合が考えられる。これらの理由の一つとしては同一コミュニティ内の他の在日外国人や日本人との接点の多さ、あるいは影響力の強さが考えられる。例えば店の購買客における他の在日外国人や日本人の比率が高い場合、彼らの母語で案内などを示そうと考える。これは日本人の店が外国語でメニューなり価格表示なりを作るのと同じである。

あるいは、「送り手」の母語でも「受け手」の母語でもない言語で書く場合もある。これに関しては日本人経営のイタリアンレストランの店内にとりあえずイタリア語の語句が並べてあるのと同じ「装飾的表示」の場合である。在日外国人による「装飾的表示」は斎藤(2019)で確認されている。

5.2 「受け手」が在日外国人

「受け手」が在日外国人の場合、日本人によって彼らの母語が書かれたものは行政や公的機関による言語サービスの性格を帯びたものや、よく買い物に来る外国人利用者に向けて店が設置したものが考えられる。その一方で、店内にはほとんど外国語表示がない中で「防犯カメラ作動中」「万引きは犯罪です」といったものだけが多言語表示になっている場合もあり、これは差別的表

示と捉えられかねない。図8は埼玉県内のスーパーマーケットにあった防犯カメラ作動中を伝える看板であるが、日本語、英語、簡体中国語、アラビア語、ポルトガル語が併記されている。

しかし店内ではこれ以外の商品説明やレジ案内などの表示はすべて日本語のみか日本語、英語である。なぜこの看板だけ中国語、アラビア語、ポルトガル語が書かれているのか、これらの母語話者からすれば不快に思ってもおかしくない。

また、日本人によって在日外国人向けに日本語で書かれる場合もある。「やさしい日本語」によるものがそれにあたる。つまり在日外国人に向けて彼らの母語で発信しても日本語で発信しても、言語サービスとして機能することがあり得るのだ。また、少々珍しい例ではあるが、日本語文をローマ字表記で記したものも存在する。図9は三重県伊賀市の市役所内で撮影したとある部屋の前に下げられていた札である。部屋が空いている場合に「空いています / AITEIMASU」が、使用中の場合は「使っています / TSUKATTEIMASU」が見えるようにされている。斎藤・ロング(2020)でもローマ字表記の日本語表示について取り上げられているが、これも在日外国人向けに日本語を書いた例といえる。



図8 差別的表示と捉えられかねない言語景観

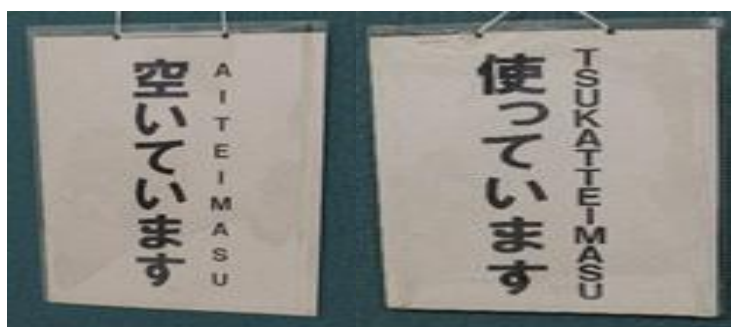


図9 ローマ字表記による日本語文

6. まとめ

詳細は当日発表スライドで提示する。

参考文献

- 春日部市(2021)「春日部市統計書令和3年版」(第二章)
<https://www.city.kasukabe.lg.jp/shisei/tokei/tokei.html> (最終閲覧日: 2021年8月20日)
- 斎藤敬太(2019)「ブラジル人集住地域の言語景観に採用された言語に関する定量的研究」『都市空間を編む言語景観』、中文出版社(韓国)
- 斎藤敬太(2020)「観光資源としてのことば—日本国内の活用事例を中心に—」『日本語学』39-3、明治書院
- 斎藤敬太、ダニエル・ロング(2020)「外国人集住地域における多言語景観の社会言語学的実態(豊田編) —在日南米日系人の複言語環境—」『人文学報』
- 庄司博史(2009)「多言語化と言語景観—言語景観からなにがみえるか—」庄司・バックハウス・クルマス編(2009)
- 庄司博史、P・バックハウス、F・クルマス編(2009)『日本の言語景観』、三元社
- 日本政府観光局(JNTO)(2021)「日本の観光統計データ」<https://statistics.jnto.go.jp/> (最終閲覧日: 2021年8月20日)
- バックハウス、ペート(2009)「日本の言語景観の行政的背景—東京を事例として—」庄司・バックハウス・クルマス編(2009)
- バックハウス、ペート(2011)「言語景観から読み解く日本の多言語化—東京を事例に—」内山純蔵監修、中井精一、ダニエル・ロング編『世界の言語景観—日本の言語景観—景色のなかのことば—』、桂書房